

さいたま市
健康づくり及び食育についての調査

結果報告書

令和4年2月
さいたま市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的.....	3
2	調査設計.....	3
3	回収結果.....	4
4	報告書の見方.....	5
II	総括.....	7
1	さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の目標指標に関する結果概要... 9	
2	第3次さいたま市食育推進計画の目標指標に関する結果概要.....	15
III	調査結果	19
1	基本属性.....	21
2	健康観、現在の健康状況について.....	37
3	身体活動・運動について	40
4	休養・こころの健康について	55
5	たばこについて.....	112
6	お酒（アルコール）について	135
7	歯の健康について.....	143
8	栄養・食生活について	161
9	疾病予防・健康診断や検査について.....	253
10	非常時に備えた備蓄について	304
IV	使用した調査票.....	315

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、「さいたま市ヘルスプラン21（第2次）」、「さいたま市歯科口腔保健推進計画」、「さいたま市がん対策推進計画」、「第2次さいたま市自殺対策推進計画」及び「第3次さいたま市食育推進計画」の各計画の評価並びに次期計画の策定の基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

調査地域：市内全域

調査対象者：(A) 市内在住の0～14歳の男女各700人 計1,400人

(B) 市内在住の15歳以上の男女各2,500人 計5,000人

調査期間：令和3年6月21日～令和3年7月16日

調査方法：郵送による配付・回収

抽出方法：0～5歳、6～14歳、15～19歳、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の9階層に分け、無作為抽出（端数2名は70歳以上の男女に1人ずつ加算）

設問分野：健康観・健康状況、身体活動・運動、休養・こころの健康、たばこ、お酒、歯の健康、栄養・食生活、疾病予防・健康診断等について

3 回収結果

区分	年齢階層	配付数（票）	有効回収数（票）	有効回収率（％）
A	0～5歳	700	446	63.7
	6～14歳	700	460	65.7
	年齢不詳	—	1	—
	小計	1,400	907	64.8
B	15～19歳	714	291	40.8
	20～29歳	714	222	31.1
	30～39歳	714	311	43.6
	40～49歳	713	295	41.4
	50～59歳	714	353	49.4
	60～69歳	714	418	58.5
	70歳以上	716	429	59.9
	年齢不詳	—	26	—
	小計	4,999	2,345	46.9
	合計	6,399	3,252	50.8

※有効回収数（票）：回収調査票のうち、無効票（全問未記入）を引いた数

※対象者抽出後、調査票発送段階で市外への転出者が生じたため、「40～49歳」から1名を除外しています。

参考	平成29年調査	1,400	971	69.4
	平成28年調査	5,000	2,440	48.8
	平成24年調査	5,000	2,407	48.1

※平成29年調査：「さいたま市 食育についての調査」（0～15歳対象）

平成28年調査：「さいたま市 健康づくり及び食育についての調査」（15歳以上対象）

平成24年調査：「さいたま市 健康についての調査」（15歳以上対象）

4 報告書の見方

- 結果は、それぞれの設問に該当する回答者を基数とした回答率（％）で表しています。
- 回答率は、小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがあります。
- 回答者が2つ以上回答することができる設問(複数回答)の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- クロス集計結果の図表については、それぞれに「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致していない場合があります。
- クロス集計の表については、「無回答」を除いて、横軸で見た際の第1位を塗りつぶし、第2位を太字で表しています。

45.0 : 第1位

35.0 : 第2位

25.0 : 第3位以下・無回答等

- 選択肢の一部を省略・編集している場合があります。
- 「計画における数値目標のデータ」は、次のマークで表示しています。



: さいたま市ヘルスプラン21（第2次）



: 第3次さいたま市食育推進計画



: さいたま市歯科口腔保健推進計画

- 各ライフステージの年齢は次のとおりです。

乳幼児期：0～5歳

学 齡 期：6～15歳

青 年 期：16～24歳

成 人 期：25～39歳

壮 年 期：40～64歳

高 齢 期：65歳以上

I 調査概要

○計画の目標数値及びクロス集計については、無回答を除いて「カイ二乗検定」により独立性（関連性）の検定を行いました。

「カイ二乗検定（独立性の検定）」とは、回答それぞれが独立している（関連性がない）と仮定し、公式によりカイ二乗値及び有意確率（ある結果が偶然発生する確率）を求め、有意確率が有意水準（一般的に 0.05 とする）より小さい場合に有意な差が認められた（偶然発生した結果である可能性が低く、関連性がある）と判断しています。なお、有意水準を 0.01 とした場合、0.05 とした場合より信頼性が高くなります。

本編中の「有意に」とは、統計的に関連性がある、ということの意味します。

○性別、年代別等のクロス集計は独立性（関連性）の検定を行い、単一回答設問は図表タイトルに、複数回答設問は選択肢に印を付しています。

*：有意確率 0.05 未満 **：0.01 未満

○性・年代別や性・ライフステージ別のグラフと表では、性別の年代間における有意差の状況を表しています。

- 例えば「男性」にのみ「*」または「**」がある場合は、男性の年代間に有意差があり、女性の年代間には有意差がないことを表す。
- 「**/**」の場合は、左側が男性、右側が女性にそれぞれ有意差があることを表す。
- 複数回答設問の選択肢に「*」または「**」がある場合は、その選択肢において有意差があることを表す。
- 経年比較の項目に「*」または「**」がある場合は、比較対象間において有意差があることを表す。

Ⅱ 総括

1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の目標指標に関する結果概要

（1）健康の意識

① 「健康であると意識している人の割合」は、ベース値と比較すると、3.0ポイント有意に増加しており、中間値と比較すると、2.8ポイント有意に増加しています。

今回の調査結果では、70歳以上の女性で、「健康でない」、「あまり健康でない」と感じている割合が20%を超えています。また、肥満度別にみると、「肥満」の人は、「健康でない」、「あまり健康でない」と感じている割合が高くなっています。（P37～P39）

【課題】ベース値及び中間値と比べて「健康であると意識している人の割合」は、増加していますが、70歳以上の女性で、「健康でない」、「あまり健康でない」と感じている割合が高いため、若い世代からの健康づくりが課題です。そのため、若い世代から自分の健康に関心を持ち、健康増進に取り組むことで、生涯を通じて健康であると実感できるような支援等が必要です。

目標指標	さいたま市				国
	ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
①健康であると意識している人の割合	82.5%	82.7%	85.5%	増やす	—

（2）循環器疾患・糖尿病の予防

① 「20歳代女性のやせの人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。ベース値と比較すると、9.5ポイント減少しており、中間値と比較すると、4.4ポイント減少しています。

肥満者の割合は、ベース値と比較すると、男性40歳代で14.4ポイント、女性50歳代で9.0ポイント増加といずれも有意に高くなっています。（P29～P35）

② 「定期的に健康診査を受けていない人の割合」は、ベース値と比較すると、有意な減少がみられ、20～40歳代女性は10.5ポイント減少しています。

1年以内に健康診断等を「受けている」割合は、中間値と比較すると、男性は50歳代、60歳代、80歳以上を除いて減少しており、女性は70歳代を除いて減少しています。（P253～P254）

③ 「糖尿病治療継続者の割合」は、ベース値から9.8ポイント有意に増加しています。（P273～P279）

【課題】ベース値と比べて40歳代以降の男性や、50歳代の女性で肥満者の割合が増加しているため、この世代の適正体重の維持が課題です。また、中間値と比べて、80歳以上の男性、30歳代及び50歳代の女性の肥満者の割合が増加していることも課題です。そのため、世代に応じた適度な運動、睡眠や、バランスのとれた食事ができるような支援等が必要です。

II 総括

目標指標		さいたま市				国
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
①適正体重を維持している人の割合	20歳代女性のやせの人の割合	25.2%	20.1%	15.7%	15%以下	20%
	20～60歳代男性の肥満者の割合	24.1%	25.0%	31.5%	14%以下	28%
	40歳代	22.7%	27.9%	37.1%	14%以下	—
	50歳代	28.9%	32.2%	35.7%		
	60歳代	22.5%	25.9%	32.3%		
	40～60歳代女性の肥満者の割合	15.2%	16.4%	19.0%	13%以下	19%
	40歳代	16.9%	12.8%	14.4%	13%以下	—
	50歳代	14.1%	14.6%	23.1%		
	60歳代	14.8%	20.7%	19.0%		
	②定期的に健康診査を受けていない人の割合	全体	22.6%	18.9%	18.3%	16%以下
20～40歳代女性		32.8%	23.6%	22.3%	20%以下	
③糖尿病治療継続者の割合		58.3%	—	68.1%	70%	75%

(3) 歯・口腔の健康

- ①「過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合」は、有意な増加がみられ、ベース値と比較すると11.5ポイント増加していますが、目標値とは大きな開きがあります。

(P154～P157)

今回の調査結果では、男女ともに20歳代と80歳以上が低くなっています。(P155)

- ②「60歳代における咀嚼良好者の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P146～P148)

【課題】ベース値と比べて「過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合」は、増加しています。また、「60歳代における咀嚼良好者の割合」に有意な変化はなく、両指標とも目標値には届いていないため、口腔機能の維持向上の意識の醸成が課題です。そのため、定期的な歯科健康診査の重要性についての普及啓発等が必要です。

目標指標		さいたま市				国
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
①過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合	20歳以上	23.6%	28.0%	35.1%	55%	65%
②60歳代における咀嚼良好者の割合	60歳代	69.8%	69.6%	65.3%	80%	80%

(4) 栄養・食生活

- ①「朝食を食べている人の割合」は、目標値とは大きな開きがあります。※ベース値は、調査の回答の選択肢が一部異なります。(P161～P169)

今回の調査結果では、男女とも20歳代で最も低くなっています。

- ②「毎日3食野菜を食べる人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P176～P187)

16歳未満は、ベース値を上回っていますが、壮年期では男性、女性ともにベース値を下回っています。

- ③ 「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合」は、ベース値と比較すると2.0ポイント、中間値と比較すると3.2ポイント増加しています。(P191～P196)
- ④ 「ほとんど毎日家族と食べる子どもの割合」は、朝食についてベース値と比較すると学齢期男性で9.1ポイント、学齢期女性で18.7ポイント減少しています。中間値と比較すると学齢期男性で5.6ポイント減少した一方で、学齢期女性は0.7ポイント増加となっています。
夕食について中間値と比較すると、学齢期男女とも5ポイント以上増加しています。(P201～P206)

【課題】ベース値と比べて20～30歳代の男女の「朝食を食べている人の割合」や、学齢期の男女で、朝食を「ほとんど毎日家族と食べる子どもの割合」が減少しています。また、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合」は、増加していますが、目標値に届いていないため、若い世代の食に関する環境づくりが課題です。そのため、朝食の摂取、朝食を家族と食べることの大切さ、栄養バランスの重要性等についての普及啓発等が必要です。

目標指標		さいたま市				国	
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)	
①朝食を食べている人の割合	20歳代男性	53.7%	48.2%	40.7%	75%以上	—	
	30歳代男性	60.7%	48.8%	60.0%			
	20歳代女性	66.3%	52.2%	53.7%			
②毎日3食野菜を食べる人の割合	16歳未満	29.1% (H23)	37.5% (H29)	37.7%	増える	—	
	壮年期 (40～64歳)	男性	21.7% (H23)	18.9%	18.8%	30%以上	—
		女性	28.2% (H23)	28.4%	28.0%		
③主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合		56.5% (H23)	55.3% (H29)	58.5%	65%	—	
④ほとんど毎日家族と食べる子どもの割合	朝食	学齢期男性	70.7% (H23)	67.2% (H29)	61.6%	増える	—
		学齢期女性	79.9% (H23)	60.5% (H29)	61.2%		
	夕食	学齢期男性	84.7% (H23)	78.5% (H29)	84.3%		
		学齢期女性	87.5% (H23)	79.5% (H29)	88.2%		

(5) 身体活動・運動

- ① 「1日1時間以上歩いている人の割合」は、男女とも有意な変化はみられませんでした。
(P40～P42)

今回の調査結果では、1日1時間以上歩く人の割合は、70歳代男性、30～70歳代女性が20%台と低くなっています。(P41)

- ② 「ロコモティブシンドロームを認知している市民の割合」は、有意な増加がみられ、ベース値と比較すると21.3ポイント増加していますが、目標値とは大きな開きがあります。(P53～P54)

今回の調査結果では、女性に比べ男性の認知度が低くなっています。(P53)

※ロコモティブシンドロームとは…「運動器（足腰の骨や関節、筋力など）の障害」により「要介護になる」リスクの高い状態になること

II 総括

- ③ 「運動習慣のある人の割合」は、ベース値と比較すると、男性 30 歳代で 8.5 ポイント増加しており、女性 20 歳代で 7.8 ポイント増加しています。(P43~P45)

今回の調査結果では、全体としても増加傾向がみられます。(P43)

【課題】ベース値及び中間値と比べて「1日1時間以上歩いている人の割合」は、男女ともに有意な変化がありませんでしたが、70 歳代男性及び 30~70 歳代女性で低いため、この年代の運動習慣の改善が課題です。また、20~64 歳男性の「運動習慣のある人の割合」は増加していますが、30 歳代男性で低いことが課題です。そして、調査対象の女性の年代の中では、30~40 歳代女性で運動習慣がない人の割合が高いことも課題です。そのため、引き続き日常生活の中で運動を取り入れられるような支援等が必要です。

目標指標		さいたま市				国
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
① 1日1時間以上歩いている人の割合	男性	34.0%	35.1%	34.0%	44%	—
	女性	29.0%	29.3%	26.1%	38%	
② ロコモティブシンドロームを認知している市民の割合		16.4%	36.4%	37.7%	80%	80%
③ 運動習慣のある人の割合	男性	31.0%	31.9%	33.9%	41%	—
	女性	25.6%	24.8%	23.8%	35%	—
	20~64歳男性	21.8%	24.5%	29.7%	32%	36%
	20~64歳女性	19.9%	18.8%	19.1%	30%	33%
	65歳以上女性	32.9%	31.1%	30.8%	43%	48%

(6) 休養・こころの健康

- ① 「睡眠により休養を十分とれない人の割合」は、有意な変化がみられ、減少しています。特に男性の 20~30 歳代、女性の 10 歳代が減少しています。(P77~P80)

- ② 「睡眠の確保のためにアルコールを使用する人の割合」をベース値と比較すると 5.6 ポイント、中間値と比較すると 5.1 ポイント有意に減少しています。(P84~P86)

- ③ 「ストレスが解消できていない人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P59~P61)

今回の調査結果では、40 歳代男性が高くなっています。また、「運動習慣がない人」や「睡眠時間が6時間未満の人」にストレスを解消できていない傾向がみられます。(P60~P61・P76)

- ④ 「身近に相談相手のいない人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P62~P64)

今回の調査結果では、「身近にいる」割合は、男女とも 80 歳以上を除き、年代が上がるほど低くなっています。また、ストレスが「解消できていない」人ほど相談相手が「いない」割合が高くなっています。(P62~P64)

- ⑤ 「生きがいを持っている人の割合」は、ベース値と比較すると、7.3 ポイント有意に減少しています。(P87~P90)

今回の調査結果では、生きがいを「持っている」割合は、男性では 30 歳代と 80 歳以上、女性では 70 歳代が最も高くなっています。健康だと感じている人ほど「持っている」割合が高く、また、睡眠による休養がとれている人や、ストレスを感じない人ほど「持っている」割

合が高くなっています。(P88~P90)

- ⑥「居住地域でお互いに助け合っていると思う市民の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P93~P96)

【課題】ベース値及び中間値と比べて「睡眠の確保のためにアルコールを使用する人の割合」は、減少していますが、目標値に届いていないため、睡眠を改善するための行動変容が課題です。また、「生きがいを持っている人の割合」も減少しているため、生きがいを持つことができるような環境づくりが課題です。そのため、地域で助け合う環境づくりの推進等が必要です。

目標指標		さいたま市				国
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
①睡眠により休養を十分とれない人の割合	全体	23.9%	27.1%	22.7%	18%以下	15%
	10~40歳代男性	31.6%	36.6%	26.1%	28%以下	—
	10~40歳代女性	32.7%	32.9%	25.0%	28%以下	
②睡眠の確保のためにアルコールを使用する人の割合	25.4% (飲むことがある)	24.9%	19.8%	15%以下	—	
③ストレスが解消できていない人の割合	30.8%	29.3%	28.5%	25%以下	—	
④身近に相談相手のいない人の割合	14.1%	14.4%	15.1%	10%以下	—	
⑤生きがいを持っている人の割合	66.6%	63.2%	59.3%	85%以上	—	
⑥居住地域でお互いに助け合っていると思う市民の割合	42.3%	39.8%	36.9%	60%	65%	

(7) 喫煙

- ①「COPDを知っている人の割合」は、有意な増加がみられましたが、目標値とは大きな開きがあります。(P120~P122)

※COPDとは…病名ではなく、はいきしゅ まんせいきかんしえん肺気腫や慢性気管支炎などの閉塞性肺疾患などの総称

今回の調査結果では、たばこを吸わない人は「まったく聞いたことがない」割合が高くなっています。(P121)

- ②「受動喫煙の機会を有する人の割合」は、ベース値と比較するといずれも有意な減少がみられました。令和2年の改正健康増進法の施行を背景に、飲食店や遊技場などにおける受動喫煙の機会が減少しています。(P123~P132)
- ③「成人の喫煙率」は、ベース値と比較すると有意な減少がみられましたが、中間値と比較すると女性の喫煙率が0.5ポイント増加しました。男性については、30~40歳代で特に減少傾向がみられます。(P112~P114)
- ④「未成年者の喫煙率」は、減少傾向が続いています。(P112~P114)

【課題】ベース値と比べて「COPDを知っている人の割合」は、増加していますが、目標値に届いていないため、喫煙が及ぼす健康影響に関する知識の普及不足が課題です。また、「受動喫煙の機会を有する人の割合」は、減少していますが、特に職場や家庭では目標値に届いていないため、望まない受動喫煙が生じていることも課題です。そのため、COPDの周知を引き続き行うとともに、受動喫煙のない環境づくりの推進等が必要です。

II 総括

目標指標		さいたま市				国
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
① COPDを知っている人の割合		41.7%	44.7%	47.7%	80%	80%
② 受動喫煙の機会を有する人の割合	行政機関	2.3%	1.5%	0.9%	0%	0%
	医療機関	1.2%	1.4%	0.6%	0%	0%
	職場	20.5%	18.7%	12.7%	受動喫煙のない職場の実現	受動喫煙のない職場の実現 (H32)
	家庭	17.6%	13.9%	14.0%	3%	3%
	飲食店	36.8%	34.6%	8.4%	15%	15%
	学校	2.7%	2.0%	0.8%	小・中・高は0% それ以外は受動喫煙のない環境	—
	遊技場	11.5%	9.6%	3.8%	減らす	—
③ 成人の喫煙率	男性(成人)	24.8%	23.2%	19.7%	18%	—
	女性(成人)	9.3%	5.9%	6.4%	5%	—
④ 未成年者の喫煙率		1.5%	1.0%	0.7%	なくす	なくす

(8) 飲酒

① 「生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。成人全体、成人男女ともに増加がみられます。一方で、「毎日飲む」割合は、減少傾向となっています。(P135~P142)

今回の調査結果では、飲酒頻度が高い人ほど1日平均の飲酒量が多い傾向がみられます。

(P142)

② 「未成年者の飲酒の割合」は、減少傾向となっており、ベース値と比較すると8.9ポイント、中間値と比較すると4.6ポイント減少しています。(P137)

【課題】ベース値及び中間値と比べて「生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合」は、成人男性及び成人女性で増加しているため、多量飲酒をしている成人の飲酒量を減少させることが課題です。そのため、アルコールが健康に及ぼす影響について情報提供し、適正飲酒に取り組む環境づくりの支援等が必要です。

目標指標		さいたま市				国
		ベース値 (H24年)	中間値 (H28年)	最新値 (R3年)	目標値 (R4年)	目標値 (R4年度)
① 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合 (1日当たりの純アルコール摂取量 男性 60g 女性 20g)	成人男性 (60g以上)	4.9%	6.3%	7.1%	2.8%以下	13% (40g以上)
	成人女性 (20g以上)	19.7%	18.7%	25.3%	6.4%以下	6.4%
	40歳代男性 (60g以上)	8.8%	7.9%	10.4%	4.6%以下	—
	50歳代男性 (60g以上)	10.0%	7.8%	9.1%	5.8%以下	—
	20~30歳代女性 (60g以上)	4.6%	2.2%	2.6%	0.2%以下	—
② 未成年者の飲酒の割合		12.3%	8.0%	3.4%	なくす	0%

2 第3次さいたま市食育推進計画の目標指標に関する結果概要

(1) 「三食しっかり」食べる

- ① 「朝食を食べている人の割合」は、成人期の男性では9.4ポイント増加していますが、成人期の女性では8.4ポイント減少しています。(P161～P169)
また、青年期の男性に有意な減少がみられました。(P165)
- ② 「ゆっくりよく噛んで食べる人の割合」は、1～15歳で増加がみられました。
(P197～P200)
- ③ 「毎日、三食野菜を食べる人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。
(P176～P187)
今回の調査結果では、「毎日、三食野菜を食べる人の割合」は、男女ともに成人期が最も低くなっています。(P185)
- ④ 「主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P191～P196)
今回の調査結果では、1日2回以上 主食・主菜・副菜がそろった食事を「ほとんど毎日食べる」人の割合は、男女ともに成人期が最も低くなっています。(P193)
- ⑤ 「適正体重の人の割合」は、16歳以上で6.8ポイント有意に減少しています。
(P29～P35)

【課題】 ベース値と比べて「朝食を食べている人の割合」、「適正体重の人の割合」は、減少しています。また、「毎日、三食野菜を食べる人の割合」、「主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合」は、増加していますが、目標値に届いていないため、朝食の摂取、野菜を食べる頻度、主食・主菜・副菜がそろった食事を食べる頻度、適量の食事を食べることに課題です。そのため、青年期、成人期を中心に、朝食を食べること、野菜を食べること、主食・主菜・副菜がそろった食事、適量の食事についての情報提供等が必要です。

目標指標		さいたま市			国		
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3年)	目標値 (R 3年)	現状値 (R 2年度)	目標値 (R 7年度)	
① 朝食を食べている人の割合	学齢期 (6～15歳)	94.5%	93.2%	97%以上	朝食を欠食する 子供の割合 4.6% (R 1年度)	0%	
	成人期 (25～39歳)	59.9%	58.1%	75%以上	朝食を欠食する 若い世代の割合 21.5%	15%以下	
		男性	46.4%				55.8%
	女性	68.4%	60.0%				
② ゆっくりよく噛んで食べる人の割合	1～15歳	65.6%	71.9%	増える	47.3%	55%以上	
	16歳以上	49.1%	51.4%	55%以上			
③ 毎日、三食野菜を食べる人の割合	1～15歳	36.5%	36.9%	増える	—	—	
	壮年期 (40～64歳)	23.3%	23.7%	30%以上			
		男性	17.9%				18.4%
		女性	27.4%				27.3%

II 総括

目標指標		さいたま市			国		
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3 年)	目標値 (R 3 年)	現状値 (R 2 年度)	目標値 (R 7 年度)	
④主食・主菜・副菜 がそろった食事を 1日2回以上 ほぼ毎日食べて いる人の割合	16歳以上	49.2%	51.7%	60%以上	36.4%	50%以上	
	成人期 (25~39歳)	35.0%	38.6%	43%以上	若い世代の割合 27.4%	40%以上	
		男性	29.2%		39.1%	—	—
		女性	38.7%		38.9%	—	—
⑤適正体重の人の 割合	学齢期 (6~15歳)	85.0%	80.7%	増える	—	—	
	16歳以上	72.9%	66.1%	80%以上	—	—	

(2) 「いっしょに楽しく」食べる

① 「朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数」は、大きな変化がありません。

(P201~P206)

今回の調査結果では、家族と一緒に「ほとんど毎日食べる」人の割合は、朝食では青年期の男性で有意な減少がみられ、夕食では成人期の男性で有意な増加がみられます。

(P203、P206)

② 「箸のもち方や食器の並べ方など、食事の行儀作法について子どもに伝えている家庭の割合」は、大きな変化がありません。(P249~P250)

【課題】ベース値と比べて16歳以上の「朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数」は、変化がなく、目標値に届いていないため、家族と一緒に食べる機会を増やすことが課題です。そのため、家族で食卓を囲むことで得られる利点などを伝えること等が必要です。

目標指標		さいたま市			国	
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3 年)	目標値 (R 3 年)	現状値 (R 2 年度)	目標値 (R 7 年度)
①朝食または夕食 を家族と一緒に 食べる回数	学齢期 (6~15歳)	11.6回/週	11.7回/週	増える	9.6回/週	11回/週 以上
	16歳以上	9.0回/週	9.0回/週	9.5回/週 以上		
②箸のもち方や食 器の並べ方など、 食事の行儀作法 について子ども に伝えている家 庭の割合	1~15歳 の子ども がいる家 庭	84.8%	86.2% (1~14歳 の子どもが いる家庭)	増える	—	—

(3) 「確かな目をもって」食べる

① 「食中毒を防ぐために、食品の保存方法、調理方法、調理器具の洗浄・消毒方法に気をつけている人の割合」は、成人期の男性と壮年期の女性で10ポイント以上の有意な増加がありません。(P220~P232)

今回の調査結果では、食中毒を防ぐために「食品の保存方法」、「調理の方法」、「調理器具の洗浄・消毒方法」すべてに気をつけている割合は、男性より女性が高くなっています。

(P229~P232)

② 「食品表示を見て食品を購入する人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。

(P217~P219)

今回の調査結果では、「原材料」、「原産地」、「食品添加物の使用」などを確認する割合は男性より女性が有意に高く、男女に大きな差がみられます。ライフステージ別にみると、食品購入の際に何らかの確認をしている割合は、青年期の男性が最も低くなっています。

(P217~P219)

③ 「非常時に備え、食料や飲料水を備蓄している家庭の割合」は、6.8ポイント有意に増加しています。(P304~P308)

【課題】ベース値と比べて「食品表示を見て食品を購入する人の割合」は、減少しているため、食品表示についての理解、関心を高めることが課題です。そのため、食品表示の見方などの情報提供等が必要です。

目標指標		さいたま市			国	
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3年)	目標値 (R 3年)	現状値	目標値
①食中毒を防ぐために、食品の保存方法、調理方法、調理器具の洗浄・消毒方法に気をつけている人の割合	16歳以上	28.0%	34.7%	35%以上	—	—
②食品表示を見て食品を購入する人の割合	16歳以上	88.8%	87.5%	95%以上	—	—
③非常時に備え、食料や飲料水を備蓄している家庭の割合	15歳以下の子どもがいる家庭	77.9%	84.7%	増える	—	—

(4) 「まごころに感謝して」食べる

① 「いただきます」、「ごちそうさま」などの食事のあいさつをしている人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P207~P211)

② 「残さず食べるなど、食品ロスの削減に取り組んでいる人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P214~P216)

【課題】ベース値と比べて「いただきます」、「ごちそうさま」などの食事のあいさつをしている人の割合」、「残さず食べるなど、食品ロスの削減に取り組んでいる人の割合」は変化がありませんでしたが、目標値に届いていないため、食事のあいさつをする習慣を身につけること、食品ロスの削減に取り組むことが課題です。そのため、自然や食への感謝の気持ちや、食べ物や資源を大切にすること意識を持てるよう、食べ物の生産から消費までの過程などの情報提供等が必要です。

II 総括

目標指標		さいたま市			国	
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3 年)	目標値 (R 3 年)	現状値 (R 2 年度)	目標値 (R 7 年度)
①「いただきます」、「ごちそうさま」などの食事のあいさつをしている人の割合	1～15 歳	95.6%	94.8%	増える	—	—
	16 歳以上	76.9%	76.7%	85%以上		
②残さず食べるなど、食品ロスの削減に取り組んでいる人の割合	16 歳以上	91.6%	90.4%	93%以上	76.5%	80%以上

(5) 「食文化や地の物を伝え合い」食べる

①「食文化を大切にしている人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。減少しています。(P233～P238)

ライフステージ別にみると、「行事食」を大切にしている割合は、成人期の男性を除いて減少しています。(P238)

今回の調査結果では、「行事食」を大切にしている割合は男性が女性より低くなっています。(P236～P238)

【課題】ベース値と比べて「食文化を大切にしている人の割合」は、減少しているため、食文化への理解、関心を高めることが課題です。そのため、行事食、郷土料理、伝統食材などの食文化について情報提供を行い、家庭や地域などを通して体験できるような支援等が必要です。

目標指標		さいたま市			国	
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3 年)	目標値 (R 3 年)	現状値	目標値
①食文化を大切にしている人の割合	16 歳以上	64.2%	62.3%	80%以上	—	—

(6) 食育の推進

①「食育に関心を持っている人の割合」は、有意な変化はみられませんでした。(P211～P213)

今回の調査結果では、関心がある割合は男性が女性より低く、ライフステージ別にみると青年期の男性が最も低くなっており、経年にもと、男女とも青年期で約8ポイント減少しています。(P211～P213)

【課題】ベース値と比べて「食育に関心を持っている人の割合」は、減少しているため、食育への理解、関心を高めることが課題です。そのため、地域の食育推進活動団体、関係機関、事業所、飲食店等と行政が連携し、食育についての普及啓発等に取り組むことが必要です。

目標指標		さいたま市			国	
		ベース値 (H28 又は H29)	最新値 (R 3 年)	目標値 (R 3 年)	現状値 (R 2 年度)	目標値 (R 7 年度)
①食育に関心を持っている人の割合	16 歳以上	63.3%	62.0%	85%以上	83.2%	90%以上

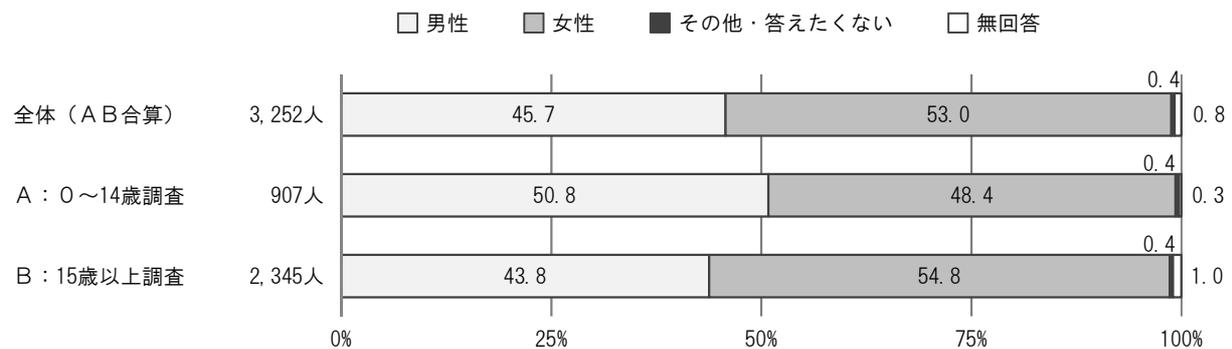
Ⅲ 調査結果

1 基本属性

(1) 性別を教えてください。(〇は1つだけ) < A・B共通 問1 >

回答者の性別は、0～14歳調査では「男性」が50.8%、「女性」が48.4%、15歳以上調査では「男性」が43.8%、「女性」が54.8%、全年齢（AB合算）では「男性」が45.7%、「女性」が53.0%となっています。

図1 性別〔全体〕



(2) あなたの年齢を教えてください。(数字を記入) (令和3年6月1日現在の満年齢)

< A・B共通 : 問2 >

回答者の年齢は、0～14歳調査では「6～14歳」が50.7%と最も高く、15歳以上調査では「60歳代」が17.8%と最も高くなっています。

性別にみると、0～14歳調査では男女とも「6～14歳」が最も高く、15歳以上調査では男女とも「60歳代」が最も高くなっています。

図2.1 年齢 (A : 0～14歳調査)〔全体・性別〕

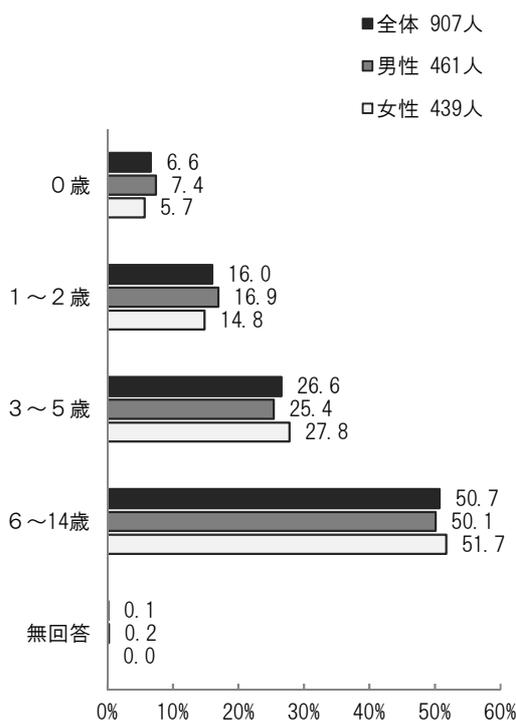
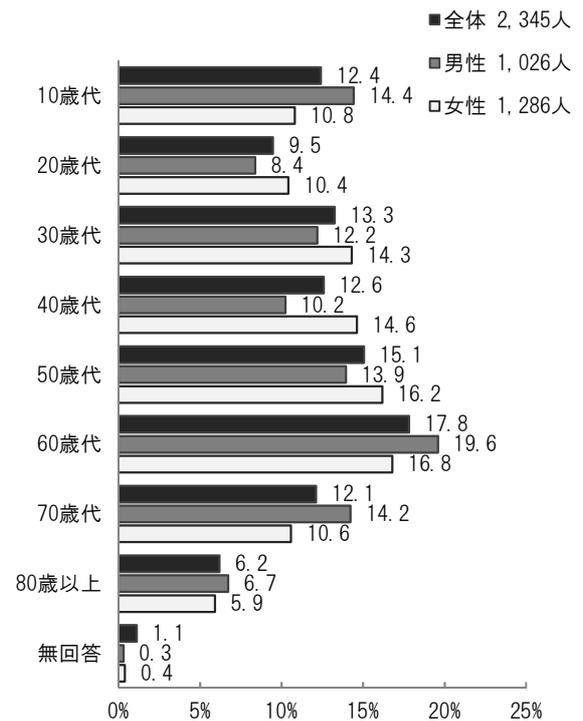


図2.2 年齢 (B : 15歳以上調査)〔全体・性別〕



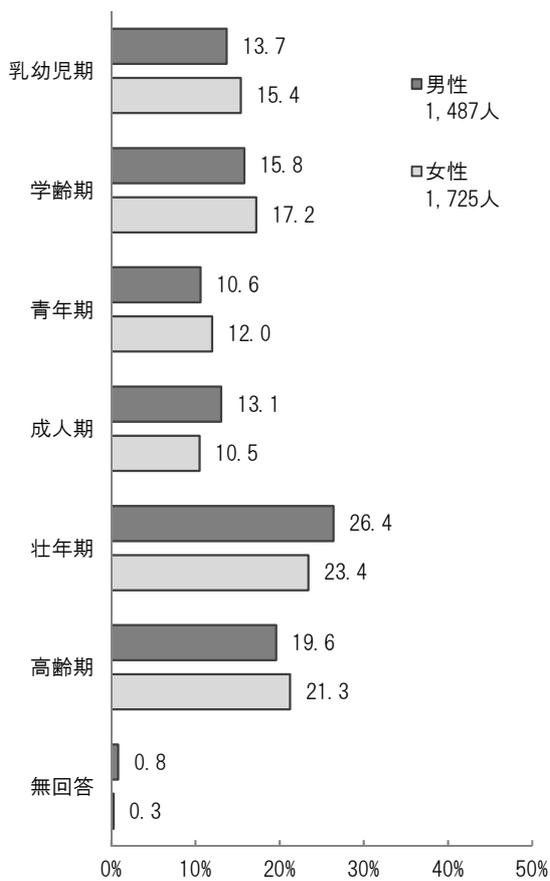
Ⅲ 調査結果

ライフステージ構成割合を性別にみると、男女とも「壮年期」が最も高く、男性が26.4%、女性が23.4%となっています。H23年調査と比較すると、男女とも「壮年期」の割合が高くなっています。

＜各ライフステージの年齢＞

- 乳幼児期：0～5歳
- 学齢期：6～15歳
- 青年期：16～24歳
- 成人期：25～39歳
- 壮年期：40～64歳
- 高齢期：65歳以上

図 2.3 ライフステージ構成割合〔性別〕



年齢構成割合をH24年調査と比較すると、男性の「70歳代」が1.8ポイント低くなっています。H28年調査と比較すると、男性の「40歳代」が1.5ポイント低くなっています。

表2 年齢構成割合〔経年比較〕

単位：％、ポイント

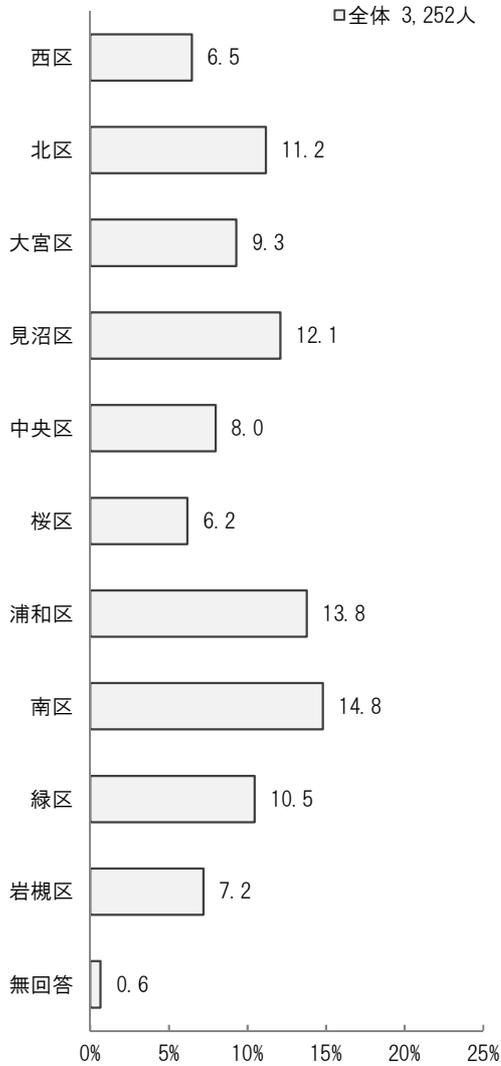
項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
全体（上段：人） （下段：％）	2,407 100.0	2,440 100.0	2,345 100.0	-62 －	-95 －
男性計	45.0	43.9	43.8	-1.2	-0.1
10歳代	4.9	5.7	6.3	1.4	0.6
20歳代	4.5	3.4	3.7	-0.8	0.3
30歳代	4.4	5.0	5.3	0.9	0.3
40歳代	4.9	6.0	4.5	-0.4	-1.5
50歳代	6.6	5.9	6.1	-0.5	0.2
60歳代	8.5	8.1	8.6	0.1	0.5
70歳代	8.0	6.8	6.2	-1.8	-0.6
80歳以上	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0
女性計	54.5	55.0	54.8	0.3	-0.2
10歳代	5.9	6.0	5.9	0.0	-0.1
20歳代	5.8	5.5	5.7	-0.1	0.2
30歳代	8.0	8.0	7.8	-0.2	-0.2
40歳代	7.4	8.0	8.0	0.6	0.0
50歳代	8.3	8.4	8.9	0.6	0.5
60歳代	9.8	10.3	9.2	-0.6	-1.1
70歳代	6.5	5.5	5.8	-0.7	0.3
80歳以上	2.6	3.0	3.2	0.6	0.2
その他・無回答	0.5	1.1	1.4	0.9	0.3

Ⅲ 調査結果

(3) あなたは何区に住んでいますか。(〇は1つだけ) < A・B共通：問3 >

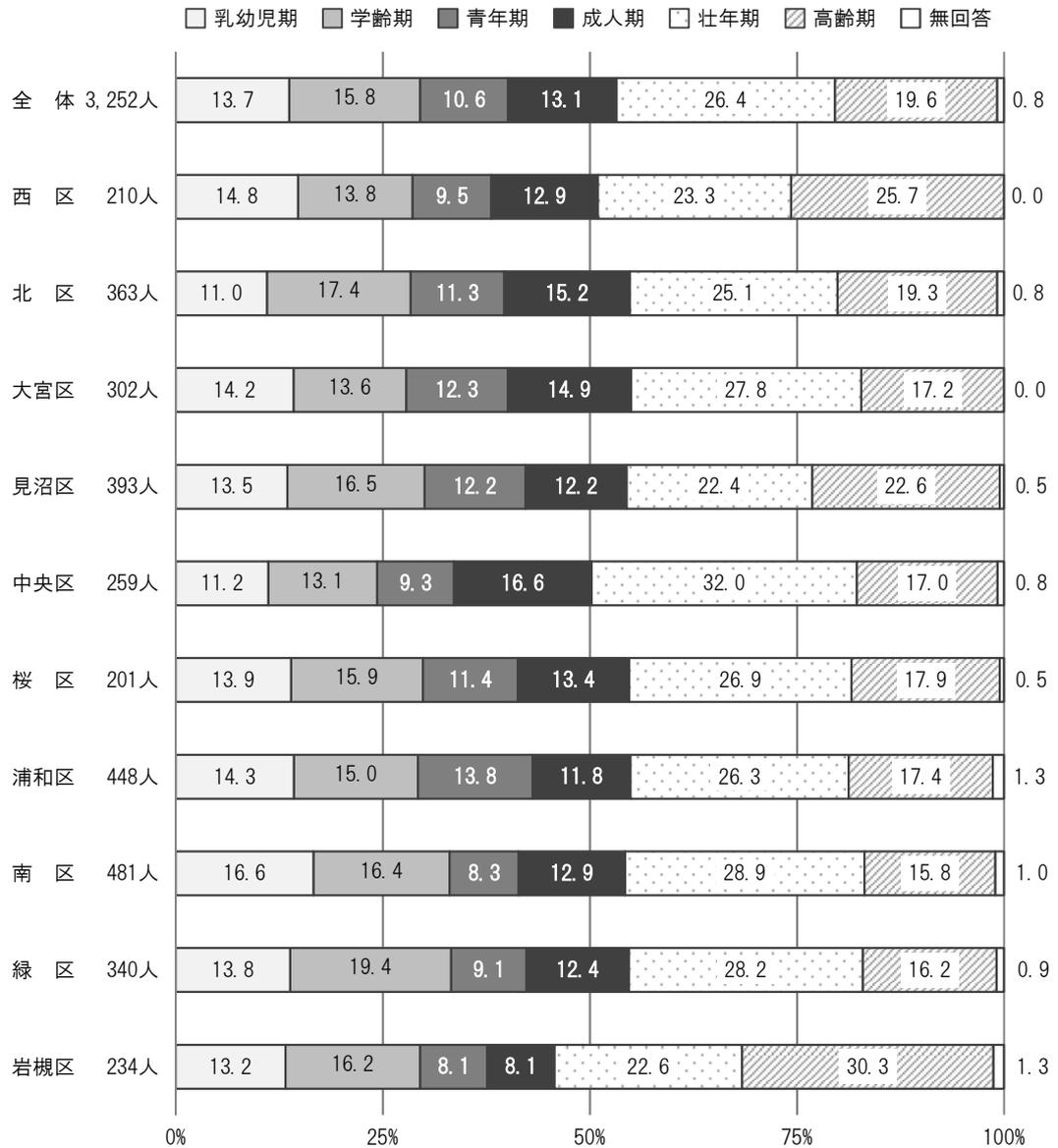
居住区は、全年齢(A・B合算)では「南区」が14.8%と最も高く、次いで「浦和区」が13.8%となっています。

図 3.1 居住区 (C : 全年齢 (A・B合算)) [全体]



ライフステージ構成割合を居住区別にみると、「乳幼児期」は「南区」が16.6%と有意に高く、「青年期」は「浦和区」が13.8%と他区より有意に高くなっています。また、「成人期」は「中央区」が16.6%と最も高く、「壮年期」は「中央区」が32.0%と有意に高くなっています。「高齢期」は「岩槻区」と「西区」が有意に高くなっています。

図 3.2 ライフステージ構成割合（C：全年齢（AB合算））〔居住区別〕**



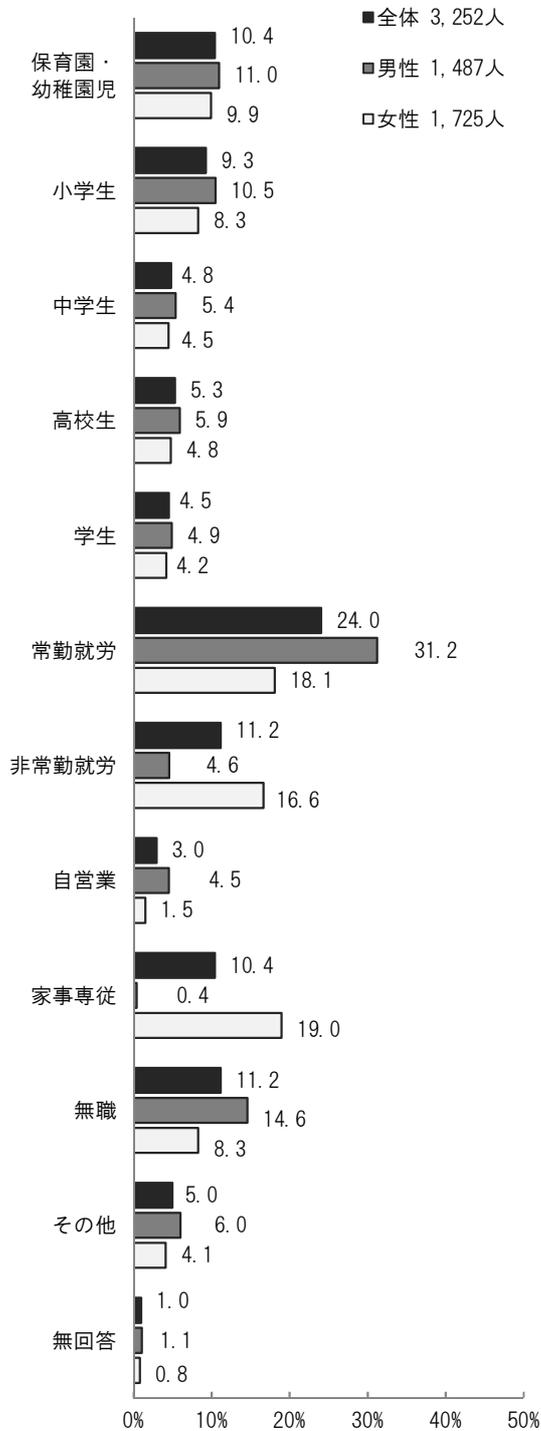
Ⅲ 調査結果

(4) 現在、お子さんは（あなたは）次のどれにあてはまりますか。（〇は1つだけ）

< A・B共通：問4 >

現在の学校・就労状況は、全年齢（AB合算）では「常勤就労」が24.0%と最も高く、次いで「非常勤就労」と「無職」がともに11.2%となっています。

図4 学校・就労状況（C：全年齢（AB合算））〔全体・性別〕



現在の学校・就労状況をH24年調査と比較すると、「常勤就労」が5.9ポイント増加し他の就労状況より有意に高くなっています。また、「家事専従」が4.4ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「常勤就労」が3.0ポイント増加し、「無職」が1.7ポイント減少しています。

表 4.1 学校・就労状況（B：15歳以上調査）〔経年比較〕

単位：％、ポイント

**

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
常勤就労	27.4	30.3	33.3	5.9	3.0
非常勤就労	13.8	16.1	15.5	1.7	-0.6
自営業	5.9	4.3	4.1	-1.8	-0.2
家事専従/専業主婦	18.9	15.8	14.5	-4.4	-1.3
中学生・高校生・ 学生/生徒・学生	12.3	13.2	14.0	1.7	0.8
無職	19.2	17.2	15.5	-3.7	-1.7
その他	1.6	1.9	1.9	0.3	0.0
無回答	1.0	1.1	1.3	0.3	0.2

現在の学校・就労状況を性・年代別にみると、男性では「20歳代」～「50歳代」で「常勤就労」が他の年代より有意に高くなっています。女性では、「20歳代」～「40歳代」で「常勤就労」が、「40歳代」～「60歳代」で「非常勤就労」が、いずれも有意に高くなっています。

表 4.2 学校・就労状況〔性・年代別〕

単位：％

項目	回答者数 (人)	常勤就労	非常勤就労	自営業	家事専従	中学生	高校生	学生	無職	その他	無回答
全体	2,345	33.3	15.5	4.1	14.5	0.3	7.4	6.3	15.5	1.9	1.3
男性計 **	1,026	45.2	6.6	6.5	0.6	0.6	8.6	7.1	21.2	2.0	1.6
10歳代	148	3.4	0.0	0.0	0.0	4.1	59.5	31.8	0.7	0.0	0.7
20歳代	86	57.0	3.5	2.3	1.2	0.0	0.0	30.2	3.5	2.3	0.0
30歳代	125	87.2	7.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.8	0.8
40歳代	105	86.7	1.9	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	1.0
50歳代	143	79.0	3.5	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	1.4	1.4
60歳代	201	43.3	15.4	10.4	0.5	0.0	0.0	0.0	27.4	2.5	0.5
70歳代	146	4.8	11.6	11.0	2.1	0.0	0.0	0.0	59.6	4.8	6.2
80歳以上	69	2.9	0.0	5.8	1.4	0.0	0.0	0.0	82.6	5.8	1.4
女性計 **	1,286	24.3	22.3	2.0	25.4	0.2	6.4	5.6	11.1	1.6	1.1
10歳代	139	2.9	0.0	0.0	0.0	1.4	59.0	36.0	0.0	0.7	0.0
20歳代	134	58.2	12.7	0.0	6.7	0.0	0.0	14.9	5.2	1.5	0.7
30歳代	184	50.5	22.3	1.1	18.5	0.0	0.0	0.5	4.9	1.6	0.5
40歳代	188	33.5	35.1	4.3	21.8	0.0	0.0	0.0	4.3	0.5	0.5
50歳代	208	26.0	42.8	2.4	22.1	0.0	0.0	0.0	5.3	1.0	0.5
60歳代	216	7.4	29.2	2.3	44.4	0.0	0.0	0.5	12.5	2.8	0.9
70歳代	136	2.2	7.4	3.7	52.9	0.0	0.0	0.0	27.9	2.2	3.7
80歳以上	76	0.0	0.0	1.3	36.8	0.0	0.0	0.0	55.3	2.6	3.9

Ⅲ 調査結果

(5) 現在、家族構成（世帯）は次のどれにあてはまりますか。（〇は1つだけ）

< A・B共通：問5 >

家族構成は、0～14歳調査では「子どもと親（二世帯同居）」が87.0%と最も高く、次いで「子どもと親と祖父母（三世帯同居）」が6.7%となっています。15歳以上調査では「親と子ども（二世帯同居）」が49.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が23.6%となっています。H24年調査と比較すると、「その他」が6.2ポイント有意に増加しています。H28年調査と比較すると、「親と子ども夫婦と孫（三世帯同居/三世帯家族）」が1.4ポイント減少しています。

図 5.1 家族構成（A：0～14歳調査）〔全体・性別〕

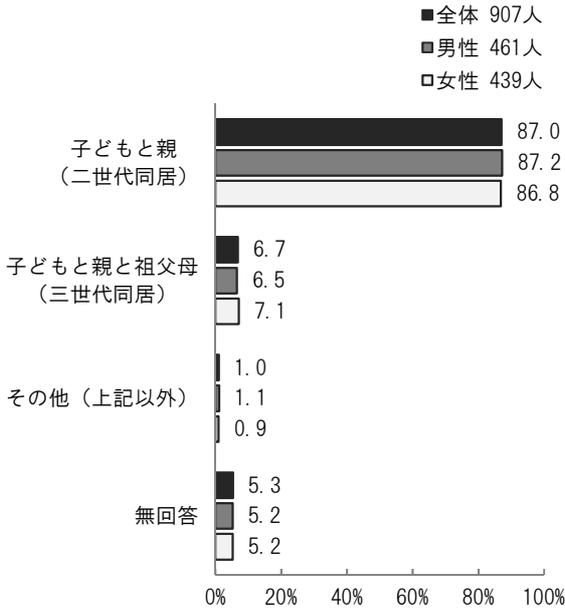


図 5.2 家族構成（B：15歳以上調査）〔全体・性別〕

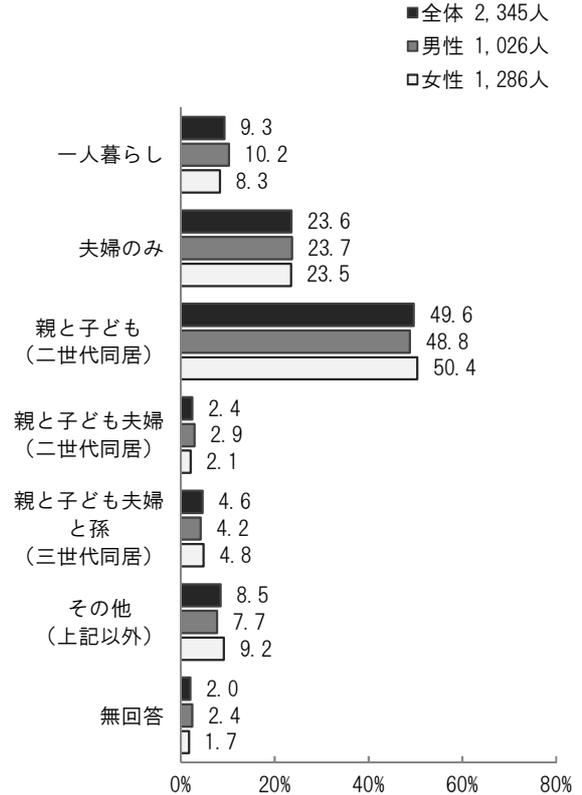


表 5 家族構成（B：15歳以上調査）〔経年比較〕

単位：％、ポイント

**

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
一人暮らし	9.3	9.2	9.3	0.0	0.1
夫婦のみ	22.9	22.4	23.6	0.7	1.2
親と子ども (二世帯同居/核家族)	50.0	48.8	49.6	-0.4	0.8
親と子ども夫婦 (二世帯同居/二世帯家族)	7.0	3.0	2.4	-4.6	-0.6
親と子ども夫婦と孫 (三世帯同居/三世帯家族)	7.1	6.0	4.6	-2.5	-1.4
その他 (上記以外)	2.3	9.2	8.5	6.2	-0.7
無回答	1.3	1.4	2.0	0.7	0.6

(6) 身長と体重を教えてください。(数字を記入→各指数による肥満度判定)

< A・B共通：問6 >

1～5歳のカウプ指数※による肥満度は、「やせぎみ」が12.4%、「正常」が50.5%、「肥満ぎみ」が20.7%となっています。
 H29年調査と比較すると、「肥満ぎみ」が5.0ポイント増加しています。

図 6.1 カウプ指数による肥満度判定 (A：0～14歳調査<1～5歳のみ>) [全体・性別]

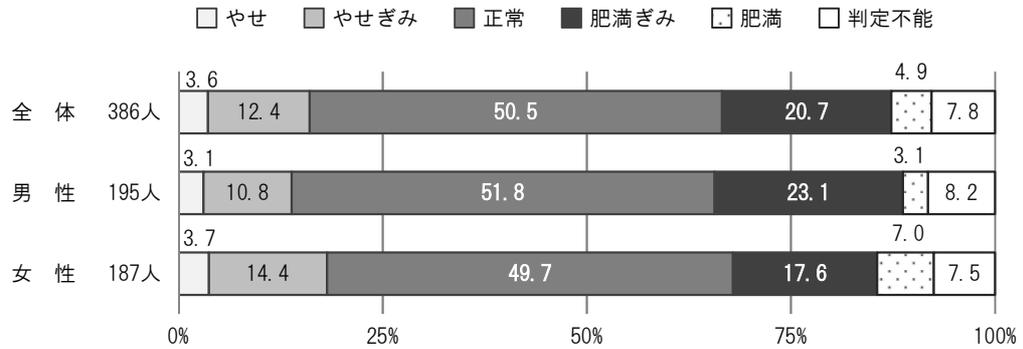
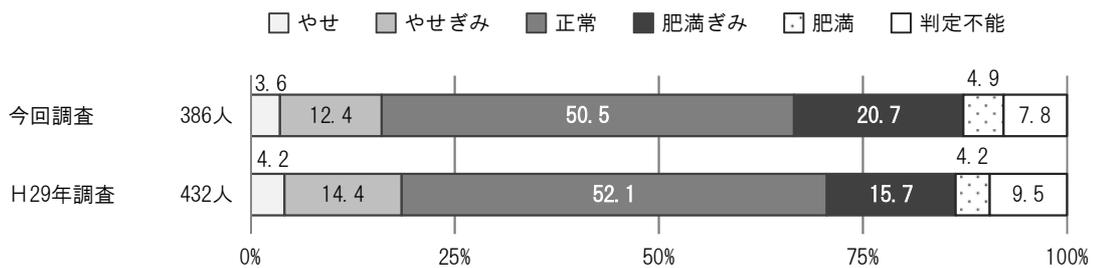


図 6.2 カウプ指数による肥満度判定 (A：0～14歳調査<1～5歳のみ>) [経年比較]



※カウプ指数

生後3か月から5歳までの乳幼児に対して、肥満や、やせなど発育の程度を表す指数。「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出される数値を月齢(年齢)別の基準にあてはめて判定。

	やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
1歳	14.5未満	14.5以上 15.5未満	15.5以上 17.5未満	17.5以上 19.5未満	19.5以上
2歳	13.5未満	13.5以上 15.0未満	15.0以上 16.5未満	16.5以上 18.5未満	18.5以上
3歳	13.5未満	13.5以上 14.5未満	14.5以上 16.5未満	16.5以上 18.0未満	18.0以上
4歳	13.0未満	13.0以上 14.5未満	14.5以上 16.5未満	16.5以上 18.0未満	18.0以上
5歳	13.0未満	13.0以上 14.5未満	14.5以上 16.5未満	16.5以上 18.5未満	18.5以上

Ⅲ 調査結果

6～14歳のローレル指数※による肥満度は、「やせぎみ」が22.0%、「正常」が53.0%、「肥満ぎみ」が10.0%となっています。
 H29年調査と比較すると、「やせぎみ」が、3.8ポイント減少し、「肥満ぎみ」が3.8ポイント増加しています。

図 6.3 ローレル指数による肥満度判定（A：0～14歳調査＜6～14歳のみ＞）〔全体・性別〕

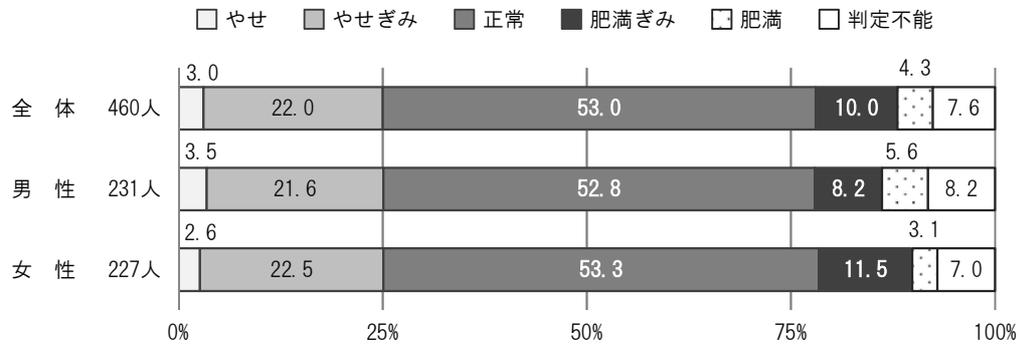
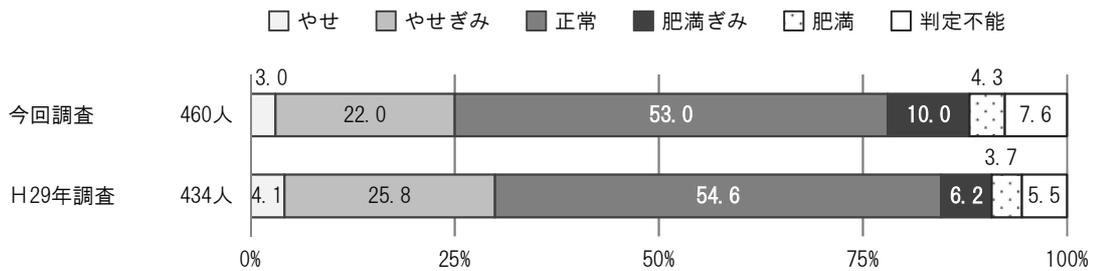


図 6.4 ローレル指数による肥満度判定（A：0～14歳調査＜6～14歳のみ＞）〔経年比較〕



※ローレル指数

学童期の肥満度を評価する指数。「体重(kg)÷身長(m)³×10」で算出される。

やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
100未満	100以上115未満	115以上145未満	145以上160未満	160以上

6～15歳の学校保健会肥満度*は「やせ」が3.9%、「普通」が80.7%、「軽度肥満」が4.3%となっています。

H29年調査と比較すると、「軽度肥満」が0.9ポイント、「中程度肥満」が1.0ポイント増加しています。

表 6.1 学校保健会肥満度による肥満度判定（C：全年齢（AB合算）＜6～15歳のみ＞）〔全体・性別〕単位：％

項目	回答者数 (人)	高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満	判定不能
全体	514	0.4	3.9	80.7	4.3	2.7	0.4	7.6
男性	256	0.8	4.7	77.7	3.9	3.9	0.8	8.2
女性	256	0.0	3.1	84.4	4.7	1.6	0.0	6.3

表 6.2 学校保健会肥満度による肥満度判定（C：全年齢（AB合算）＜6～15歳のみ＞）〔経年比較〕単位：％

項目	回答者数 (人)	高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満	判定不能
今回調査	514	0.4	3.9	80.7	4.3	2.7	0.4	7.6
H29年調査	473	0.6	3.0	85.0	3.4	1.7	0.8	5.5

※学校保健会 肥満度

学童期の肥満度を評価する指数。「(実測体重－身長別標準体重)÷身長別標準体重×100(%)」で算出される。

高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満
－30%以下	－30%超－20%以下	－20%超～＋20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 50%未満	50%以上

計画における数値目標のデータ



適正体重の人の割合

- ・学齢期（6～15歳） 80.7%（目標値 増える（ベース値 85.0%））
 <問6の身長と体重による（公財）日本学校保健会の肥満度判定が「普通」の割合>

Ⅲ 調査結果

BMI*による肥満度は、「やせ」が10.5%、「標準」が65.6%、「肥満」が19.7%となっています。

性別にみると、男性は「肥満」が25.8%と、女性より10.6ポイント有意に高くなっています。

H28年調査と比較すると、「肥満」が3.7ポイント増加しています。

図 6.5 BMIによる肥満度判定（B：15歳以上調査）〔全体・性別〕**

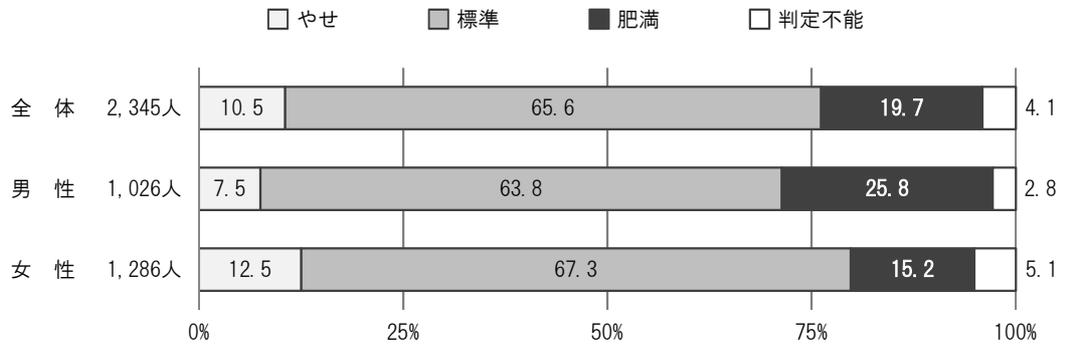
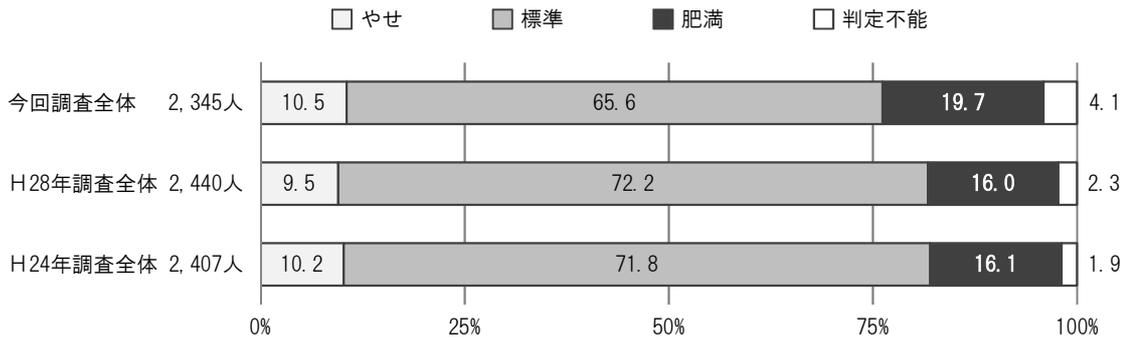


図 6.6 BMIによる肥満度判定（B：15歳以上調査）〔経年比較〕



※BMI (Body Mass Index/ボディ・マス・インデックス)

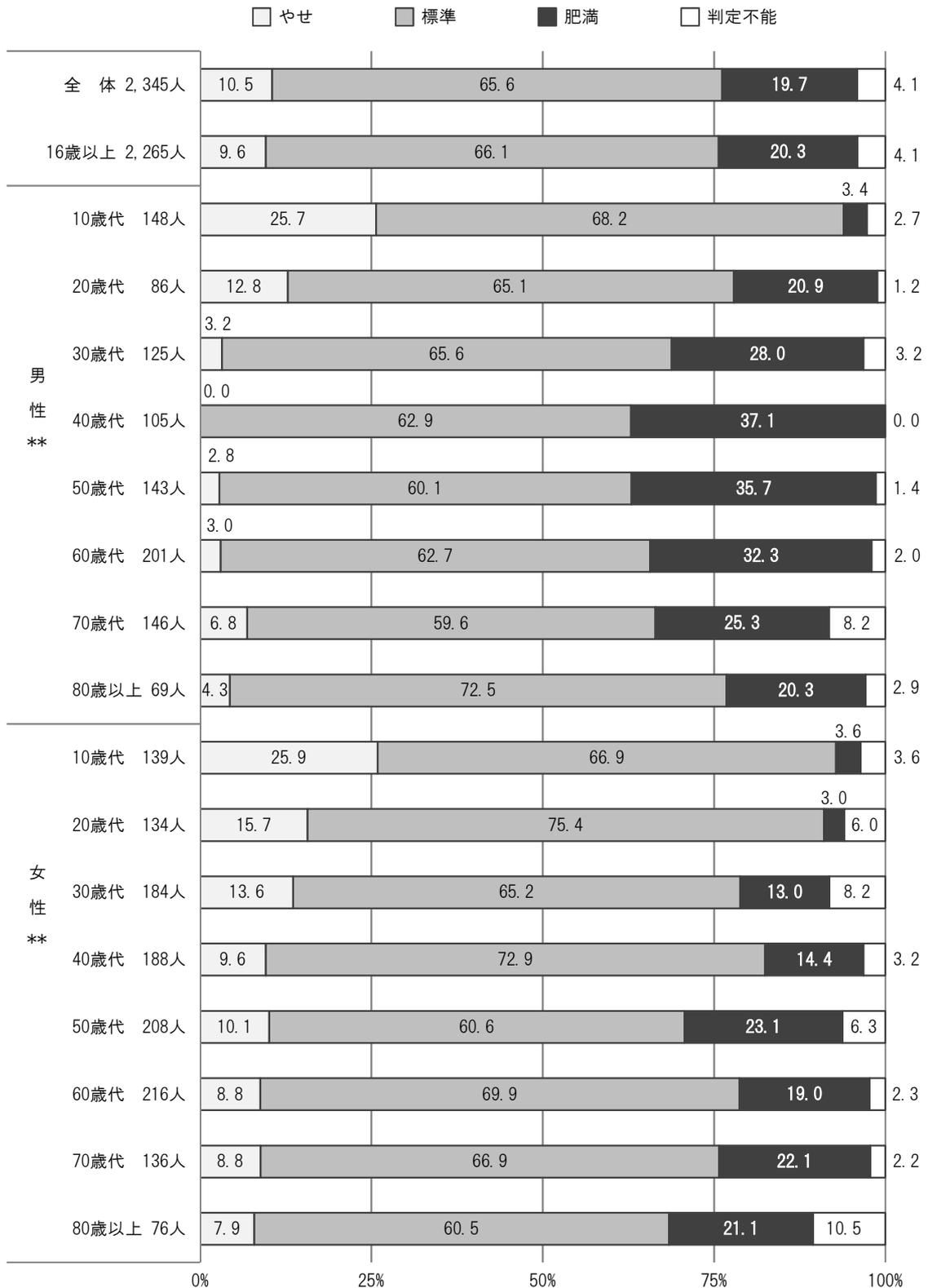
1997年に世界保健機関(WHO)が発表した肥満度判定基準。「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出される。

やせ	標準	肥満
18.5未満	18.5以上25.0未満	25.0以上

肥満度を性・年代別にみると、男性では「やせ」が「10歳代」で25.7%と有意に高くなっており、「肥満」が「40歳代」で37.1%、「50歳代」で35.7%、「60歳代」で32.3%と他の年代より有意に高くなっています。

女性では、「やせ」が「10歳代」で25.9%と有意に高くなっており、「肥満」が「50歳代」で23.1%、「70歳代」で22.1%と有意に高くなっています。

図 6.7 BMIによる肥満度判定〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

肥満度をH24年調査と比較すると、男性では「肥満」が「40歳代」で14.4ポイント増加しており、女性では「肥満」が「50歳代」で9.0ポイント増加といずれも有意に高くなっています。H28年調査と比較すると、男性では「肥満」が「80歳以上」で12.1ポイント増加、女性では「肥満」が「30歳代」で6.4ポイント増加、「50歳代」で8.5ポイント増加といずれも有意に高くなっています。

表 6.3 BMIによる肥満度判定〔経年比較〕

単位：％

項目	H24年調査			H28年調査			今回調査		
	やせ	標準	肥満	やせ	標準	肥満	やせ	標準	肥満
全体	10.2	71.8	16.1	9.5	72.2	16.0	10.5	65.6	19.7
男性計	6.0	71.4	21.3	6.2	71.4	20.8	7.5	63.8	25.8
10歳代	18.5	74.8	5.0	15.8	78.4	2.2	25.7	68.2	3.4
20歳代	7.4	74.1	16.7	15.7	72.3	12.0	12.8	65.1	20.9
30歳代	3.7	64.5	29.0	5.7	71.5	20.3	3.2	65.6	28.0
40歳代	1.7	75.6	22.7	2.0	68.7	27.9	0.0	62.9	37.1
50歳代	3.1	67.9	28.9	4.9	61.5	32.2	2.8	60.1	35.7
60歳代	3.4	72.5	22.5	3.0	70.6	25.9	3.0	62.7	32.3
70歳代	6.6	70.3	22.4	3.0	71.7	24.7	6.8	59.6	25.3
80歳以上	5.5	74.0	19.2	4.1	82.2	8.2	4.3	72.5	20.3
女性計	13.7	72.7	11.8	12.3	73.4	12.2	12.5	67.3	15.2
10歳代	19.7	73.9	3.5	19.0	76.2	2.0	25.9	66.9	3.6
20歳代	25.2	70.5	3.6	20.1	73.9	5.2	15.7	75.4	3.0
30歳代	12.0	77.6	7.8	10.7	79.6	6.6	13.6	65.2	13.0
40歳代	15.2	65.7	16.9	8.2	76.4	12.8	9.6	72.9	14.4
50歳代	8.0	76.9	14.1	12.1	73.3	14.6	10.1	60.6	23.1
60歳代	10.2	74.6	14.8	8.4	69.3	20.7	8.8	69.9	19.0
70歳代	11.5	67.9	17.3	9.6	74.1	16.3	8.8	66.9	22.1
80歳以上	12.7	69.8	14.3	19.2	57.5	15.1	7.9	60.5	21.1

注) 身長・体重の無回答は省略しているため、合計は100%にならない。

表 6.4 BMIによる肥満度判定〔経年比較〕

単位：ポイント

項目	今回調査－H24年調査			今回調査－H28年調査		
	やせ	標準	肥満	やせ	標準	肥満
全体	0.3	-6.2	3.6	1.0	-6.6	3.7
男性計	1.5	-7.6	4.5	1.3	-7.6	5.0
10歳代	7.2	-6.6	-1.6	9.9	-10.2	1.2
20歳代	5.4	-9.0	4.2	-2.9	-7.2	8.9
30歳代	-0.5	1.1	-1.0	-2.5	-5.9	7.7
40歳代	-1.7	-12.7	14.4	-2.0	-5.8	9.2
50歳代	-0.3	-7.8	6.8	-2.1	-1.4	3.5
60歳代	-0.4	-9.8	9.8	0.0	-7.9	6.4
70歳代	0.2	-10.7	2.9	3.8	-12.1	0.6
80歳以上	-1.2	-1.5	1.1	0.2	-9.7	12.1
女性計	-1.2	-5.4	3.4	0.2	-6.1	3.0
10歳代	6.2	-7.0	0.1	6.9	-9.3	1.6
20歳代	-9.5	4.9	-0.6	-4.4	1.5	-2.2
30歳代	1.6	-12.4	5.2	2.9	-14.4	6.4
40歳代	-5.6	7.2	-2.5	1.4	-3.5	1.6
50歳代	2.1	-16.3	9.0	-2.0	-12.7	8.5
60歳代	-1.4	-4.7	4.2	0.4	0.6	-1.7
70歳代	-2.7	-1.0	4.8	-0.8	-7.2	5.8
80歳以上	-4.8	-9.3	6.8	-11.3	3.0	6.0

計画における数値目標のデータ



やせの割合

- ・20歳代女性 15.7% (目標値 15%以下)
 <問6の身長と体重によるBMIが18.5未満の割合>



肥満者の割合

- ・20～60歳代 男性 31.5% (目標値 14%以下)
- ・40～60歳代 女性 19.0% (目標値 13%以下)
- ・40歳代 男性 37.1% 女性 14.4% (目標値 14%・13%以下)
- ・50歳代 男性 35.7% 女性 23.1% (目標値 14%・13%以下)
- ・60歳代 男性 32.3% 女性 19.0% (目標値 14%・13%以下)
- <問6の身長と体重によるBMIが25.0以上の割合>

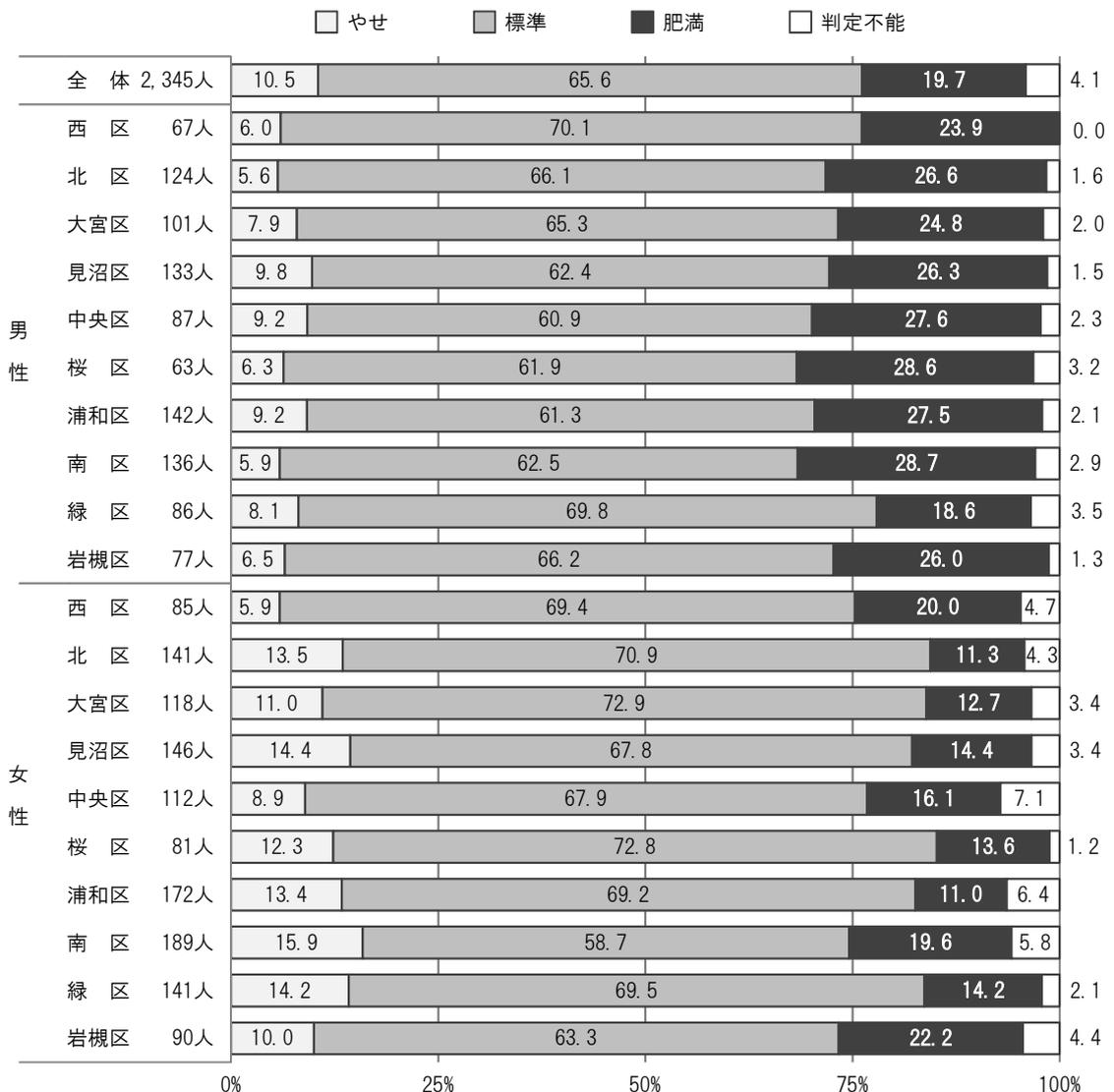


適正体重の人の割合

- ・16歳以上 66.1% (目標値 80%以上)
- <問6の身長と体重によるBMIが18.5以上25.0未満の割合>

肥満度を性・居住区別にみると、男性の「肥満」では、「南区」が28.7%と最も高く、次いで「桜区」が28.6%となっています。女性の「肥満」では、「岩槻区」が22.2%と最も高く、次いで「西区」が20.0%となっています。

図 6.8 BMIによる肥満度判定〔性・居住区別〕

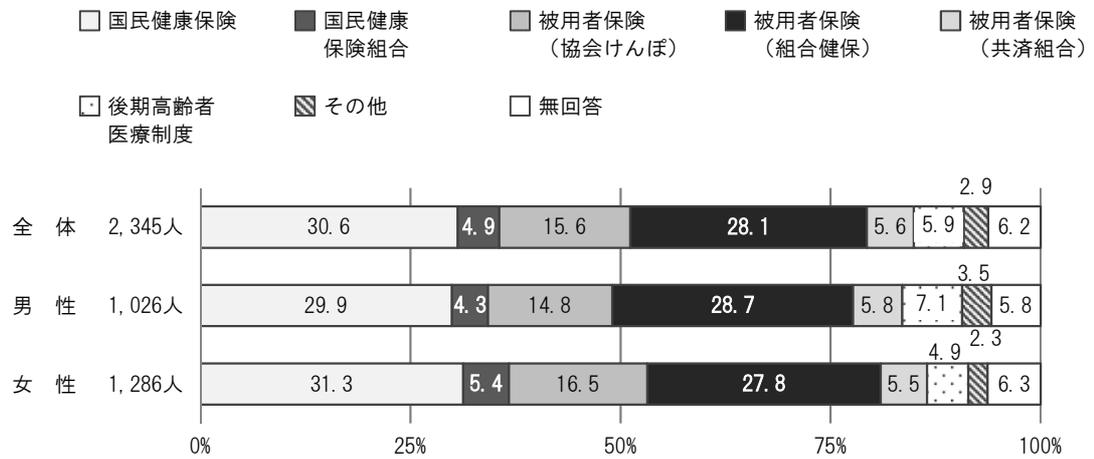


Ⅲ 調査結果

(7) あなたの加入している健康保険は何ですか。(〇は1つだけ) <B:問7>

加入している健康保険は、「国民健康保険」が30.6%と最も高く、次いで「被用者保険(組合健保)」が28.1%、「被用者保険(協会けんぽ)」が15.6%となっています。

図7 健康保険〔全体・性別〕



2 健康観、現在の健康状況について

(8) 現在、あなたは自分の健康状態をどのように感じていますか。(〇は1つだけ)

< B : 問 8 >

健康状態は、「まあ健康である」が64.1%と最も高く、次いで「とても健康である」が21.4%、合わせて『健康である』が85.5%となっています。

性別にみると、男性は「とても健康である」が24.3%と、女性より5.1ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「とても健康である」が3.6ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「とても健康である」が4.5ポイント有意に増加しています。

図 8.1 健康状態〔全体・性別〕**

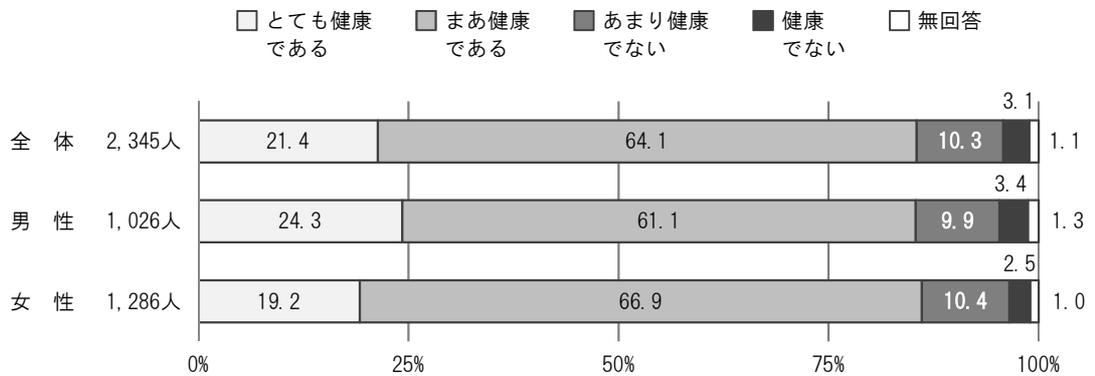


表 8 健康状態〔経年比較〕

単位：%、ポイント

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	変化ポイント	
				今回調査－H24年調査	今回調査－H28年調査
健康である	82.5	82.7	85.5	3.0	2.8
とても健康である	17.8	16.9	21.4	3.6	4.5
まあ健康である	64.7	65.8	64.1	-0.6	-1.7
あまり健康でない	12.3	13.2	10.3	-2.0	-2.9
健康でない	4.6	3.3	3.1	-1.5	-0.2
無回答	0.6	0.9	1.1	0.5	0.2

計画における数値目標のデータ



健康であると意識している人の割合

・全体 85.5% (目標値 増やす ベース値 82.5%)

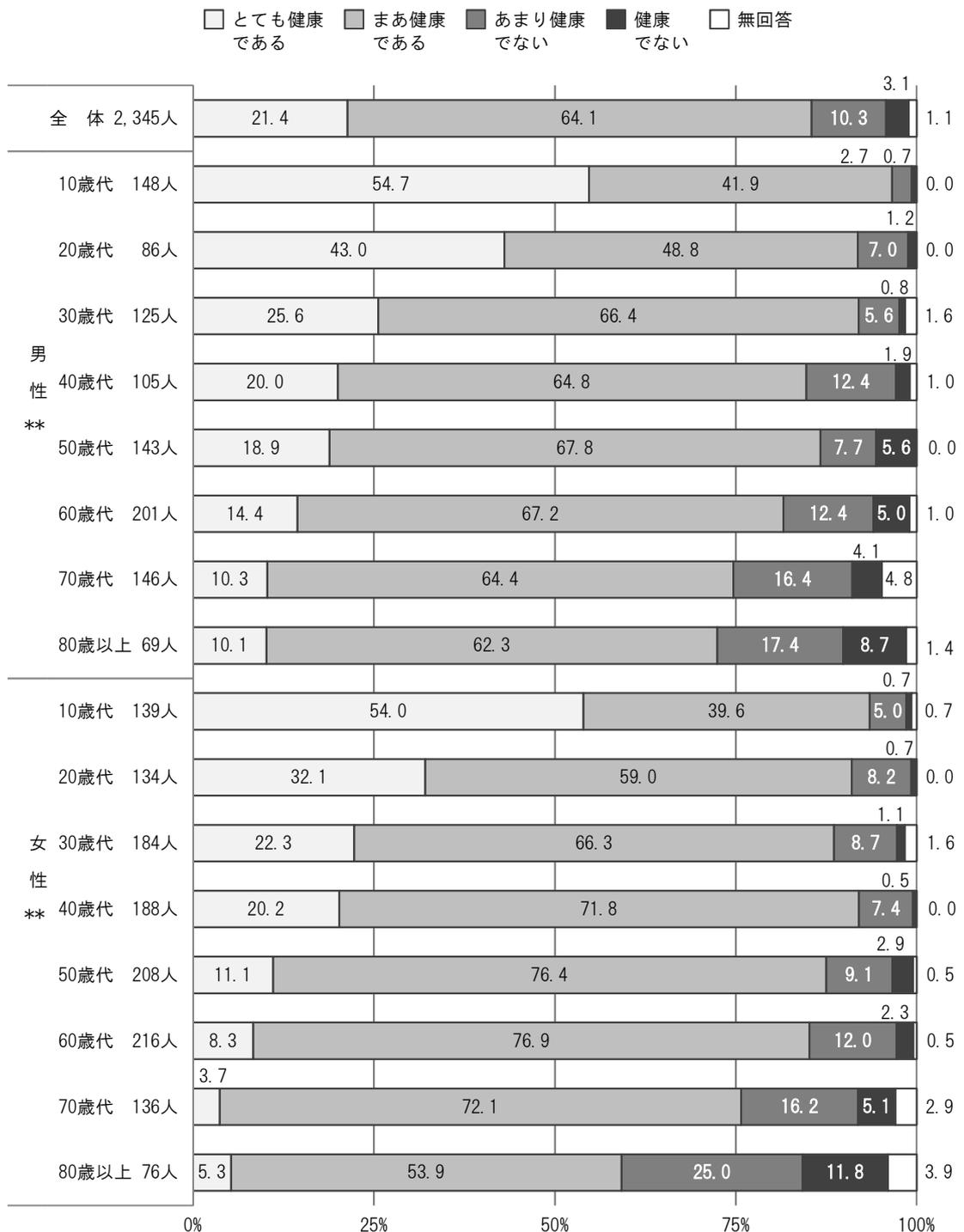
< 問8で「とても健康である」「まあ健康である」と答えた人の割合 >

Ⅲ 調査結果

健康状態を性・年代別にみると、男性では「とても健康である」が「10歳代」で54.7%、「20歳代」で43.0%と他の年代より有意に高くなっています。また、「あまり健康でない」が「70歳代」で16.4%、「80歳以上」で17.4%と有意に高くなっており、「健康でない」が「80歳以上」で8.7%と有意に高くなっています。

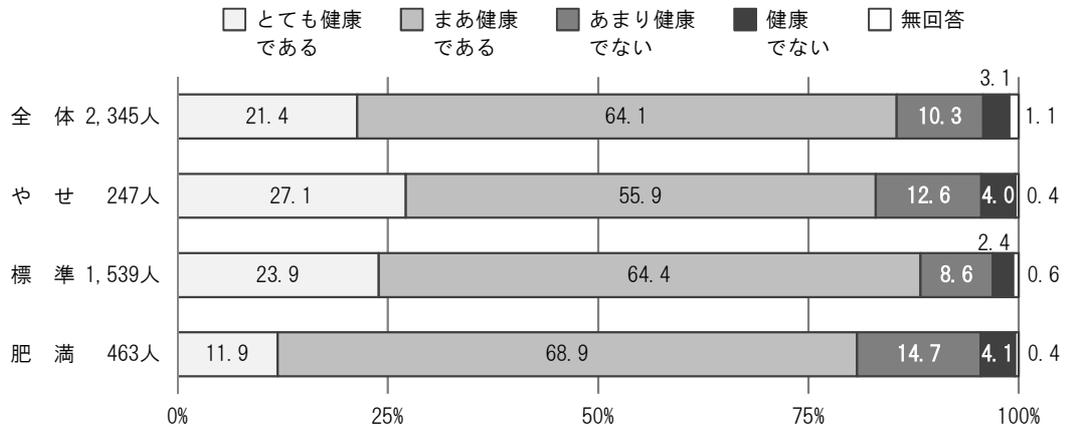
女性では「とても健康である」が「10歳代」で54.0%、「20歳代」で32.1%と有意に高くなっています。また、「あまり健康でない」が「70歳代」で16.2%、「80歳以上」で25.0%と有意に高くなっており、「健康でない」が「70歳代」で5.1%、「80歳以上」で11.8%と有意に高くなっています。

図 8.2 健康状態〔性・年代別〕



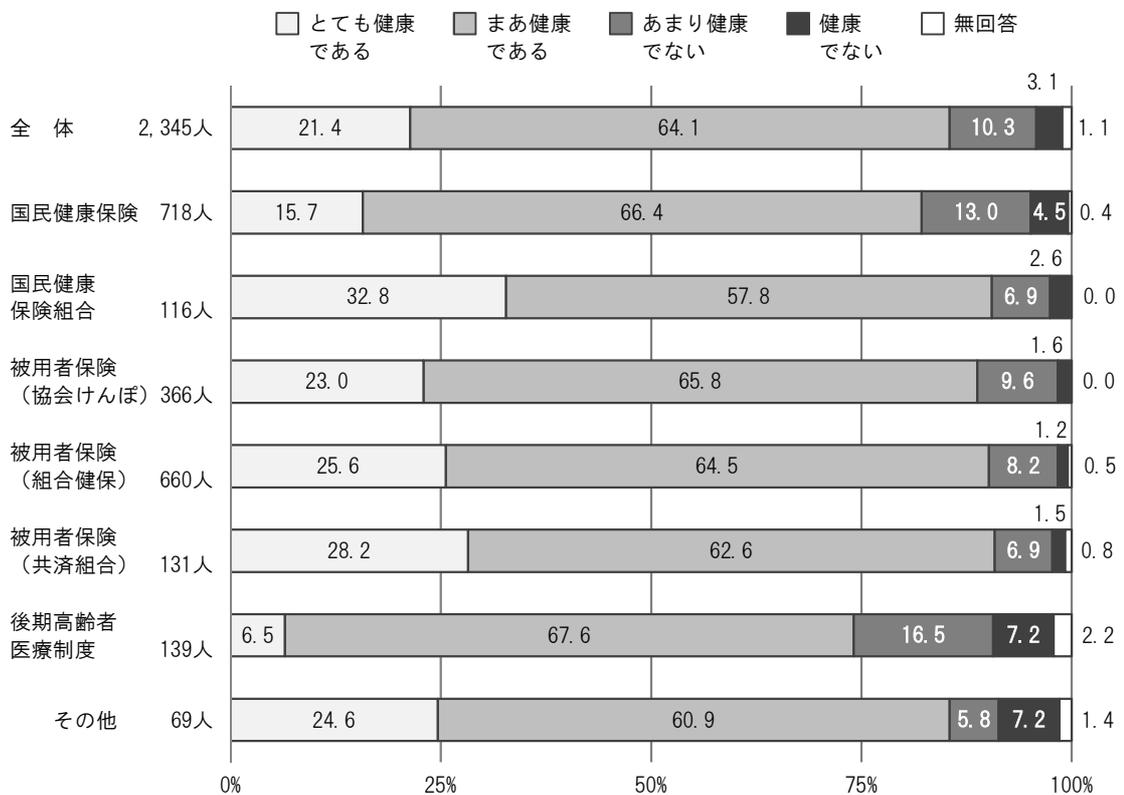
健康状態を肥満度別にみると、「とても健康である」が「やせ」で27.1%、「標準」で23.9%と有意に高くなっています。また、「あまり健康でない」が「肥満」で14.7%と有意に高くなっています。

図 8.3 健康状態〔肥満度別〕**



健康状態を健康保険別にみると、「とても健康である」が「国民健康保険組合」で32.8%、「被用者保険（共済組合）」で28.2%、「被用者保険（組合健保）」で25.6%と有意に高くなっています。また、「健康でない」が「国民健康保険」で4.5%、「後期高齢者医療制度」で7.2%と有意に高くなっています。

図 8.4 健康状態〔健康保険別〕**

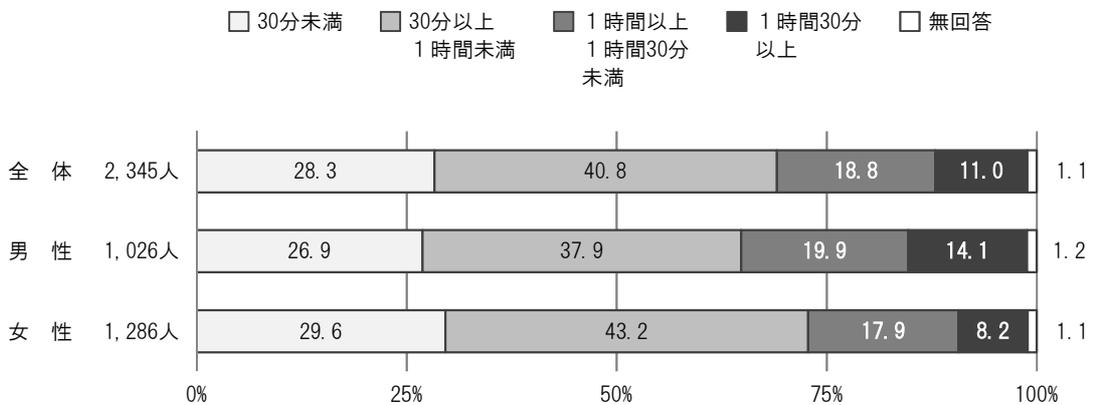


3 身体活動・運動について

(9) あなたは、ふだんの通勤・買い物・散歩等の日常生活で歩く時間を合計すると、1日に何分くらい歩きますか。目安として10分=1,000歩でお考えください。(○は1つだけ)
 < B : 問9 >

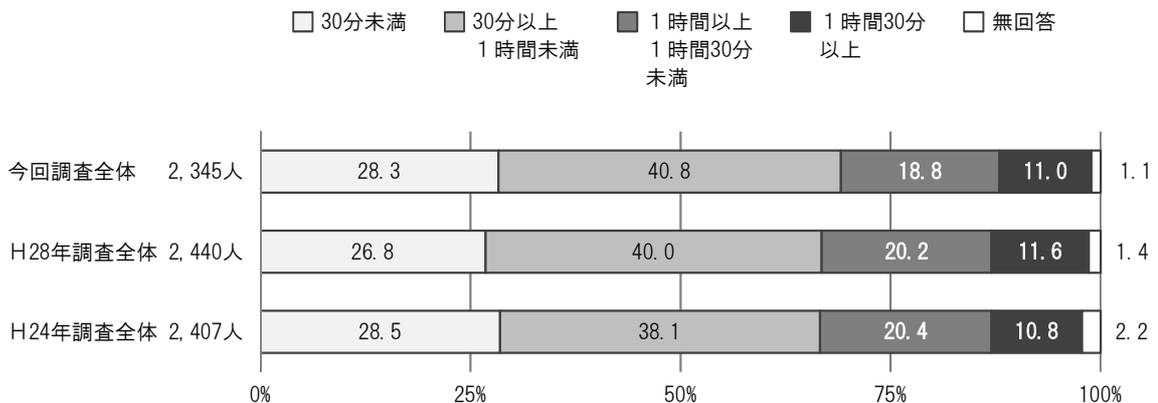
1日に歩く時間は、「30分以上1時間未満」が40.8%と最も高く、次いで「30分未満」が28.3%となっています。
 性別にみると、男性では「1時間30分以上」が14.1%と女性より有意に高く、女性では「30分以上1時間未満」が43.2%と男性より有意に高くなっています。
 H24年調査及びH28年調査と比較すると、大きな差はありません。

図 9.1 1日に歩く時間〔全体・性別〕**



※選択肢：「30分未満（3,000歩未満）」「30分以上1時間未満（3,000歩以上6,000歩未満）」
 「1時間以上1時間30分未満（6,000歩以上9,000歩未満）」「1時間30分以上（9,000歩以上）」

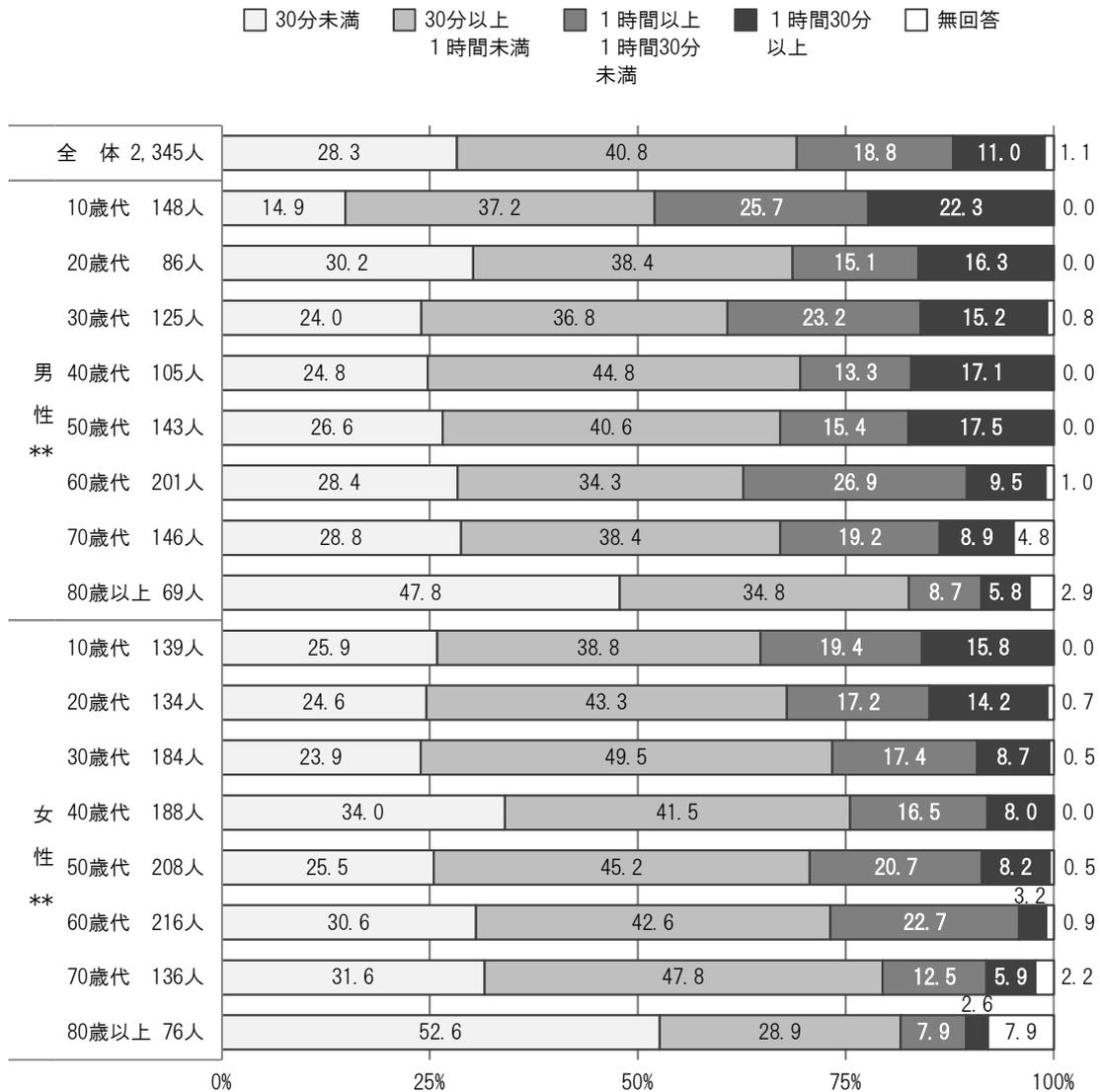
図 9.2 1日に歩く時間〔経年比較〕



1日に歩く時間を性・年代別にみると、男性では「1時間30分以上」が「10歳代」で22.3%と有意に高く、「1時間以上1時間30分未満」が「60歳代」で26.9%と他の年代より有意に高くなっています。また、「30分未満」が「80歳以上」で47.8%と有意に高くなっています。

女性では「1時間30分以上」が「10歳代」で15.8%、「20歳代」で14.2%と有意に高く、「1時間以上1時間30分未満」が「60歳代」で22.7%と有意に高くなっています。また、「30分未満」が「80歳以上」で52.6%と有意に高くなっています。

図 9.3 1日に歩く時間〔性・年代別〕



計画における数値目標のデータ



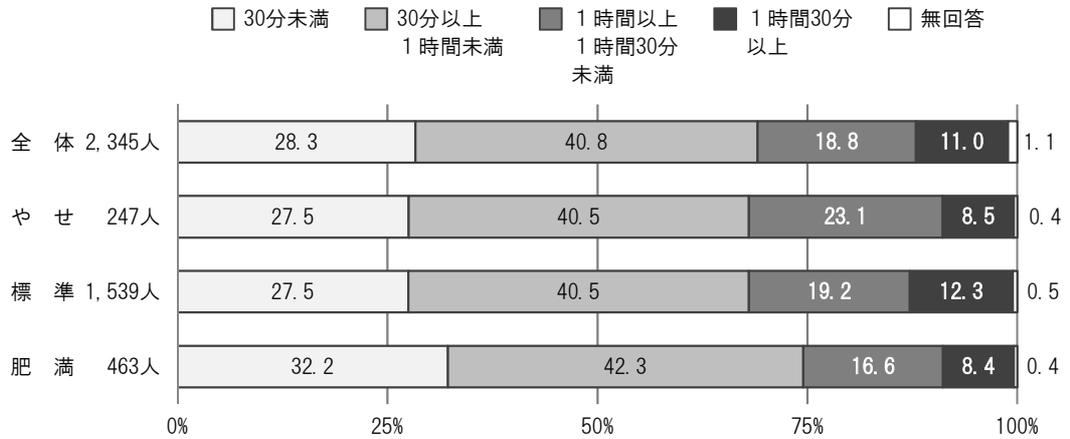
1日1時間以上歩いている人の割合

- ・男性 34.0% 女性 26.1% (目標値 男性 44%、女性 38%)
- ＜問9で「1時間以上1時間30分未満(6,000歩以上9,000歩未満)」「1時間30分以上(9,000歩以上)」と答えた人の割合＞

Ⅲ 調査結果

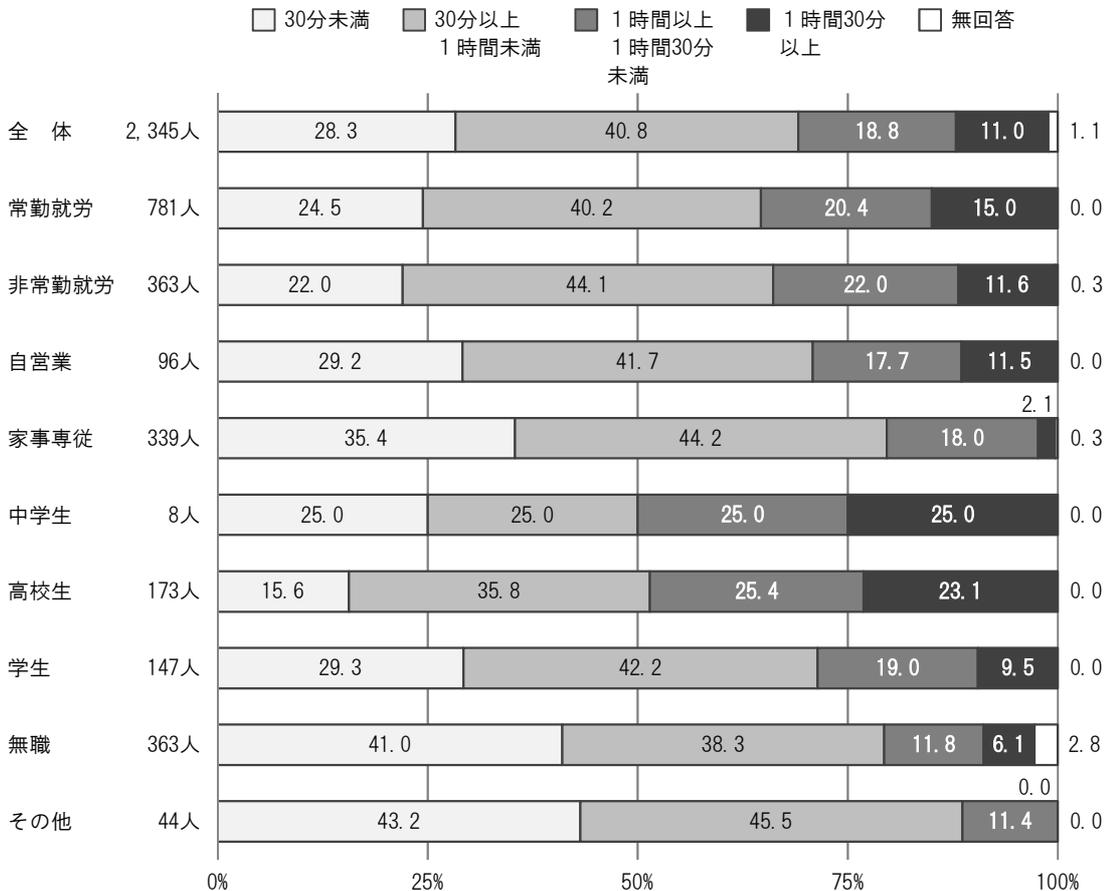
1日に歩く時間を肥満度別にみると、「1時間30分以上」が「標準」で12.3%と他の肥満度より有意に高く、「30分未満」が「肥満」で32.2%と有意に高くなっています。

図 9.4 1日に歩く時間〔肥満度別〕*



1日に歩く時間を就労状況別にみると、「1時間30分以上」が「高校生」で23.1%、「常勤就労」で15.0%と他の就労状況より有意に高くなっています。また、「30分未満」が「無職」で41.0%、「家事専従」で35.4%と有意に高くなっています。

図 9.5 1日に歩く時間〔就労状況別〕**



(10) あなたは運動習慣がありますか。(〇は1つだけ) <B:問10>

※運動習慣とは…1回30分以上の運動をおおよそ週2回以上実施し、1年以上継続している場合

運動習慣の有無は、「ない」が44.8%、「ある」が28.2%となっています。
 性別にみると、男女とも「ない」が最も高く、男性では「ある」が33.9%と、女性より10.1ポイント有意に高く、女性では「ない」が50.2%と、男性より12.3ポイント有意に高くなっています。
 H24年調査と比較すると、男性の「30歳代」で「ある」が8.5ポイント増加しており、女性の「20歳代」で「ある」が7.8ポイント増加しています。
 H28年調査と比較すると、男性の「30歳代」で「ある」が8.5ポイント増加しています。

図 10.1 運動習慣の有無〔全体・性別〕**

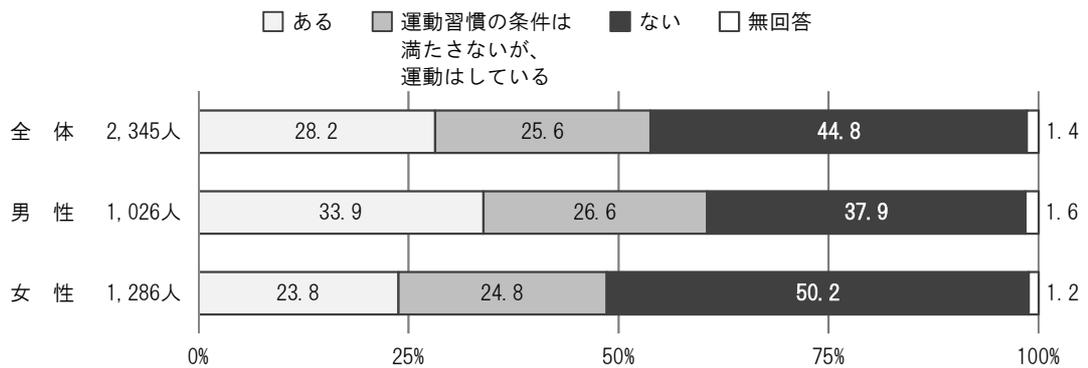


表 10 運動習慣が「ある」割合〔経年比較〕

単位：%、ポイント

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
全体	27.9	27.9	28.2	0.3	0.3
男性計	31.0	31.9	33.9	2.9	2.0
30歳代	18.7	18.7	27.2	8.5	8.5
40歳代	20.2	21.1	22.9	2.7	1.8
女性計	25.6	24.8	23.8	-1.8	-1.0
20歳代	9.4	11.9	17.2	7.8	5.3
30歳代	14.6	12.2	12.5	-2.1	0.3
40歳代	15.2	12.3	12.8	-2.4	0.5

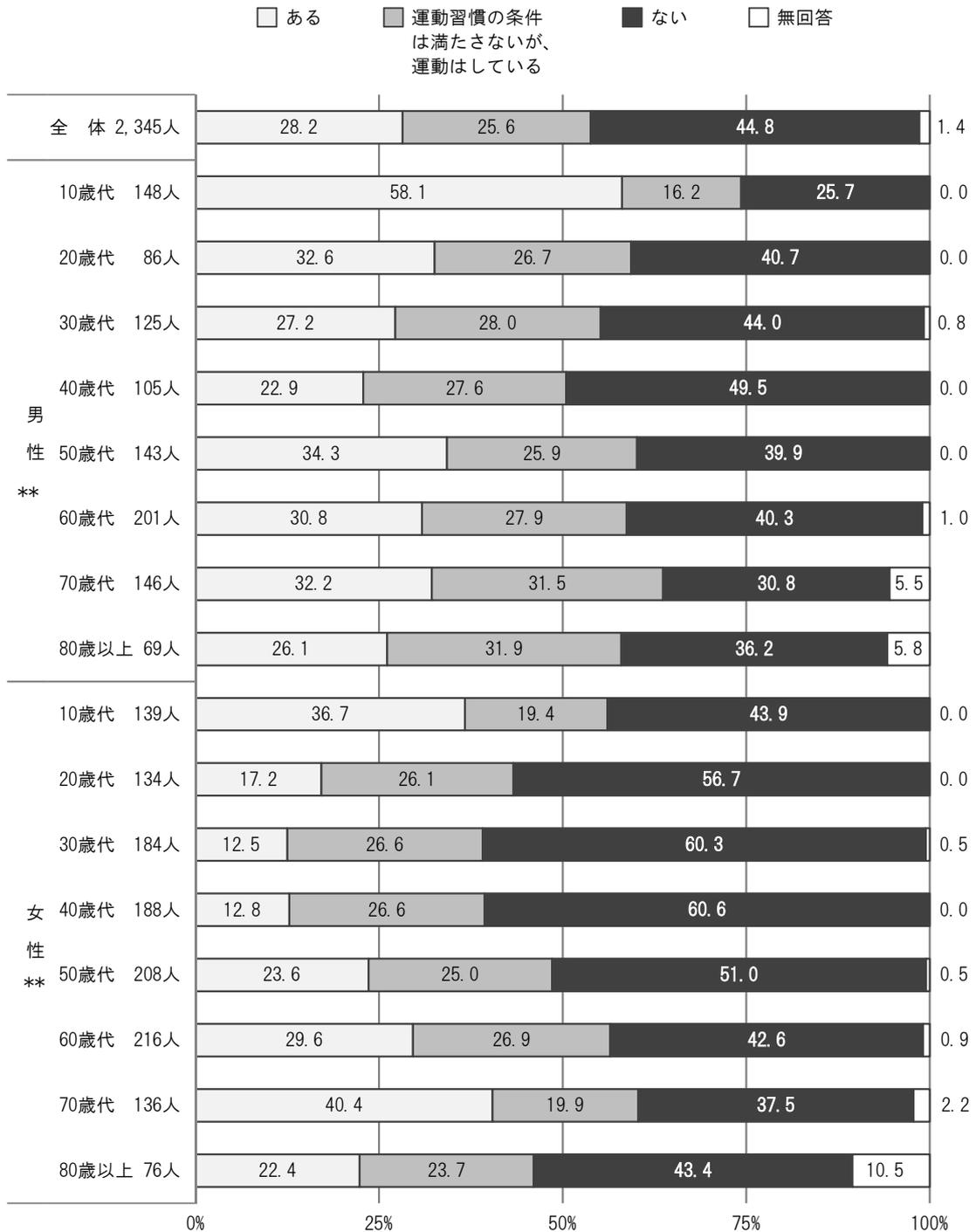
Ⅲ 調査結果

運動習慣について性・年代別にみると、男性では「ある」が「10歳代」で58.1%と有意に高く、「ない」が「40歳代」で49.5%と他の年代より有意に高くなっています。

女性では「ある」が「70歳代」で40.4%、「10歳代」で36.7%、「60歳代」で29.6%と有意に高く、「ない」が「30歳代」で60.3%、「40歳代」で60.6%と有意に高くなっています。

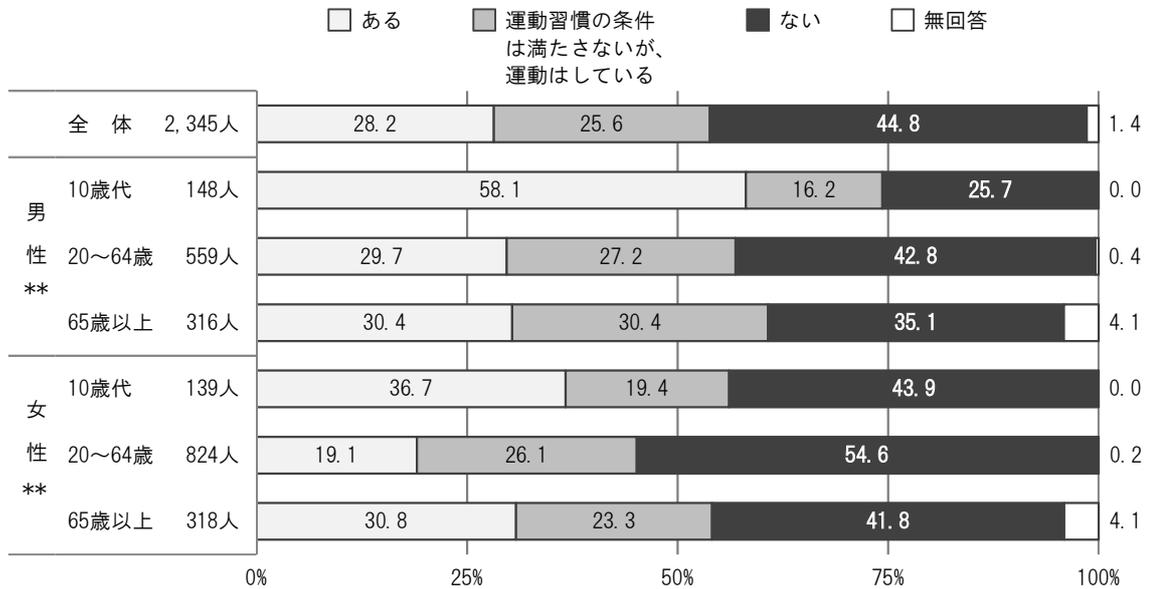
『運動習慣あり』（「ある」と「運動習慣の条件は満たさないが、運動はしている」を合わせた割合）は、男性の「10歳代」が最も高く、74.3%となっています。

図 10.2 運動習慣の有無〔性・年代別〕



運動習慣について性・年齢3区分別にみると、男性では「ある」が「10歳代」で58.1%と他の年代より有意に高く、「ない」が「20～64歳」で42.8%と有意に高くなっています。
女性では「ある」が「10歳代」で36.7%、「65歳以上」で30.8%と有意に高く、「ない」が「20～64歳」で54.6%と有意に高くなっています。

図 10.3 運動習慣の有無〔性・年齢3区分別〕



計画における数値目標のデータ

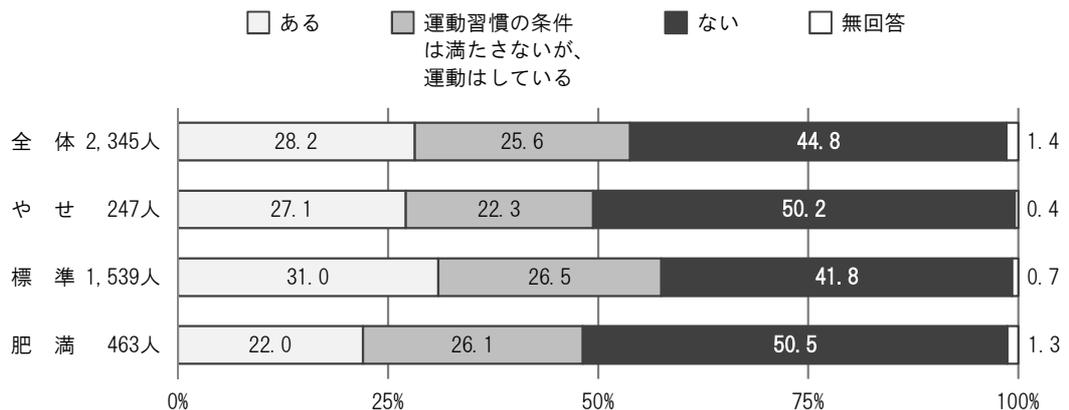


運動習慣のある人の割合

- ・男性 33.9% 女性 23.8%
 - ・20～64歳男性 29.7% (目標値 32%)
 - ・20～64歳女性 19.1% (目標値 30%)
 - ・65歳以上男性 30.4% (目標値 48%)
 - ・65歳以上女性 30.8% (目標値 43%)
- <問 10で「ある」と答えた人の割合>

運動習慣について肥満度別にみると、「ある」が「標準」で31.0%と有意に高く、「ない」が「肥満」で50.5%と有意に高くなっています。

図 10.4 運動習慣の有無〔肥満度別〕**



【B：問10で「ある」「運動習慣の条件は満たさないが、運動はしている」とお答えの方のみ】

(10) -2 具体的に何をしていますか。(〇はあてはまるものすべて) <B：問10-2>

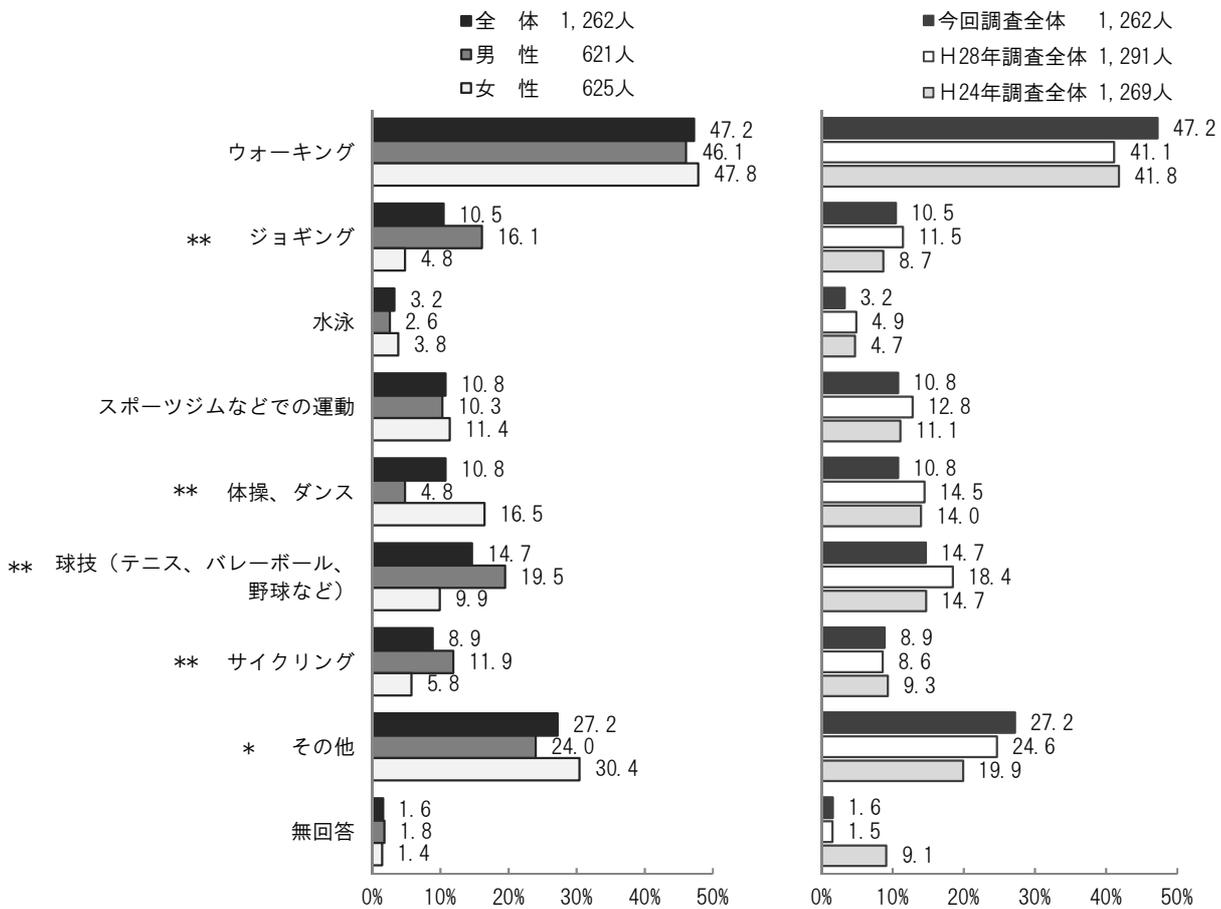
具体的な運動の内容は、「ウォーキング」が47.2%と最も高く、次いで「球技（テニス、バレーボール、野球等）」が14.7%、「スポーツジムなどでの運動」「体操、ダンス」がともに10.8%となっています。

男女別にみると、男性では「球技（テニス、バレーボール、野球など）」が19.5%、「ジョギング」が16.1%と女性より有意に高くなっています。女性では「体操、ダンス」が16.5%と男性より有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「体操、ダンス」が3.2ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「ウォーキング」が6.1ポイント有意に増加しています。

図10-2.1 運動の内容（複数回答）〔全体・性別・経年比較〕



「その他」の内容			
項目	件数	項目	件数
筋トレ	60	格闘技・武道	9
ヨガ・ピラティス	39	登山・ハイキング	4
ストレッチ	36	自転車	4
ゴルフ	32	卓球	4
自宅・室内の運動	25	弓道・アーチェリー	3
仕事	18	ボウリング	3
その他競技	17	陸上競技	2
体育の授業	16	ウォータースポーツ	1
散歩・犬の散歩	16	水中ウォーキング	1
グラウンドゴルフ	10	その他	8
運動系ゲーム	10		

具体的な運動の内容を性・年代別にみると、男性では「ウォーキング」が「60歳代」で59.3%、「70歳代」で75.3%と有意に高く、「ジョギング」が「20歳代」で29.4%、「30歳代」で24.6%、「40歳代」で30.2%と他の年代より有意に高くなっています。

女性では「球技（テニス、バレーボール、野球など）」が「10歳代」で35.9%と有意に高く、「サイクリング」が「50歳代」で14.9%と有意に高くなっています。

表 10-2.2 運動の内容（複数回答）〔性・年代別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	**/**	**/-	-/*	**/*	*-/	**/**	-/**	-/-	無回答
		ウォーキング	ジョギング	水泳	スポーツジムなどの運動	体操、ダンス	球技（テニス、バレーボール、野球など）	サイクリング	その他	
全体	1,262	47.2	10.5	3.2	10.8	10.8	14.7	8.9	27.2	1.6
男性計	621	46.1	16.1	2.6	10.3	4.8	19.5	11.9	24.0	1.8
10歳代	110	13.6	18.2	4.5	3.6	3.6	50.0	16.4	22.7	4.5
20歳代	51	37.3	29.4	2.0	15.7	2.0	23.5	7.8	25.5	0.0
30歳代	69	39.1	24.6	0.0	7.2	0.0	18.8	15.9	21.7	2.9
40歳代	53	47.2	30.2	1.9	15.1	1.9	18.9	11.3	22.6	0.0
50歳代	86	41.9	18.6	4.7	22.1	3.5	12.8	10.5	20.9	1.2
60歳代	118	59.3	9.3	3.4	10.2	6.8	12.7	11.0	24.6	0.0
70歳代	93	75.3	4.3	0.0	6.5	10.8	2.2	9.7	24.7	2.2
80歳以上	40	57.5	2.5	2.5	5.0	7.5	7.5	10.0	35.0	2.5
女性計	625	47.8	4.8	3.8	11.4	16.5	9.9	5.8	30.4	1.4
10歳代	78	29.5	10.3	3.8	1.3	15.4	35.9	7.7	33.3	0.0
20歳代	58	50.0	3.4	0.0	6.9	17.2	8.6	3.4	31.0	0.0
30歳代	72	45.8	8.3	5.6	13.9	15.3	2.8	5.6	27.8	2.8
40歳代	74	41.9	4.1	1.4	10.8	10.8	4.1	4.1	40.5	2.7
50歳代	101	56.4	5.0	0.0	17.8	11.9	7.9	14.9	29.7	0.0
60歳代	122	54.9	1.6	8.2	13.9	16.4	7.4	4.1	21.3	1.6
70歳代	82	53.7	2.4	3.7	12.2	28.0	4.9	1.2	28.0	2.4
80歳以上	35	37.1	5.7	8.6	8.6	20.0	5.7	0.0	45.7	2.9

具体的な運動の内容を肥満度別にみると、「ジョギング」が「標準」で11.9%と有意に高く、「スポーツジムなどでの運動」が「やせ」で4.9%と他の肥満度より有意に低くなっています。

表 10-2.3 運動の内容（複数回答）〔肥満度別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	*		*		体操、ダンス	球技（テニス、バレーボール、野球など）	サイクリング	その他	無回答
		ウォーキング	ジョギング	水泳	スポーツジムなどの運動					
全体	1,262	47.2	10.5	3.2	10.8	10.8	14.7	8.9	27.2	1.6
肥満度	やせ	44.3	9.0	3.3	4.9	9.8	14.8	10.7	35.2	0.0
	標準	47.3	11.9	3.5	11.0	12.0	15.4	8.4	25.5	1.7
	肥満	50.2	5.8	2.2	13.9	6.7	10.8	8.5	28.7	2.2

【B：問10で「ある」「運動習慣の条件は満たさないが、運動はしている」とお答えの方のみ】

(10) -3 どのような方としていますか。(〇はあてはまるものすべて) <B：問10-3>

運動する仲間は、「ひとりで」が64.3%と最も高く、次いで「サークル等参加」が17.4%、「家族と」が17.2%となっています。

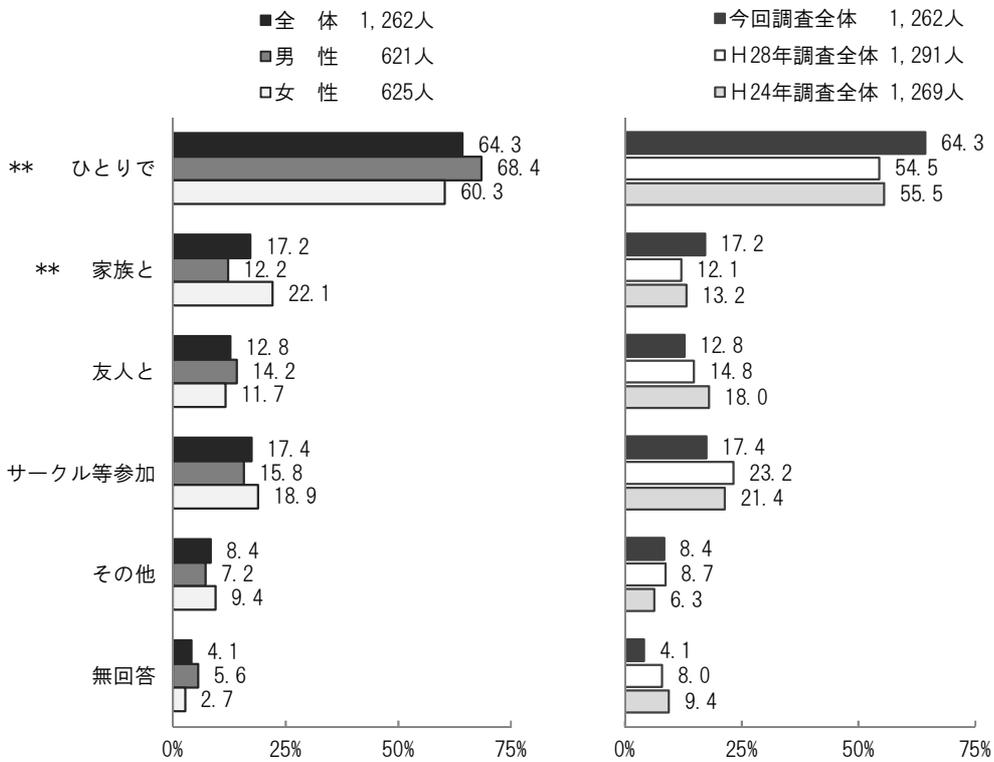
性別にみると、男性では「ひとりで」が68.4%と、女性より8.1ポイント有意に高くなっています。

女性では「家族と」が22.1%と、男性より9.9ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「ひとりで」が8.8ポイント、「家族と」が4.0ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「ひとりで」が9.8ポイント、「家族と」が5.1ポイント有意に増加しています。

図10-3 運動する仲間の内訳（複数回答）〔全体・性別・経年比較〕



「その他」の内容	
項目	件数
部活動・チーム	34
スポーツジム等	14
犬・ペット	7
運動系スクール	7
クラスメート	5
仕事仲間	4
近隣住民・運動仲間	4
学校の授業	3
福祉サービス	3
その他	20

運動する仲間を性・年代別にみると、男女すべての年代で、「ひとりで」が最も高くなっています。

男性では「友人と」が「10歳代」で30.0%、「サークル等参加」が「10歳代」で26.4%といずれも他の年代より有意に高くなっており、「家族と」が「60歳代」で17.8%、「80歳以上」で22.5%と有意に高くなっています。

女性では「友人と」が「10歳代」で24.4%と有意に高くなっており、「家族と」が「20歳代」で39.7%、「30歳代」で33.3%と有意に高くなっています。

表 10-3 運動する仲間の内訳（複数回答）〔性・年代別〕 単位：%

項目	回答者数 (人)	**/**					無回答
		ひとりで	家族と	友人と	サークル等参加	その他	
全体	1,262	64.3	17.2	12.8	17.4	8.4	4.1
男性計	621	68.4	12.2	14.2	15.8	7.2	5.6
10歳代	110	38.2	0.9	30.0	26.4	19.1	6.4
20歳代	51	82.4	9.8	15.7	21.6	7.8	0.0
30歳代	69	73.9	13.0	14.5	15.9	1.4	7.2
40歳代	53	75.5	9.4	13.2	17.0	0.0	3.8
50歳代	86	76.7	10.5	8.1	15.1	3.5	5.8
60歳代	118	70.3	17.8	12.7	10.2	7.6	5.9
70歳代	93	78.5	18.3	4.3	8.6	4.3	5.4
80歳以上	40	67.5	22.5	10.0	12.5	7.5	10.0
女性計	625	60.3	22.1	11.7	18.9	9.4	2.7
10歳代	78	35.9	10.3	24.4	23.1	19.2	7.7
20歳代	58	67.2	39.7	12.1	15.5	3.4	0.0
30歳代	72	72.2	33.3	1.4	8.3	4.2	1.4
40歳代	74	66.2	24.3	9.5	9.5	6.8	1.4
50歳代	101	70.3	25.7	10.9	15.8	2.0	2.0
60歳代	122	65.6	22.1	10.7	16.4	9.0	2.5
70歳代	82	50.0	8.5	9.8	41.5	15.9	2.4
80歳以上	35	45.7	8.6	20.0	20.0	22.9	5.7

【B：問10で「ない」とお答えの方のみ】

(10) - 4 運動していない理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて) < B：問10-4 >

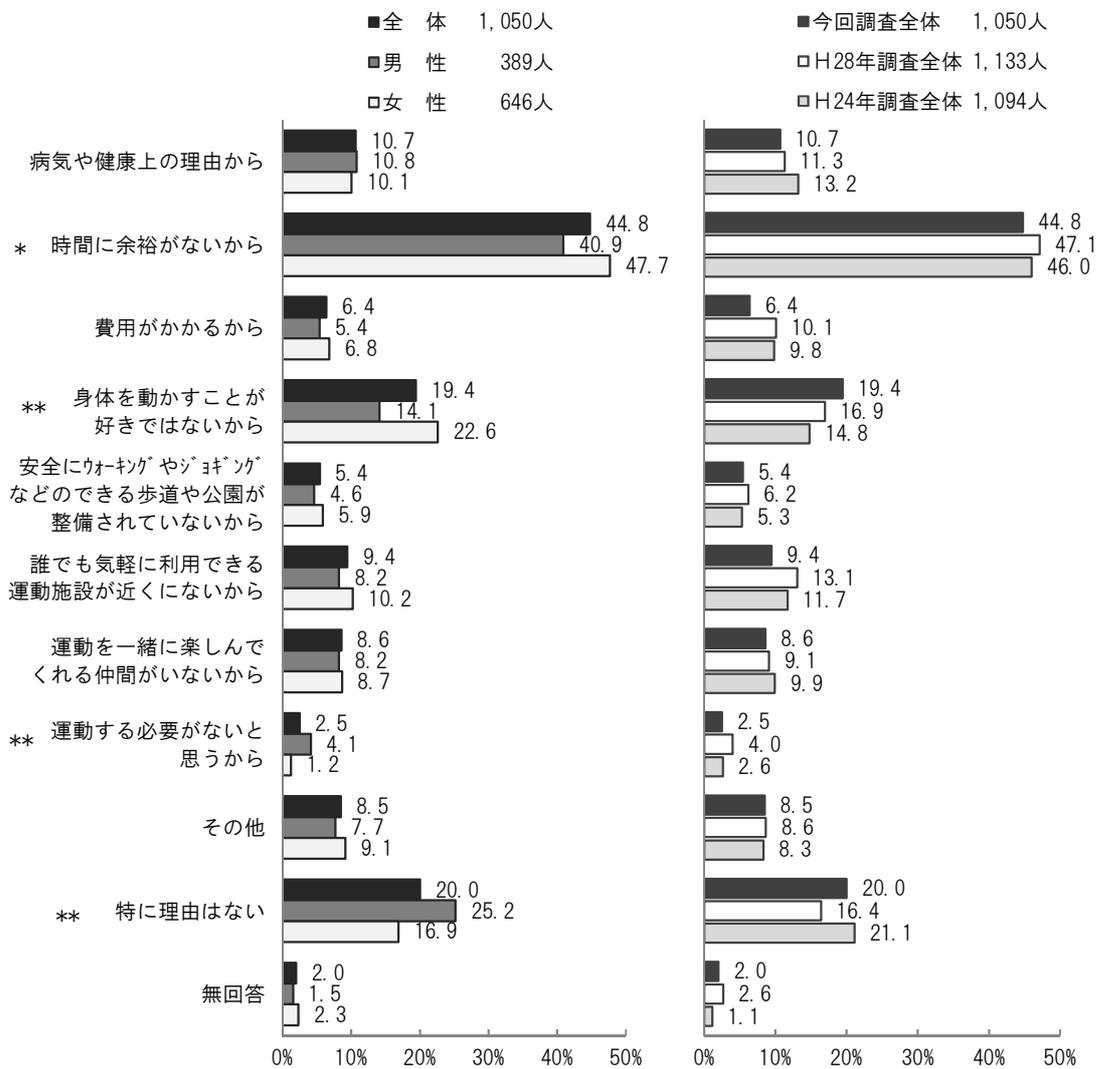
運動していない理由は、「時間に余裕がないから」が44.8%と最も高く、次いで「特に理由はない」が20.0%、「身体を動かすことが好きではないから」が19.4%となっています。

性別にみると、男性では「特に理由はない」が25.2%と、女性より8.3ポイント有意に高くなっており、女性では「身体を動かすことが好きではないから」が22.6%と、男性より8.5ポイント有意に高くなっていきます。

H24年調査と比較すると、「身体を動かすことが好きではないから」が4.6ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「特に理由はない」が3.6ポイント有意に増加しています。

図10-4 運動していない理由（複数回答）〔全体・性別・経年比較〕



「その他」の内容			
項目	件数	項目	件数
仕事・家事等で体を動かしている	23	介護	3
コロナの影響	17	妊娠中	3
体で痛むところがある・体調不良	7	実行できない	1
やる気がない・嫌い	7	高齢	1
仕事・家事で疲れる	6	その他	17
面倒	5		

運動していない理由を性・年代別にみると、男性では「時間に余裕がないから」が「30 歳代」で 80.0%、「40 歳代」で 63.5%と他の年代より有意に高く、「身体を動かすことが好きではないから」が「10 歳代」で 31.6%と有意に高くなっています。

女性では「時間に余裕がないから」が「20 歳代」で 60.5%、「30 歳代」で 71.2%と有意に高く、「身体を動かすことが好きではないから」が「10 歳代」で 42.6%と有意に高くなっています。

表 10-4.1 運動していない理由（複数回答）〔性・年代別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	**/**	**/**	-/-	**/**	-/-	-/-	**/**	-/**	-/-	**/**	無回答
		病気や健康上の理由から	時間に余裕がないから	費用がかかるから	身体を動かすことが好きではないから	安全にウォーキングやジョギングなどのできる歩道や公園が整備されていないから	誰でも気軽に利用できる運動施設が近くにないから	仲間がいないから	運動を一緒に楽しんでもくれる仲間がいないから	運動する必要がないと思うから	その他	
全体	1,050	10.7	44.8	6.4	19.4	5.4	9.4	8.6	2.5	8.5	20.0	2.0
男性計	389	10.8	40.9	5.4	14.1	4.6	8.2	8.2	4.1	7.7	25.2	1.5
10 歳代	38	0.0	55.3	7.9	31.6	2.6	0.0	15.8	5.3	10.5	18.4	0.0
20 歳代	35	5.7	28.6	2.9	14.3	5.7	11.4	14.3	5.7	8.6	37.1	0.0
30 歳代	55	1.8	80.0	9.1	12.7	5.5	16.4	16.4	1.8	7.3	5.5	0.0
40 歳代	52	5.8	63.5	3.8	7.7	1.9	5.8	3.8	1.9	0.0	28.8	1.9
50 歳代	57	12.3	40.4	1.8	17.5	3.5	3.5	1.8	7.0	7.0	21.1	1.8
60 歳代	81	14.8	24.7	7.4	17.3	7.4	12.3	7.4	2.5	8.6	29.6	0.0
70 歳代	45	20.0	11.1	6.7	6.7	6.7	4.4	4.4	6.7	11.1	35.6	6.7
80 歳以上	25	32.0	8.0	0.0	0.0	0.0	8.0	4.0	4.0	12.0	32.0	4.0
女性計	646	10.1	47.7	6.8	22.6	5.9	10.2	8.7	1.2	9.1	16.9	2.3
10 歳代	61	3.3	52.5	6.6	42.6	4.9	8.2	18.0	6.6	4.9	13.1	0.0
20 歳代	76	1.3	60.5	6.6	28.9	2.6	13.2	11.8	3.9	6.6	13.2	1.3
30 歳代	111	2.7	71.2	6.3	18.9	7.2	8.1	6.3	0.9	9.9	8.1	1.8
40 歳代	114	3.5	57.0	12.3	27.2	5.3	7.9	8.8	0.0	9.6	12.3	0.0
50 歳代	106	12.3	51.9	8.5	23.6	9.4	15.1	12.3	0.0	9.4	11.3	1.9
60 歳代	92	12.0	25.0	2.2	13.0	6.5	10.9	4.3	0.0	8.7	37.0	3.3
70 歳代	51	29.4	15.7	3.9	13.7	5.9	11.8	3.9	0.0	11.8	25.5	5.9
80 歳以上	33	48.5	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	15.2	24.2	12.1

計画における数値目標のデータ

★モニタリング



運動をしていない理由

- 安全にウォーキングやジョギングなどができる歩道や公園が整備されていないからと答えた人の割合 5.4%
- 誰でも運動できる運動施設が近くにないからと答えた人の割合 9.4%

<問 10-4で「運動していない理由（複数回答）」として上記項目を答えた人の割合>

Ⅲ 調査結果

運動していない理由を肥満度別にみると、いずれも「時間に余裕がないから」が最も高くなっています。また、「肥満」では、「病気や健康上の理由から」が16.2%、「運動を一緒に楽しんでもくれる仲間がいないから」が12.8%といずれも他の肥満度より有意に高くなっています。

表 10-4.2 運動していない理由（複数回答）〔肥満度別〕

単位：％

項目	回答者数（人）	**		*									
		病気や健康上の理由から	時間に余裕がないから	費用がかかるから	身体を動かすことが好きではないから	安全にウォーキングやジョギングなどのできる歩道や公園が整備されていないから	誰でも気軽に利用できる運動施設が近くにないから	運動を一緒に楽しんでもくれる仲間がいないから	運動する必要があると思うから	その他	特に理由はない	無回答	
全体	1,050	10.7	44.8	6.4	19.4	5.4	9.4	8.6	2.5	8.5	20.0	2.0	
肥満度	やせ	124	13.7	46.0	5.6	17.7	4.8	7.3	6.5	3.2	6.5	18.5	2.4
	標準	643	8.1	45.9	6.7	19.1	5.3	8.4	7.2	2.5	9.3	20.7	2.0
	肥満	234	16.2	42.3	6.4	21.8	6.0	13.2	12.8	2.1	6.4	18.4	1.7

運動していない理由を就労状況別にみると、「時間に余裕がないから」が「常勤」で64.5%、「非常勤」で46.2%、「自営業」で45.2%、「家事専従」で25.9%、「学生」で53.5%と最も高くなっています。また、「高校生」では「身体を動かすことが好きではないから」が53.2%と最も高く、「無職」では「病気や健康上の理由から」が37.7%と最も高くなっています。

表 10-4.3 運動していない理由（複数回答）〔就労状況別〕

単位：％

項目	回答者数（人）	**		*									
		病気や健康上の理由から	時間に余裕がないから	費用がかかるから	身体を動かすことが好きではないから	安全にウォーキングやジョギングなどのできる歩道や公園が整備されていないから	誰でも気軽に利用できる運動施設が近くにないから	運動を一緒に楽しんでもくれる仲間がいないから	運動する必要があると思うから	その他	特に理由はない	無回答	
全体	1,050	10.7	44.8	6.4	19.4	5.4	9.4	8.6	2.5	8.5	20.0	2.0	
就労状況	常勤	391	3.3	64.5	5.4	19.4	4.9	10.2	6.9	2.3	5.6	15.1	1.3
	非常勤	169	8.3	46.2	11.2	14.8	7.7	10.1	12.4	1.2	15.4	17.2	1.2
	自営業	42	7.1	45.2	4.8	14.3	2.4	7.1	7.1	2.4	4.8	23.8	4.8
	家事専従	162	12.3	25.9	5.6	21.6	5.6	9.3	5.6	0.0	9.3	29.6	2.5
	中学生	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高校生	47	2.1	48.9	4.3	53.2	2.1	2.1	10.6	10.6	6.4	12.8	0.0
	学生	71	0.0	53.5	8.5	22.5	7.0	8.5	23.9	5.6	9.9	16.9	0.0
	無職	138	37.7	9.4	5.1	10.9	6.5	10.1	2.9	2.2	8.0	28.3	4.3
その他	19	42.1	10.5	5.3	15.8	0.0	15.8	21.1	0.0	10.5	21.1	0.0	

(11) あなたは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っていますか。

(○は1つだけ) <B: 問11>

※ロコモティブシンドロームとは…「運動器（足腰の骨や関節、筋力など）の障害により「要介護になる」リスクの高い状態になること

ロコモティブシンドロームの認知度は、「まったく聞いたことがない」が60.9%となっており、「言葉も意味も知っている」「言葉は聞いたことがある」を合わせた割合は37.8%となっています。

性別にみると、男女とも「まったく聞いたことがない」が最も高く、男性は65.6%と、女性より8.2ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」が12.6ポイント、「言葉は聞いたことがある」が8.8ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」が1.9ポイント増加しています。

図 11.1 ロコモティブシンドロームの認知度〔全体・性別〕**

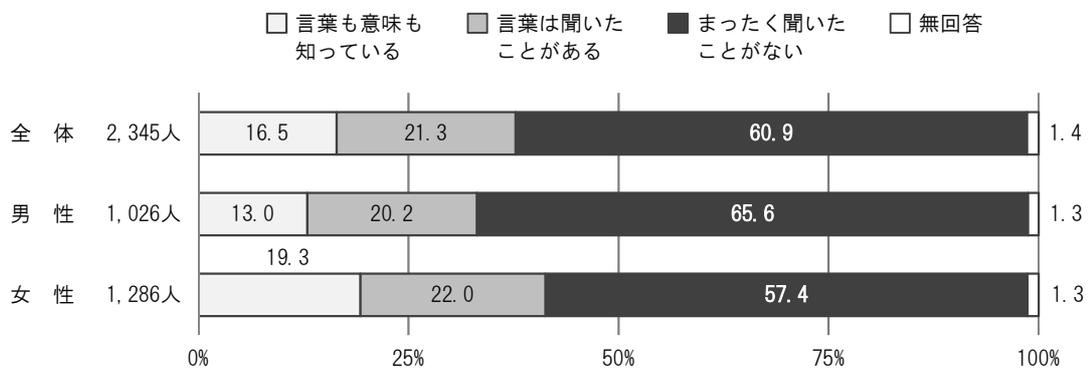
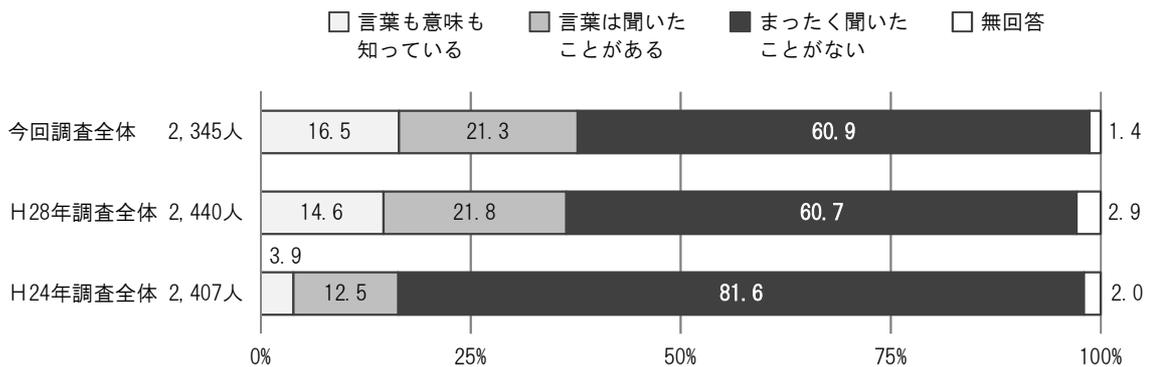


図 11.2 ロコモティブシンドロームの認知度〔経年比較〕**



計画における数値目標のデータ



ロコモティブシンドロームを認知している市民の割合

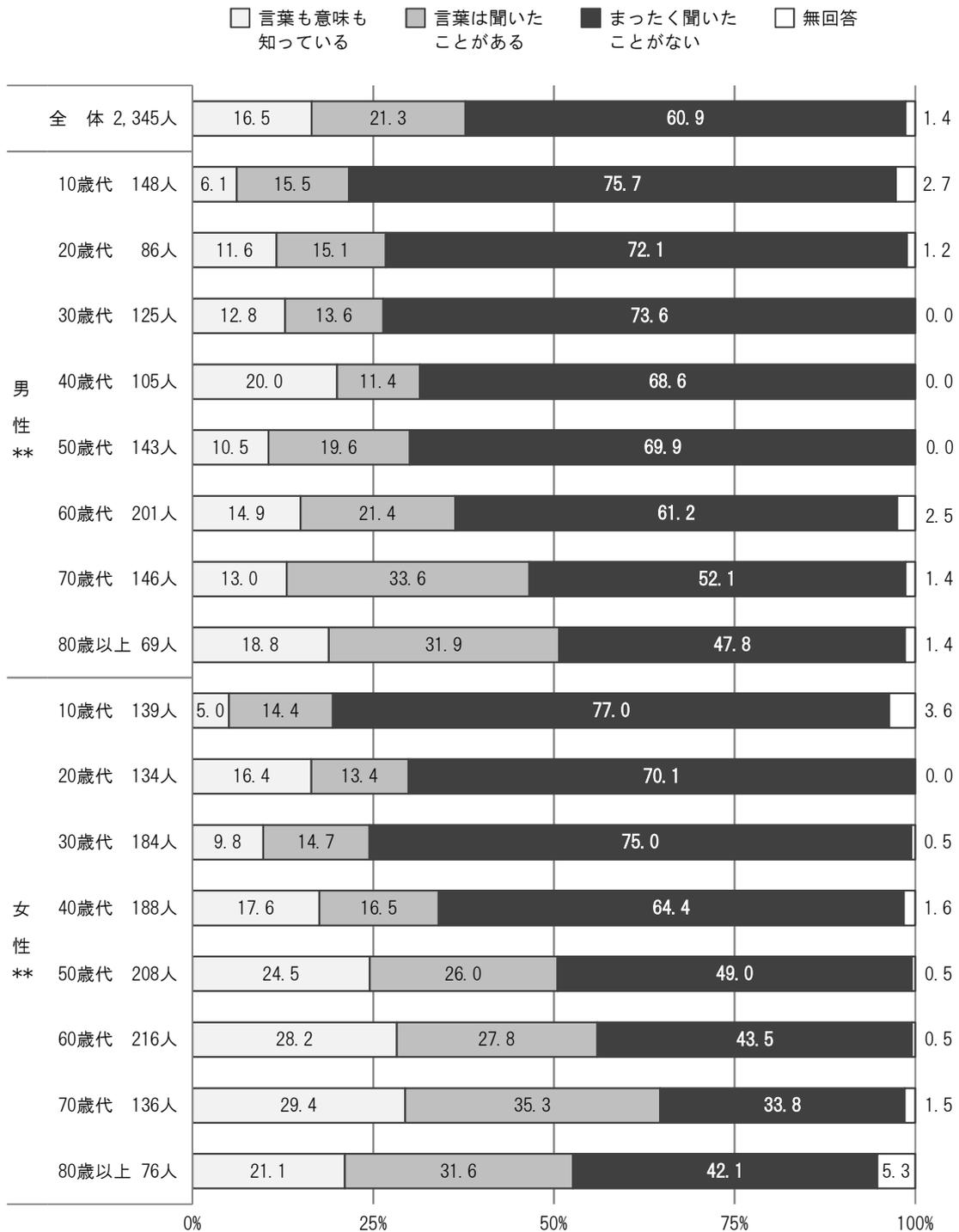
- ・全体 37.7% (目標値 80%)
<問11で「言葉も意味も知っている」「言葉は聞いたことがある」と答えた人の割合>

Ⅲ 調査結果

ロコモティブシンドロームの認知度を性・年代別にみると、男性では「言葉も意味も知っている」が「40歳代」で20.0%と他の年代より有意に高くなっており、「言葉は聞いたことがある」が「70歳代」で33.6%、「80歳以上」で31.9%と有意に高くなっています。

女性では「言葉も意味も知っている」が「50歳代」で24.5%、「60歳代」で28.2%、「70歳代」で29.4%と有意に高くなっており、「言葉は聞いたことがある」が「60歳代」で27.8%、「70歳代」で35.3%、「80歳以上」で31.6%と有意に高くなっています。

図 11.3 ロコモティブシンドロームの認知度〔性・年代別〕



4 休養・こころの健康について

(12) あなたは、毎日の生活の中でイライラやストレスを感じることはありますか。

(○は1つだけ) < B : 問 12 >

ストレスの状況は、「ときどき感じる」が 48.5%と最も高く、次いで「感じる」が 25.3%で合わせると 73.8%となっています。

性別にみると、男女とも「ときどき感じる」が最も高く、男性では「あまり感じない」が 8.4 ポイント、「ほとんど感じない」が 3.5 ポイント女性より有意に高くなっています。女性では「感じる」が 7.8 ポイント男性より有意に高くなっています。

H24 年調査と比較すると、「あまり感じない」が 2.7 ポイント減少しています。

H28 年調査と比較すると、大きな差はありません。

図 12.1 ストレスの状況〔全体・性別〕**

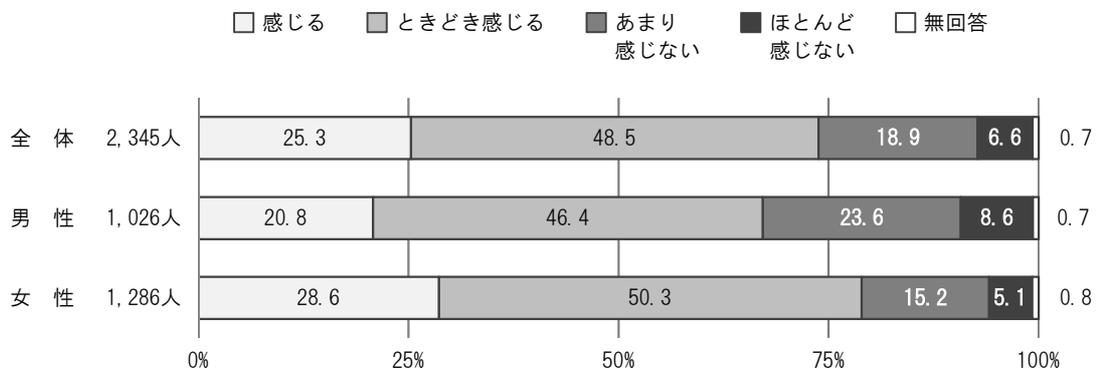


表 12 ストレスの状況〔経年比較〕

単位：%、ポイント

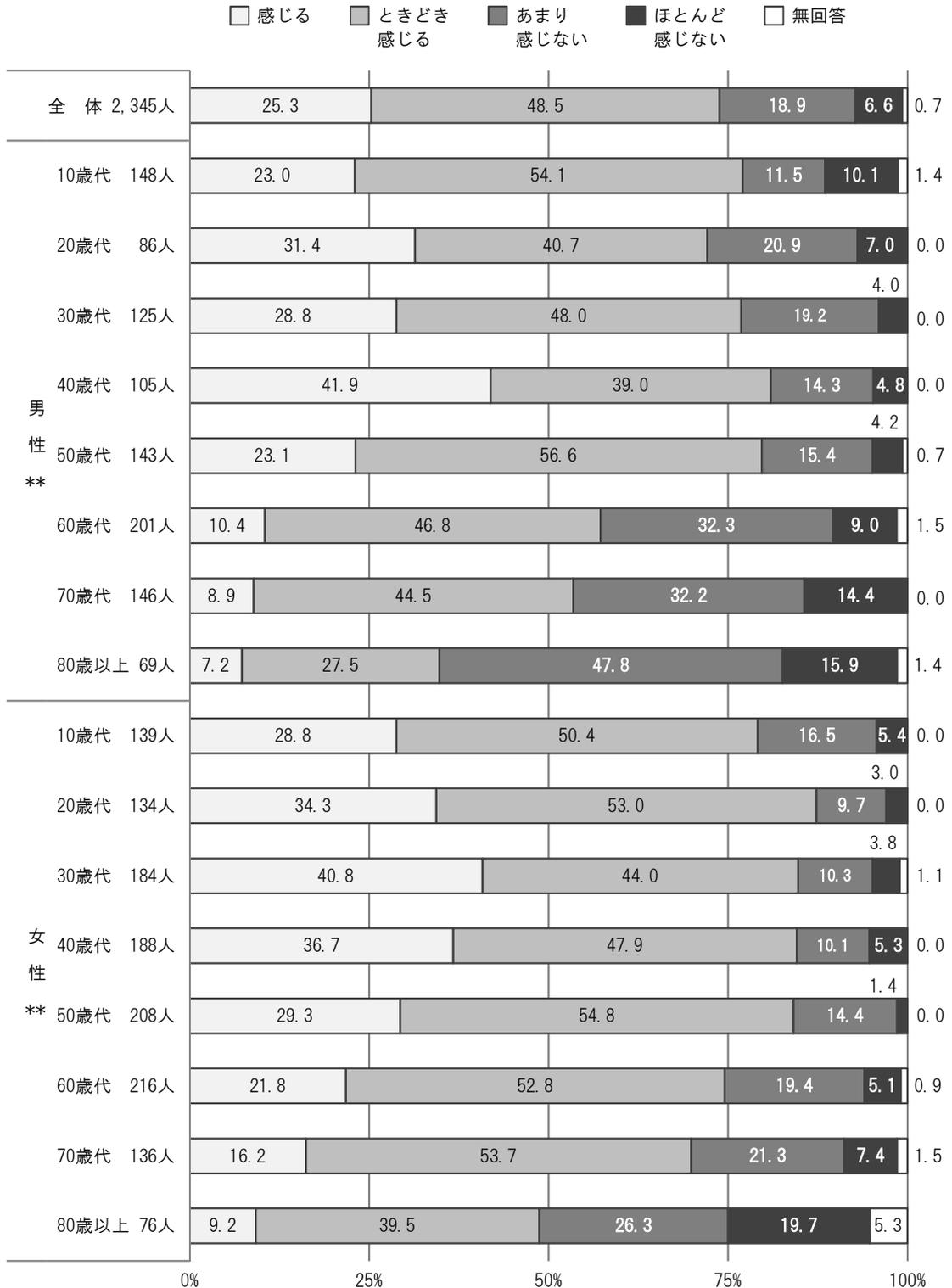
項目	H24 年調査	H28 年調査	今回調査	今回調査－ H24 年調査	今回調査－ H28 年調査
感じる	24.6	26.1	25.3	0.7	-0.8
ときどき感じる	45.7	47.7	48.5	2.8	0.8
あまり感じない	21.6	18.5	18.9	-2.7	0.4
ほとんど感じない	6.4	6.0	6.6	0.2	0.6
無回答	1.6	2.4	0.7	-0.9	-1.7

Ⅲ 調査結果

ストレスの状況を性・年代別にみると、男性では「感じる」が「20歳代」で31.4%、「30歳代」で28.8%、「40歳代」で41.9%と他の年代より有意に高く、「ほとんど感じない」が「70歳代」で14.4%、「80歳以上」で15.9%と有意に高くなっています。

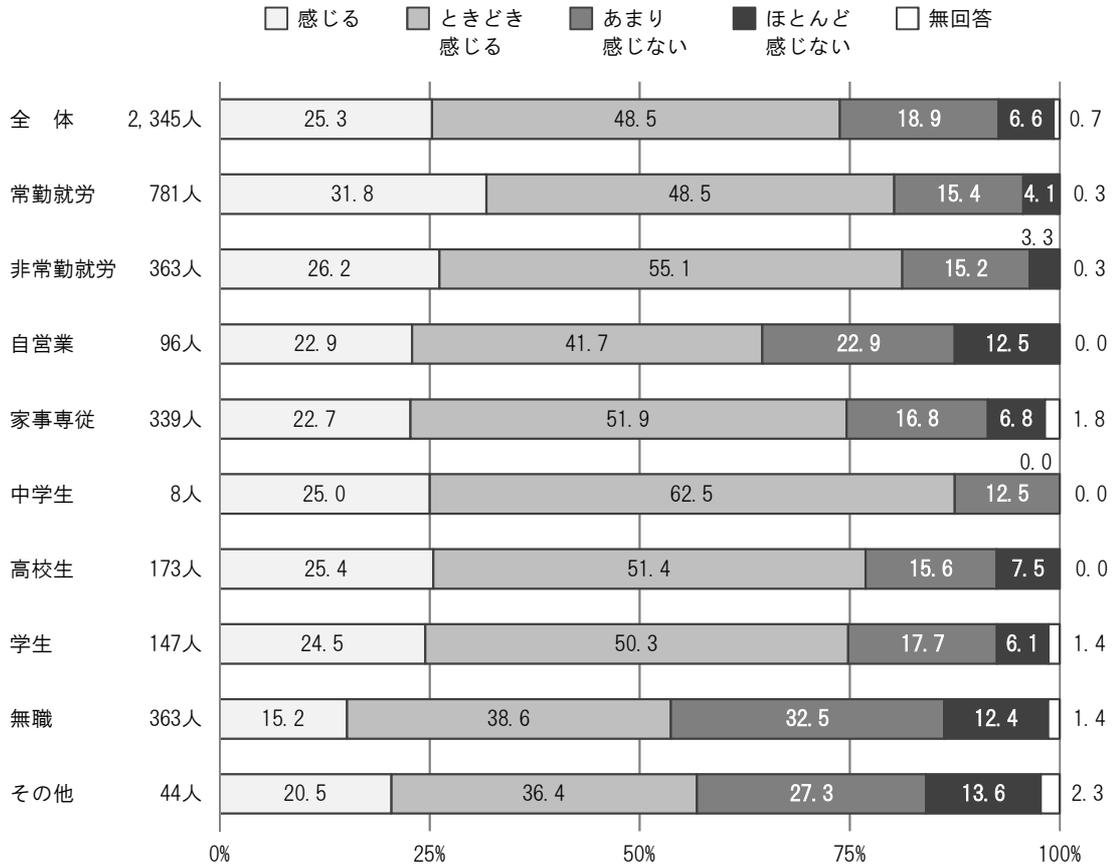
女性では「感じる」が「30歳代」で40.8%、「40歳代」で36.7%と有意に高く、「ほとんど感じない」が「80歳以上」で19.7%と有意に高くなっています。

図 12.2 ストレスの状況〔性・年代別〕



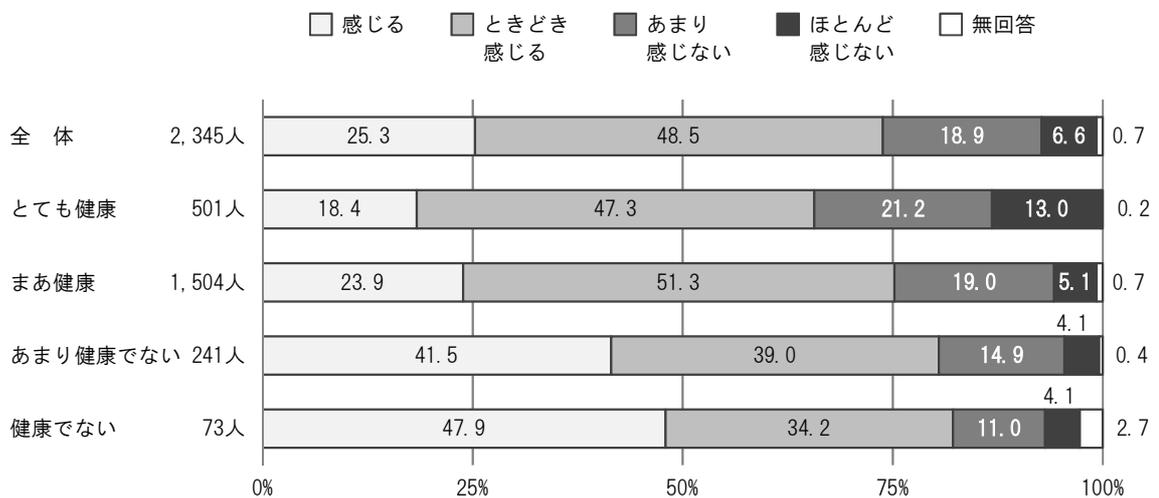
ストレスの状況を就労状況別にみると、「感じる」が「常勤就労」で31.8%と有意に高くなっています。また、「あまり感じない」が「無職」で32.5%と他の就労状況より有意に高く、「ほとんど感じない」が「自営業」で12.5%、「無職」で12.4%と有意に高くなっています。

図 12.3 ストレスの状況〔就労状況別〕**



ストレスの状況を健康状態別にみると、「感じる」が「あまり健康でない」で41.5%、「健康でない」で47.9%と他の健康状態より有意に高く、「ときどき感じる」が「まあ健康」で51.3%と有意に高くなっています。また、「ほとんど感じない」が「とても健康」で13.0%と有意に高くなっています。

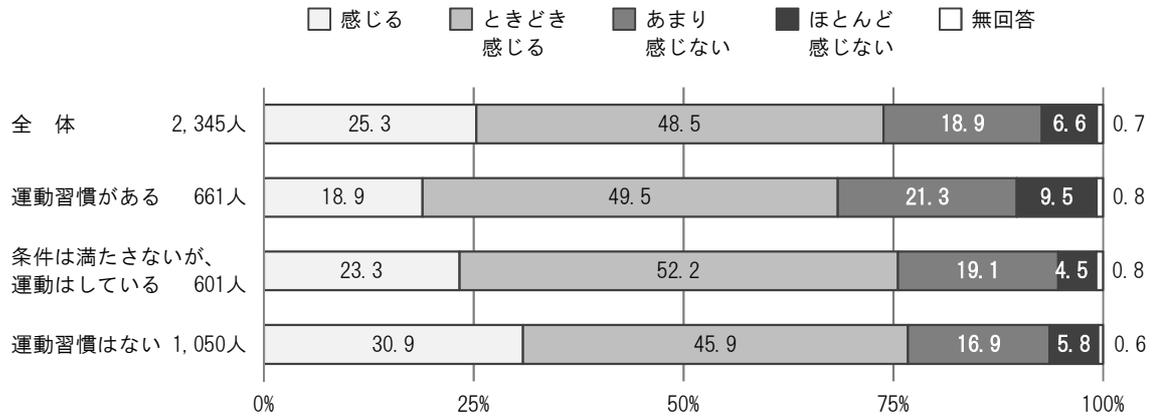
図 12.4 ストレスの状況〔健康状態別〕**



Ⅲ 調査結果

ストレスの状況を運動習慣別にみると、「感じる」が「運動習慣はない」で30.9%と他の運動習慣状況より有意に高く、「ときどき感じる」が「条件は満たさないが、運動はしている」で52.2%と有意に高くなっています。また、「あまり感じない」が「運動習慣がある」で21.3%と有意に高く、「ほとんど感じない」が「運動習慣がある」で9.5%と有意に高くなっています。

図 12.5 ストレスの状況〔運動習慣別〕**



【B：問12で「感じる」「ときどき感じる」とお答えの方のみ】

(12) -2 あなたは、そのイライラやストレスを解消できていますか。(〇は1つだけ)
 <B：問12-2>

ストレス解消の状況は、「ある程度は解消できている」が55.8%と最も高く、次いで「あまり解消できていない」が22.3%となっています。「あまり解消できていない」「解消できていない」を合わせた割合は28.5%となっています。

性別にみると、女性は「あまり解消できていない」が23.4%と、男性より3.1ポイント高くなっています。

H24年調査と比較すると、「あまり解消できていない」が2.6ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「解消できている」が2.2ポイント増加しています。

図12-2.1 ストレス解消の状況〔全体・性別〕

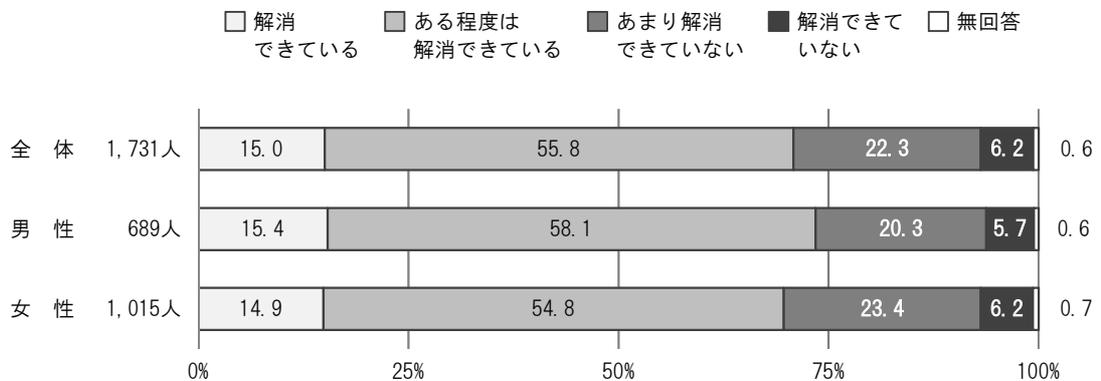


表12-2 ストレス解消の状況〔経年比較〕

単位：%、ポイント

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
解消できている	11.6	12.8	15.0	3.4	2.2
ある程度は解消できている	55.0	57.5	55.8	0.8	-1.7
あまり解消できていない	24.9	23.7	22.3	-2.6	-1.4
解消できていない	5.9	5.6	6.2	0.3	0.6
無回答	2.7	0.4	0.6	-2.1	0.2

計画における数値目標のデータ



ストレスが解消できていない人の割合

- ・全体 28.5% (目標値 25%以下)

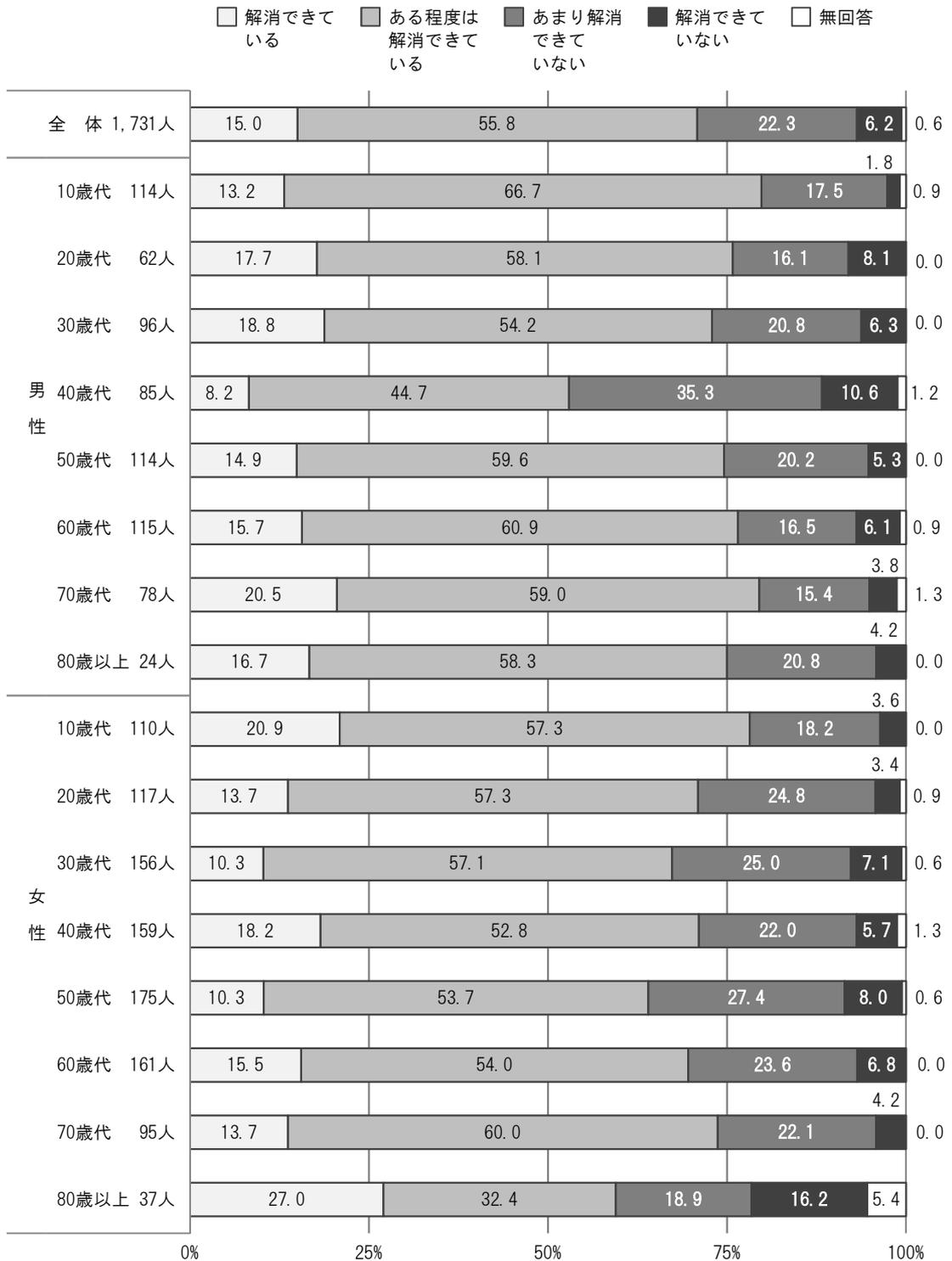
<問12-2で「あまり解消できていない」「解消できていない」と答えた人の割合>

Ⅲ 調査結果

ストレス解消の状況を性・年代別にみると、男性では、「あまり解消できていない」が「40歳代」で35.3%と最も高く、「解消できていない」が「40歳代」で10.6%と最も高くなっています。

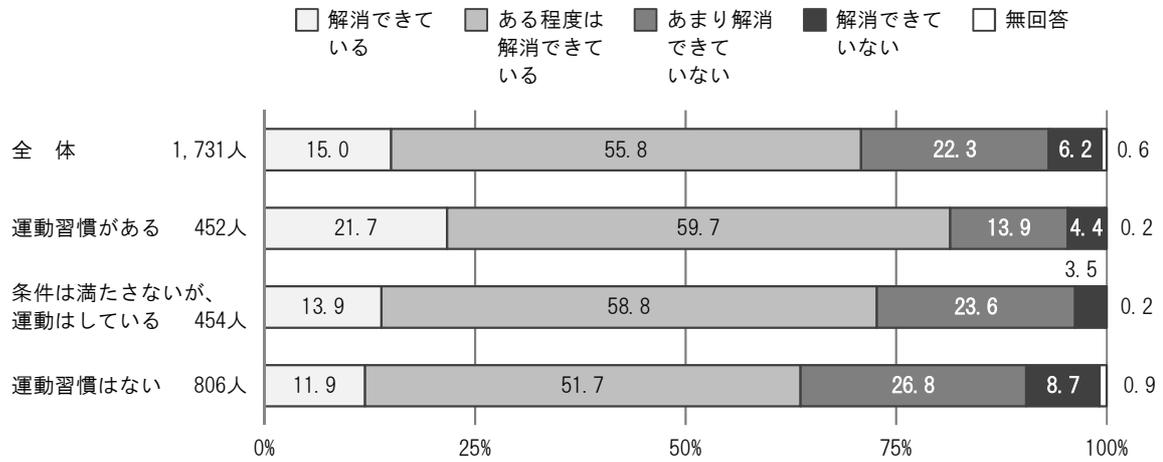
女性では、「あまり解消できていない」が「50歳代」で27.4%と最も高く、「解消できていない」が「80歳代以上」で16.2%と最も高くなっています。

図 12-2.2 ストレス解消の状況〔性・年代別〕



ストレス解消の状況を運動習慣別にみると、「解消できている」が「運動習慣がある」で21.7%と他の運動習慣状況より有意に高くなっています。また、「あまり解消できていない」が「運動習慣はない」で26.8%と有意に高く、「解消できていない」が「運動習慣はない」で8.7%と有意に高くなっています。

図 12-2.3 ストレス解消の状況〔運動習慣別〕**



Ⅲ 調査結果

(13) あなたには、日頃、自分の気持ちや悩みを打ち明けたり、相談にのってくれる人がいますか。(〇は1つだけ) < B : 問 13 >

相談相手の有無は、「身近にいる」が 66.9%、「身近ではないが、いる」が 15.3%、「いない」が 15.1%となっています。

性別にみると、男性では「いない」が 21.1%と、女性より 11.3 ポイント有意に高くなっています。女性では「身近にいる」が 71.9%と、男性より 10.3 ポイント有意に高くなっています。

H24 年調査と比較すると、「身近ではないが、いる」が 2.4 ポイント有意に増加しています。

H28 年調査と比較すると、大きな差はありません。

図 13.1 相談相手の有無〔全体・性別〕**

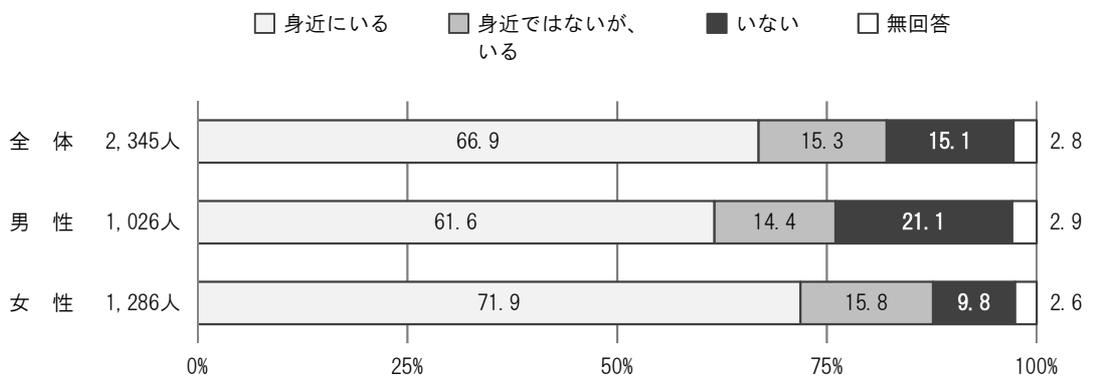


表 13 相談相手の有無〔経年比較〕

単位：%、ポイント

項目	H24 年調査	H28 年調査	今回調査	*	
				今回調査－H24 年調査	今回調査－H28 年調査
身近にいる	69.7	65.1	66.9	-2.8	1.8
身近ではないが、いる	12.9	16.3	15.3	2.4	-1.0
いない	14.1	14.4	15.1	1.0	0.7
無回答	3.3	4.2	2.8	-0.5	-1.4

計画における数値目標のデータ

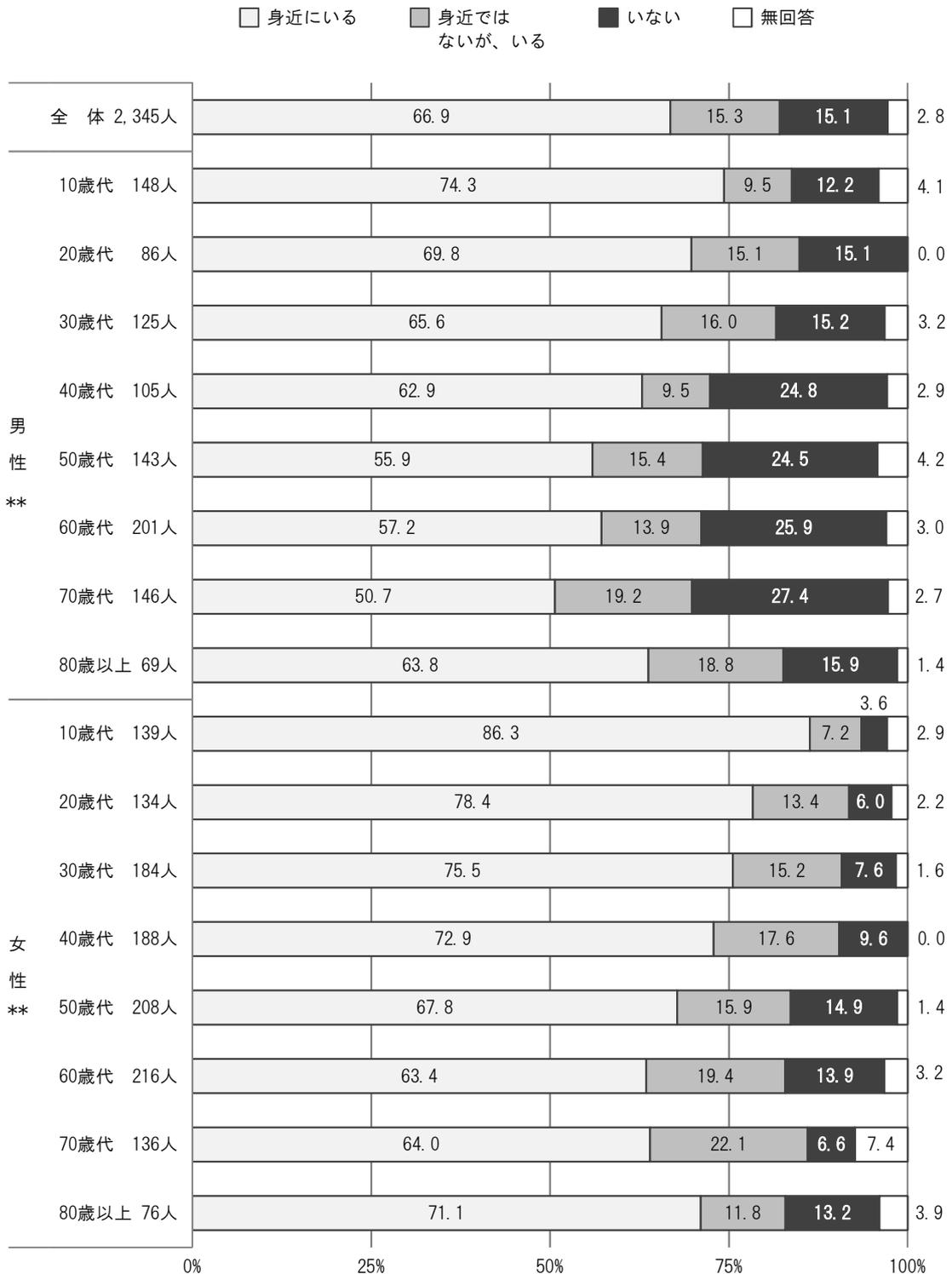


身近に相談相手のいない人の割合

- ・全体 15.1% (目標値 10%以下)
- < 問 13 で「いない」と答えた人の割合 >

相談相手の有無を性・年代別にみると、男性では「身近にいる」が「10歳代」で74.3%と有意に高く、「いない」が「70歳代」で27.4%と他の年代より有意に高くなっています。
 女性では「身近にいる」が「10歳代」で86.3%と有意に高く、「身近ではないが、いる」が「70歳代」で22.1%と有意に高くなっています。また、「いない」が「50歳代」で14.9%、「60歳代」で13.9%と有意に高くなっています。

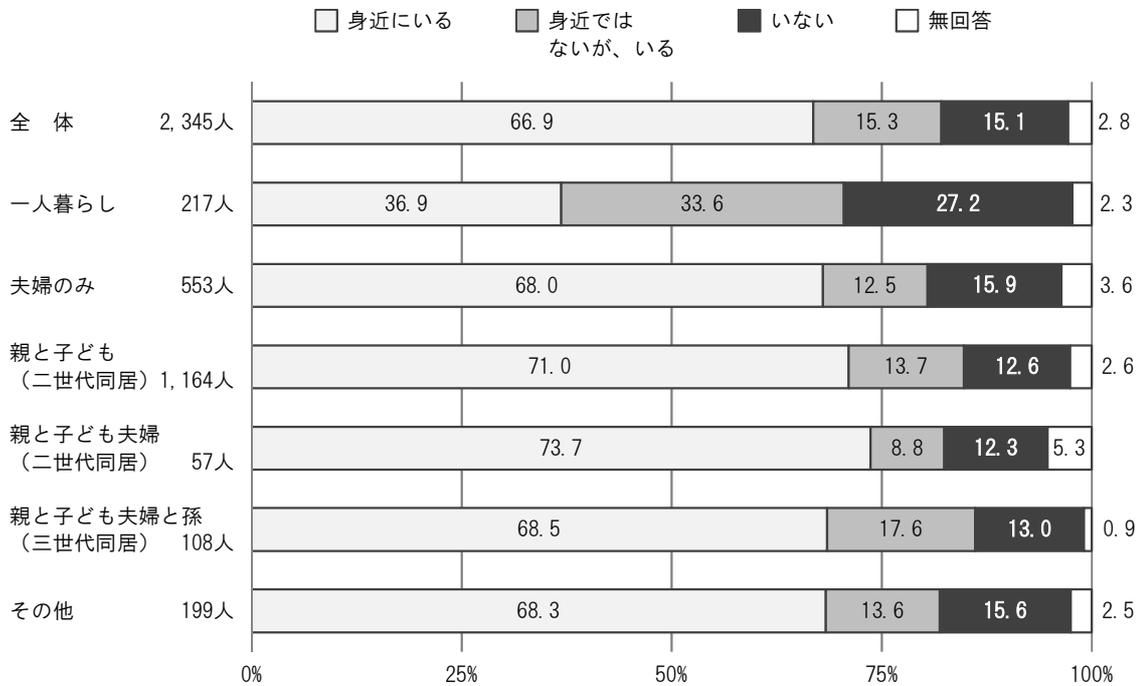
図 13.2 相談相手の有無〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

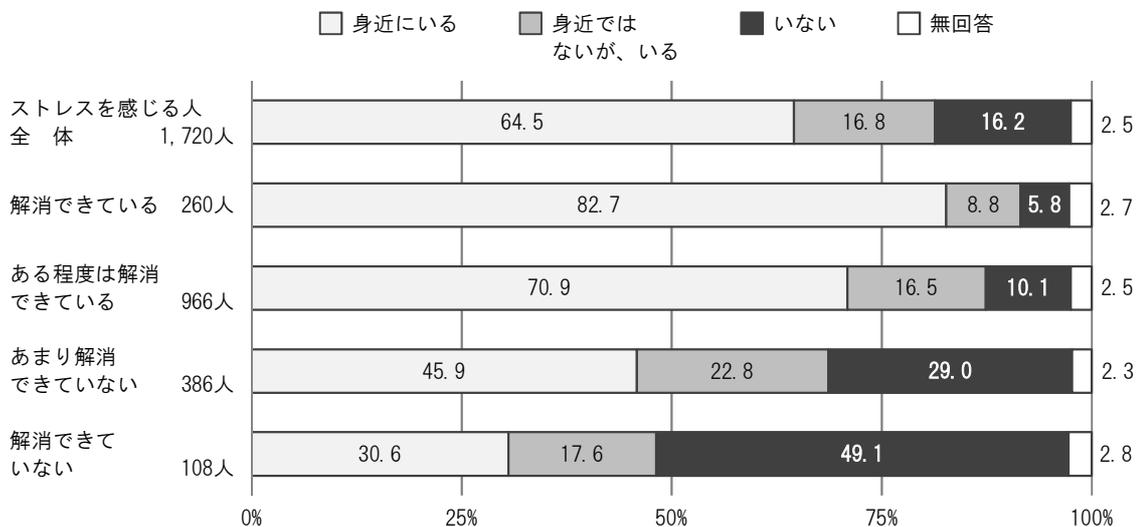
相談相手の有無を家族構成別にみると、「身近にいる」が「親と子ども（二世帯同居）」で71.0%と他の家族構成より有意に高く、「身近ではないが、いる」が「一人暮らし」で33.6%と有意に高くなっています。また、「いない」が「一人暮らし」で27.2%と有意に高くなっています。

図 13.3 相談相手の有無〔家族構成別〕**



相談相手の有無をストレス解消状況別にみると、「身近にいる」が「解消できている」で82.7%、「ある程度は解消できている」で70.9%と他のストレス解消状況より有意に高く、「身近ではないが、いる」が「あまり解消できていない」で22.8%と有意に高くなっています。また、「いない」が「あまり解消できていない」で29.0%、「解消できていない」で49.1%と有意に高くなっています。

図 13.4 相談相手の有無〔ストレス解消状況別〕**



【B：問13で「身近にいる」「身近ではないが、いる」とお答えの方のみ】

(13) -2 相談にのってくれるのは誰ですか。(〇はあてはまるものすべて) <B：問13-2>

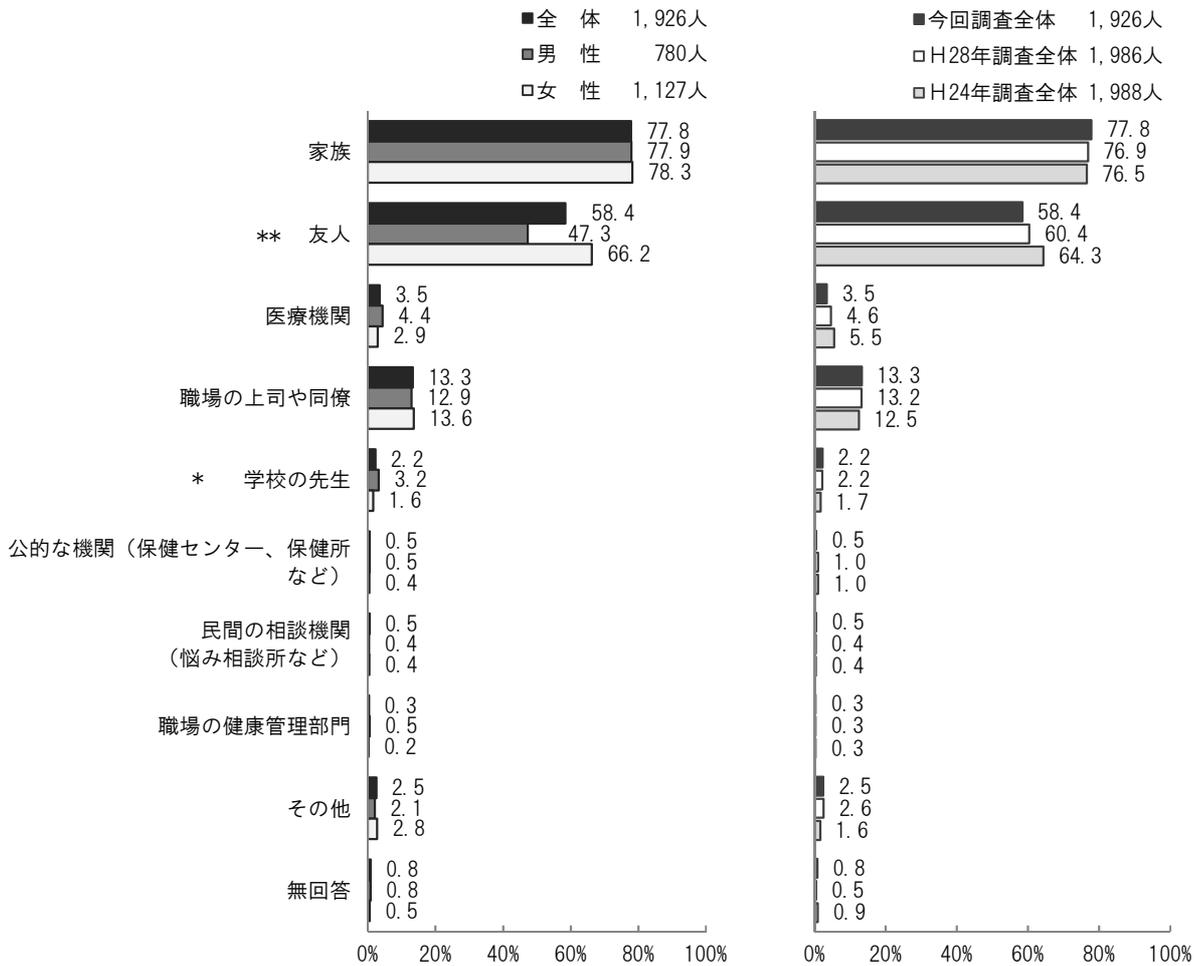
相談相手は、「家族」が77.8%と最も高く、次いで「友人」が58.4%、「職場の上司や同僚」が13.3%となっています。

性別にみると、男性では「学校の先生」が3.2%と女性より有意に高くなっており、女性では、「友人」が66.2%と男性より有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「友人」が5.9ポイント有意に減少し、「医療機関」が2.0ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、大きな差はありません。

図13-2 相談相手（複数回答）〔全体・性別・経年比較〕



「その他」の内容	
項目	件数
家族	13
恋人・パートナー	8
インターネット・SNS など	4
宗教	4
医師など	2
その他	12

Ⅲ 調査結果

相談相手を性・年代別にみると、男性では「20歳代」～「80歳以上」で「家族」が最も高くなっています。また、「友人」が「10歳代」で82.3%、「20歳代」で65.8%と他の年代より有意に高く、「職場の上司や同僚」が「20歳代」で20.5%、「30歳代」で24.5%、「40歳代」で28.9%、「50歳代」で20.6%と有意に高くなっています。

女性ではすべての年代で「家族」が最も高くなっています。また、「友人」が「10歳代」で76.9%と有意に高く、「職場の上司や同僚」が「20歳代」で21.1%、「30歳代」で20.4%、「40歳代」で23.5%、「50歳代」で20.1%と有意に高くなっています。

表 13-2.1 相談相手（複数回答）〔性・年代別〕

単位：%

項目	回答者数 (人)	**/**	**/**	-/-	**/**	**/**	-/-	-/-	*/-	**/*	無回答
		家族	友人	医療機関	職場の上司や同僚	学校の先生	公的な機関 (保健センター、 保健所など)	民間の相談機関 (悩み相談所など)	職場の健康管理部門	その他	
全体	1,926	77.8	58.4	3.5	13.3	2.2	0.5	0.5	0.3	2.5	0.8
男性計	780	77.9	47.3	4.4	12.9	3.2	0.5	0.4	0.5	2.1	0.8
10歳代	124	70.2	82.3	0.8	1.6	17.7	2.4	0.8	0.0	0.0	0.0
20歳代	73	72.6	65.8	5.5	20.5	4.1	0.0	2.7	0.0	4.1	0.0
30歳代	102	73.5	48.0	2.0	24.5	0.0	1.0	0.0	2.9	2.9	0.0
40歳代	76	86.8	36.8	3.9	28.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	102	82.4	37.3	2.9	20.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
60歳代	143	86.0	35.0	6.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	2.1
70歳代	102	71.6	35.3	5.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9
80歳以上	57	80.7	29.8	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	0.0
女性計	1,127	78.3	66.2	2.9	13.6	1.6	0.4	0.4	0.2	2.8	0.5
10歳代	130	80.8	76.9	1.5	3.1	13.1	0.0	1.5	0.0	0.8	0.8
20歳代	123	83.7	73.2	0.8	21.1	0.0	0.8	0.8	0.0	4.1	0.8
30歳代	167	84.4	59.3	3.0	20.4	0.0	0.6	0.6	0.0	3.6	0.0
40歳代	170	80.6	71.2	1.8	23.5	0.0	0.0	0.6	0.6	0.6	0.0
50歳代	174	77.0	64.4	2.3	20.1	0.0	0.6	0.0	0.0	1.7	0.0
60歳代	179	74.3	69.3	3.9	6.7	0.6	0.6	0.0	0.6	2.8	0.6
70歳代	117	62.4	59.0	5.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	1.7
80歳以上	63	82.5	46.0	7.9	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	3.2	1.6

相談相手を家族構成別にみると、「友人」が「一人暮らし」で73.2%と他の家族構成より有意に高く、最も高くなっています。また、「家族」が「夫婦のみ」で84.7%、「親と子ども（二世帯同居）」で80.2%と有意に高くなっています。

表 13-2.2 相談相手（複数回答）〔家族構成別〕

単位：%

項目	回答者数 (人)	**	**	**		**			**			
		家族	友人	医療機関	職場の上司や同僚	学校の先生	公的な機関 (保健センター、保健所など)	民間の相談機関 (悩み相談所など)	職場の健康管理部門	その他	無回答	
全体	1,926	77.8	58.4	3.5	13.3	2.2	0.5	0.5	0.3	2.5	0.8	
家族構成	一人暮らし	153	48.4	73.2	6.5	15.0	0.0	0.0	0.7	0.0	7.8	0.7
	夫婦のみ	445	84.7	45.4	3.6	9.9	0.2	0.0	0.2	0.4	2.5	1.1
	親と子ども (二世帯同居)	987	80.2	61.5	2.6	14.3	3.7	0.7	0.5	0.3	1.6	0.4
	親と子ども夫婦 (二世帯同居)	47	78.7	66.0	4.3	12.8	2.1	0.0	0.0	2.1	0.0	2.1
	親と子ども夫婦と孫 (三世帯同居)	93	76.3	64.5	0.0	9.7	4.3	0.0	1.1	0.0	1.1	1.1
	その他 (上記以外)	163	77.3	57.7	6.7	17.8	0.0	0.6	0.6	0.0	4.3	0.6

相談相手をストレス解消状況別にみると、「家族」が「ある程度は解消できている」で78.3%と他のストレス解消状況より有意に高く、「友人」が「ある程度は解消できている」で63.9%と有意に高くなっています。

また、「医療機関」が「解消できていない」で17.3%と有意に高くなっています。

表 13-2.3 相談相手（複数回答）〔ストレス解消状況別〕

単位：%

項目	回答者数 (人)	**	*	**			**	*				
		家族	友人	医療機関	職場の上司や同僚	学校の先生	公的な機関 (保健センター、保健所など)	民間の相談機関 (悩み相談所など)	職場の健康管理部門	その他	無回答	
全体	1,926	77.8	58.4	3.5	13.3	2.2	0.5	0.5	0.3	2.5	0.8	
解消状況	解消できている	238	81.5	63.0	2.1	18.5	1.7	0.0	0.4	0.4	2.1	0.0
	ある程度は 解消できている	844	78.3	63.9	2.7	15.0	2.4	0.7	0.1	0.0	2.5	0.5
	あまり解消 できていない	265	67.9	53.6	3.4	12.8	1.9	0.4	0.8	1.1	1.9	0.4
	解消できて いない	52	63.5	51.9	17.3	13.5	0.0	0.0	3.8	0.0	7.7	1.9

Ⅲ 調査結果

(14) お子さんの普段の起床・就寝時刻は次のどれにあてはまりますか。(〇は1つだけ)

< A : 問 7 >

あなたの平均睡眠時間はどのくらいですか。(〇は1つだけ) < B : 問 14 >

1. A : 0 ~ 14 歳調査

平日の睡眠時間について、年齢別にみると、「0歳」、「1~2歳」、「3~5歳」では「10時間」が、6~14歳では「9時間」が最も高くなっています。また、「6~14歳」で、「9時間」が41.7%と他の年齢より有意に高くなっています。
 H29年調査と比較すると、「10時間」が「0歳」で43.8ポイント減少しています。

図 14.1.1 睡眠時間・平日 (A : 0 ~ 14 歳調査) [全体・年齢別] **

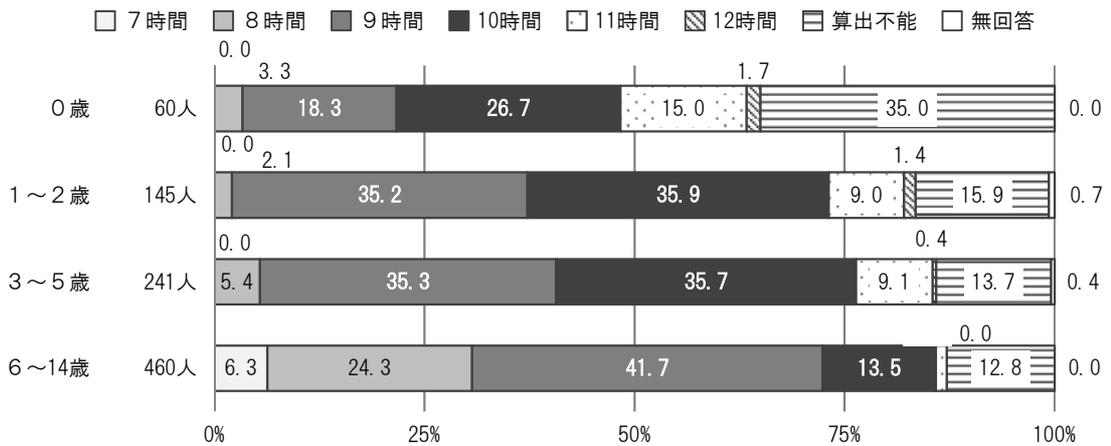


表 14.1.1 睡眠時間・平日 (A : 0 ~ 14 歳調査) [経年比較]

項目	回答者数 (人)	6 時間			7 時間			8 時間			9 時間		
		H29	今回	今回 -H29	H29	今回	今回 -H29	H29	今回	今回 -H29	H29	今回	今回 -H29
0歳	60	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	3.3	18.3	15.0
1~2歳	145	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	22.6	35.2	12.6
3~5歳	241	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	5.4	2.4	35.4	35.3	-0.1
6~14歳	460	0.7	0.0	-0.7	1.6	6.3	4.7	15.2	24.3	9.1	40.1	41.7	1.6

項目	回答者数 (人)	10 時間			11 時間			12 時間		
		H29	今回	今回 -H29	H29	今回	今回 -H29	H29	今回	今回 -H29
0歳	60	70.5	26.7	-43.8	1.6	15.0	13.4	0.0	1.7	1.7
1~2歳	145	62.8	35.9	-26.9	1.2	9.0	7.8	0.0	1.4	1.4
3~5歳	241	55.2	35.7	-19.5	0.7	9.1	8.4	0.0	0.4	0.4
6~14歳	460	27.6	13.5	-14.1	0.5	1.3	0.8	0.0	0.0	0.0

休日の睡眠時間について、年齢別にみると、「0歳」、「1～2歳」、「3～5歳」で「10時間」、6～14歳で「9時間」が最も高くなっています。また、「6～14歳」で、「8時間」が10.4%と他の年齢より有意に高くなっています。

H29年調査と比較すると、「10時間」が「0歳」で42.2ポイント減少しています。

図 14.1.2 睡眠時間・休日（A：0～14歳調査）〔全体・年齢別〕**

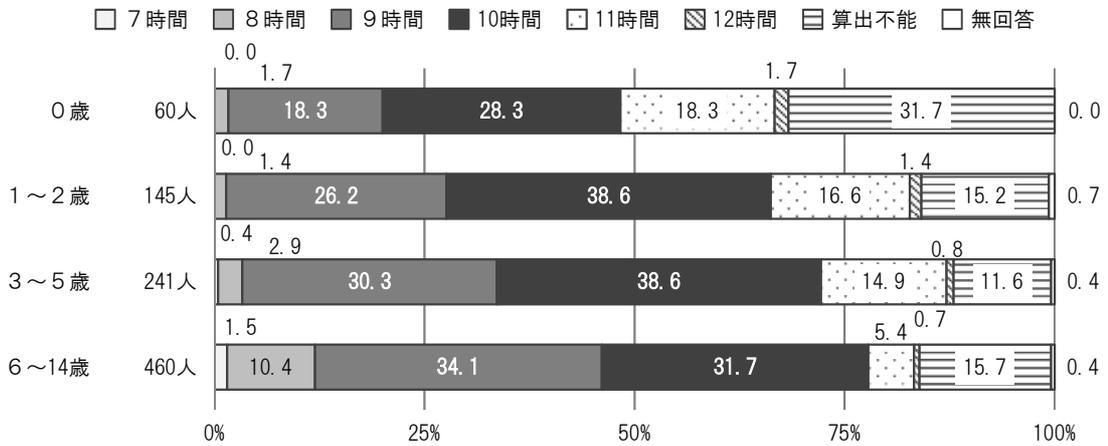


表 14.1.2 睡眠時間・休日（A：0～14歳調査）〔経年比較〕

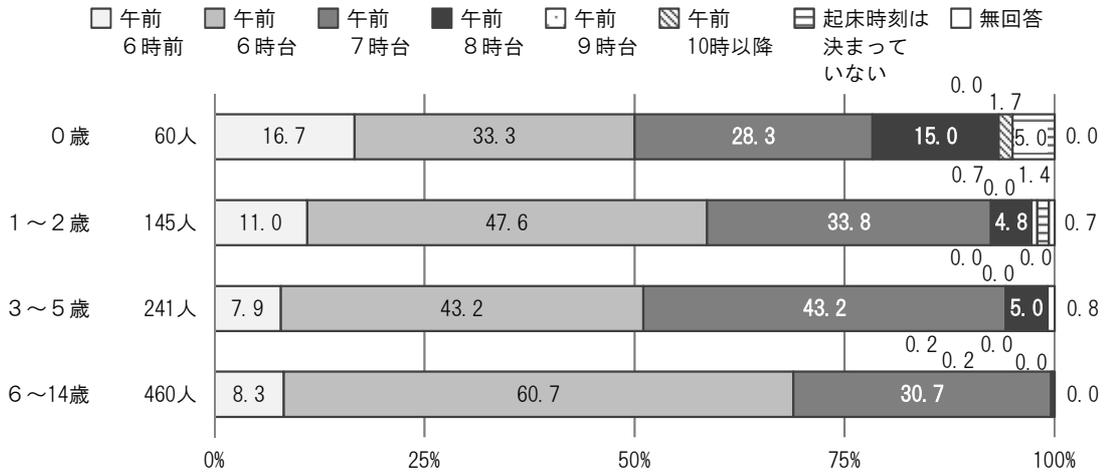
項目	回答者数(人)	6時間			7時間			8時間			9時間		
		H29	今回	今回-H29	H29	今回	今回-H29	H29	今回	今回-H29	H29	今回	今回-H29
0歳	60	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7	3.3	18.3	15.0
1～2歳	145	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.4	0.2	9.8	26.2	16.4
3～5歳	241	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4	2.9	2.5	18.3	30.3	12.0
6～14歳	460	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	1.2	10.4	9.2	21.0	34.1	13.1

項目	回答者数(人)	10時間			11時間			12時間		
		H29	今回	今回-H29	H29	今回	今回-H29	H29	今回	今回-H29
0歳	60	70.5	28.3	-42.2	0.0	18.3	18.3	0.0	1.7	1.7
1～2歳	145	68.9	38.6	-30.3	2.4	16.6	14.2	0.6	1.4	0.8
3～5歳	241	68.7	38.6	-30.1	2.2	14.9	12.7	0.0	0.8	0.8
6～14歳	460	68.7	31.7	-37.0	2.8	5.4	2.6	0.0	0.7	0.7

Ⅲ 調査結果

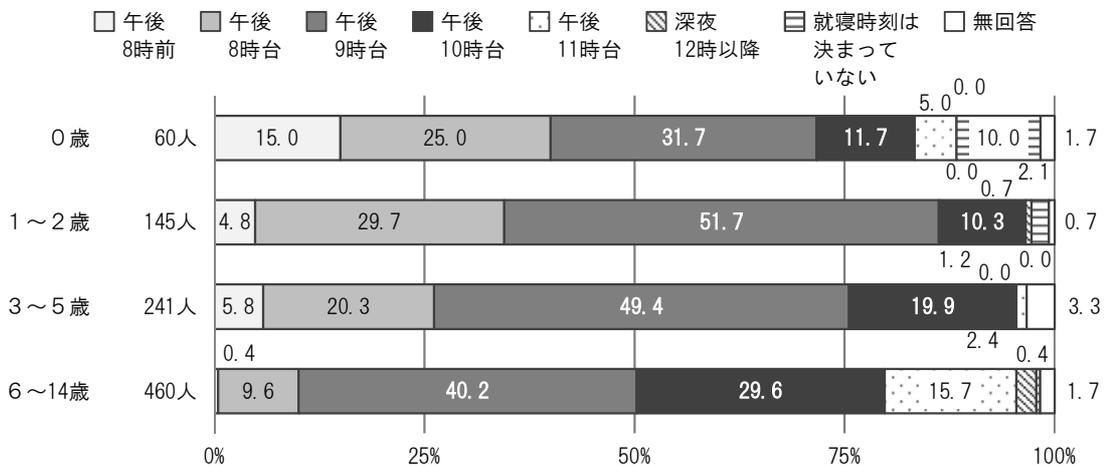
平日の起床時間について、年齢別にみると、「0歳」、「1～2歳」、「6～14歳」では「午前6時台」、「3～5歳」では「午前6時台」と「午前7時台」が最も高くなっています。また、「6～14歳」で、「午前6時台」が60.7%と他の年齢より有意に高くなっています。

図 14.1.3 起床時間・平日 (A : 0～14歳調査) [全体・年齢別] **



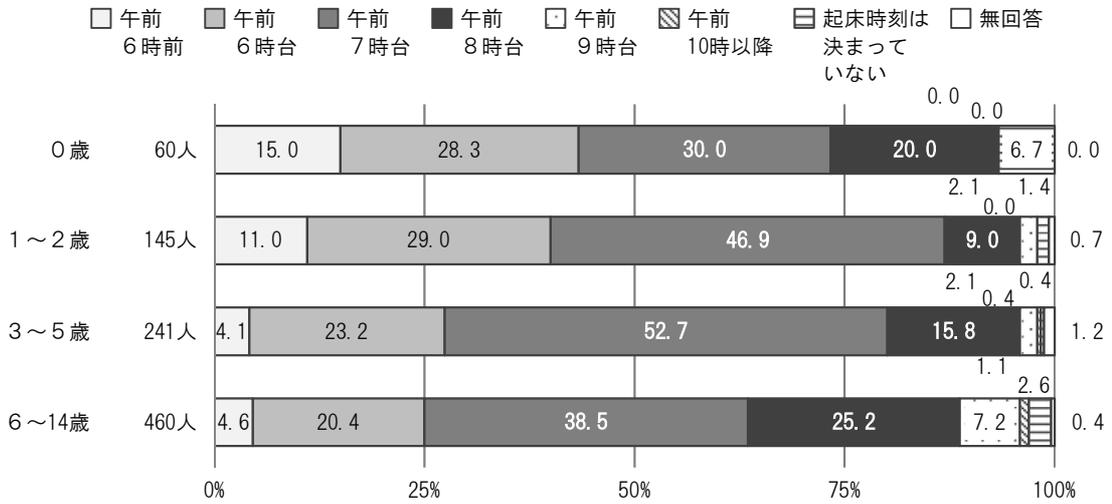
平日の就寝時間について、年齢別にみると、いずれの年齢でも「午後9時台」が最も高くなっています。また、「6～14歳」で、「午後10時台」が29.6%と他の年齢より有意に高くなっています。

図 14.1.4 就寝時間・平日 (A : 0～14歳調査) [全体・年齢別] **



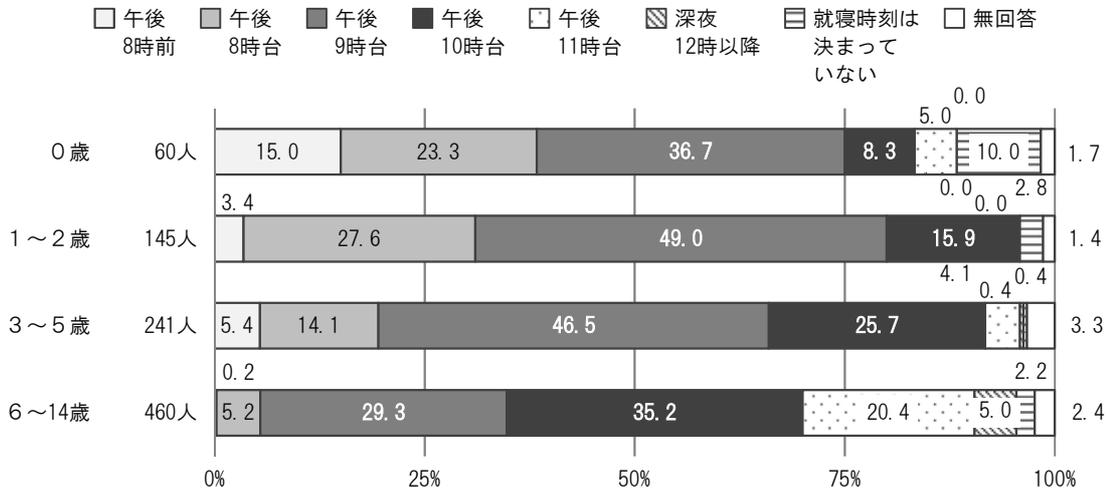
休日の起床時間について、年齢別にみると、いずれの年齢でも「午前7時台」が最も高くなっています。また、「6～14歳」で、「午前8時台」が25.2%と他の年齢より有意に高くなっています。

図 14.1.5 起床時間・休日 (A : 0～14歳調査) [全体・年齢別] **



休日の就寝時間について、年齢別にみると、「0歳」、「1～2歳」、「3～5歳」で「午後9時台」、6～14歳で「午後10時台」が最も高くなっています。また、「6～14歳」で、「午後10時台」が35.2%と他の年齢より有意に高くなっています。

図 14.1.6 就寝時間・休日 (A : 0～14歳調査) [全体・年齢別] **



Ⅲ 調査結果

2. B : 15 歳以上調査

15 歳以上調査では「6時間以上8時間未満」が61.5%と最も高く、次いで「6時間未満」が32.3%となっています。

性別にみると、男性では「8時間以上」が6.4%と女性より有意に高く、女性では「6時間未満」が34.7%と男性より有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「8時間以上」が1.7ポイント有意に減少し、「6時間以上8時間未満」が3.5ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「6時間以上8時間未満」が3.5ポイント増加しています。

図 14.2.1 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔全体・性別〕**

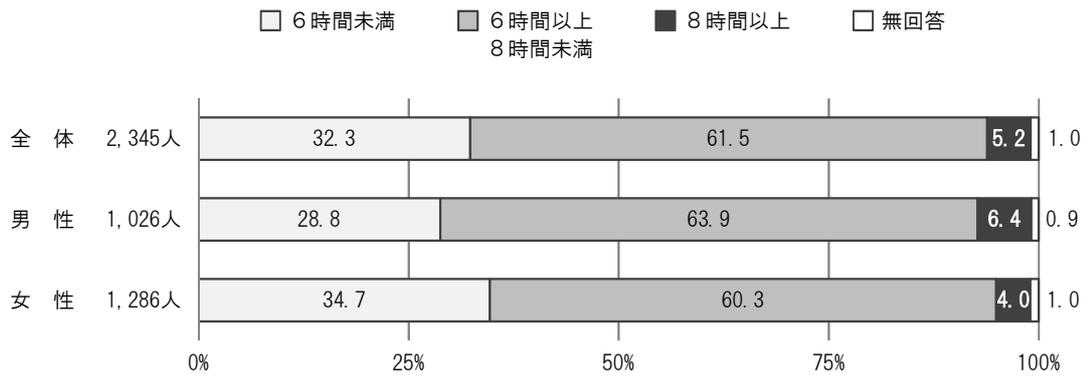
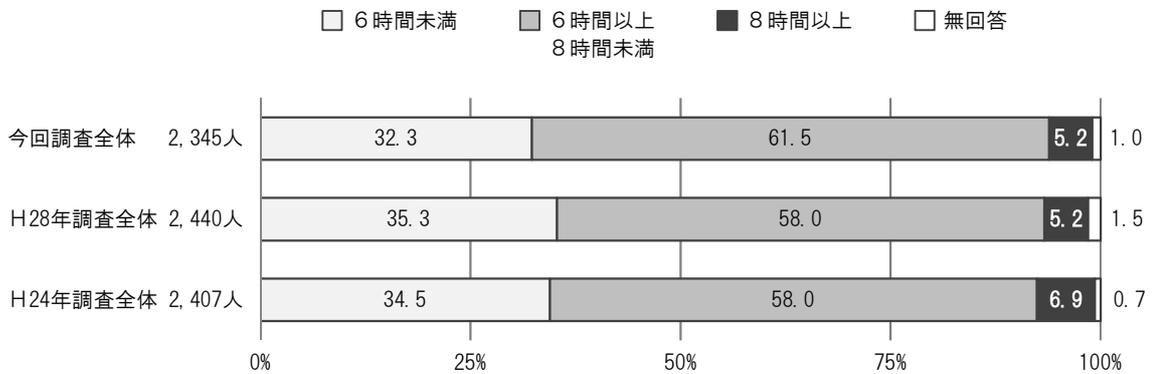


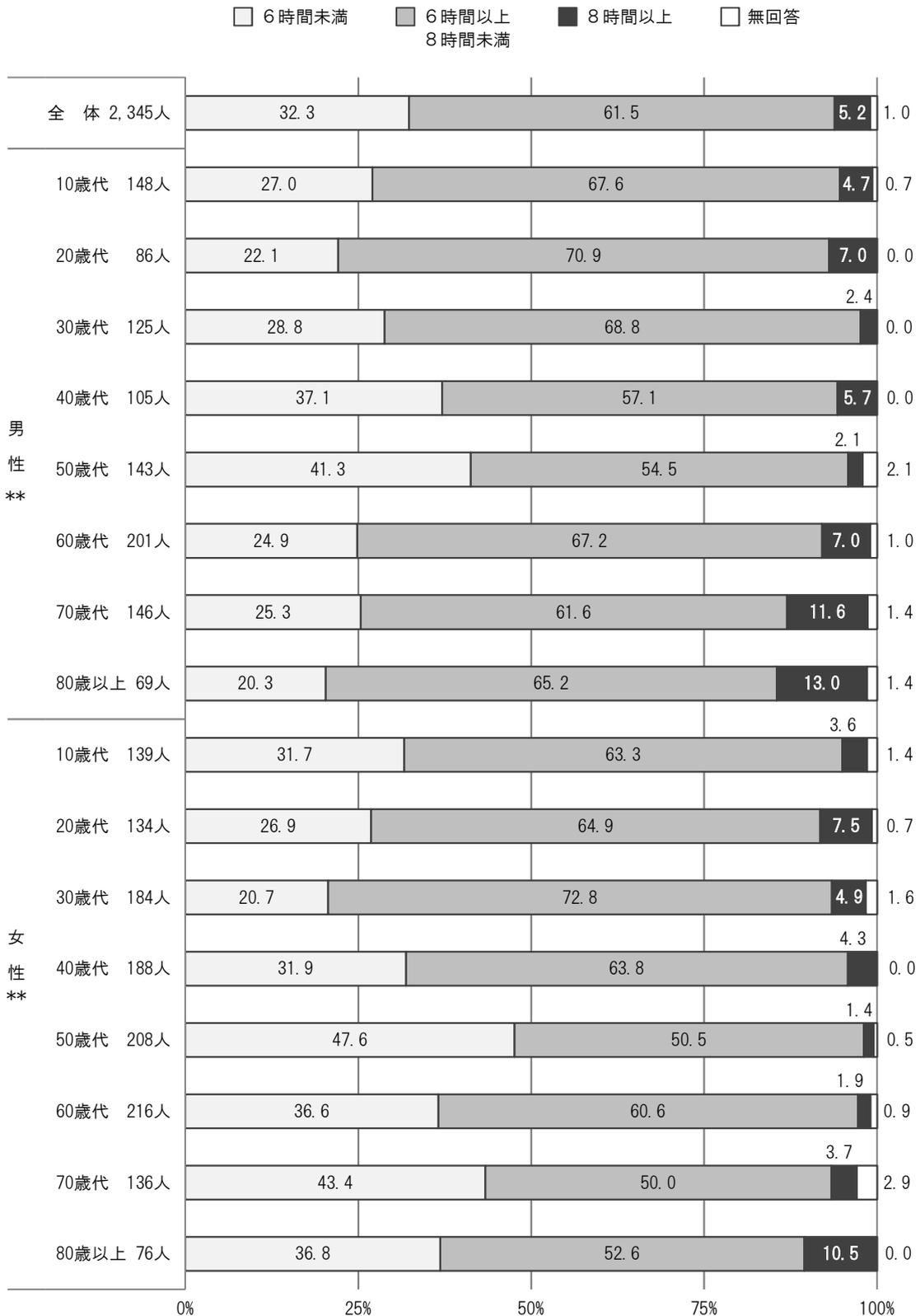
図 14.2.2 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔経年比較〕**



睡眠時間を性・年代別にみると、男性では「6時間未満」が「50歳代」で41.3%と他の年代より有意に高く、「8時間以上」が「70歳代」で11.6%、「80歳以上」で13.0%と有意に高くなっています。

女性では「6時間未満」が「50歳代」で47.6%、「70歳代」で43.4%と有意に高く、「8時間以上」が「80歳以上」で10.5%と有意に高くなっています。

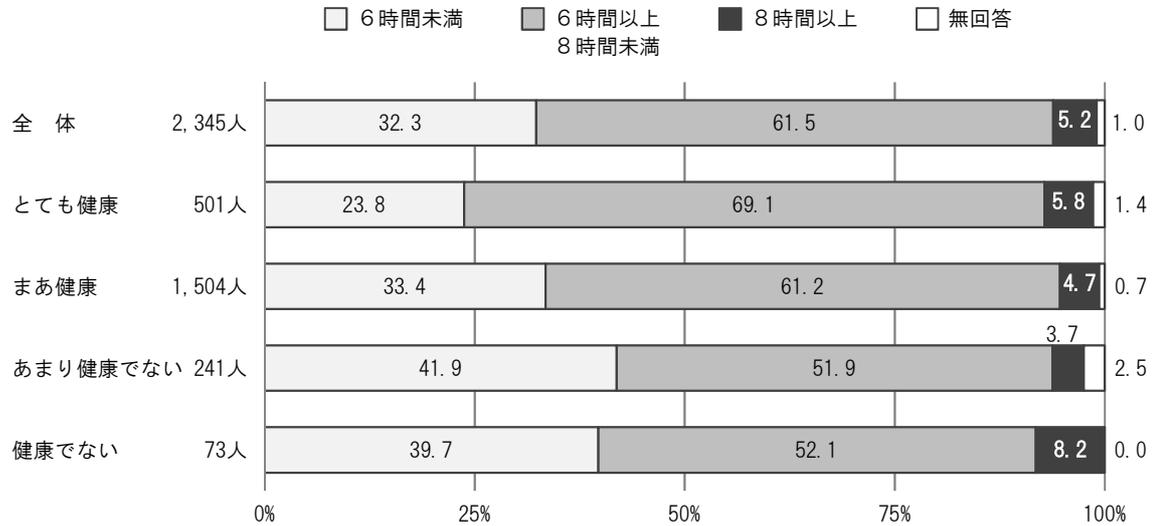
図 14.2.3 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

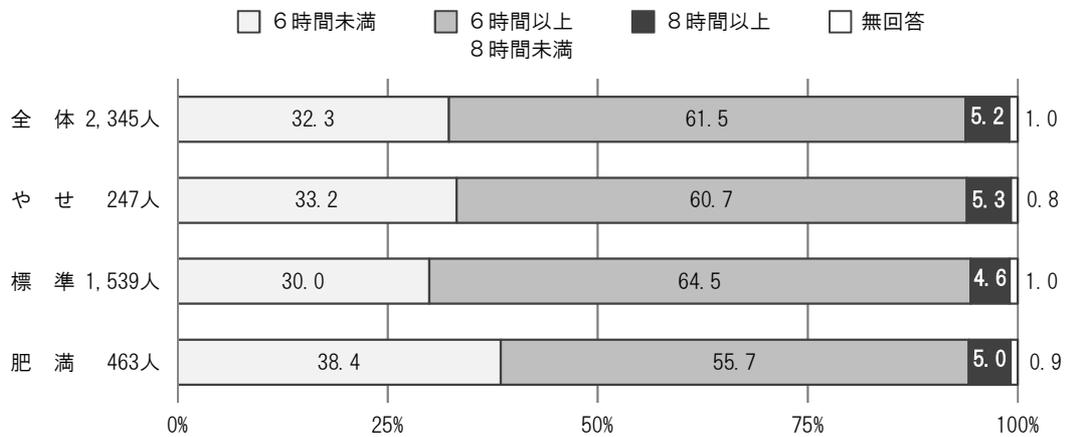
睡眠時間を健康状態別にみると、「6時間未満」が「あまり健康でない」で41.9%と他の健康状態より有意に高く、「6時間以上8時間未満」が「とても健康」で69.1%と有意に高くなっています。

図 14.2.4 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔健康状態別〕**



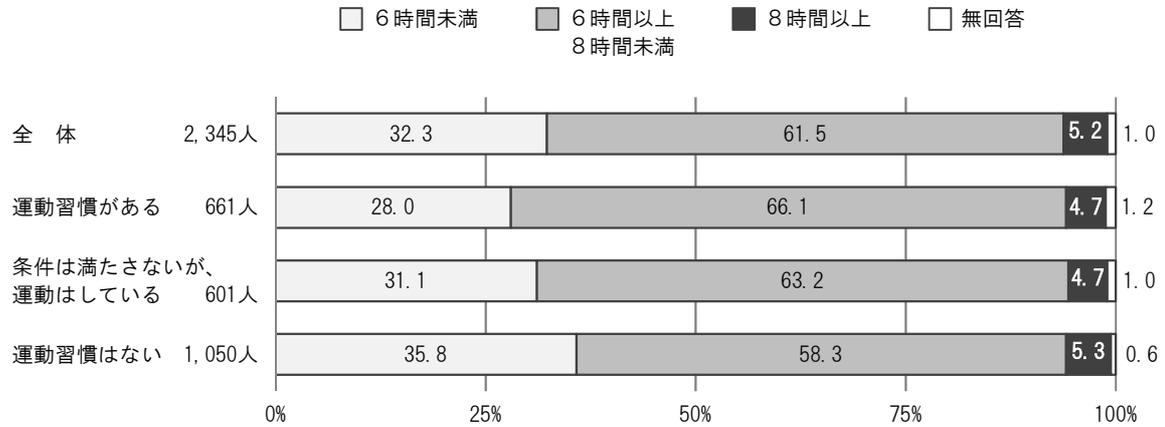
睡眠時間を肥満度別にみると、「6時間未満」が「肥満」で38.4%と他の肥満度より有意に高く、「6時間以上8時間未満」が「標準」で64.5%と有意に高くなっています。

図 14.2.5 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔肥満度別〕*



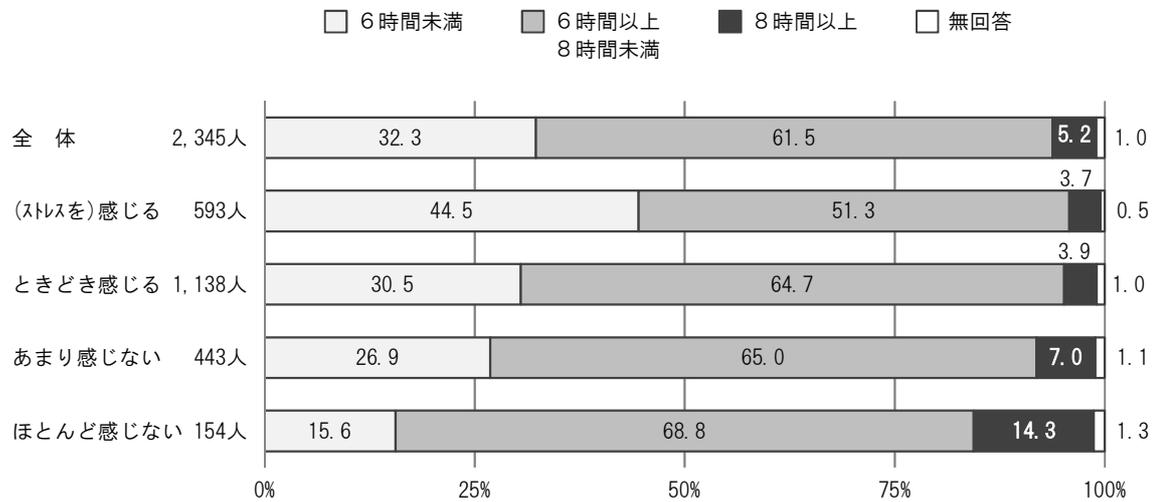
睡眠時間を運動習慣別にみると、「6時間未満」が「運動習慣はない」で35.8%と他の運動習慣状況より有意に高く、「6時間以上8時間未満」が「運動習慣がある」で66.1%と有意に高くなっています。

図 14.2.6 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔運動習慣別〕*



睡眠時間をストレスの状況別にみると、「6時間未満」が「(ストレス)を感じる」で44.5%と他のストレス状況より有意に高く、「6時間以上8時間未満」が「ときどき感じる」で64.7%、「ほとんど感じない」で68.8%と有意に高くなっています。

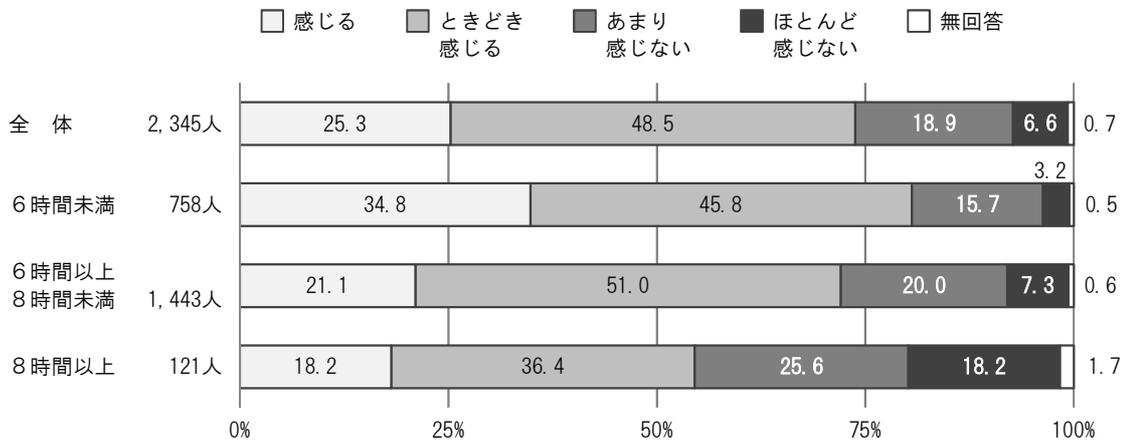
図 14.2.7 睡眠時間（B：15歳以上調査）〔ストレスの状況別〕**



Ⅲ 調査結果

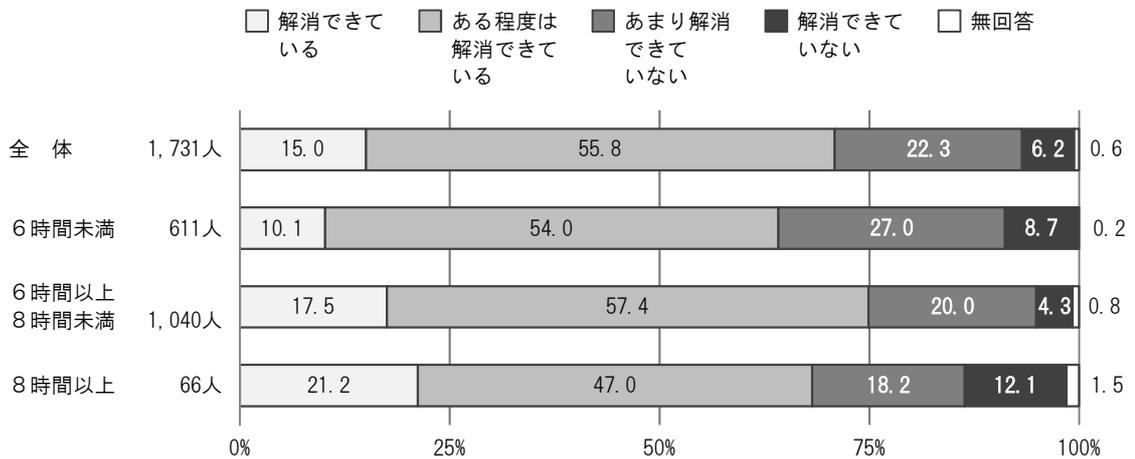
ストレスの状況を睡眠時間別にみると、「感じる」が「6時間未満」で34.8%と他の睡眠時間より有意に高く、「ときどき感じる」が「6時間以上8時間未満」で51.0%と有意に高くなっています。また、「あまり感じない」が「8時間以上」で25.6%と有意に高く、「ほとんど感じない」が「8時間以上」で18.2%と有意に高くなっています。

図 14.2.8 ストレスの状況〔睡眠時間別〕**



ストレス解消の状況を睡眠時間別にみると、「解消できている」が「6時間以上8時間未満」で17.5%と他の睡眠時間より有意に高くなっています。また、「あまり解消できていない」が「6時間未満」で27.0%と有意に高く、「解消できていない」が「6時間未満」で8.7%、「8時間以上」で12.1%と有意に高くなっています。

図 14.2.9 ストレス解消の状況〔睡眠時間別〕**



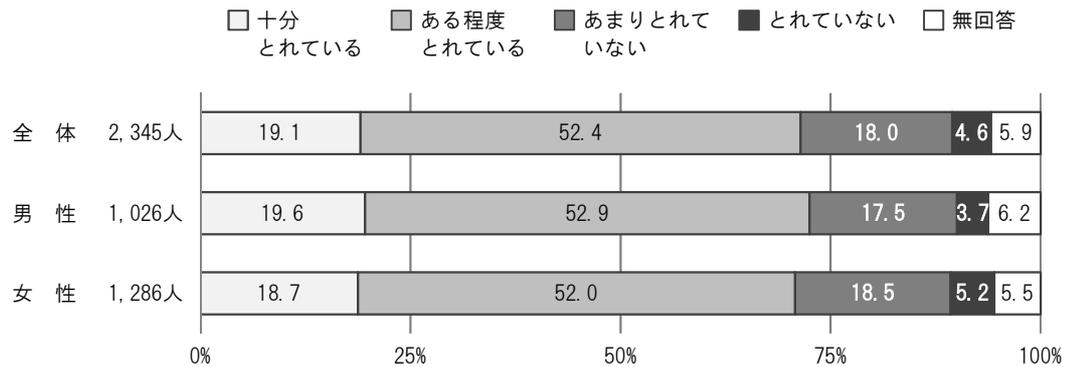
(15) あなたは、睡眠で休養が十分とれていると思いますか。(〇は1つだけ)

<B : 問 15>

睡眠による休養は、「ある程度とれている」が52.4%と最も高く、次いで「十分とれている」が19.1%となっています。「あまりとれていない」「とれていない」を合わせた割合は22.6%となっています。

性別にみると、大きな差はありません。

図 15.1 睡眠による休養〔全体・性別〕



Ⅲ 調査結果

睡眠による休養がとれていない割合について、H24年調査と比較すると、「あまりとれていない」と「とれていない」の合計が、男性の「20歳代」で11.5ポイント減少し、女性の「10歳代」で13.0ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「あまりとれていない」と「とれていない」の合計が、男性の「20歳代」で16.4ポイント、「30歳代」で15.0ポイント有意に減少し、女性の「10歳代」で22.8ポイント有意に減少しています。

表 15 睡眠による休養がとれていない割合〔経年比較〕 単位：%

項目	H24年調査			H28年調査			今回調査			
	あまりとれていない (1)	とれていない (2)	A= (1)+(2)	あまりとれていない (3)	とれていない (4)	B= (3)+(4)	あまりとれていない (5)	とれていない (6)	C= (5)+(6)	
全体	19.4	4.5	23.9	22.2	4.9	27.1	18.0	4.6	22.7	
男性	10歳代	22.7	5.9	28.6	23.7	3.6	27.3	20.3	2.7	23.0
	20歳代	19.4	13.0	32.4	30.1	7.2	37.3	15.1	5.8	20.9
	30歳代	27.1	1.9	29.0	26.0	15.4	41.4	24.0	2.4	26.4
	40歳代	31.1	5.0	36.1	32.7	8.2	40.9	23.8	10.5	34.3
女性	10歳代	31.7	2.1	33.8	35.4	8.2	43.6	16.5	4.3	20.8
	20歳代	25.2	7.2	32.4	19.4	7.5	26.9	20.1	5.2	25.3
	30歳代	25.5	6.3	31.8	26.5	3.1	29.6	21.2	7.1	28.3
	40歳代	24.2	9.0	33.2	27.7	4.6	32.3	18.6	5.9	24.5

表 15 睡眠による休養がとれていない割合〔経年比較〕 続き 単位：ポイント

項目	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
	C－A	C－B
全体	-1.3	-4.5
男性	10歳代	-5.6
	20歳代	-11.5
	30歳代	-2.6
	40歳代	-1.8
女性	10歳代	-13.0
	20歳代	-7.1
	30歳代	-3.5
	40歳代	-8.7

計画における数値目標のデータ



睡眠により休養を十分とれない人の割合

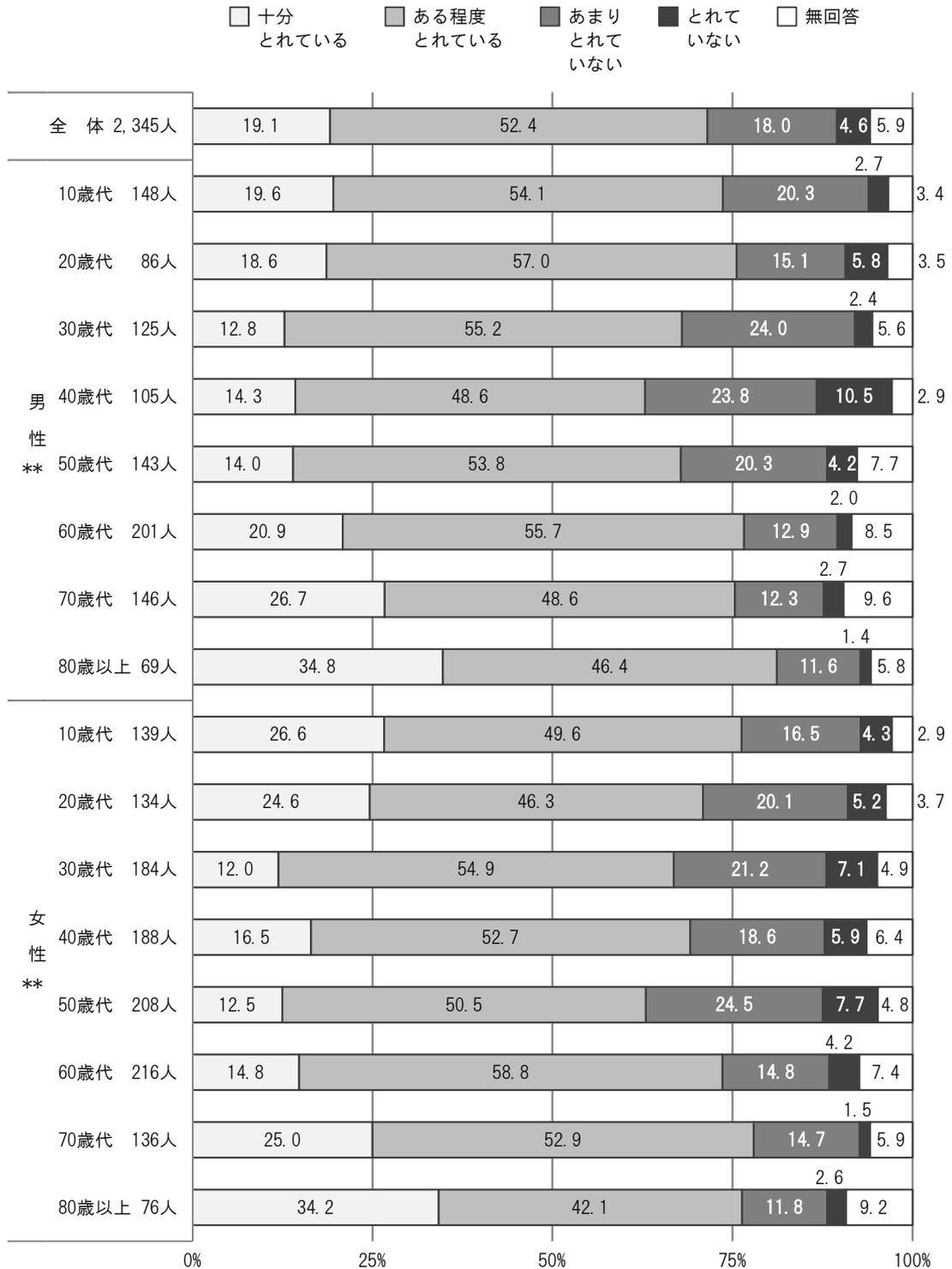
- ・全体 22.7% (目標値 18%以下)
- ・10～40歳代男性 26.1% (目標値 28%以下)
- ・10～40歳代女性 25.0% (目標値 28%以下)

<問 15で「あまりとれていない」「とれていない」と答えた人の割合>

睡眠による休養を性・年代別にみると、男性では「十分とれている」が「70歳代」で26.7%、「80歳以上」で34.8%と他の年代より有意に高く、「とれていない」が「40歳代」で10.5%と有意に高くなっています。

女性では「十分とれている」が「10歳代」で26.6%、「70歳代」で25.0%、「80歳以上」で34.2%と有意に高く、「あまりとれていない」が「50歳代」で24.5%と有意に高くなっています。

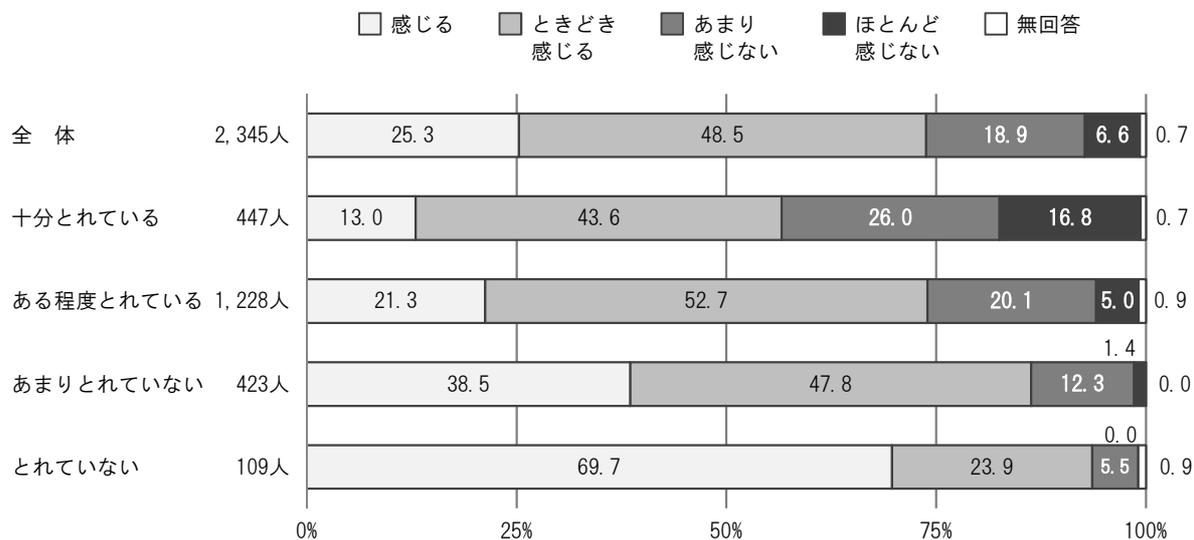
図 15.2 睡眠による休養〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

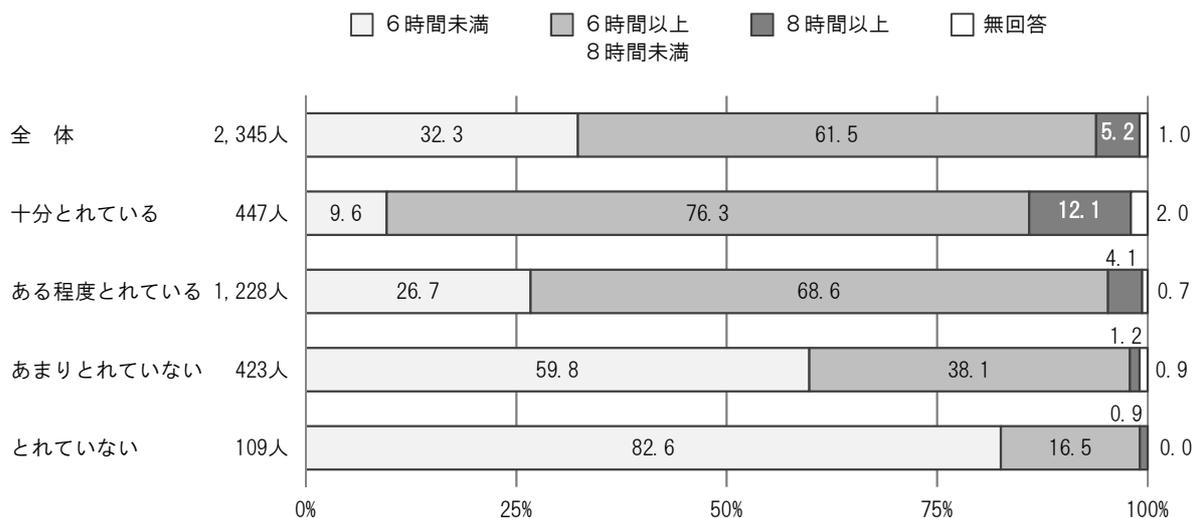
ストレスの状況を睡眠による休養別にみると、「十分とれている」では、ストレスについて「あまり感じない」が26.0%、「ほとんど感じない」が16.8%と他の睡眠による休養状況より有意に高く、「あまりとれていない」では「感じる」が38.5%、「とれていない」では「感じる」が69.7%と有意に高くなっています。

図 15.3 ストレスの状況〔睡眠による休養別〕**



睡眠時間を睡眠による休養にみると、「十分とれている」では、「6時間以上8時間未満」が76.3%と他の睡眠時間より有意に高く、「あまりとれていない」では「6時間未満」が59.8%、「とれていない」では「6時間未満」が82.6%と有意に高くなっています。

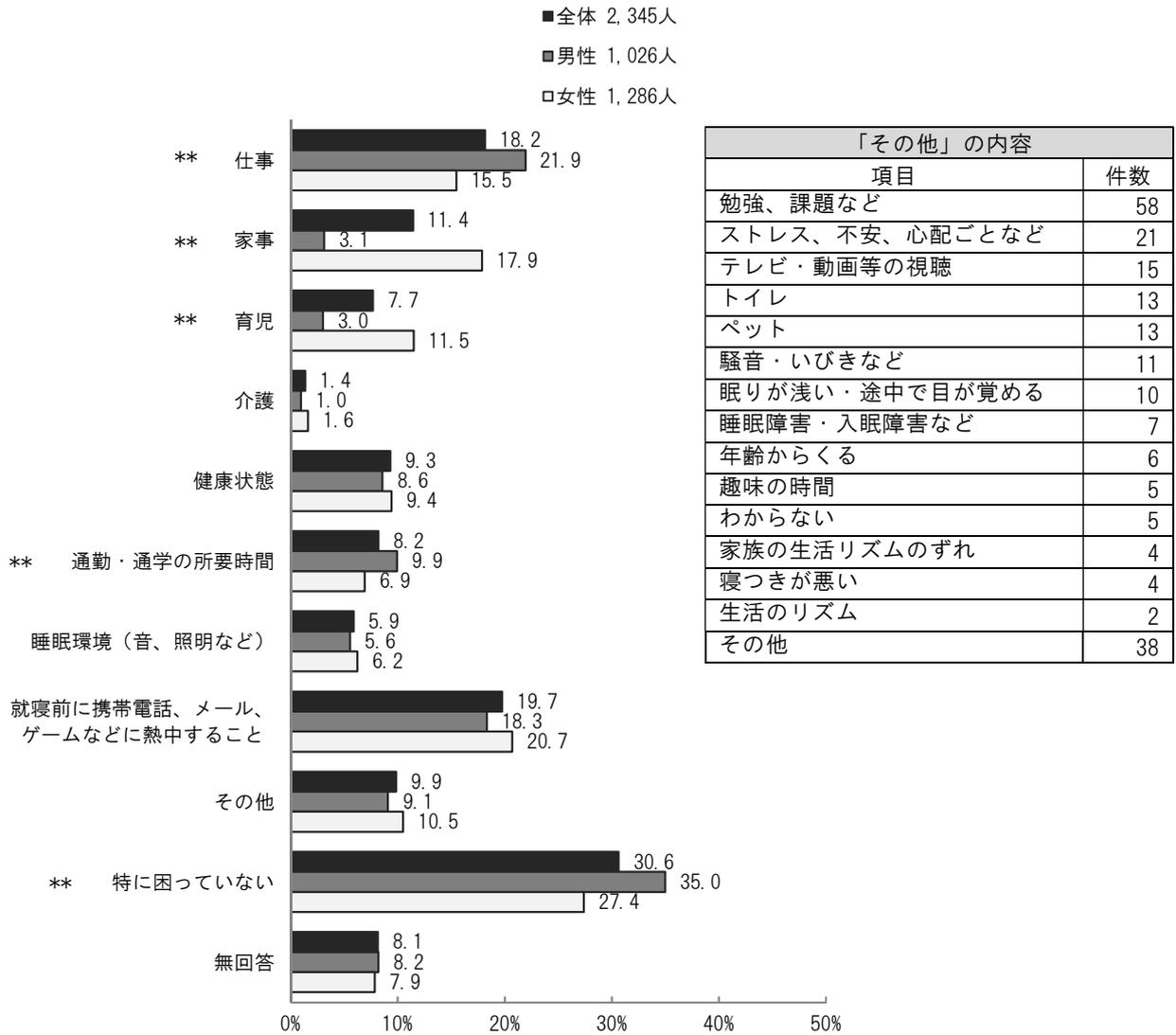
図 15.4 睡眠時間〔睡眠による休養別〕**



(16) あなたの睡眠の確保の妨げとなっていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)
 <B : 問 16>

睡眠確保の妨げとなっていることは、「就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること」が19.7%と最も高く、次いで「仕事」が18.2%となっています。
 性別にみると、男性は「仕事」が21.9%と最も高く、女性より6.4ポイント有意に高くなっています。女性は「家事」が17.9%と、男性より14.8ポイント有意に高くなっています。

図 16 睡眠確保の妨げ（複数回答）〔全体・性別〕



Ⅲ 調査結果

睡眠確保の妨げについて、性・年代別にみると、男性では「就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること」が「10歳代」で43.9%、「20歳代」で40.7%と他の年代より有意に高く、「仕事」が「30歳代」で48.8%、「40歳代」で44.8%と有意に高くなっています。

女性では「就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること」が「10歳代」で47.5%、「20歳代」で38.1%と有意に高く、「育児」が「30歳代」で41.8%と有意に高く、「家事」が「40歳代」で34.0%、「50歳代」で27.9%と有意に高くなっています。

表 16.1 睡眠確保の妨げ（複数回答）〔性・年代別〕

単位：％

項目	回答者数 (人)	**/**	**/**	**/**	-/*	**/**	**/**	-/-	**/**	**/**	**/**	特に困っていない	無回答
		仕事	家事	育児	介護	健康状態	通勤・通学の所要時間	睡眠環境（音、照明など）	就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること	その他			
全体	2,345	18.2	11.4	7.7	1.4	9.3	8.2	5.9	19.7	9.9	30.6	8.1	
男性計	1,026	21.9	3.1	3.0	1.0	8.6	9.9	5.6	18.3	9.1	35.0	8.2	
10歳代	148	6.8	0.0	0.0	0.0	2.0	20.9	5.4	43.9	20.3	25.0	4.1	
20歳代	86	31.4	3.5	4.7	0.0	5.8	17.4	7.0	40.7	7.0	19.8	2.3	
30歳代	125	48.8	8.0	14.4	1.6	4.8	9.6	5.6	22.4	4.8	16.8	7.2	
40歳代	105	44.8	7.6	6.7	1.0	10.5	17.1	9.5	21.0	7.6	16.2	3.8	
50歳代	143	31.5	4.2	0.7	2.1	7.0	9.8	6.3	13.3	7.0	35.0	8.4	
60歳代	201	13.4	0.5	0.0	1.0	10.0	6.0	5.0	7.5	6.0	50.2	11.4	
70歳代	146	4.1	2.1	0.0	0.7	12.3	0.0	4.8	2.1	12.3	54.1	11.0	
80歳以上	69	1.4	1.4	0.0	1.4	20.3	0.0	0.0	1.4	2.9	53.6	17.4	
女性計	1,286	15.5	17.9	11.5	1.6	9.4	6.9	6.2	20.7	10.5	27.4	7.9	
10歳代	139	6.5	0.7	0.0	0.0	3.6	24.5	5.0	47.5	17.3	21.6	3.6	
20歳代	134	29.1	11.2	12.7	0.7	6.7	15.7	6.7	38.1	8.2	17.9	4.5	
30歳代	184	25.5	31.5	41.8	0.5	3.8	6.0	7.6	26.1	7.1	14.7	4.9	
40歳代	188	23.4	34.0	23.4	0.0	5.9	4.8	4.3	20.2	5.9	20.2	4.8	
50歳代	208	19.7	27.9	3.4	3.4	13.9	4.8	8.7	18.8	11.1	26.4	4.3	
60歳代	216	7.9	11.6	0.5	2.8	10.6	1.9	6.5	9.3	14.4	39.4	10.6	
70歳代	136	1.5	4.4	0.0	2.9	16.2	0.0	5.1	2.9	12.5	43.4	15.4	
80歳以上	76	0.0	2.6	0.0	2.6	19.7	0.0	2.6	0.0	6.6	43.4	25.0	

4 休養・こころの健康について

睡眠確保の妨げについて、就労状況別にみると、「仕事」が「常勤」で40.5%と他の就労状況より有意に高く、「就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること」が「高校生」で43.4%、「学生」で51.0%と有意に高くなっています。

表 16.2 睡眠確保の妨げ（複数回答）〔就労状況別〕

単位：%

項目	回答者数 (人)	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	特に困っていない	無回答
		仕事	家事	育児	介護	健康状態	通勤・通学の所要時間	睡眠環境 (音、照明など)	就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること	その他			
全体	2,345	18.2	11.4	7.7	1.4	9.3	8.2	5.9	19.7	9.9	30.6	8.1	
就労状況	常勤	781	40.5	14.1	12.2	0.5	6.5	13.3	6.1	21.9	5.1	22.5	6.1
	非常勤	363	17.6	23.7	8.0	1.7	9.6	3.6	7.4	17.1	7.7	28.4	8.8
	自営業	96	20.8	9.4	5.2	3.1	5.2	1.0	8.3	11.5	14.6	40.6	6.3
	家事専従	339	0.9	15.0	12.7	3.2	10.0	0.0	4.7	10.0	12.1	38.6	10.0
	中学生	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	62.5	0.0
	高校生	173	3.5	0.0	0.0	0.0	4.0	22.0	5.8	43.4	18.5	25.4	4.0
	学生	147	9.5	1.4	0.0	0.0	2.0	21.1	5.4	51.0	23.1	17.0	2.7
	無職	363	0.0	1.4	1.4	1.7	20.4	0.6	5.0	7.7	9.6	46.0	12.9
その他	44	2.3	11.4	6.8	2.3	13.6	0.0	2.3	9.1	9.1	38.6	13.6	

睡眠確保の妨げについて、健康状態別にみると、「健康状態」が「あまり健康でない」で27.4%、「健康でない」で57.5%と他の健康状態より有意に高く、「特に困っていない」が「まあ健康である」で32.2%と有意に高くなっています。

表 16.3 睡眠確保の妨げ（複数回答）〔健康状態別〕

単位：%

項目	回答者数 (人)	**	**	**	*	**	*	**	**	**	**	特に困っていない	無回答
		仕事	家事	育児	介護	健康状態	通勤・通学の所要時間	睡眠環境 (音、照明など)	就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること	その他			
全体	2,345	18.2	11.4	7.7	1.4	9.3	8.2	5.9	19.7	9.9	30.6	8.1	
健康状態	とても健康である	501	16.4	8.0	8.8	0.2	1.2	11.8	3.2	26.7	10.0	33.1	5.6
	まあ健康である	1,504	19.1	13.5	8.0	1.5	6.8	7.6	6.2	19.1	9.6	32.2	7.9
	あまり健康でない	241	18.3	9.1	6.2	2.9	27.4	5.0	7.9	13.7	11.2	22.4	10.8
	健康でない	73	12.3	4.1	0.0	0.0	57.5	8.2	11.0	11.0	8.2	6.8	16.4

Ⅲ 調査結果

(17) あなたは、眠りを助けるためにアルコールを飲むことがありますか。

(○は1つだけ) < B : 問 17 >

睡眠導入のための飲酒については、「飲まない」が 74.2%となっており、「ほとんど毎日飲む」が9.2%となっています。「ほとんど毎日飲む」「週に数回飲むことがある」「月に数回飲むことがある」を合わせた割合は 19.8%となっています。

性別にみると、男女とも「飲まない」が最も高く、男性では「ほとんど毎日飲む」が 14.5%と、女性より9.8ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「ほとんど毎日飲む」が4.3ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「ほとんど毎日飲む」が2.6ポイント有意に減少しています。

図 17.1 睡眠導入のための飲酒〔全体・性別〕**

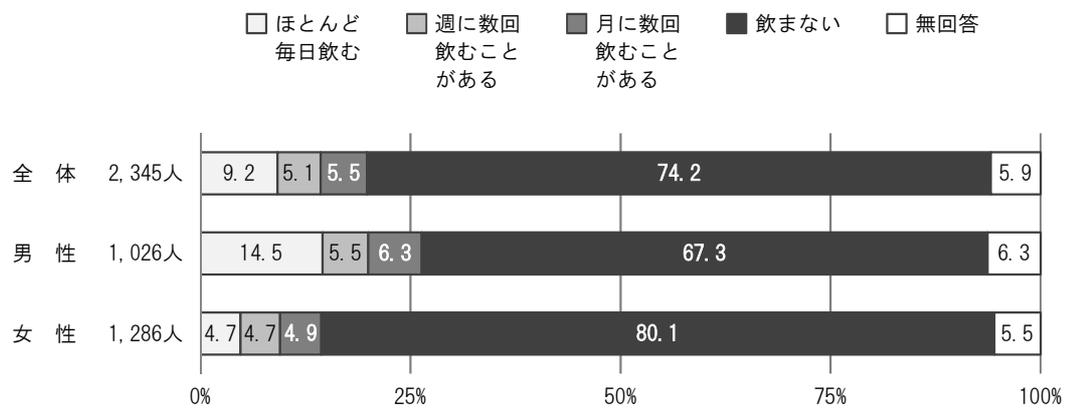
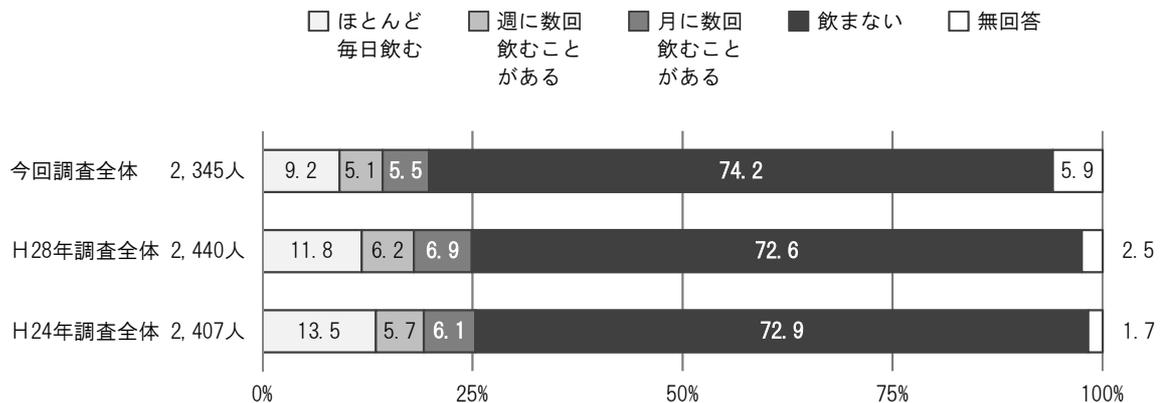


図 17.2 睡眠導入のための飲酒〔経年比較〕**



計画における数値目標のデータ



睡眠の確保のためにアルコールを使用する人の割合

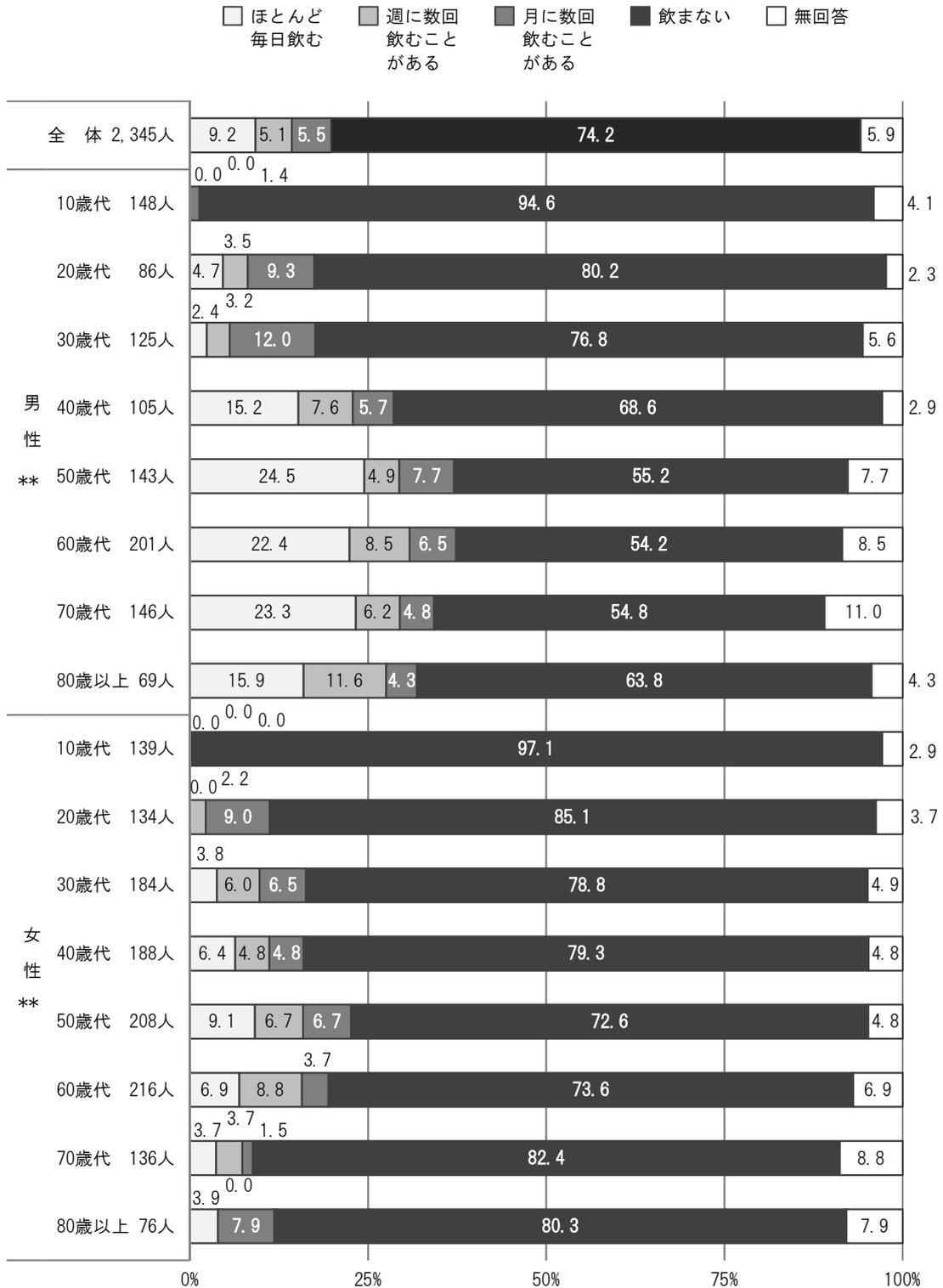
- ・全体 19.8% (目標値 15%以下)

< 問 17で「ほとんど毎日飲む」「週に数回飲むことがある」「月に数回飲むことがある」と答えた人の割合 >

睡眠導入のための飲酒頻度を性・年代別にみると、男性では「ほとんど毎日飲む」が「50歳代」で24.5%、「60歳代」で22.4%、「70歳代」で23.3%と他の年代より有意に高くなっています。

女性では「ほとんど毎日飲む」が「50歳代」で9.1%と有意に高く、「週に数回飲むことがある」が「60歳代」で8.8%と有意に高くなっています。

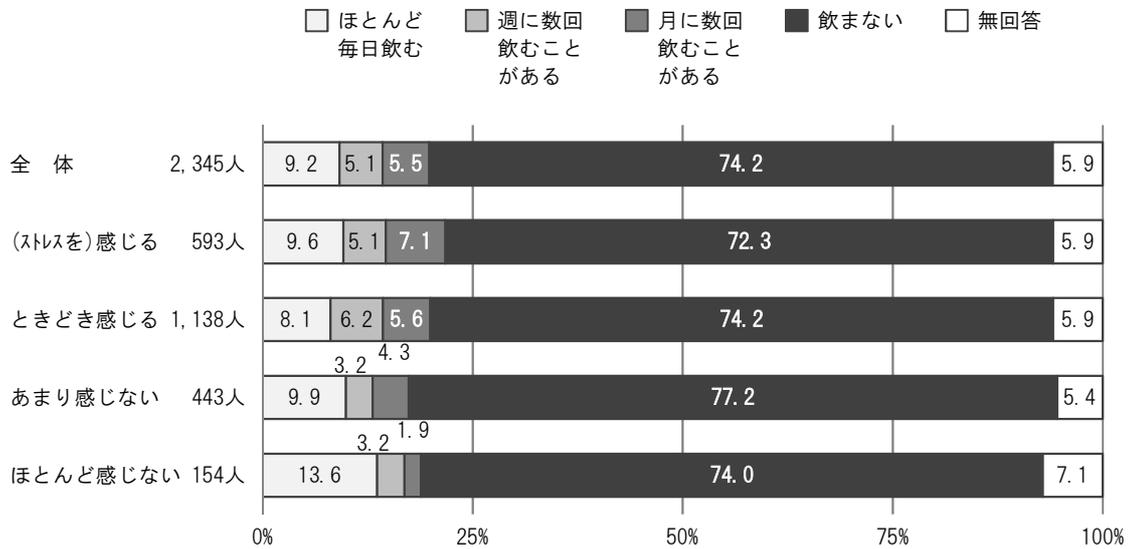
図 17.3 睡眠導入のための飲酒頻度〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

睡眠導入のための飲酒頻度をストレスの状況別にみると、「ほとんど毎日飲む」が「ほとんど感じない」で13.6%と他のストレス状況より有意に高く、「週に数回飲むことがある」が「ときどき感じる」で6.2%と有意に高くなっています。

図 17.4 睡眠導入のための飲酒頻度〔ストレスの状況別〕*



(18) あなたは、生きがい・やりがいを持っていますか。(〇は1つだけ) <B: 問18>

生きがい・やりがいの有無は、「持っている」が59.3%、「持っていない」が11.9%となっています。性別にみると、女性は「わからない」が24.0%と、男性より4.6ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「持っている」が7.3ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「持っている」が3.9ポイント減少しています。

図 18.1 生きがい・やりがいの有無〔全体・性別〕*

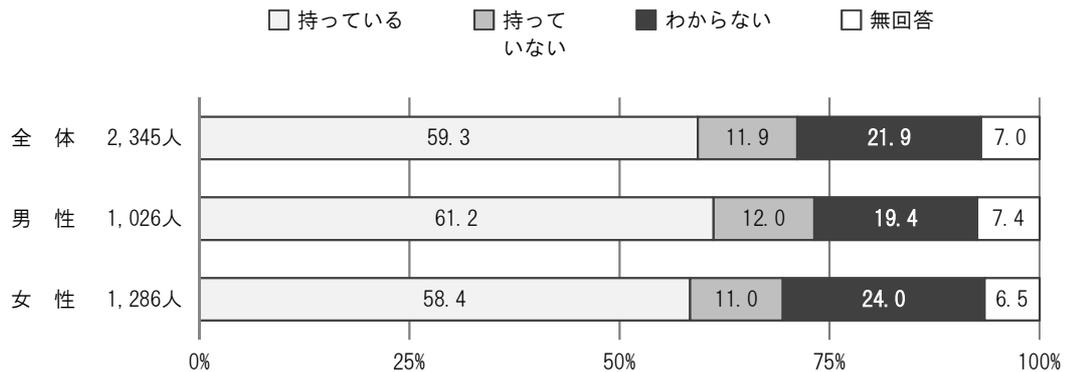


表 18 生きがい・やりがいを持っている割合〔経年比較〕

単位：%、ポイント

**

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
持っている	66.6	63.2	59.3	-7.3	-3.9

計画における数値目標のデータ



生きがいを持っている人の割合

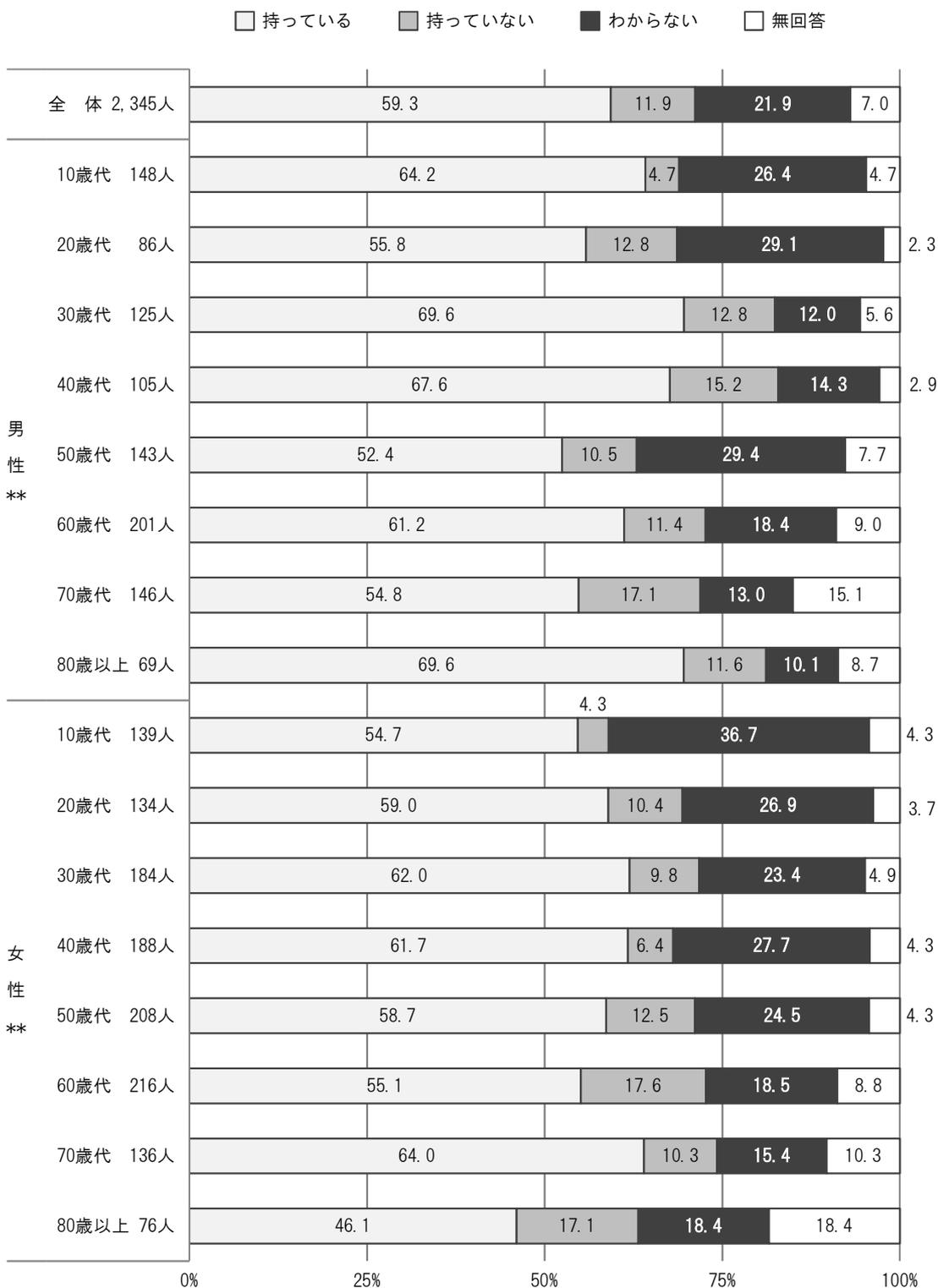
- ・全体 59.3% (目標値 85%以上)
<問18で「持っている」と答えた人の割合>

Ⅲ 調査結果

生きがい・やりがいの有無を性・年代別にみると、男性では「持っていない」が「70歳代」で17.1%と他の年代より有意に高く、「わからない」が「50歳代」で29.4%と有意に高くなっています。

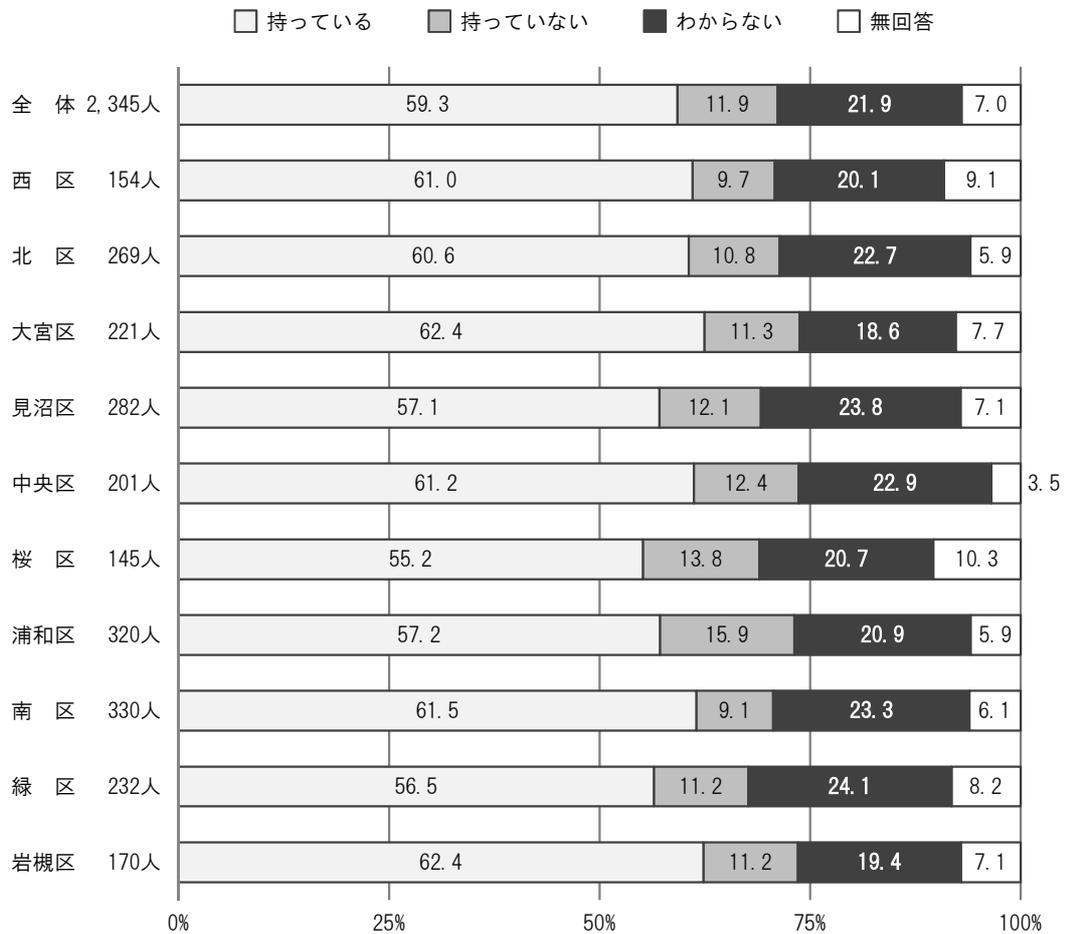
女性では「持っている」が「70歳代」で64.0%と有意に高く、「持っていない」が「60歳代」で17.6%、「80歳以上」で17.1%と有意に高くなっています。

図 18.2 生きがい・やりがいの有無〔性・年代別〕



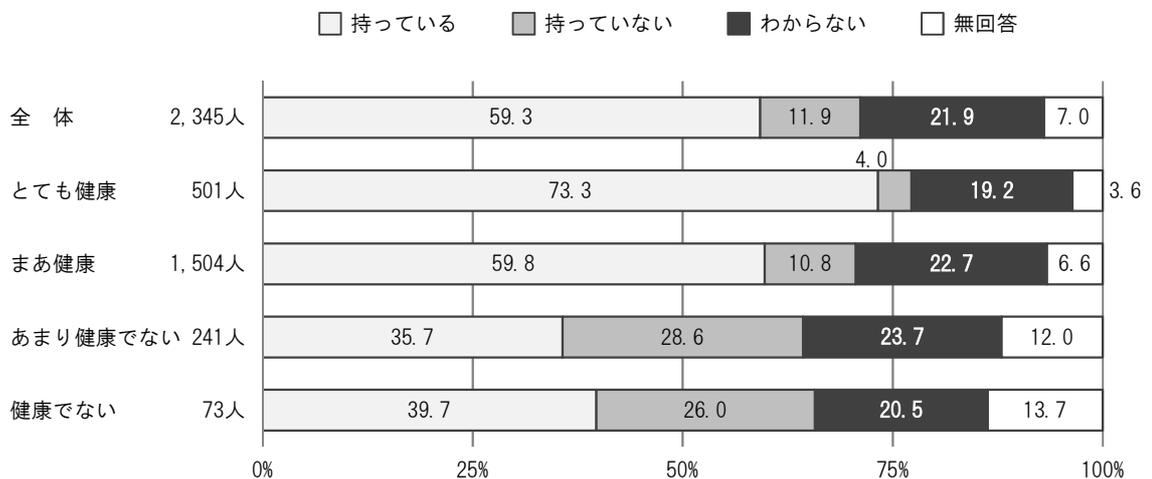
生きがい・やりがいの有無を居住区別にみると、「持っている」が「大宮区」と「岩槻区」で62.4%、「南区」で61.5%、「中央区」で61.2%となっています。

図 18.3 生きがい・やりがいの有無〔居住区別〕



生きがい・やりがいの有無を健康状態別にみると、「持っている」が「とても健康」で73.3%と他の健康状態より有意に高く、「持っていない」が「あまり健康でない」で28.6%、「健康でない」で26.0%と有意に高くなっています。

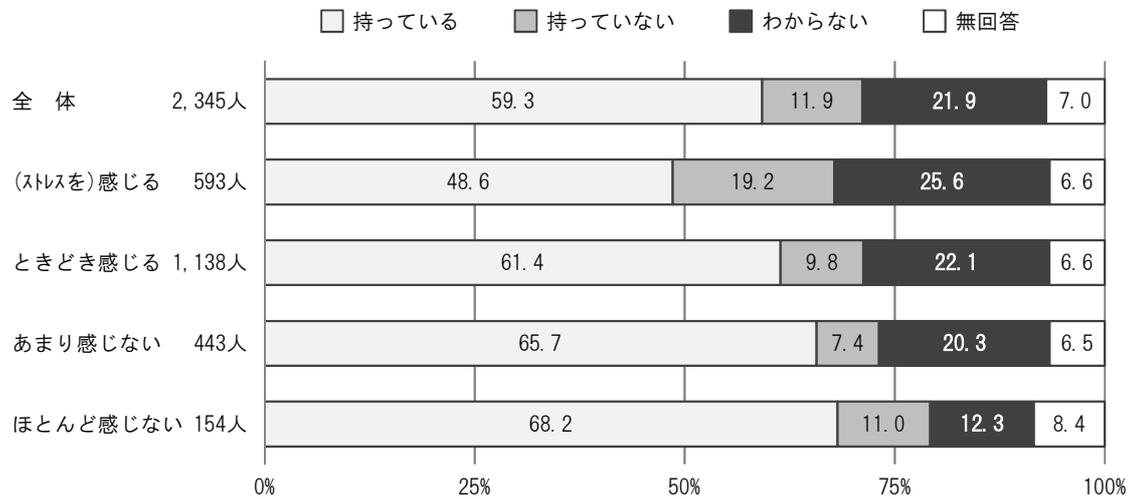
図 18.4 生きがい・やりがいの有無〔健康状態別〕**



Ⅲ 調査結果

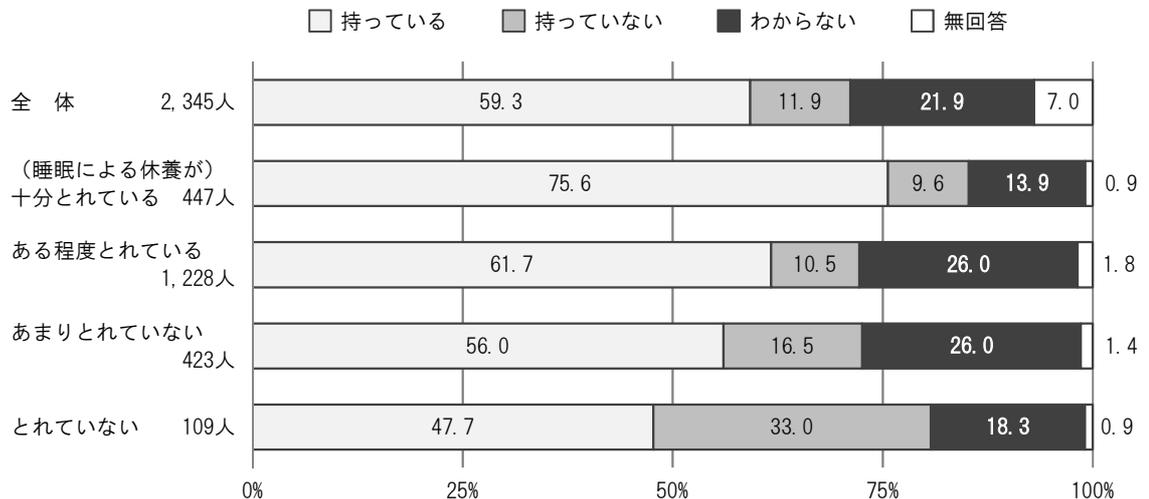
生きがい・やりがいの有無をストレスの状況別にみると、「持っている」が「ときどき感じる」で61.4%、「あまり感じない」で65.7%、「ほとんど感じない」で68.2%と他のストレス状況より有意に高く、「持っていない」が「(ストレス)を感じる」で19.2%と有意に高くなっています。

図 18.5 生きがい・やりがいの有無〔ストレスの状況別〕**



生きがい・やりがいの有無を睡眠による休養別にみると、「持っている」が「(睡眠による休養が)十分とれている」で75.6%と他の睡眠による休養状況より有意に高く、「持っていない」が「あまりとれていない」で16.5%、「とれていない」で33.0%と有意に高くなっています。

図 18.6 生きがい・やりがいの有無〔睡眠による休養別〕**



【B：問18で「持っている」をお答えの方のみ】

(18) - 2 それは具体的にどのようなことですか。(〇はあてはまるものすべて)

< B：問18-2 >

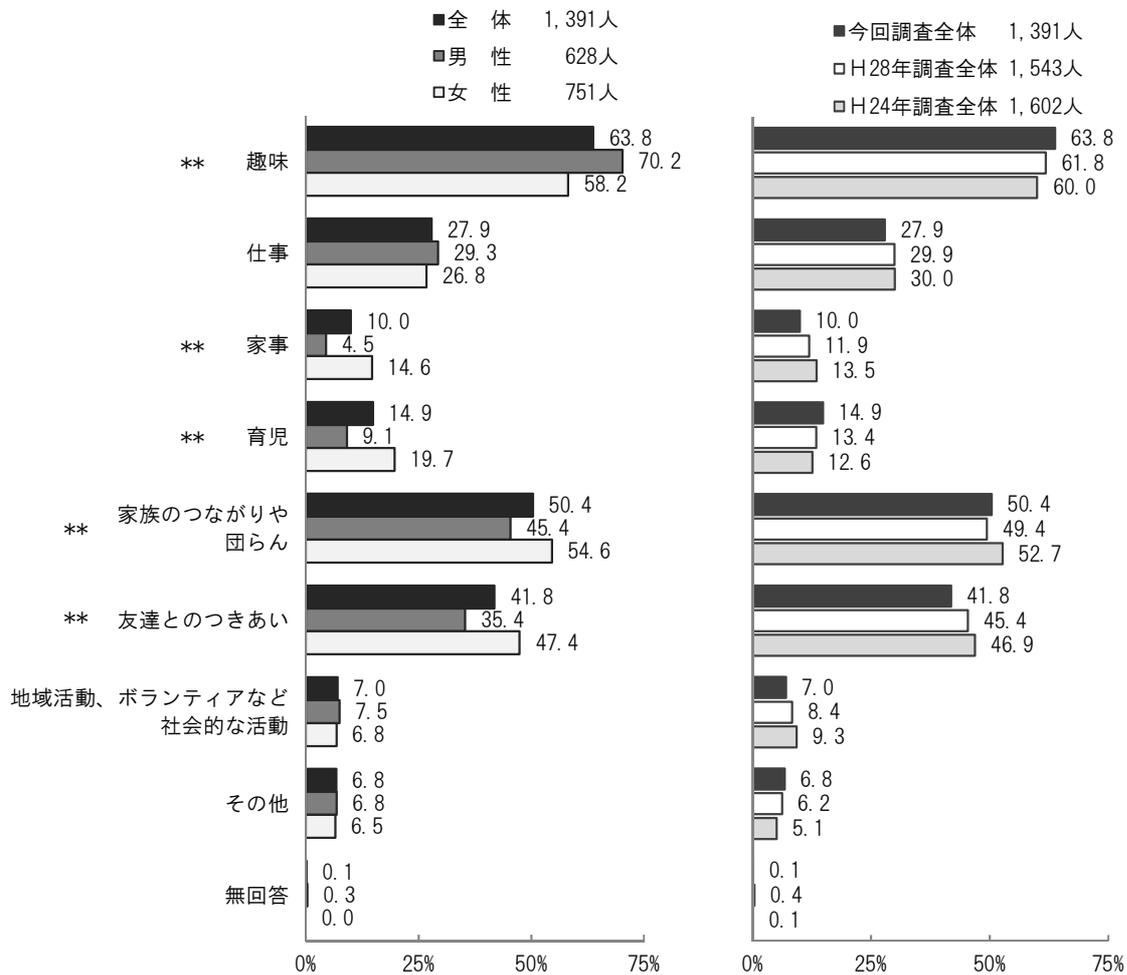
生きがい・やりがいの内容は、「趣味」が63.8%と最も高く、次いで「家族のつながりや団らん」が50.4%、「友達とのつきあい」が41.8%となっています。

性別にみると、男性では「趣味」が70.2%と女性より有意に高くなっています。女性では「家族のつながりや団らん」が54.6%と男性より有意に高く、「友達とのつきあい」が47.4%と有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「趣味」が3.8ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、大きな変化はありません。

図18-2 生きがい・やりがいの内容（複数回答）〔全体・性別・経年比較〕



「その他」の内容	
項目	件数
学業・資格	20
部活・スポーツ・各種運動	22
ペット	15
旅行・イベント	6
家庭菜園・農業	5
子ども・孫	5
将来	4
アルコール	3
その他	12

Ⅲ 調査結果

生きがい・やりがいの内容を性・年代別にみると、男性では「仕事」が「40歳代」で40.8%、「50歳代」で45.3%、「60歳代」で39.0%と他の年代より有意に高く、「地域活動、ボランティアなど社会的な活動」が「70歳代」で15.0%、「80歳以上」で18.8%と有意に高くなっています。

女性では「仕事」が「30歳代」で37.7%、「40歳代」で42.2%、「50歳代」で36.9%と有意に高く、「地域活動、ボランティアなど社会的な活動」が「60歳代」で12.6%、「70歳代」で14.9%と有意に高くなっています。

表 18-2 生きがい・やりがいの内容（複数回答）〔性・年代別〕 単位：%

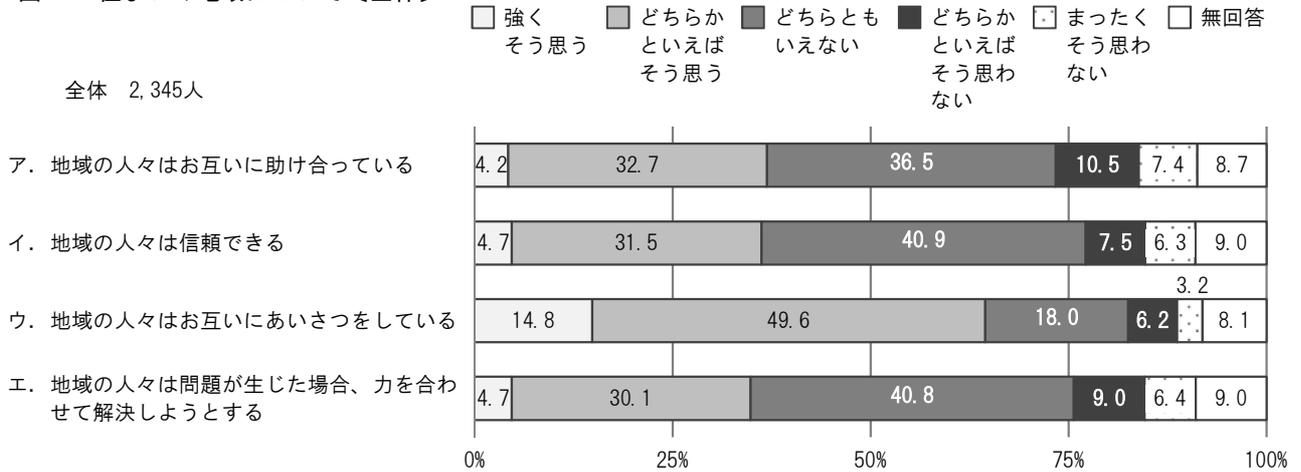
項目	回答者数 (人)	*	**	-	**	**	**	**	**	-
		趣味	仕事	家事	育児	団らん 家族のつながりや	友達とのつきあい	地域活動、ボランティア など社会的な活動	その他	無回答
全体	1,391	63.8	27.9	10.0	14.9	50.4	41.8	7.0	6.8	0.1
男性計	628	70.2	29.3	4.5	9.1	45.4	35.4	7.5	6.8	0.3
10歳代	95	74.7	5.3	0.0	0.0	22.1	62.1	1.1	21.1	0.0
20歳代	48	79.2	31.3	2.1	8.3	25.0	45.8	2.1	8.3	0.0
30歳代	87	58.6	36.8	6.9	31.0	64.4	29.9	3.4	1.1	0.0
40歳代	71	59.2	40.8	8.5	28.2	57.7	18.3	5.6	2.8	1.4
50歳代	75	78.7	45.3	5.3	2.7	48.0	20.0	13.3	4.0	0.0
60歳代	123	71.5	39.0	4.1	2.4	48.8	34.1	5.7	4.1	0.0
70歳代	80	73.8	22.5	5.0	0.0	40.0	33.8	15.0	7.5	1.3
80歳以上	48	68.8	4.2	4.2	0.0	54.2	35.4	18.8	4.2	0.0
女性計	751	58.2	26.8	14.6	19.7	54.6	47.4	6.8	6.5	0.0
10歳代	76	72.4	3.9	0.0	0.0	40.8	64.5	3.9	10.5	0.0
20歳代	79	67.1	24.1	3.8	24.1	59.5	58.2	0.0	3.8	0.0
30歳代	114	43.0	37.7	20.2	58.8	58.8	36.8	2.6	4.4	0.0
40歳代	116	44.8	42.2	16.4	44.0	53.4	39.7	4.3	6.0	0.0
50歳代	122	53.3	36.9	20.5	6.6	61.5	36.9	8.2	5.7	0.0
60歳代	119	67.2	26.1	14.3	1.7	58.8	56.3	12.6	7.6	0.0
70歳代	87	62.1	10.3	13.8	0.0	42.5	51.7	14.9	11.5	0.0
80歳以上	35	74.3	2.9	31.4	0.0	51.4	42.9	5.7	0.0	0.0

(19) あなたのお住まいの地域についてどのように感じていますか。

(〇はア～エ、それぞれに1つずつ) < B : 問 19 >

住まいの地域について、「強くそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、「地域の人々はお互いにあいさつをしている」が64.4%と最も高くなっています。

図 19 住まいの地域について〔全体〕



ア. 地域の人々はお互いに助け合っている

地域の人々はお互いに助け合っているかについて、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると36.9%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

H24年調査と比較すると、「強くそう思う」が1.8ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「まったくそう思わない」が1.9ポイント有意に増加しています。

図 19-ア.1 地域の人々はお互いに助け合っているか〔全体・性別〕

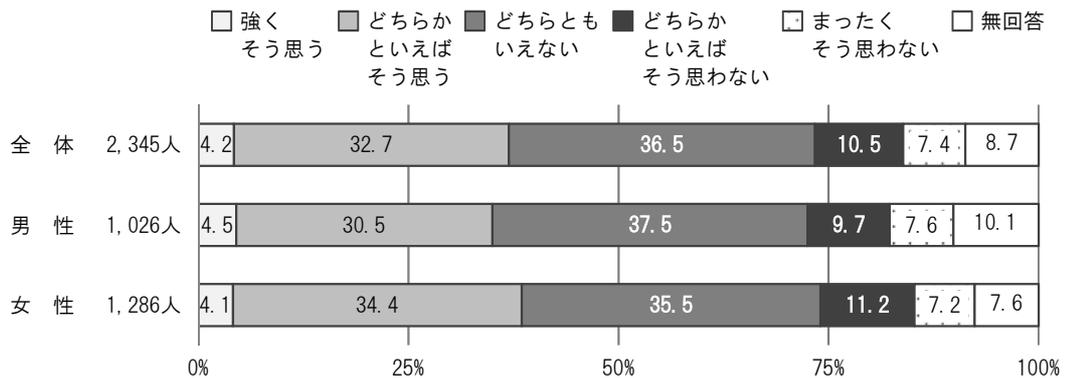
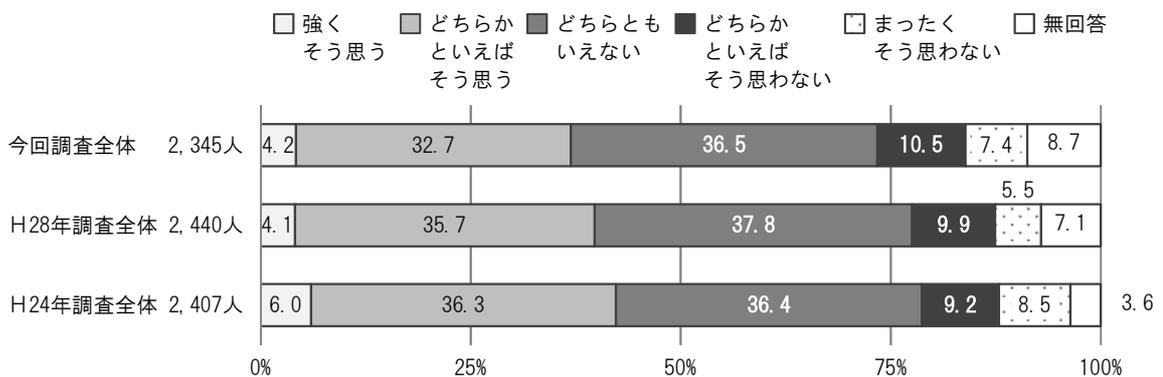


図 19-ア.2 地域の人々はお互いに助け合っているか〔経年比較〕**



計画における数値目標のデータ



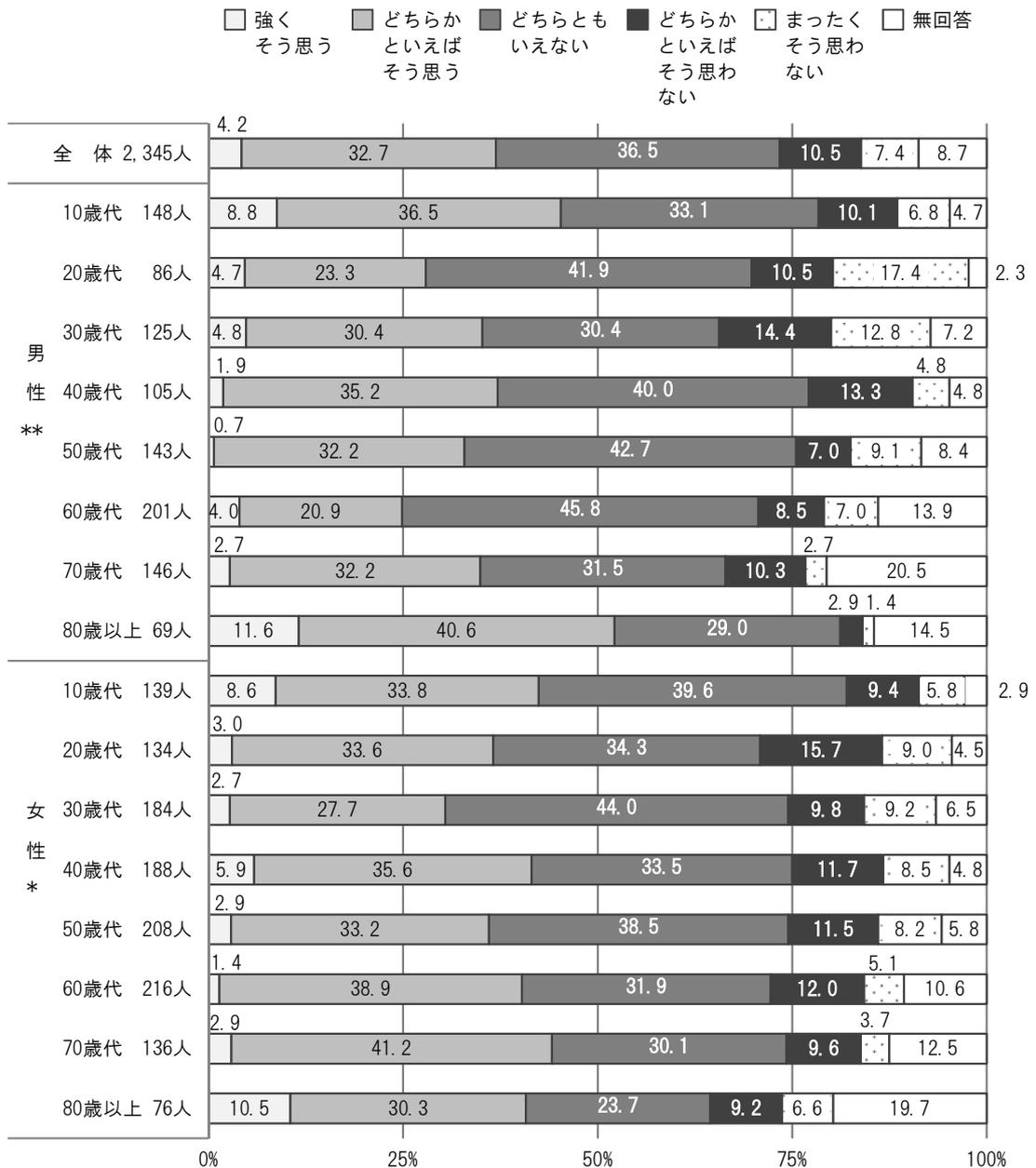
居住地域でお互いに助け合っていると思う市民の割合（地域のつながりの強化）

- ・全体 36.9%（目標値 60%）
- ＜問 19 ア. で「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合＞

地域の人々はお互いに助け合っているかについて、性・年代別にみると、男性では「強くそう思う」が「10歳代」で8.8%、「80歳以上」で11.6%と他の年代より有意に高くなっています。

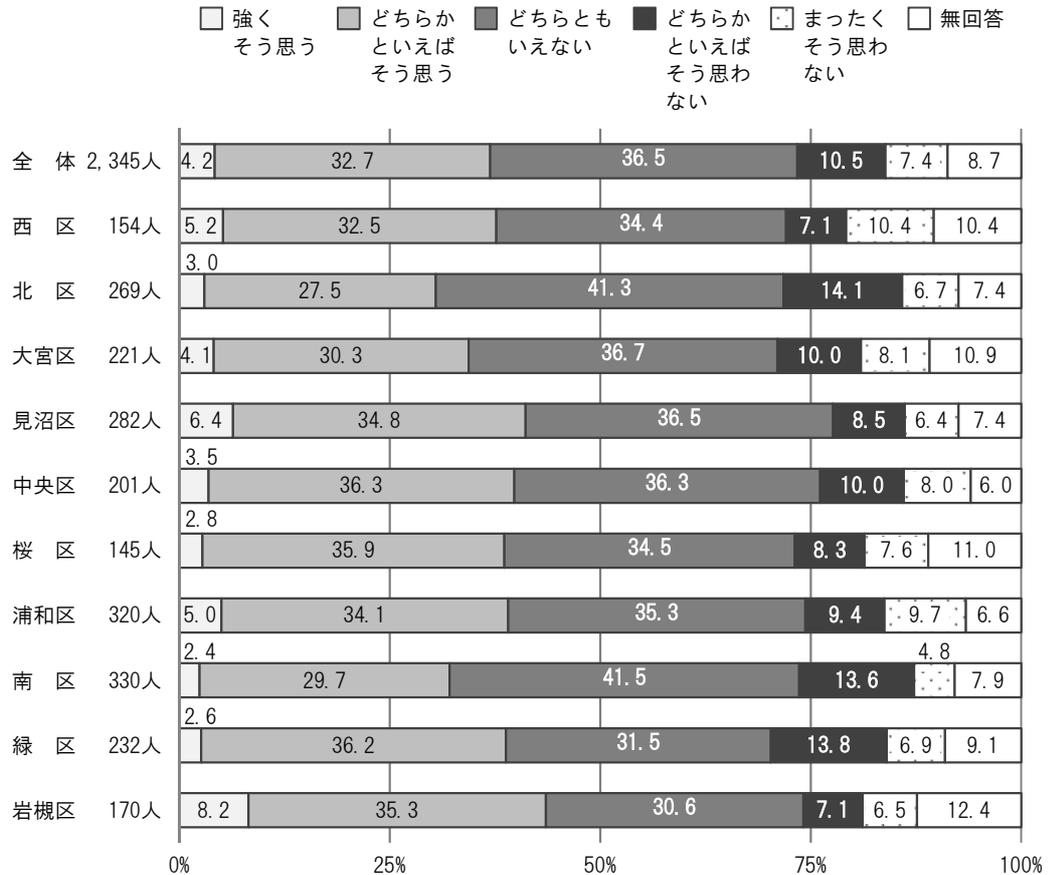
女性では「強くそう思う」が「10歳代」で8.6%、「80歳以上」で10.5%と有意に高くなっています。

図 19-ア.3 地域の人々はお互いに助け合っているか〔性・年代別〕



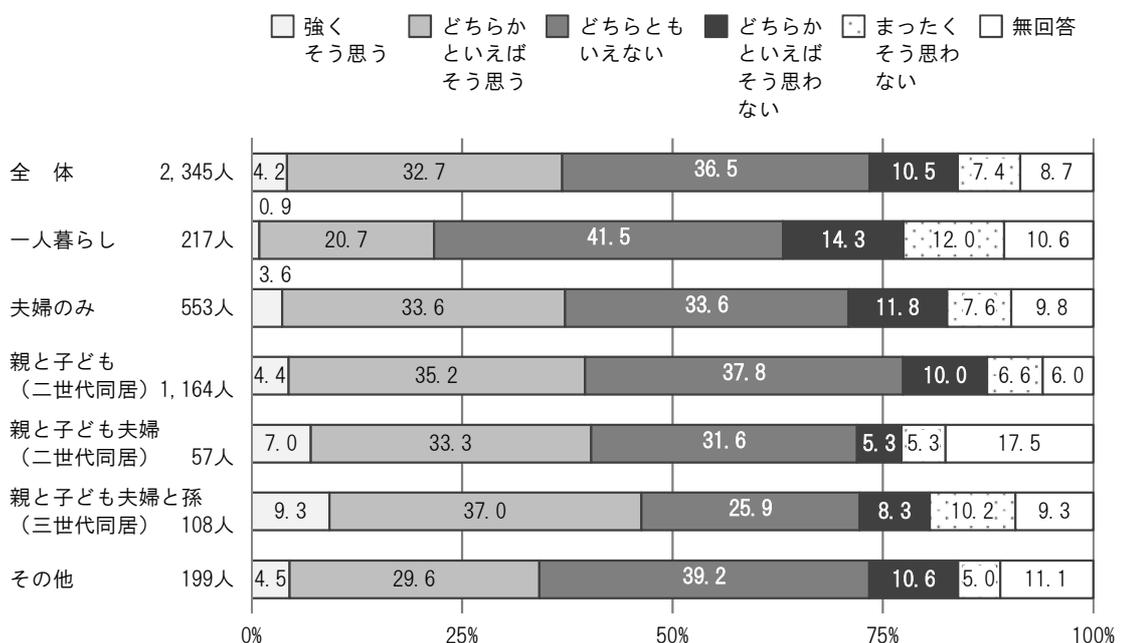
地域の人々はお互いに助け合っているかについて、居住区別にみると、「強くそう思う」が「岩槻区」で8.2%と他区より有意に高くなっています。

図 19-ア.4 地域の人々はお互いに助け合っているか〔居住区別〕*



地域の人々はお互いに助け合っているかについて、家族構成別にみると、「強くそう思う」が「親と子ども夫婦と孫（三世代同居）」で9.3%と他の家族構成より有意に高くなっています。

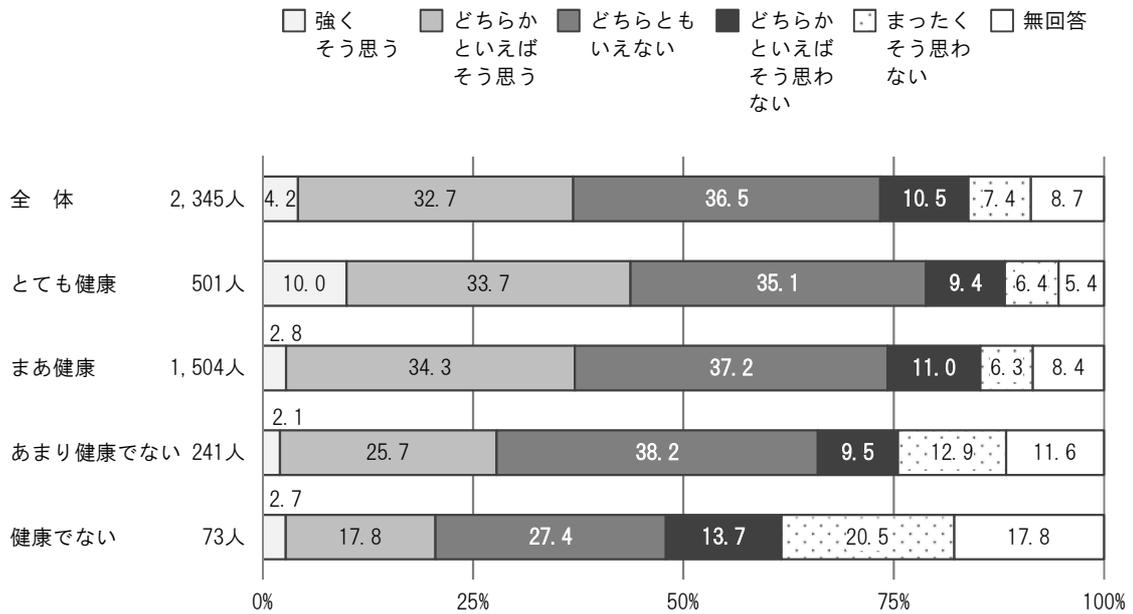
図 19-ア.5 地域の人々はお互いに助け合っているか〔家族構成別〕**



Ⅲ 調査結果

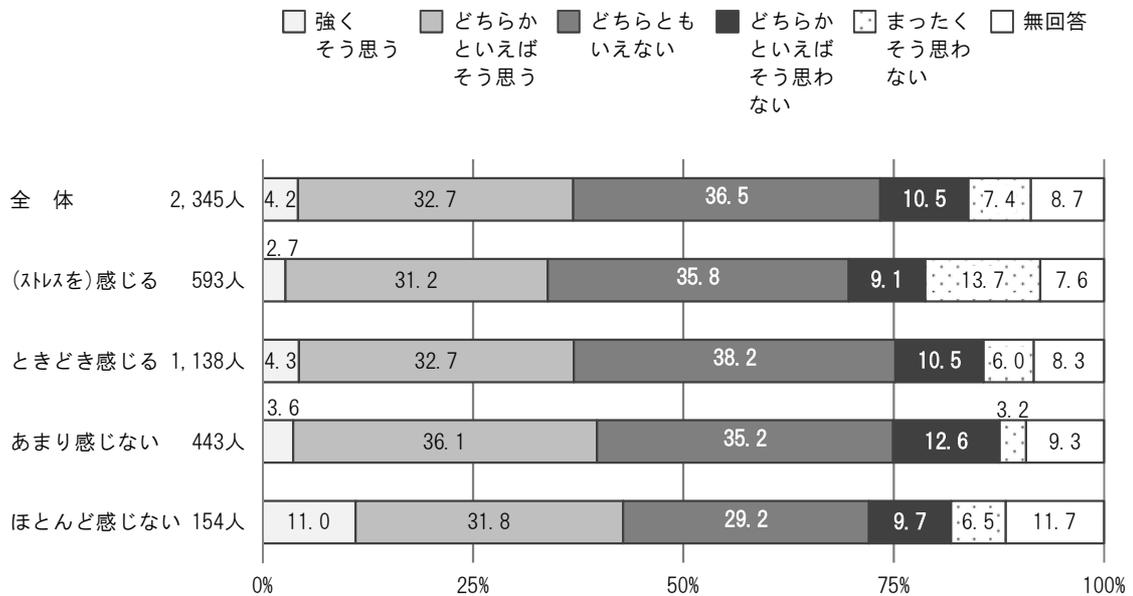
地域の人々はお互いに助け合っているかについて、健康状態別にみると、「強くそう思う」が「とても健康」で10.0%と他の健康状態より有意に高くなっています。

図 19-ア.6 地域の人々はお互いに助け合っているか〔健康状態別〕**



地域の人々はお互いに助け合っているかについて、ストレスの状況別にみると、「強くそう思う」が「ほとんど感じない」で11.0%と他のストレス状況より有意に高くなっています。

図 19-ア.7 地域の人々はお互いに助け合っているか〔ストレスの状況別〕**



イ. 地域の人々は信頼できる

地域の人々は信頼できるかについて、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると36.2%となっています。
 性別にみると、大きな差はありません。
 H24年調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」が4.4ポイント有意に減少しています。
 H28年調査と比較すると、「まったくそう思わない」が1.7ポイント有意に増加しています。

図 19-イ.1 地域の人々は信頼できるか〔全体・性別〕

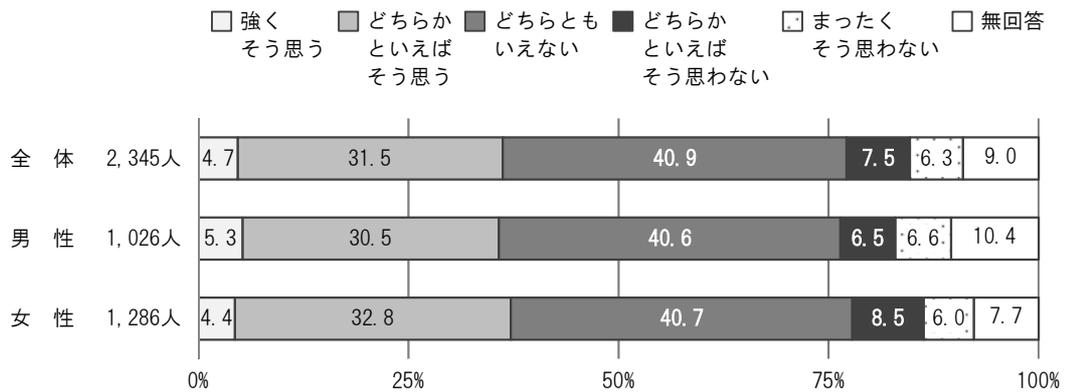
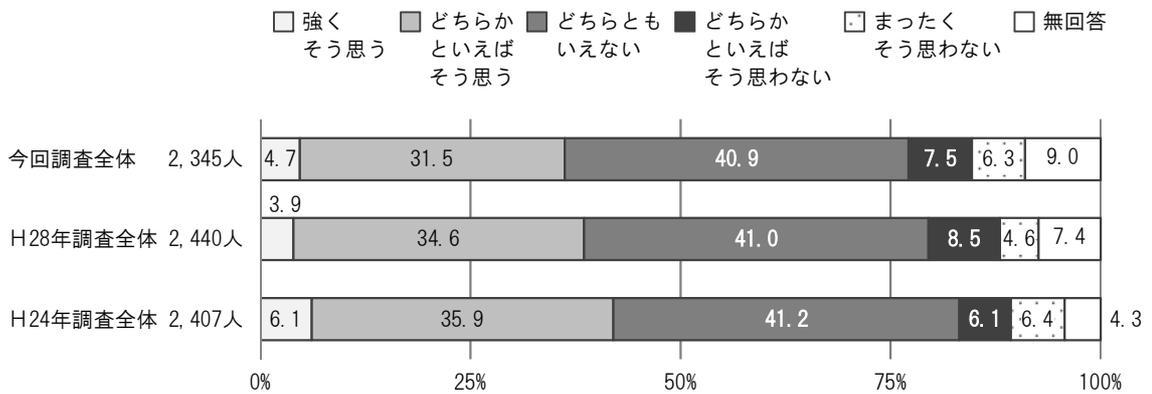


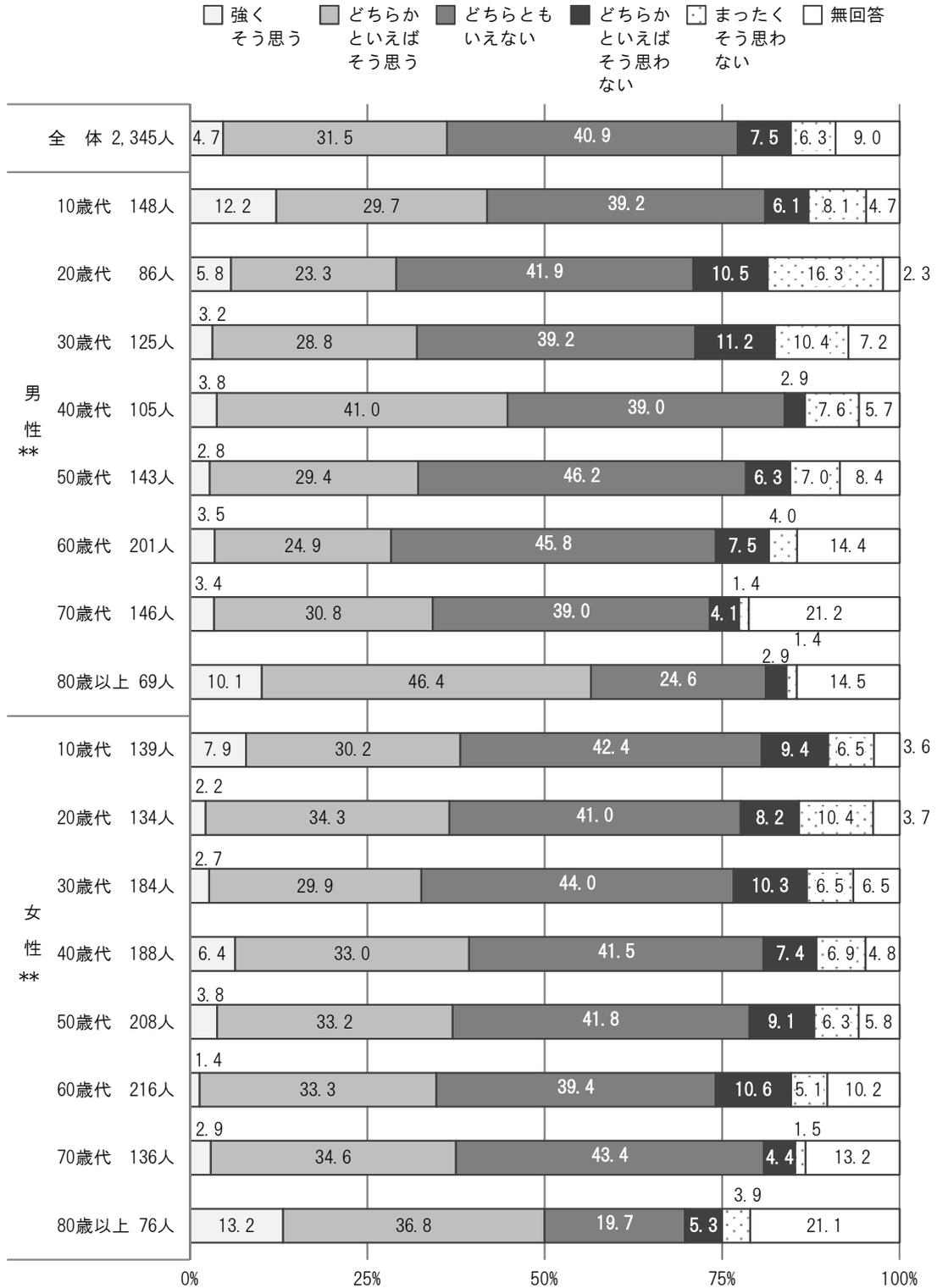
図 19-イ.2 地域の人々は信頼できるか〔経年比較〕*



Ⅲ 調査結果

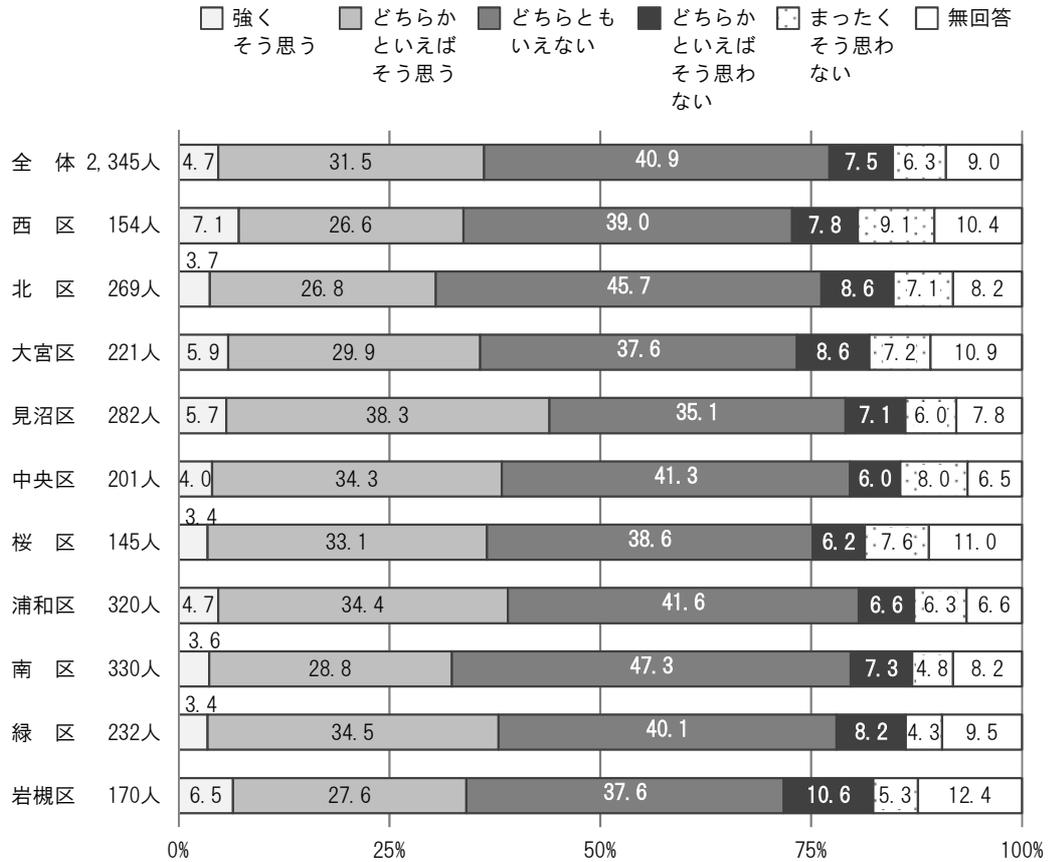
地域の人々は信頼できるかについて、性・年代別にみると、男性では「強くそう思う」が「10歳代」で12.2%、「80歳以上」で10.1%と他の年代より有意に高くなっています。
 女性では「強くそう思う」が「10歳代」で7.9%、「80歳以上」で13.2%と有意に高くなっています。

図 19-イ.3 地域の人々は信頼できるか〔性・年代別〕



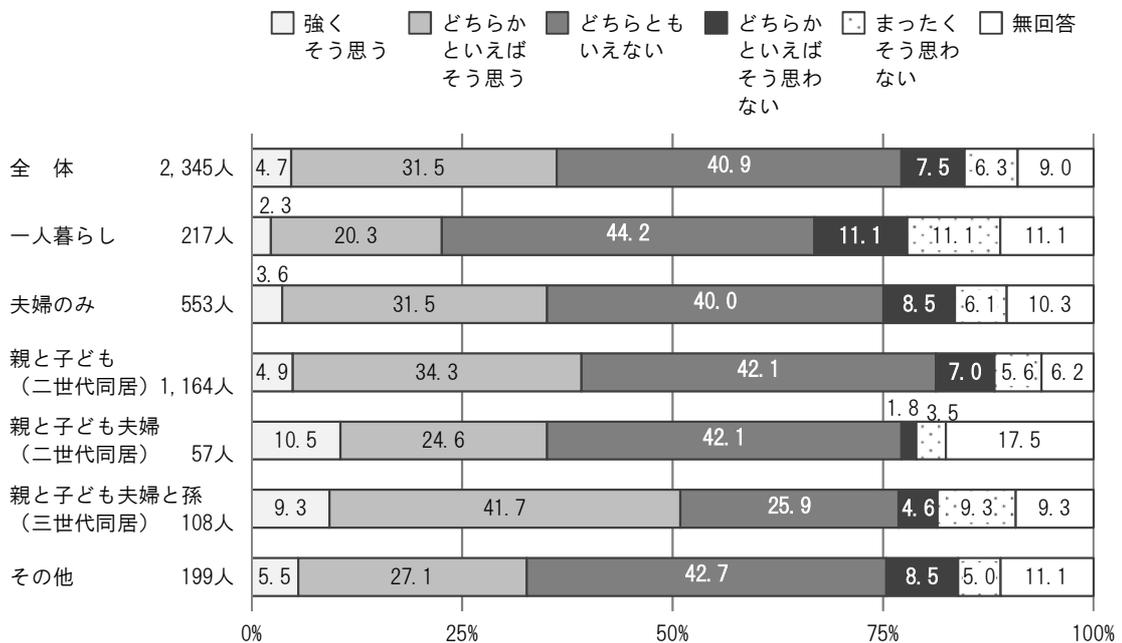
地域の人々は信頼できるかについて、居住区別にみると、「強くそう思う」が「西区」で7.1%、「岩槻区」で6.5%、「大宮区」で5.9%となっています。

図 19-イ.4 地域の人々は信頼できるか〔居住区別〕



地域の人々は信頼できるかについて、家族構成別にみると、「強くそう思う」が「親と子ども夫婦（二世帯同居）」で10.5%、「親と子ども夫婦と孫（三世帯同居）」で9.3%と他の家族構成より有意に高く、「まったくそう思わない」が「一人暮らし」で11.1%と有意に高くなっています。

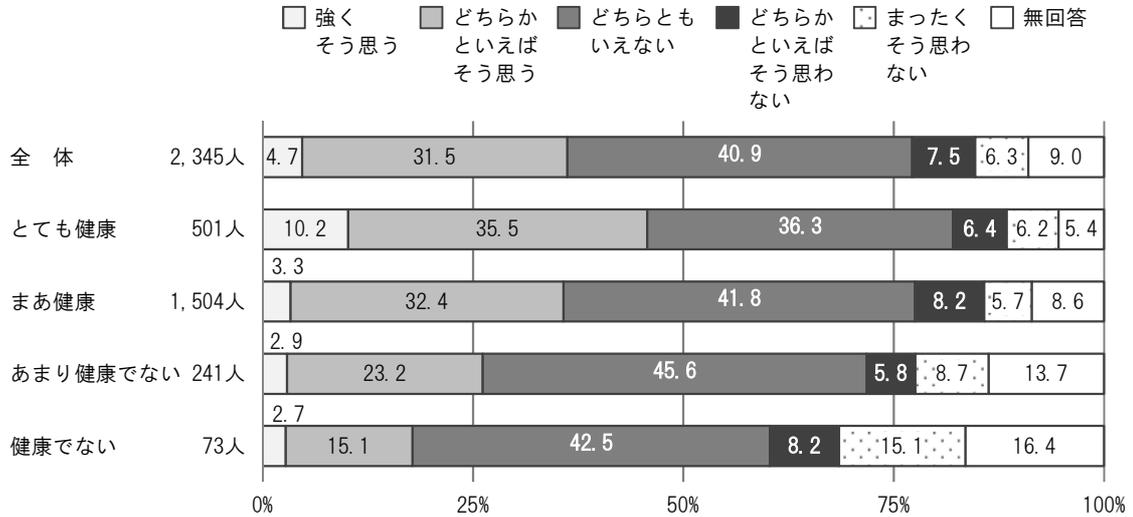
図 19-イ.5 地域の人々は信頼できるか〔家族構成別〕**



Ⅲ 調査結果

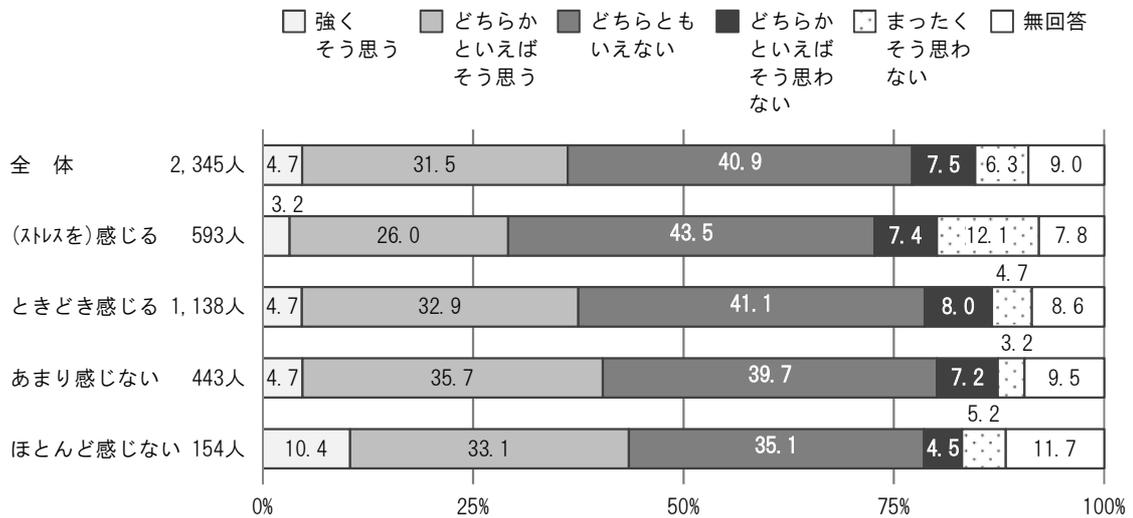
地域の人々は信頼できるかについて、健康状態別にみると、「強くそう思う」が「とても健康」で 10.2%と有意に高く、「まったくそう思わない」が「健康でない」で 15.1%と他の健康状態より有意に高くなっています。

図 19-イ.6 地域の人々は信頼できるか〔健康状態別〕**



地域の人々は信頼できるかについて、ストレスの状況別にみると、「強くそう思う」が「ほとんど感じない」で 10.4%と有意に高く、「まったくそう思わない」が「(ストレス)を感じる」で 12.1%と他のストレス状況より有意に高くなっています。

図 19-イ.7 地域の人々は信頼できるか〔ストレスの状況別〕**



ウ. 地域の人々はお互いにあいさつをしている

地域の人々はお互いにあいさつしているかについて、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると64.4%となっています。

性別にみると、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最も高く、男性では「どちらともいえない」が22.1%と、女性より7.5ポイント有意に高くなっています。

女性では「強くそう思う」が17.3%と、男性より5.1ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「強くそう思う」が3.6ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「まったくそう思わない」が1.4ポイント有意に増加しています。

図 19-ウ.1 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔全体・性別〕**

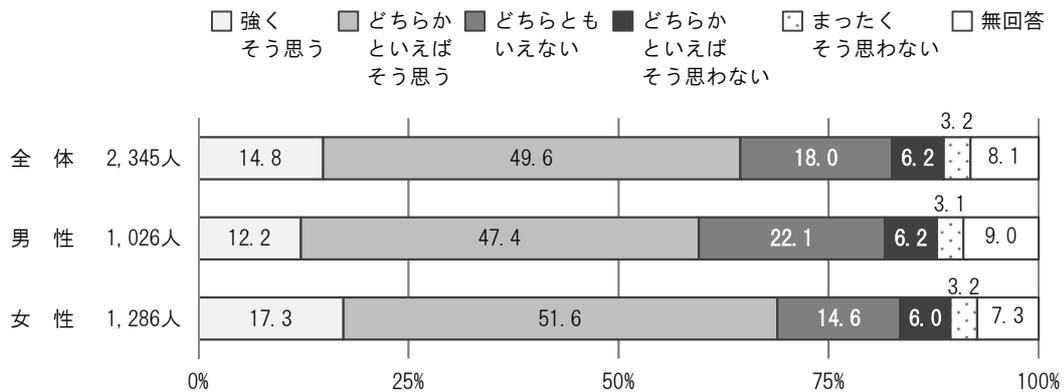
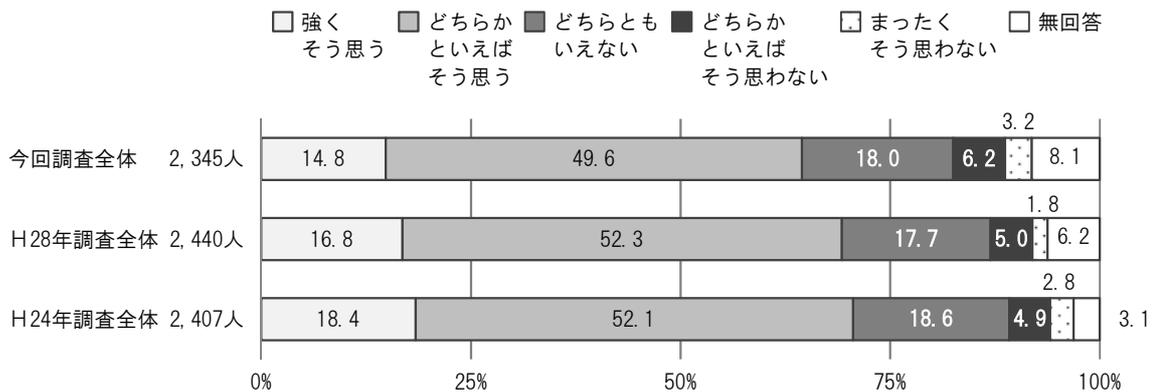


図 19-ウ.2 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔経年比較〕**

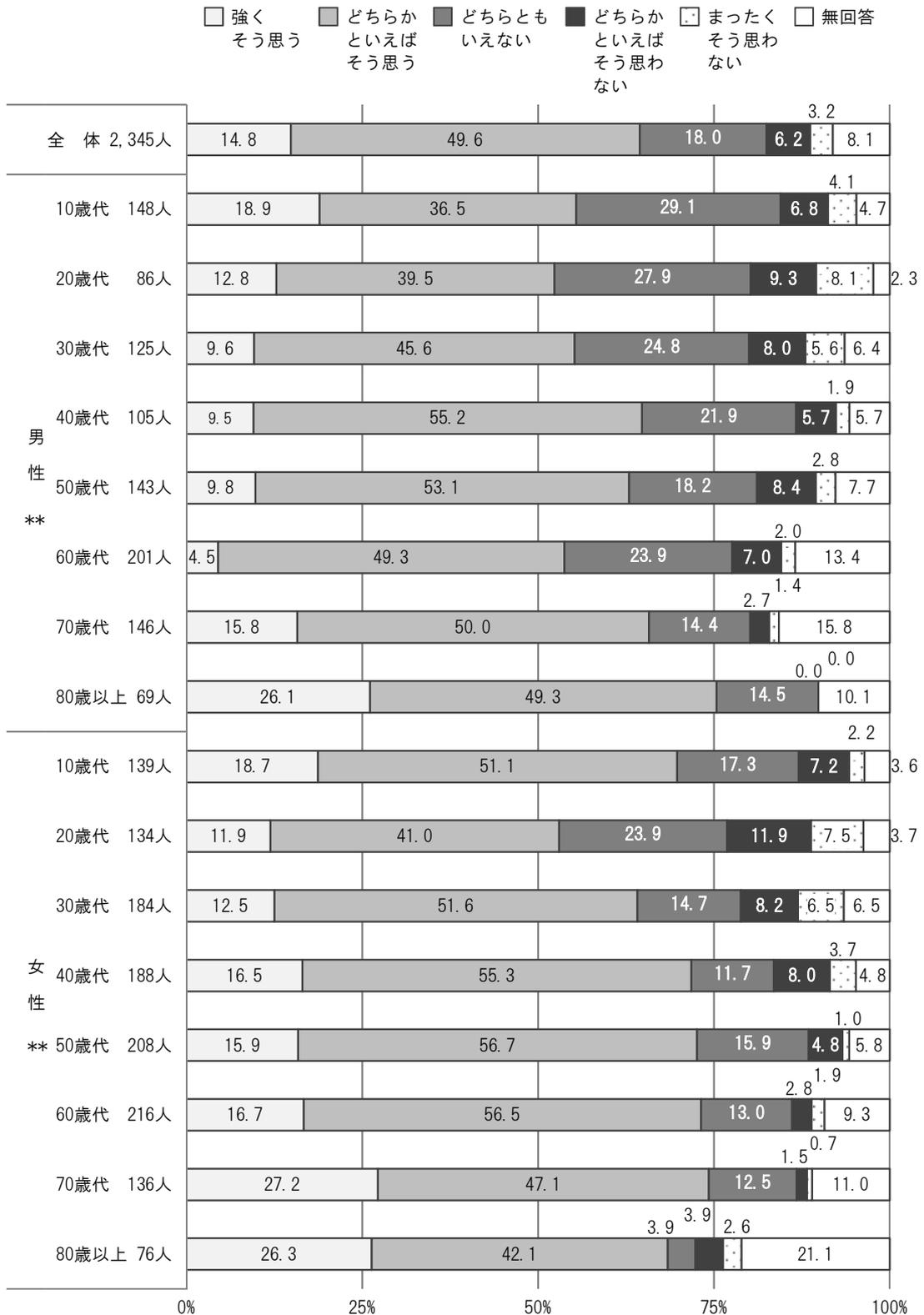


Ⅲ 調査結果

地域の人々はお互いにあいさつしているかについて、性・年代別にみると、男性では「強くそう思う」が「10歳代」で18.9%、「80歳以上」で26.1%と他の年代より有意に高くなっています。

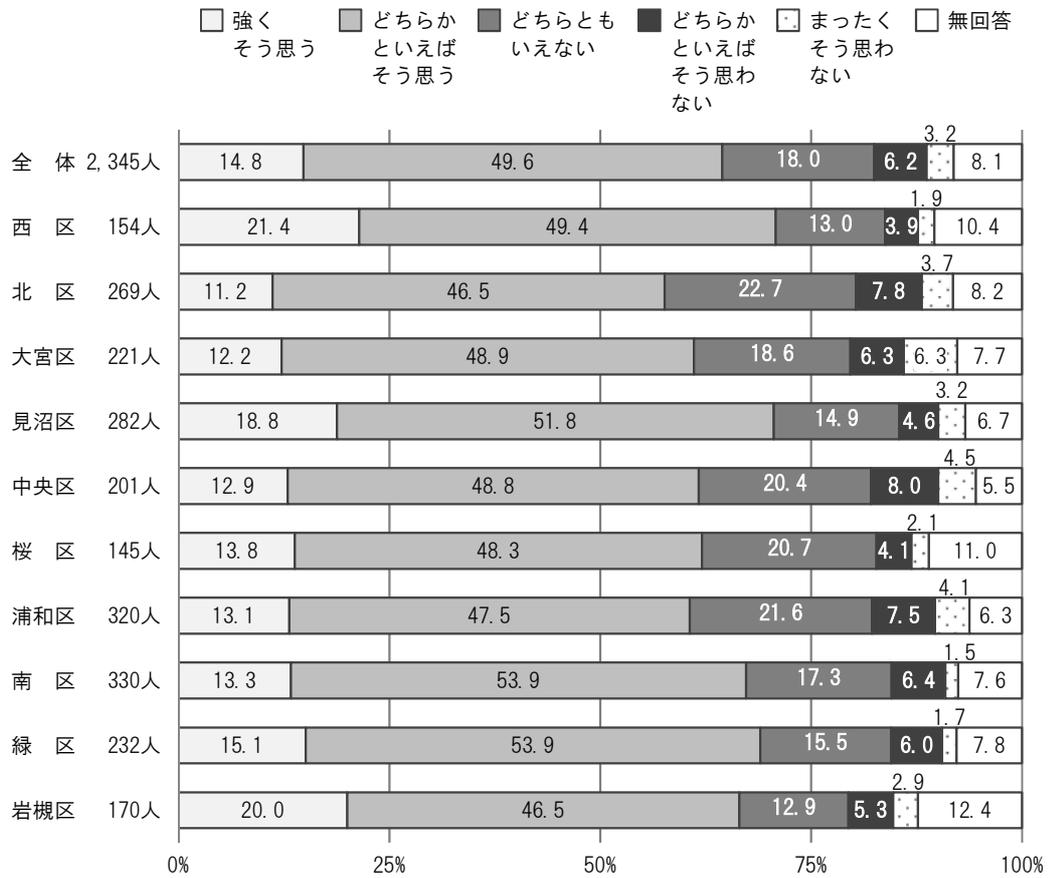
女性では「強くそう思う」が「70歳代」で27.2%、「80歳以上」で26.3%と有意に高くなっています。

図 19-ウ.3 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔性・年代別〕



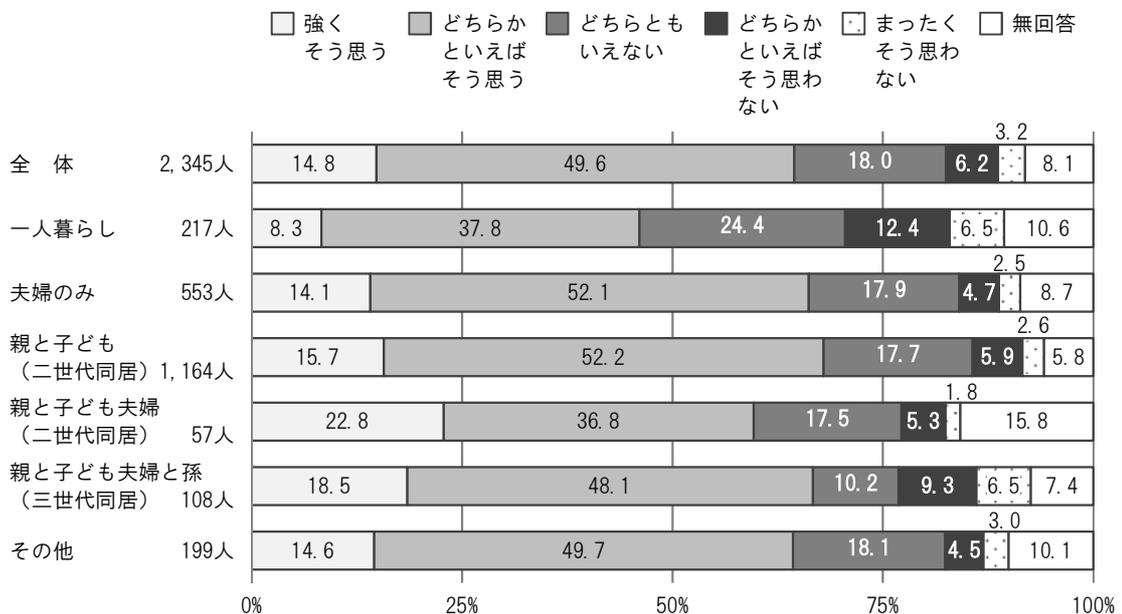
地域の人々はお互いにあいさつしているかについて、居住区別にみると、「強くそう思う」が「西区」で21.4%、「岩槻区」で20.0%と他区より有意に高く、「どちらともいえない」が「北区」で22.7%と有意に高くなっています。

図 19-ウ.4 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔居住区別〕*



地域の人々はお互いにあいさつしているかについて、家族構成別にみると、「強くそう思う」が「親と子ども夫婦（二世帯同居）」で22.8%と他の家族構成より有意に高く、「どちらかといえばそう思わない」が「一人暮らし」で12.4%と有意に高くなっています。

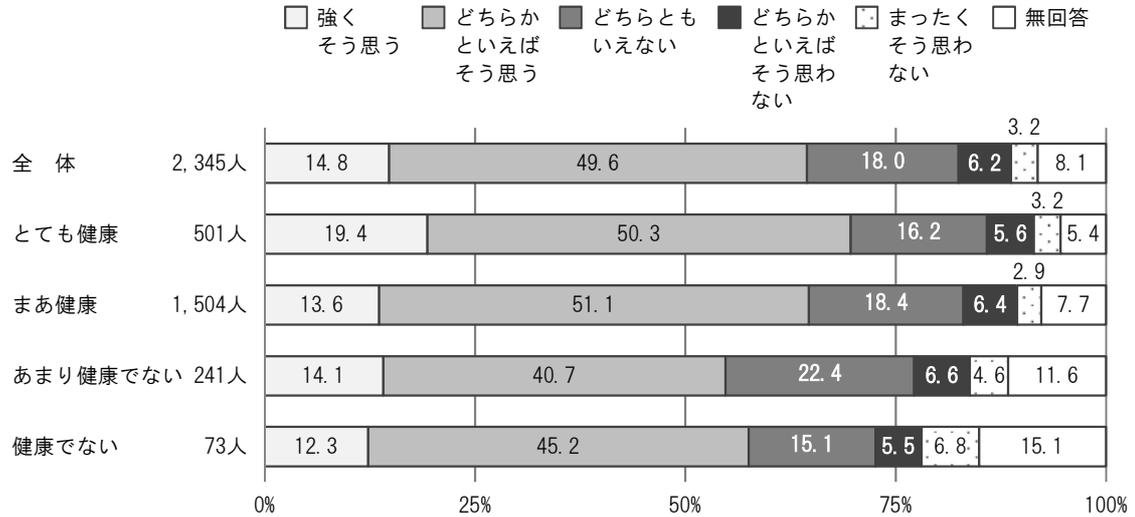
図 19-ウ.5 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔家族構成別〕**



Ⅲ 調査結果

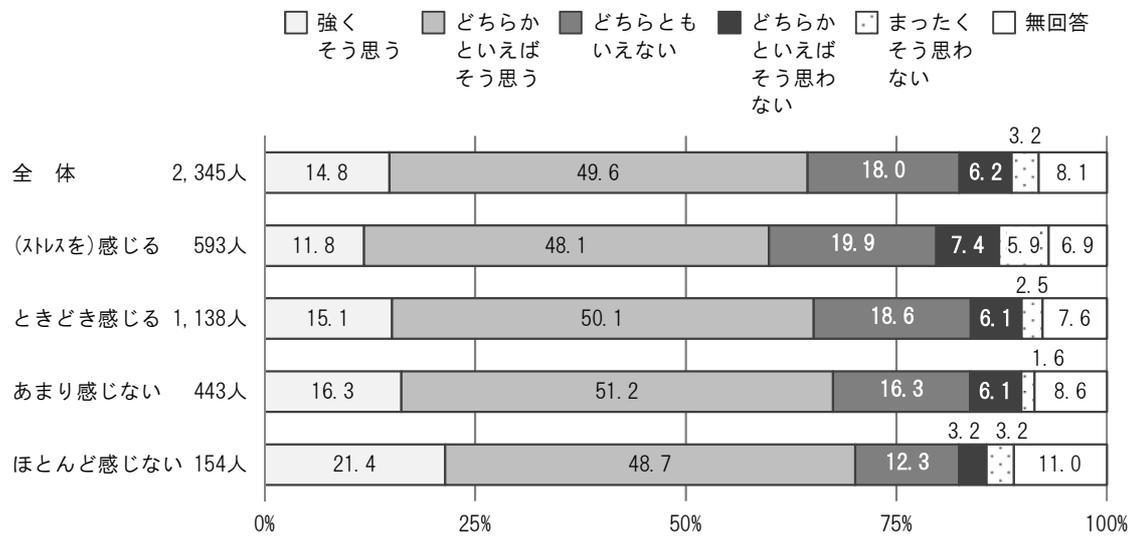
地域の人々はお互いにあいさつしているかについて、健康状態別にみると、「強くそう思う」が「とても健康」で19.4%と他の健康状態より有意に高く、「まったくそう思わない」が「健康でない」で6.8%と有意に高くなっています。

図 19-ウ.6 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔健康状態別〕*



地域の人々はお互いにあいさつしているかについて、ストレスの状況別にみると、「強くそう思う」が「ほとんど感じない」で21.4%と他のストレス状況より有意に高く、「まったくそう思わない」が「(ストレス)を感じる」で5.9%と有意に高くなっています。

図 19-ウ.7 地域の人々はお互いにあいさつしているか〔ストレスの状況別〕**



エ. 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとする

地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするかについて、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると34.8%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

H24年調査と比較すると、「強くそう思う」が2.0ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、大きな差はありません。

図 19-エ.1 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔全体・性別〕

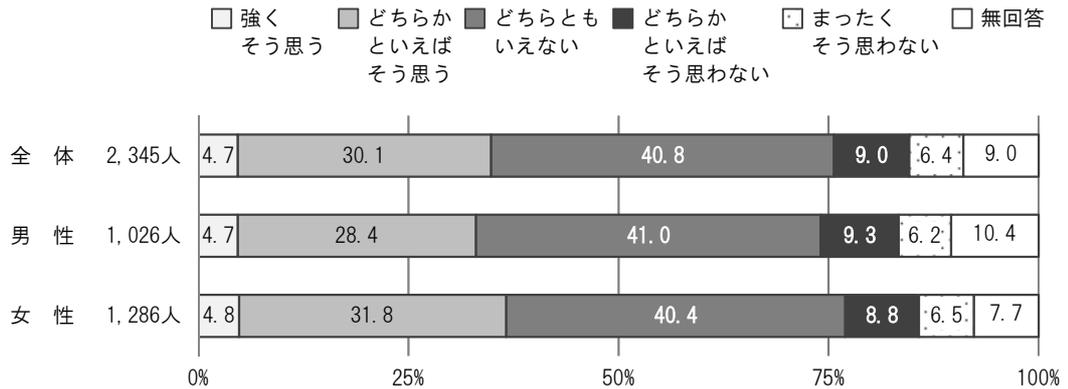
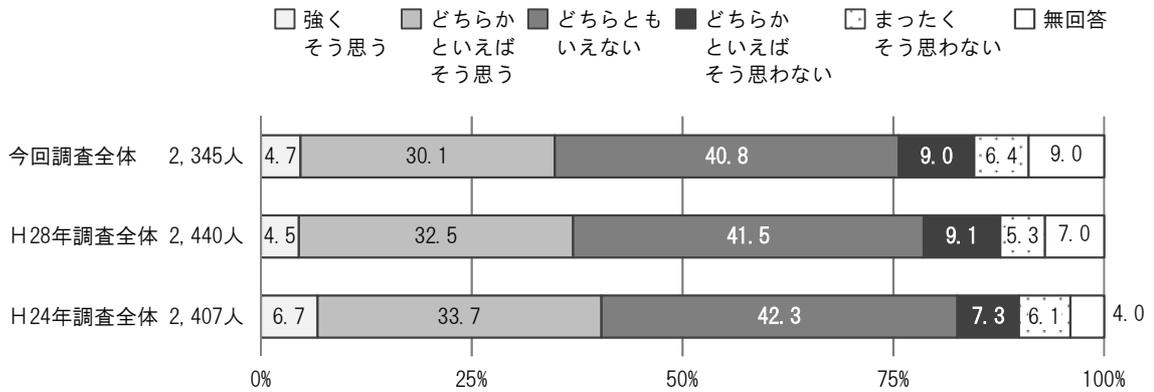


図 19-エ.2 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔経年比較〕**

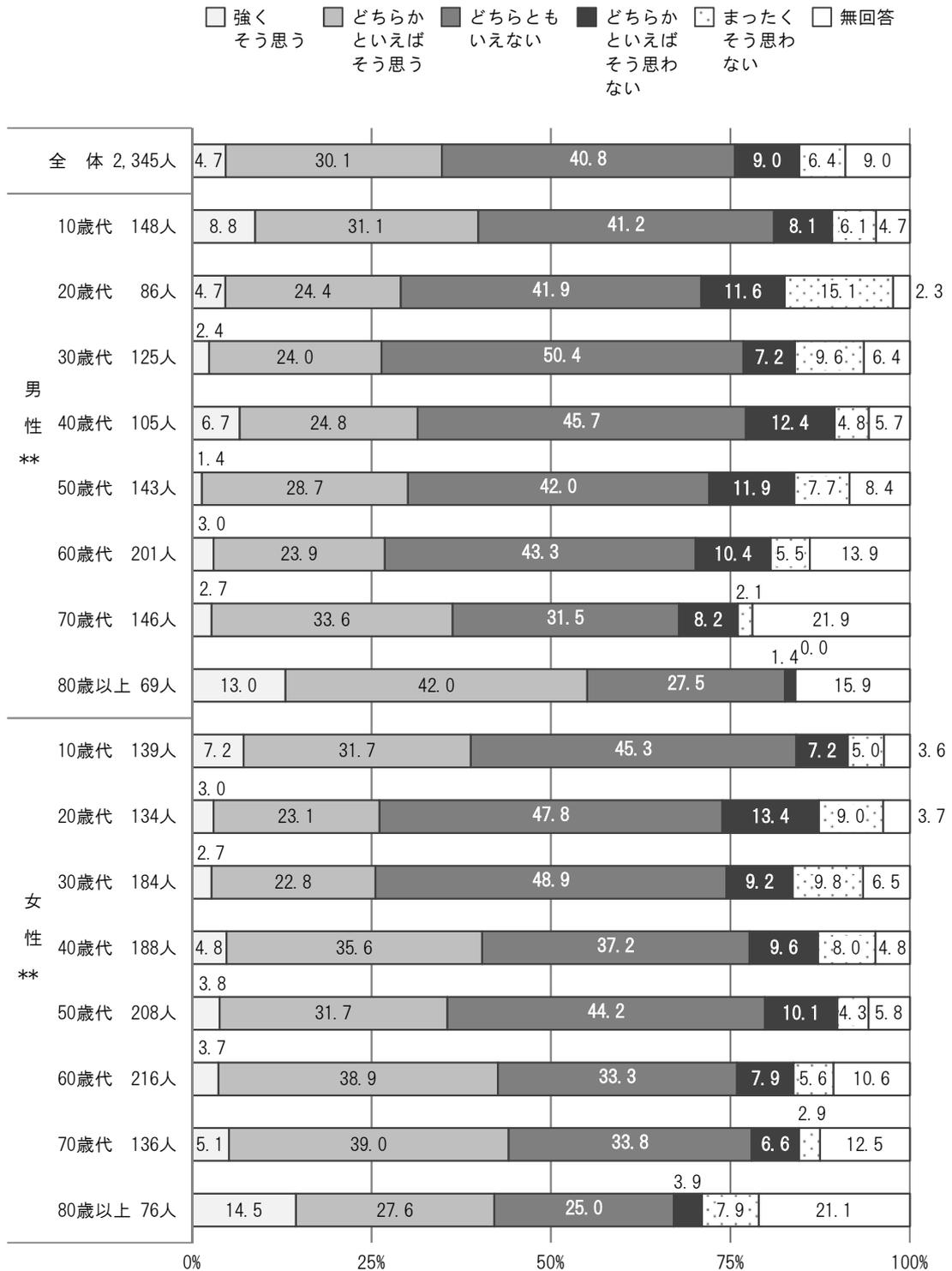


Ⅲ 調査結果

地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするかについて、性・年代別にみると、男性では「強くそう思う」が「10歳代」で8.8%、「80歳以上」で13.0%と他の年代より有意に高く、「どちらかといえばそう思う」が「70歳代」で33.6%、「80歳以上」で42.0%と有意に高くなっています。

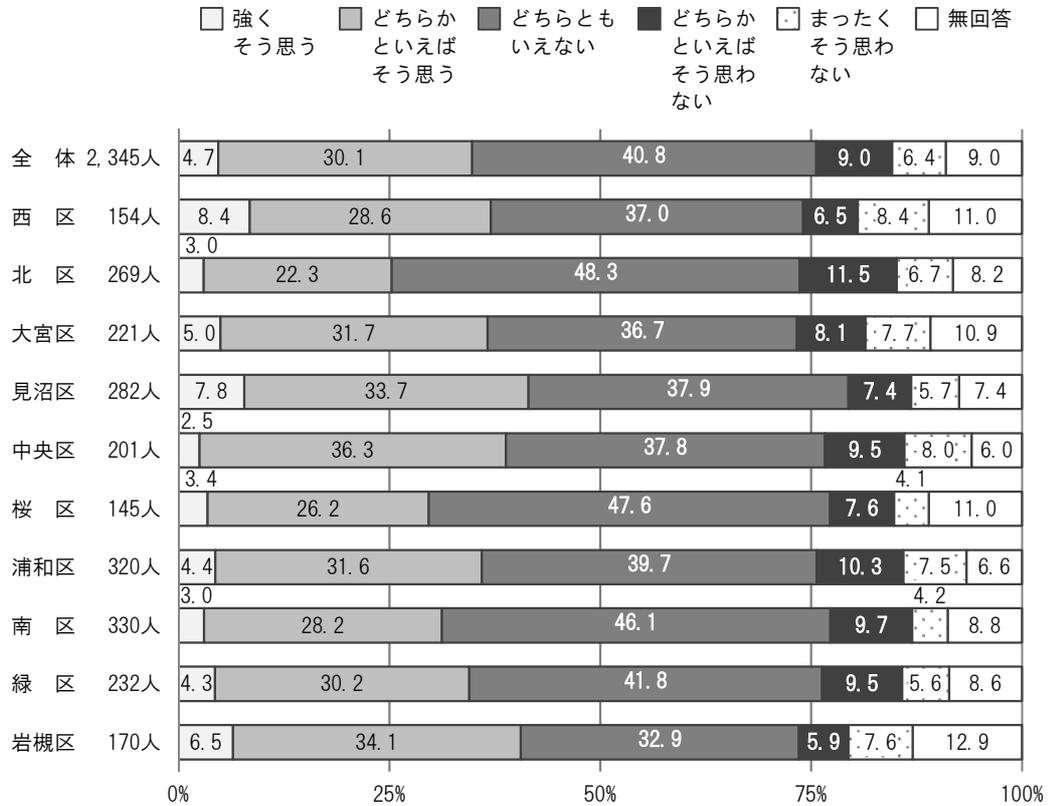
女性では「強くそう思う」が「80歳以上」で14.5%と有意に高く、「どちらかといえばそう思う」が「60歳代」で38.9%、「70歳代」で39.0%と有意に高くなっています。

図 19-エ.3 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔性・年代別〕



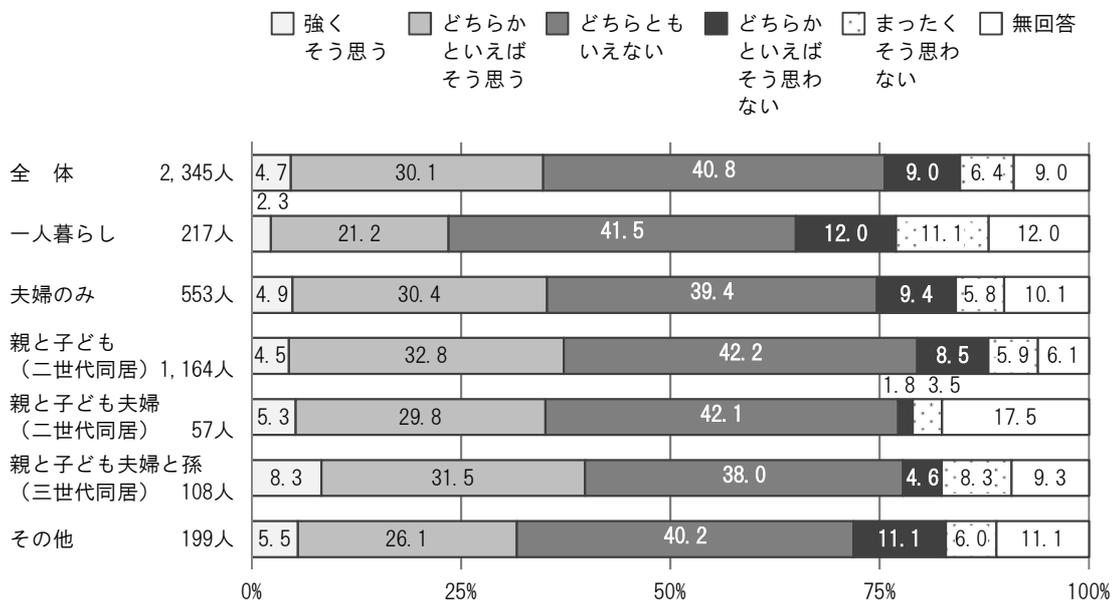
地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするかについて、居住区別にみると、「強くそう思う」が「西区」で8.4%、「見沼区」で7.8%と他区より有意に高く、「どちらともいえない」が「北区」で48.3%、「桜区」で47.6%、「南区」で46.1%と有意に高くなっています。

図 19-エ.4 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔居住区別〕*



地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするかについて、家族構成別にみると、「強くそう思う」が「親と子ども夫婦と孫（三世代同居）」で8.3%となっており、「まったくそう思わない」が「一人暮らし」で11.1%と他の家族構成より有意に高くなっています。

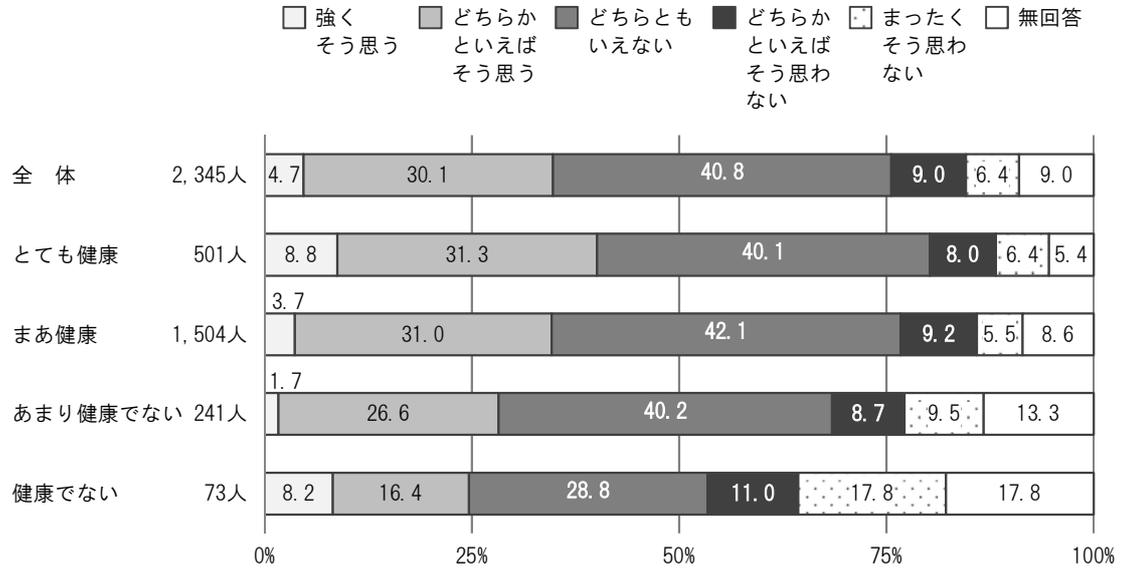
図 19-エ.5 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔家族構成別〕*



Ⅲ 調査結果

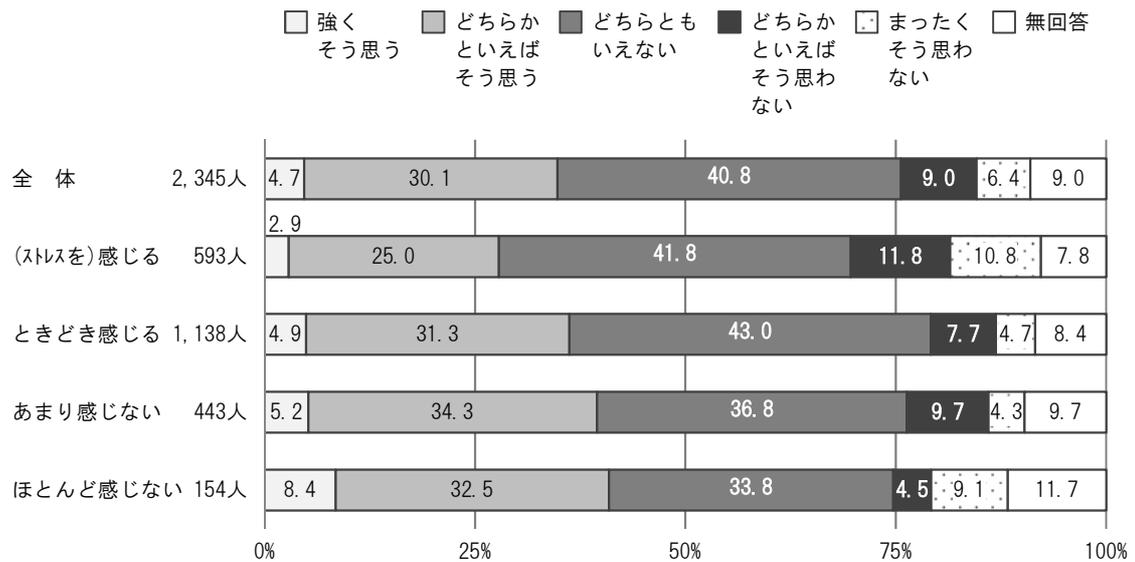
地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするかについて、健康状態別にみると、「強くそう思う」が「とても健康」で 8.8%と他の健康状態より有意に高く、「まったくそう思わない」が「健康でない」で 17.8%と有意に高くなっています。

図 19-エ.6 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔健康状態別〕**



地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするかについて、ストレスの状況別にみると、「強くそう思う」が「ほとんど感じない」で 8.4%と他のストレス状況より有意に高くなっています。また、「どちらかといえばそう思わない」が「(ストレスを感じる)」で 11.8%と有意に高く、「まったくそう思わない」が「(ストレスを感じる)」で 10.8%と有意に高くなっています。

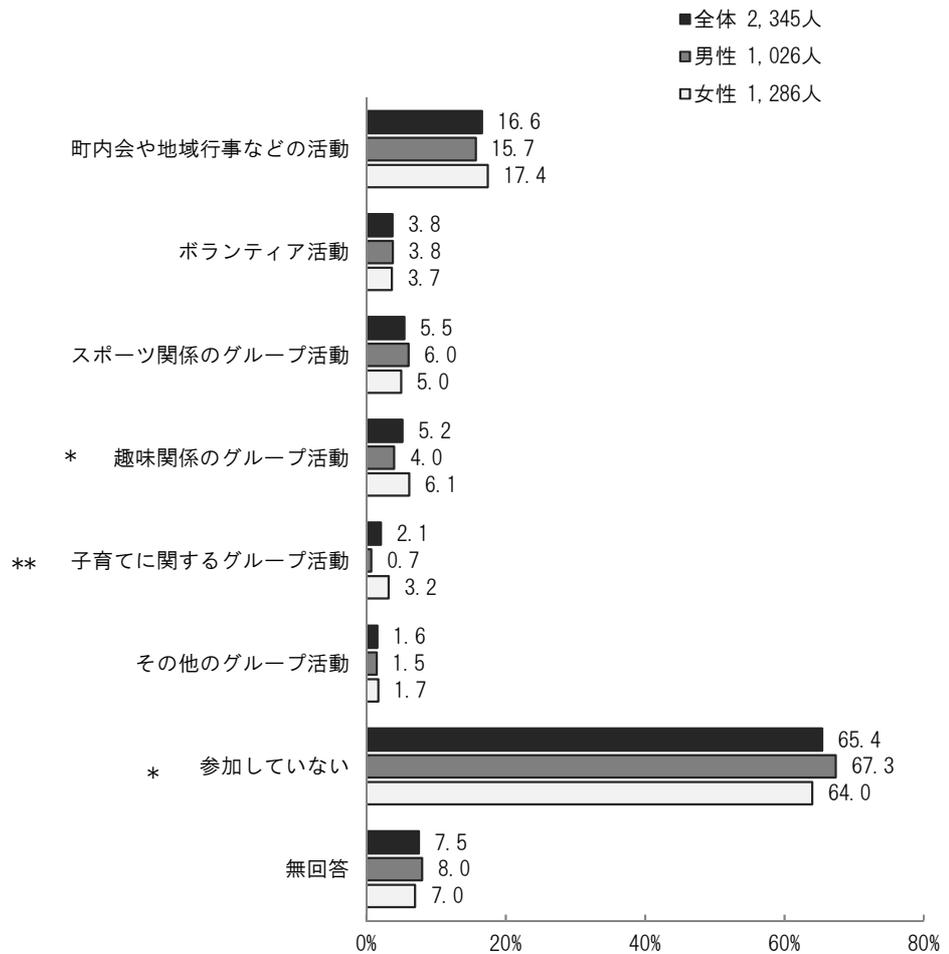
図 19-エ.7 地域の人々は問題が生じた場合、力を合わせて解決しようとするか〔ストレスの状況別〕**



(20) あなたは、地域で活動するグループに属していますか。(〇はあてはまるものすべて)
 「6. その他のグループ活動」を選んだ場合は、その内容を記入してください。〈B: 問 20〉

地域で活動するグループについては、「参加していない」が65.4%、「町内会や地域行事などの活動」が16.6%となっています。
 性別にみると、男性では「参加していない」が67.3%と女性より有意に高くなっています。
 女性では「子育てに関するグループ活動」が3.2%と男性より有意に高くなっています。

図 20 地域で活動するグループ（複数回答）〔全体・性別〕



「その他」の内容	
項目	件数
宗教活動	5
各種組合	4
体操・ラジオ体操	3
マンションの自治会・管理組合	3
老人会	2
福祉関係	2
その他	10

Ⅲ 調査結果

地域で活動するグループについて、性・年代別にみると、男性では「町内会や地域行事などの活動」が「70歳代」で21.2%、「80歳以上」で26.1%と他の年代より有意に高く、「子育てに関するグループ活動」が「40歳代」で5.7%と有意に高くなっています。

女性では「町内会や地域行事などの活動」が「40歳代」で25.5%、「60歳代」で21.8%と有意に高く、「趣味関係のグループ活動」が「60歳代」で11.6%、「70歳代」で18.4%、「80歳以上」で10.5%と有意に高くなっています。

表 20.1 地域で活動するグループ（複数回答）〔性・年代別〕

単位：%

項目	回答者数 (人)	**/**	**/-	-/**	**/**	**/**	-/**	**/**	参加していない	無回答
		地域行事などの活動	町内会や	ボランティア活動	スポーツ関係のグループ活動	趣味関係のグループ活動	子育てに関するグループ活動	その他のグループ活動		
全体	2,345	16.6	3.8	5.5	5.2	2.1	1.6	65.4	7.5	
男性計	1,026	15.7	3.8	6.0	4.0	0.7	1.5	67.3	8.0	
10歳代	148	6.8	1.4	3.4	2.0	0.0	0.0	83.8	3.4	
20歳代	86	1.2	1.2	4.7	2.3	0.0	0.0	87.2	4.7	
30歳代	125	13.6	1.6	4.0	0.0	0.8	1.6	76.0	5.6	
40歳代	105	21.0	4.8	5.7	2.9	5.7	1.0	63.8	3.8	
50歳代	143	16.8	4.2	7.7	2.8	0.0	1.4	62.9	9.8	
60歳代	201	18.9	2.5	6.5	4.0	0.0	1.5	61.7	11.9	
70歳代	146	21.2	6.8	8.2	7.5	0.0	3.4	54.1	13.0	
80歳以上	69	26.1	11.6	8.7	14.5	0.0	2.9	50.7	5.8	
女性計	1,286	17.4	3.7	5.0	6.1	3.2	1.7	64.0	7.0	
10歳代	139	7.2	5.0	0.0	0.0	0.0	2.2	81.3	4.3	
20歳代	134	5.2	1.5	0.0	1.5	1.5	0.0	85.8	4.5	
30歳代	184	17.9	1.6	1.1	1.1	9.8	0.0	67.4	5.4	
40歳代	188	25.5	3.7	5.3	2.1	8.5	1.6	59.6	4.8	
50歳代	208	19.7	3.8	5.3	5.8	1.0	1.4	63.9	5.8	
60歳代	216	21.8	3.7	6.9	11.6	0.5	1.9	56.9	8.8	
70歳代	136	19.9	7.4	15.4	18.4	0.7	5.9	42.6	11.8	
80歳以上	76	14.5	2.6	6.6	10.5	0.0	1.3	55.3	15.8	

地域で活動するグループについて、居住区別にみると、「町内会や地域行事などの活動」が「緑区」で21.1%、「岩槻区」で22.4%と他区より有意に高く、「スポーツ関係のグループ活動」が「中央区」で10.9%、「岩槻区」で10.6%と有意に高くなっています。

表 20.2 地域で活動するグループ（複数回答）〔居住区別〕 単位：%

項目	回答者数（人）	**		**					**	無回答
		町内会や地域行事などの活動	ボランティア活動	スポーツ関係のグループ活動	趣味関係のグループ活動	子育てに関するグループ活動	その他のグループ活動	参加していない		
全体	2,345	16.6	3.8	5.5	5.2	2.1	1.6	65.4	7.5	
居住区	西区	154	26.6	4.5	3.2	5.8	1.9	1.9	54.5	9.1
	北区	269	15.6	4.1	3.7	3.7	1.5	1.1	71.4	6.3
	大宮区	221	14.9	3.6	4.1	3.6	0.5	2.7	67.4	7.7
	見沼区	282	16.7	2.8	6.0	5.0	2.1	0.4	66.3	7.4
	中央区	201	19.4	4.0	10.9	5.0	4.0	2.0	65.2	4.5
	桜区	145	13.8	5.5	1.4	5.5	2.1	2.8	65.5	10.3
	浦和区	320	11.6	2.5	4.7	5.0	1.6	2.2	72.2	6.6
	南区	330	12.1	3.0	5.2	6.1	2.4	1.5	68.8	6.4
	緑区	232	21.1	3.9	4.7	4.3	3.4	1.3	59.5	9.5
岩槻区	170	22.4	6.5	10.6	8.8	0.6	0.6	52.9	9.4	

地域で活動するグループについて、家族構成別にみると、「町内会や地域行事などの活動」が「一人暮らし」で9.7%と有意に低くなっており、「趣味関係のグループ活動」が「夫婦のみ」で9.6%と有意に高くなっています。

表 20.3 地域で活動するグループ（複数回答）〔家族構成別〕 単位：%

項目	回答者数（人）	*		**	**			*	無回答	
		町内会や地域行事などの活動	ボランティア活動	スポーツ関係のグループ活動	趣味関係のグループ活動	子育てに関するグループ活動	その他のグループ活動	参加していない		
全体	2,345	16.6	3.8	5.5	5.2	2.1	1.6	65.4	7.5	
家族構成	一人暮らし	217	9.7	4.6	6.0	3.2	0.9	1.8	73.3	7.4
	夫婦のみ	553	19.5	4.2	6.9	9.6	0.2	1.4	60.6	8.9
	親と子ども（二世帯同居）	1,164	16.2	3.0	4.6	3.3	3.7	1.5	67.0	5.9
	親と子ども夫婦（二世帯同居）	57	21.1	8.8	10.5	3.5	1.8	0.0	56.1	14.0
	親と子ども夫婦と孫（三世帯同居）	108	20.4	5.6	3.7	5.6	0.0	2.8	64.8	6.5
	その他（1～5以外）	199	15.6	4.0	5.0	7.0	0.5	2.5	66.8	8.5

5 たばこについて

(21) あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つだけ) < B : 問 21 >

喫煙状況は、「吸わない」が72.2%、「吸う」が10.8%となっています。
 性別にみると、男性では「吸う」が17.0%と、女性より11.3ポイント有意に高く、女性では「吸わない」が84.8%と、男性より28.2ポイント有意に高くなっています。
 H24年調査と比較すると、「20歳以上全体」で「吸う」が4.2ポイント、男性の「30歳代」で「吸う」が20.1ポイント、女性の「30歳代」で「吸う」が10.2ポイント有意に減少しています。
 H28年調査と比較すると、男性の「30歳代」で「吸う」が13.3ポイント有意に減少しています。

図 21.1 喫煙状況〔全体・性別〕**

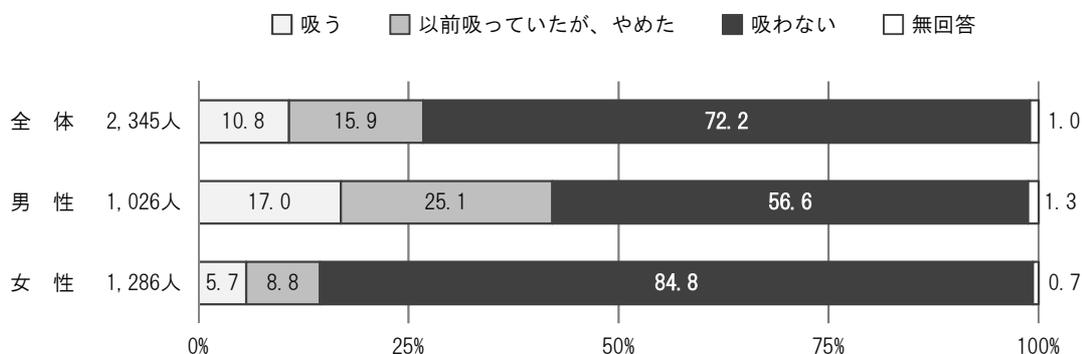


表 21 たばこを「吸う」割合〔経年比較〕

単位：%、ポイント

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	変化ポイント	
				今回調査－H24年調査	今回調査－H28年調査
20歳以上全体	16.4	13.5	12.2	-4.2	-1.3
20歳以上男性	24.8	23.2	19.7	-5.1	-3.5
20歳代	20.4	20.5	11.6	-8.8	-8.9
30歳代	39.3	32.5	19.2	-20.1	-13.3
40歳代	35.3	32.7	22.9	-12.4	-9.8
50歳代	25.2	25.9	25.2	0.0	-0.7
60歳代	25.5	26.4	23.9	-1.6	-2.5
70歳代	16.7	10.8	19.2	2.5	8.4
80歳以上	12.3	5.5	2.9	-9.4	-2.6
20歳以上女性	9.3	5.9	6.4	-2.9	0.5
20歳代	10.8	2.2	4.5	-6.3	2.3
30歳代	13.5	8.2	3.3	-10.2	-4.9
40歳代	13.5	6.7	12.2	-1.3	5.5
50歳代	7.5	8.3	8.2	0.7	-0.1
60歳代	8.9	6.0	8.3	-0.6	2.3
70歳代	3.8	4.4	2.2	-1.6	-2.2
80歳以上	1.6	0.0	0.0	-1.6	0.0
19歳以下全体	1.5	1.0	0.7	-0.8	-0.3
男性	2.5	2.2	1.4	-1.1	-0.8
女性	0.7	0.0	0.0	-0.7	0.0

計画における数値目標のデータ



成人の喫煙率（喫煙をやめたい人がやめる）

- ・男性 19.7%（目標値 18%） 女性 6.4%（目標値 5%）
 <問 21 で「吸う」と答えた人の割合>

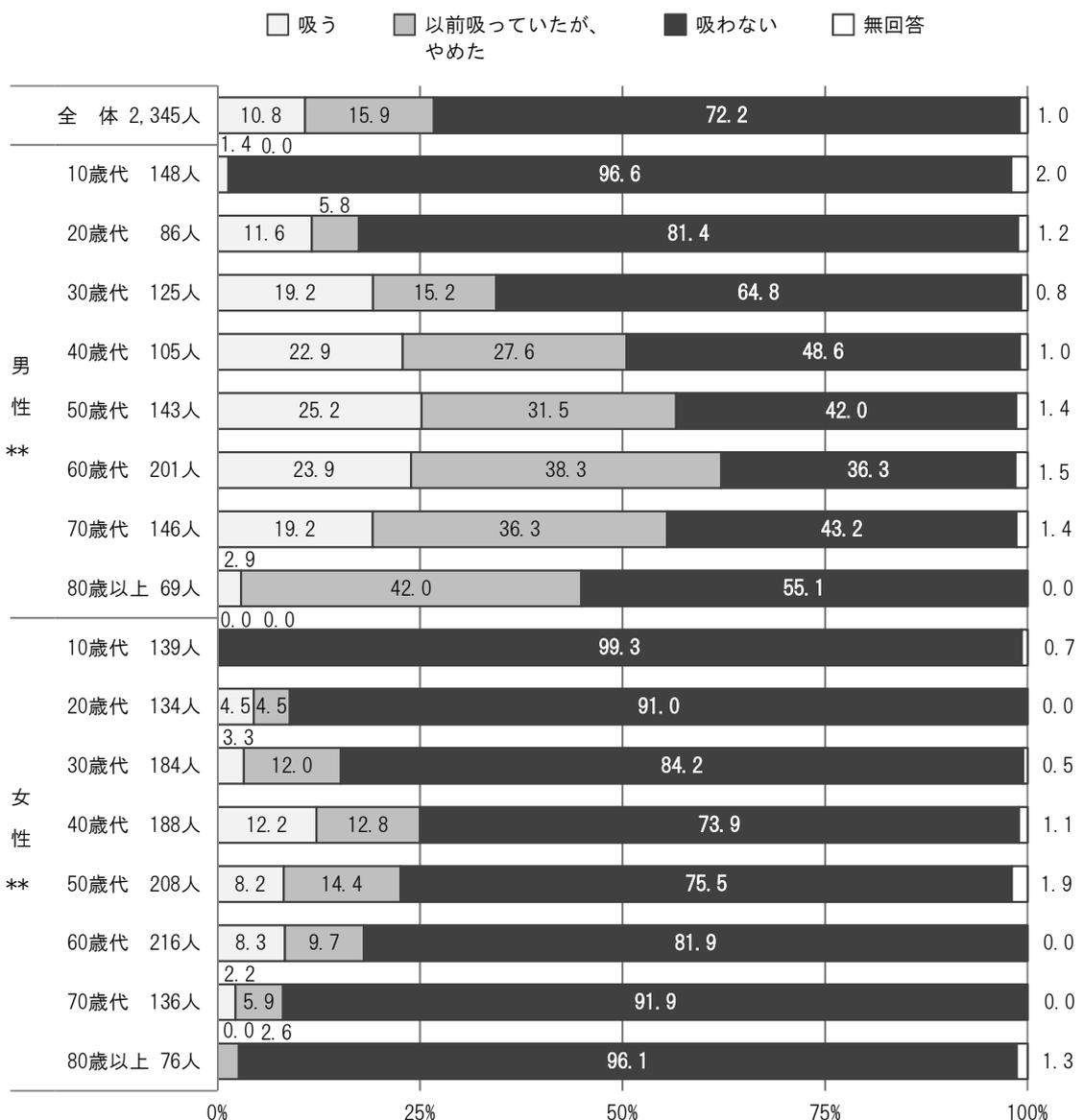


未成年者の喫煙率

- ・全体 0.7%（目標値 なくす）
 <問 21 で「吸う」と答えた人の割合>

喫煙状況を性・年代別にみると、男性では「吸う」が「50 歳代」で 25.2%、「60 歳代」で 23.9%と他の年代より有意に高く、「以前吸っていたが、やめた」が「60 歳代」で 38.3%、「70 歳代」で 36.3%、「80 歳以上」で 42.0%と有意に高くなっています。
 女性では「吸う」が「40 歳代」で 12.2%と有意に高く、「以前吸っていたが、やめた」が「40 歳代」で 12.8%、「50 歳代」で 14.4%と有意に高くなっています。

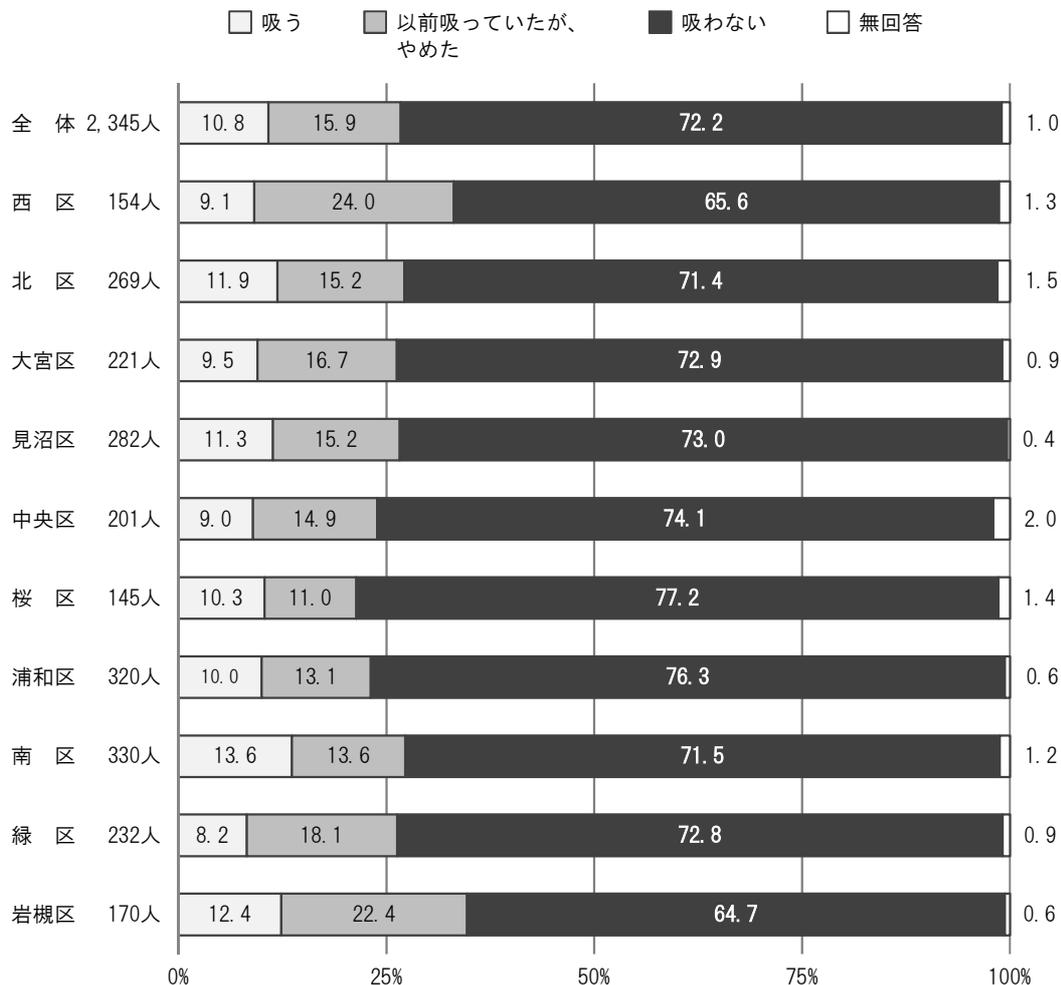
図 21.2 喫煙状況〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

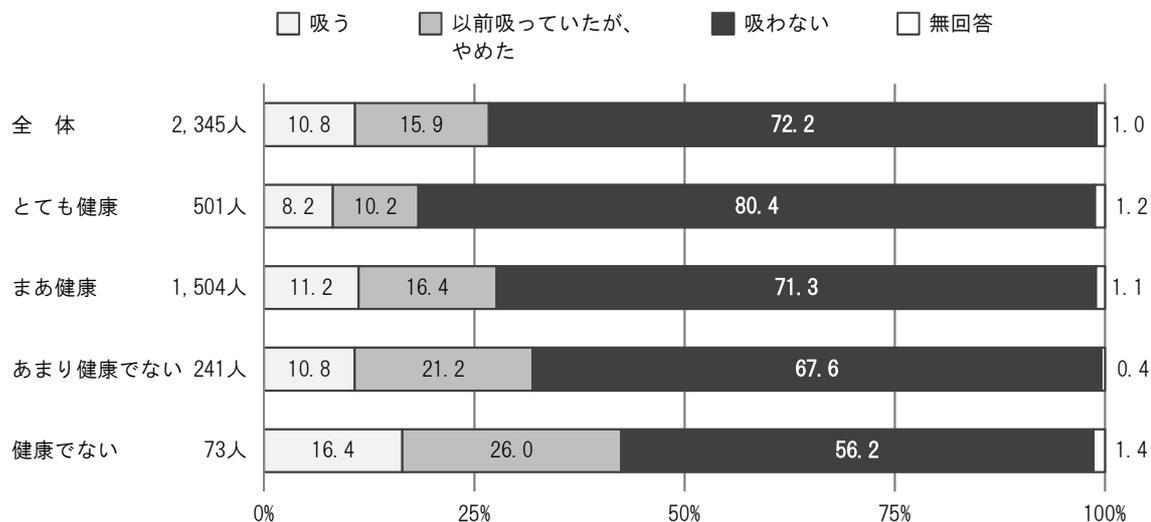
喫煙状況を居住区別にみると、「吸う」が「南区」で13.6%と最も高く、「吸わない」が「桜区」で77.2%と最も高くなっています。

図 21.3 喫煙状況〔居住区別〕



喫煙状況を健康状態別にみると、「以前吸っていたが、やめた」が「あまり健康でない」で21.2%、「健康でない」で26.0%と他の健康状態より有意に高く、「吸わない」が「とても健康」で80.4%と有意に高くなっています。

図 21.4 喫煙状況〔健康状態別〕**



【B：問21で「吸う」とお答えの方のみ】

(21) -2 あなたは、たばこをやめたいと思いますか。(〇は1つだけ) <B：問21-2>

たばこをやめたいと思うかについて、「吸う本数を減らしたい」が44.3%、「やめたくない」が30.4%、「やめたい」が22.1%となっています。

性別にみると、女性は「やめたい」が31.5%と、男性より13.1ポイント高くなっています。

H24年調査と比較すると、「やめたい」が12.4ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「やめたい」が4.2ポイント減少しています。

図 21-2.1 今後の禁煙の希望〔全体・性別〕

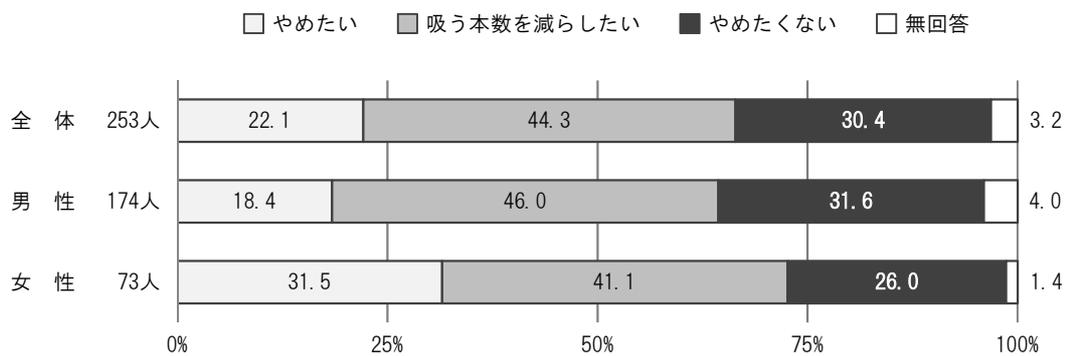
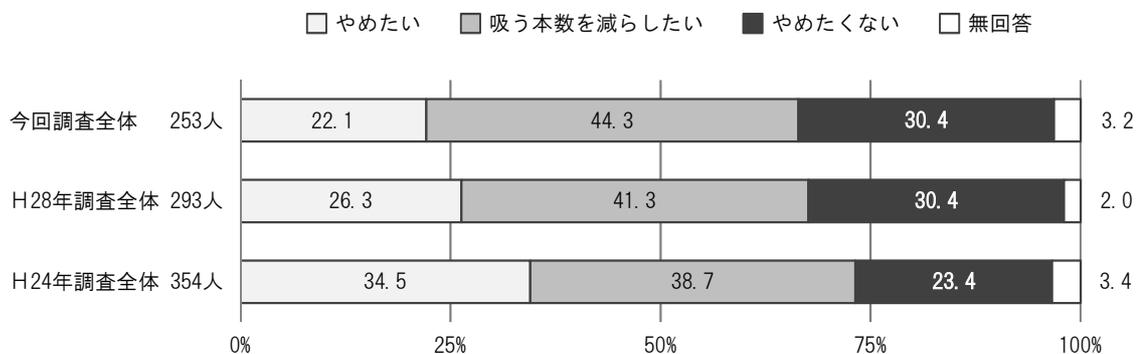


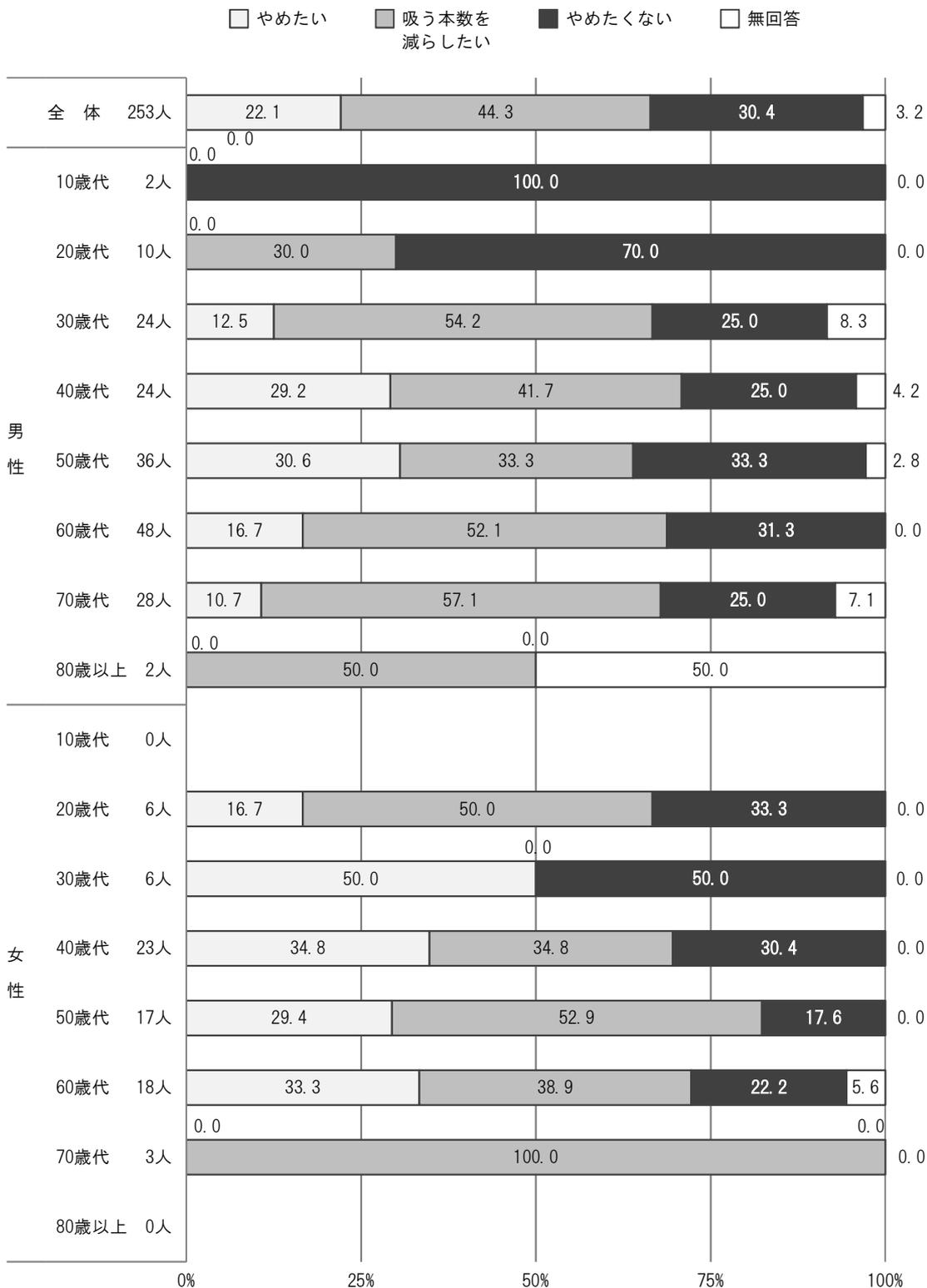
図 21-2.2 今後の禁煙の希望〔経年比較〕**



Ⅲ 調査結果

たばこをやめたいと思うかについて性・年代別にみると、男性では「やめたい」が「40 歳代」で 29.2%、「50 歳代」で 30.6%となっています。
 女性では「やめたい」が「30 歳代」で 50.0%、「40 歳代」で 34.8%、「50 歳代」で 29.4%、「60 歳代」で 33.3%となっています。

図 21-2.3 今後の禁煙の希望〔性・年代別〕



【B：問21で「吸う」とお答えの方のみ】

問21-3 たばこを吸うときに周囲の人の受動喫煙に気がつかっていますか。

(○は1つだけ) < B：問21-3 >

たばこを吸う人が周囲の人の受動喫煙に気がつかっているかについて、「いつも気がつかっている」が51.8%と最も高く、次いで「気がつかうことが多い」が33.6%となっています。

性別にみると、男性は「気がつかうことが多い」が39.7%と、女性より19.2ポイント有意に高くなっています。女性は「いつも気がつかっている」が69.9%と、男性より25.1ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「いつも気がつかっている」が13.9ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「いつも気がつかっている」が11.2ポイント有意に増加しています。

図21-3.1 受動喫煙に気がつかっているか〔全体・性別〕**

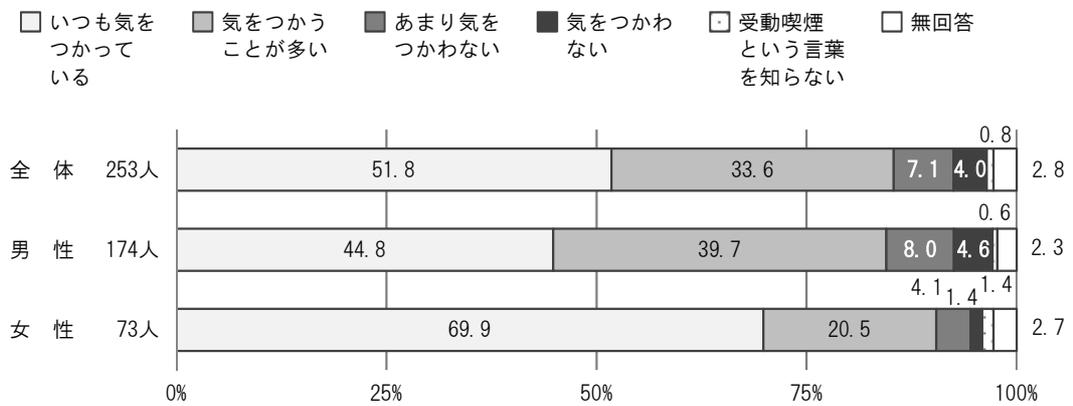
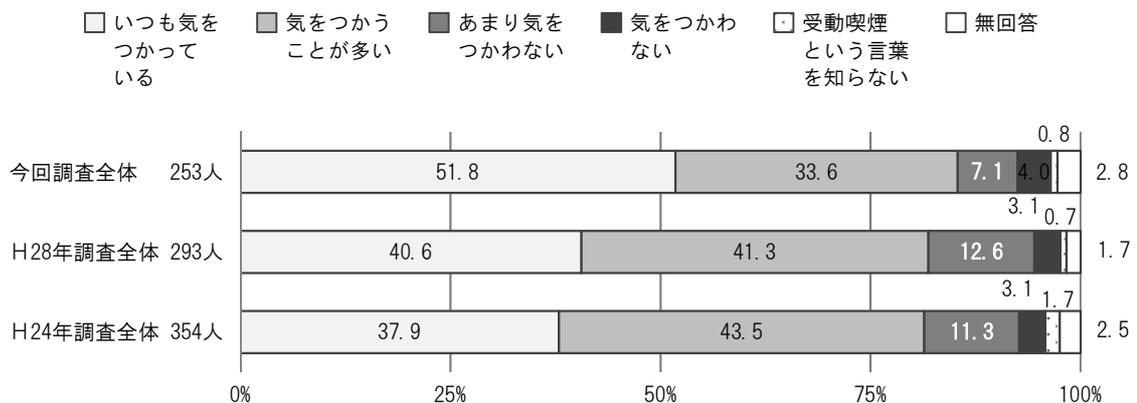


図21-3.2 受動喫煙に気がつかっているか〔経年比較〕**

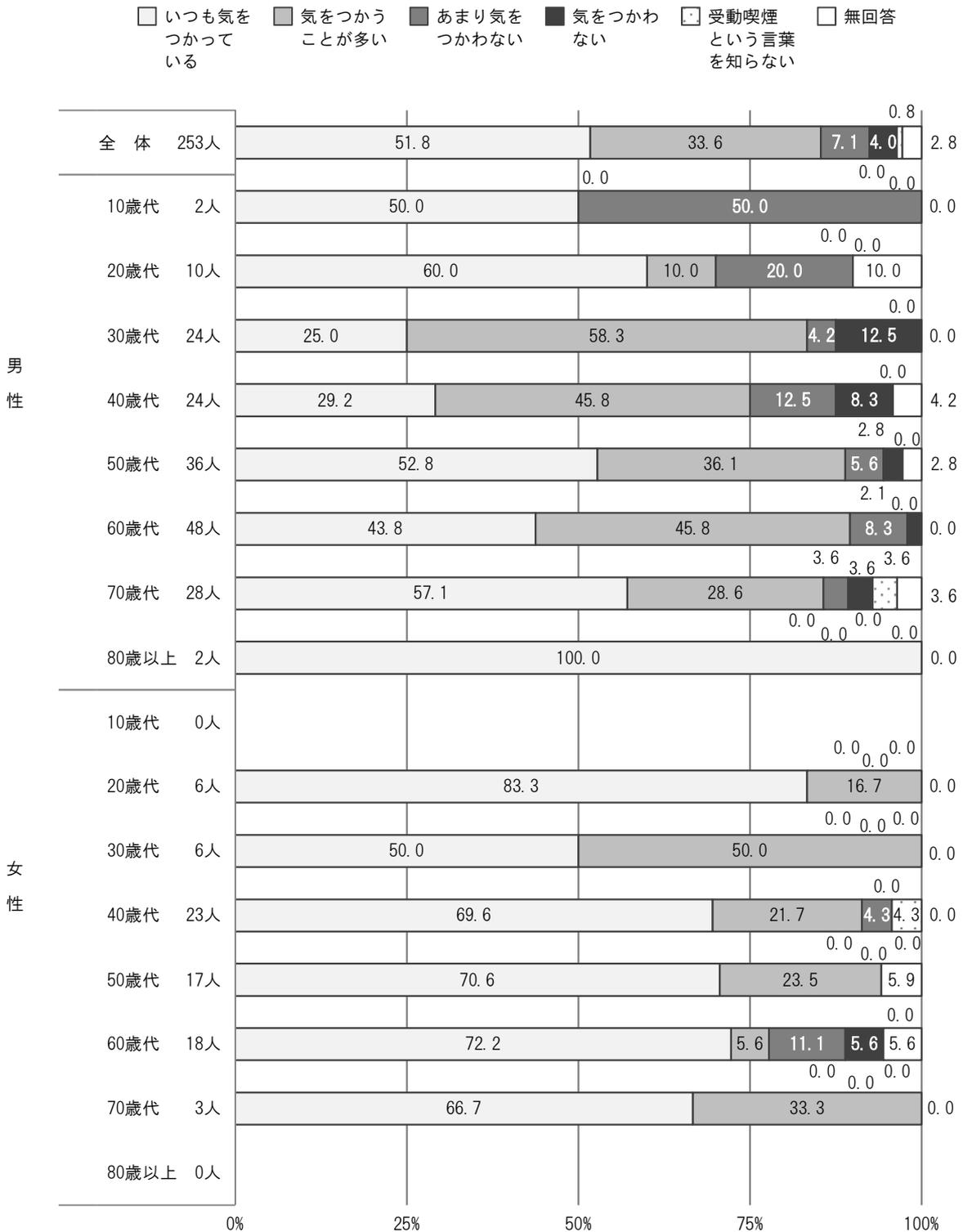


Ⅲ 調査結果

たばこを吸う人が周囲の人の受動喫煙に気がつかっているかについて、性・年代別にみると、男性では「いつも気がつかっている」が「20歳代」で60.0%、「50歳代」で52.8%となっています。

女性では「いつも気がつかっている」が「20歳代」で83.3%、「50歳代」で70.6%、「60歳代」で72.2%となっています。

図 21-3.3 受動喫煙に気がつかっているか〔性・年代別〕



【B：問21で「吸う」「以前吸っていたが、やめた」とお答えの方のみ】

(21) - 4 あなたが、はじめてたばこを吸ったのは何歳ですか。(〇は1つだけ)

< B：問21-4 >

はじめてたばこを吸った年齢は、「20歳以上」が43.2%と最も高く、次いで「16～19歳」が41.9%となっています。

性別にみると、男性は「13～15歳」が8.6%と、女性より4.8ポイント有意に高くなっています。女性は「20歳以上」が51.6%と最も高く、男性より11.3ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「13～15歳」が1.8ポイント減少しています。

H28年調査と比較すると、あまり差はありません。

図 21-4.1 はじめてたばこを吸った年齢〔全体・性別〕*

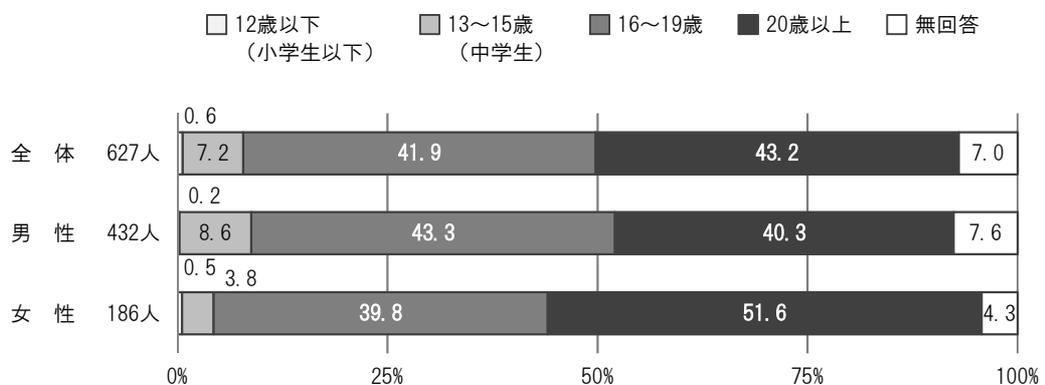
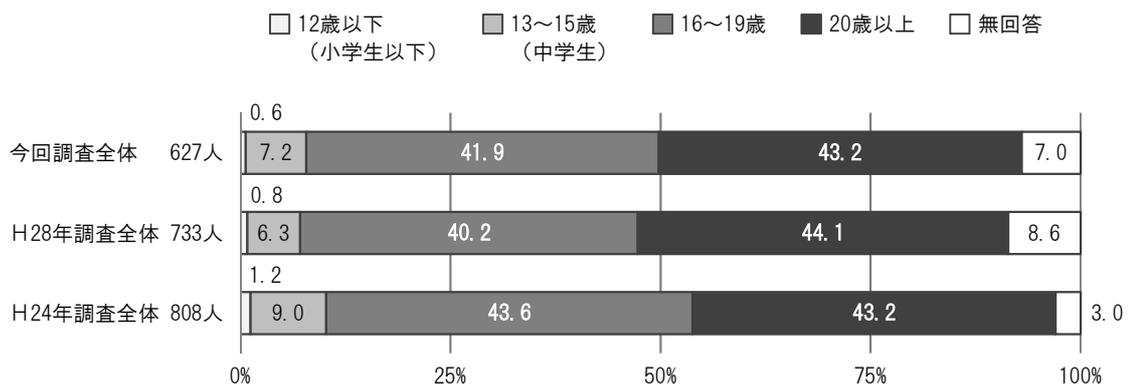


図 21-4.2 はじめてたばこを吸った年齢〔経年比較〕



Ⅲ 調査結果

(22) あなたは、COPD（慢性閉塞性肺疾患）について知っていますか。

(○は1つだけ) < B : 問 22 >

※COPDとは…病名ではなく、肺気腫や慢性気管支炎などの閉塞性肺疾患などの総称

COPDの認知度は、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがある」を合わせると47.7%となっています。

性別にみると、男女とも「まったく聞いたことがない」が最も高く、男性では「まったく聞いたことがない」が54.8%と、女性より8.2ポイント有意に高くなっています。女性では「言葉は聞いたことがある」が32.6%と、男性より7.7ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「言葉も内容も知っている」が8.8ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、あまり差はありません。

図 22.1 COPDの認知度〔全体・性別〕**

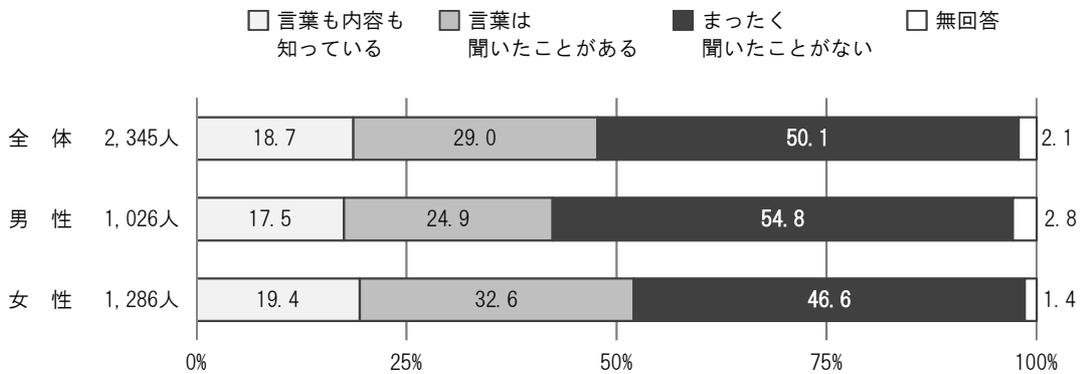
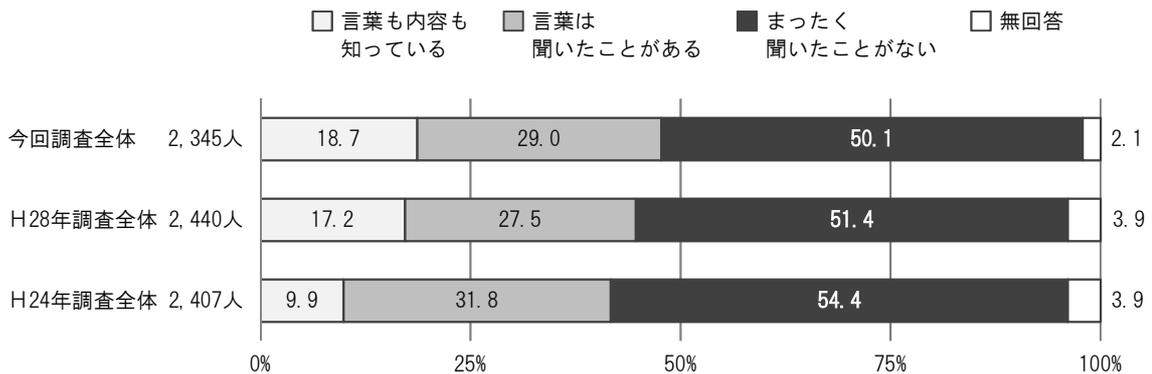


図 22.2 COPDの認知度〔経年比較〕**



計画における数値目標のデータ



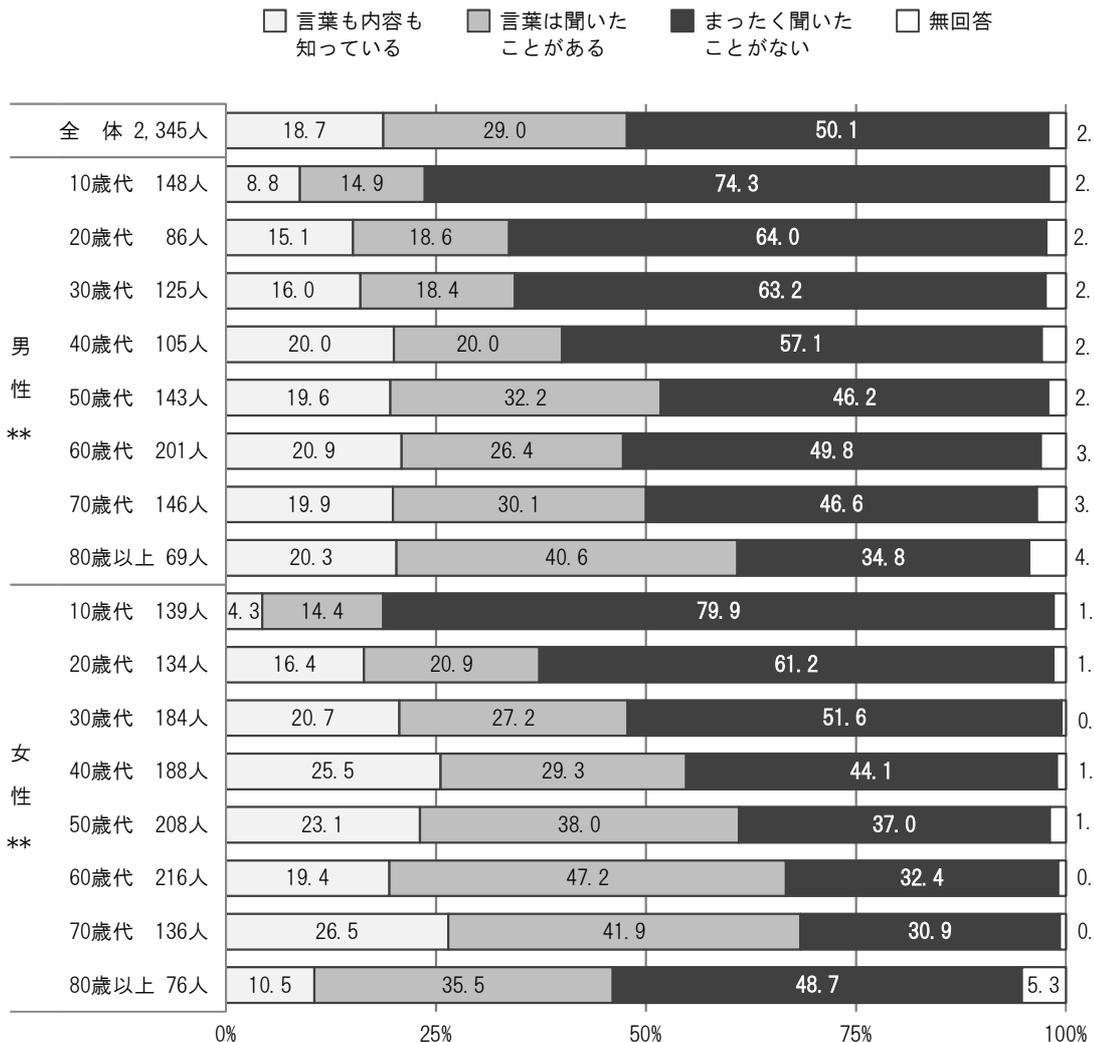
COPDを知っている人の割合

- ・全体 47.7% (目標値 80%)
- < 問 22 で「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがある」と答えた人の割合 >

COPDの認知度を性・年代別にみると、男性では「まったく聞いたことがない」が「10歳代」で74.3%と他の年代より有意に高く、「言葉は聞いたことがある」が「50歳代」で32.2%、「80歳以上」で40.6%と有意に高くなっています。

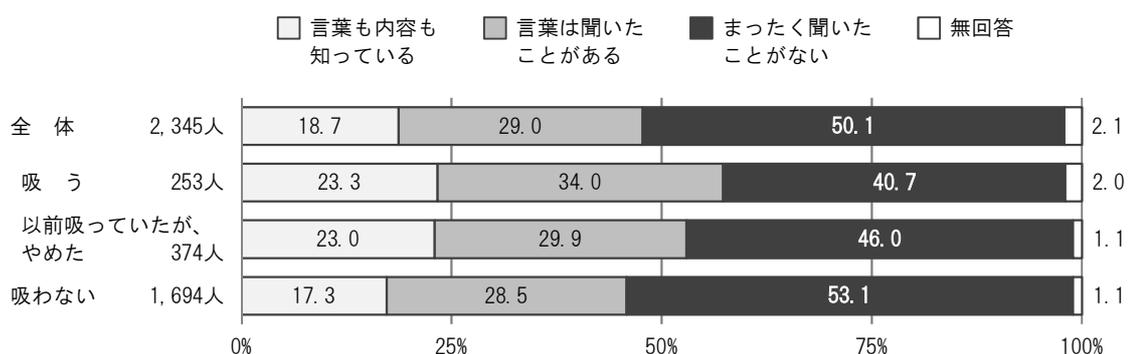
女性では「まったく聞いたことがない」が「10歳代」で79.9%、「20歳代」で61.2%と有意に高く、「言葉は聞いたことがある」が「60歳代」で47.2%、「70歳代」で41.9%と有意に高く、「言葉も内容も知っている」が「40歳代」で25.5%、「70歳代」で26.5%と有意に高くなっています。

図 22.3 COPDの認知度〔性・年代別〕



COPDの認知度を喫煙状況別にみると、「言葉も内容も知っている」が「吸う」で23.3%、「以前吸っていたが、やめた」で23.0%と他の喫煙状況より有意に高くなっています。

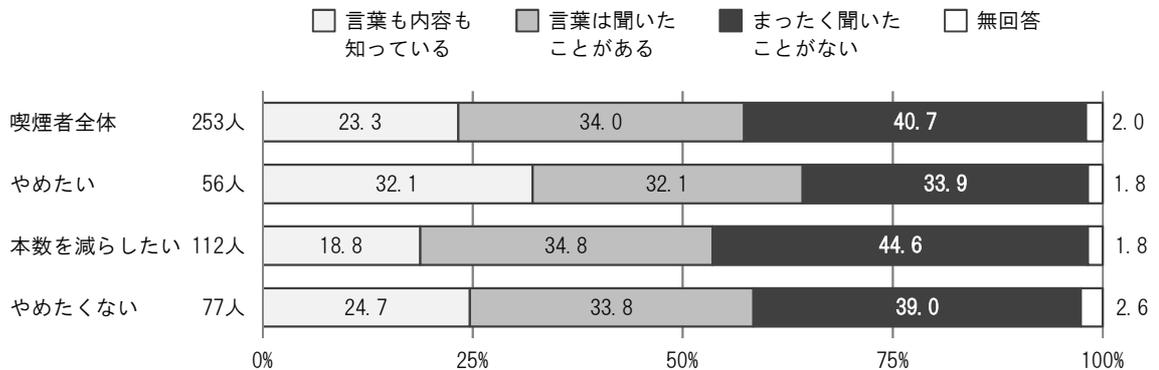
図 22.4 COPDの認知度〔喫煙状況別〕**



Ⅲ 調査結果

COPDの認知度を、たばこを吸う人の今後の禁煙の希望別にみると、「言葉も内容も知っている」が「やめたい」で32.1%となっています。

図 22.5 COPDの認知度〔今後の禁煙の希望別〕



COPDを知っている割合をH24年調査と比較すると、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがある」を合わせた割合は、男性では「80歳以上」で23.9ポイント増加しています。女性では「80歳以上」で22.2ポイント増加しています。

H28年調査と比較すると、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがある」を合わせた割合は、男性では「40歳代」で10.7ポイント増加しています。女性では「30歳代」と「40歳代」で10.7ポイント増加しています。

表 22 COPDを知っている割合〔経年比較・性・年代別〕

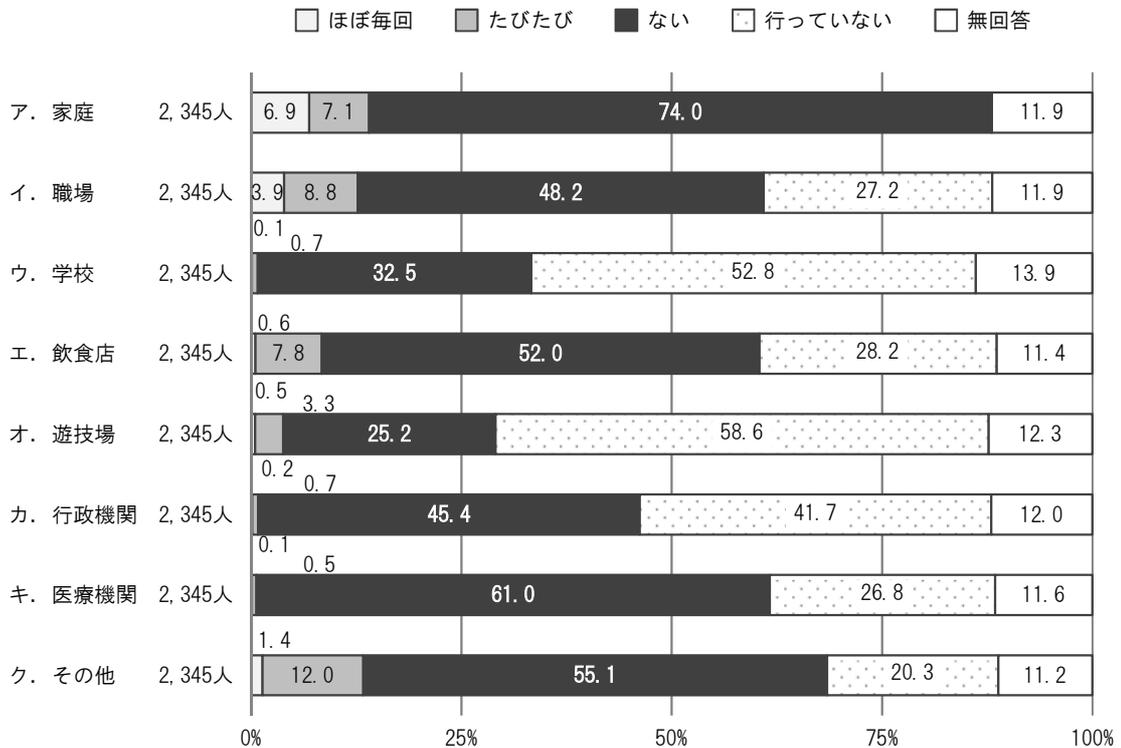
単位：%、ポイント

項目	H24年調査			H28年調査			今回調査			今回調査－H24年調査 C－A	今回調査－H28年調査 C－B
	言葉も内容も知っている (1)	言葉は聞いたことがある (2)	A＝ (1)＋(2)	言葉も内容も知っている (3)	言葉は聞いたことがある (4)	B＝ (3)＋(4)	言葉も内容も知っている (5)	言葉は聞いたことがある (6)	C＝ (5)＋(6)		
全体	9.9	31.8	41.7	17.2	27.5	44.7	18.7	29.0	47.7	6.0	3.0
男性計	7.8	29.0	36.8	14.3	27.1	41.4	17.5	24.9	42.4	5.6	1.0
10歳代	0.8	22.7	23.5	10.1	17.3	27.4	8.8	14.9	23.7	0.2	-3.7
20歳代	5.6	25.0	30.6	14.5	19.3	33.8	15.1	18.6	33.7	3.1	-0.1
30歳代	9.3	23.4	32.7	17.9	19.5	37.4	16.0	18.4	34.4	1.7	-3.0
40歳代	4.2	38.7	42.9	8.2	21.1	29.3	20.0	20.0	40.0	-2.9	10.7
50歳代	14.5	29.6	44.1	19.6	28.0	47.6	19.6	32.2	51.8	7.7	4.2
60歳代	8.8	31.9	40.7	14.7	30.5	45.2	20.9	26.4	47.3	6.6	2.1
70歳代	7.3	29.2	36.5	15.7	37.3	53.0	19.9	30.1	50.0	13.5	-3.0
80歳以上	9.6	27.4	37.0	12.3	45.2	57.5	20.3	40.6	60.9	23.9	3.4
女性計	11.5	34.2	45.7	19.6	28.0	47.6	19.4	32.6	52.0	6.3	4.4
10歳代	4.2	21.1	25.3	10.2	17.7	27.9	4.3	14.4	18.7	-6.6	-9.2
20歳代	12.2	28.8	41.0	21.6	20.1	41.7	16.4	20.9	37.3	-3.7	-4.4
30歳代	14.1	30.7	44.8	16.8	20.4	37.2	20.7	27.2	47.9	3.1	10.7
40歳代	14.0	30.9	44.9	21.5	22.6	44.1	25.5	29.3	54.8	9.9	10.7
50歳代	14.1	41.2	55.3	21.4	34.0	55.4	23.1	38.0	61.1	5.8	5.7
60歳代	10.2	44.5	54.7	22.7	36.3	59.0	19.4	47.2	66.6	11.9	7.6
70歳代	12.2	40.4	52.6	22.2	40.0	62.2	26.5	41.9	68.4	15.8	6.2
80歳以上	3.2	20.6	23.8	17.8	30.1	47.9	10.5	35.5	46.0	22.2	-1.9

(23) あなたは、この1ヶ月間に以下の場所で、自分以外の人が吸っているたばこの煙を吸う機会がありましたか。(〇はア〜ク、それぞれに1つずつ) < B : 問 23 >

自分以外の人たばこの煙を吸う機会(受動喫煙)について、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると「家庭」が14.0%と最も高く、次いで「その他」が13.4%、「職場」が12.7%となっています。

図 23.1 受動喫煙の機会〔全体〕



計画における数値目標のデータ



受動喫煙の機会を有する人の割合

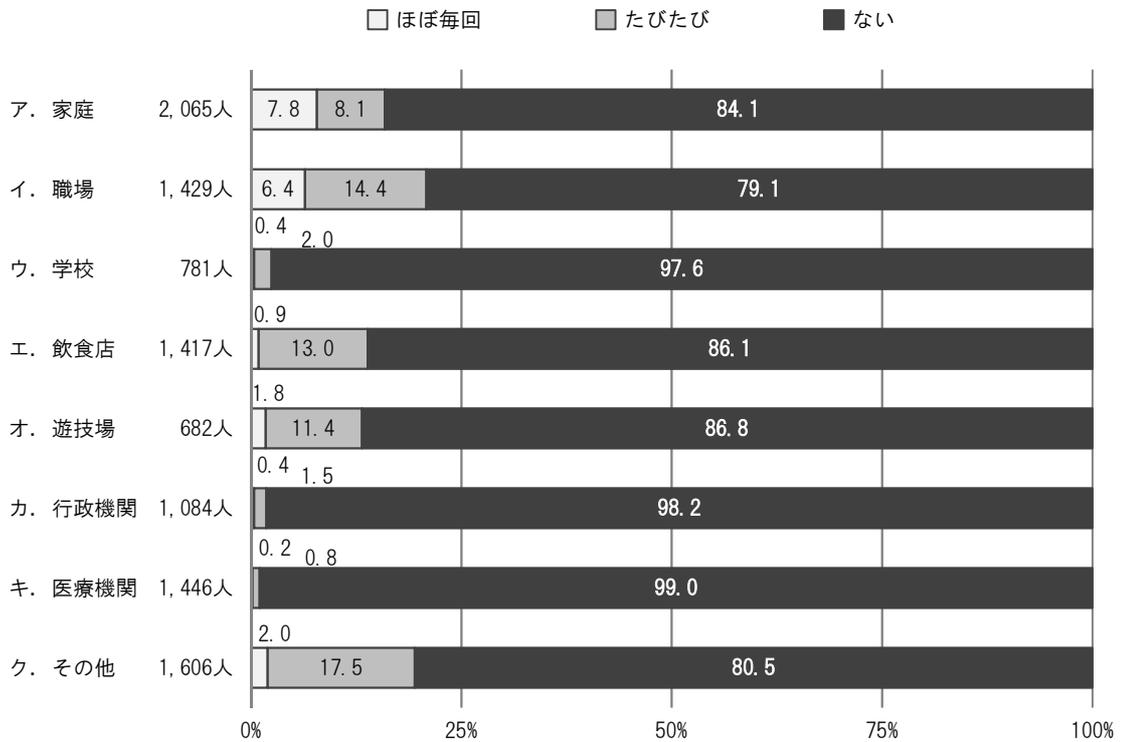
- ・家庭 14.0% (目標値 3%)
- ・職場 12.7% (目標値 受動喫煙のない職場の実現)
- ・学校 0.8% (目標値 小・中・高は0% それ以外は受動喫煙のない環境)
- ・飲食店 8.4% (目標値 15%)
- ・遊技場 3.8% (目標値 減らす ベース値 11.5%)
- ・行政機関 0.9% (目標値 0%)
- ・医療機関 0.6% (目標値 0%)

< 問 23 で「ほぼ毎回」「たびたび」と答えた人の割合 >

Ⅲ 調査結果

「行っていない」「無回答」を除いて、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせた割合は、「職場」が20.8%と最も高く、次いで「その他」が19.5%、「家庭」が15.9%となっています。

図 23.2 受動喫煙の機会〔行った人全体〕



「行っていない」「無回答」を除いて、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせた割合をH24年調査と比較すると、いずれも有意な減少がみられ、「家庭」が5.1ポイント減少しています。

H28年調査と比較すると、「家庭」と「行政機関」を除いて有意な減少がみられ、「職場」が11.7ポイント減少しています。

表 23 受動喫煙の機会があった割合（行った人）〔経年比較〕 単位：%、ポイント

項目		H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
ア. 家庭	ほぼ毎回＋たびたび	21.0	16.1	15.9	-5.1	-0.2
イ. 職場	ほぼ毎回＋たびたび	38.3	32.5	20.8	-17.5	-11.7
ウ. 学校	ほぼ毎回＋たびたび	10.3	6.4	2.4	-7.9	-4.0
エ. 飲食店	ほぼ毎回＋たびたび	52.0	44.5	13.9	-38.1	-30.6
オ. 遊技場	ほぼ毎回＋たびたび	46.4	34.7	13.2	-33.2	-21.5
カ. 行政機関	ほぼ毎回＋たびたび	5.9	3.2	1.9	-4.0	-1.3
キ. 医療機関	ほぼ毎回＋たびたび	2.4	2.4	1.0	-1.4	-1.4
ク. その他	ほぼ毎回＋たびたび	27.6	26.2	19.5	-8.1	-6.7

ア. 家庭（「無回答」を除く）

「家庭」での受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると15.9%となっています。

性別にみると、男性では「ない」が87.2%と、女性より5.2ポイント有意に高くなっています。女性では「ほぼ毎回」が8.8%と、男性より2.7ポイント有意に高くなっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10歳代」で24.2%、「20歳代」で24.4%となっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10歳代」で26.5%、「20歳代」で26.6%となっており、「ほぼ毎回」が「20歳代」で14.1%、「40歳代」で13.7%と他の年代より有意に高くなっています。

図 23-ア.1 家庭での受動喫煙〔全体・性別〕**

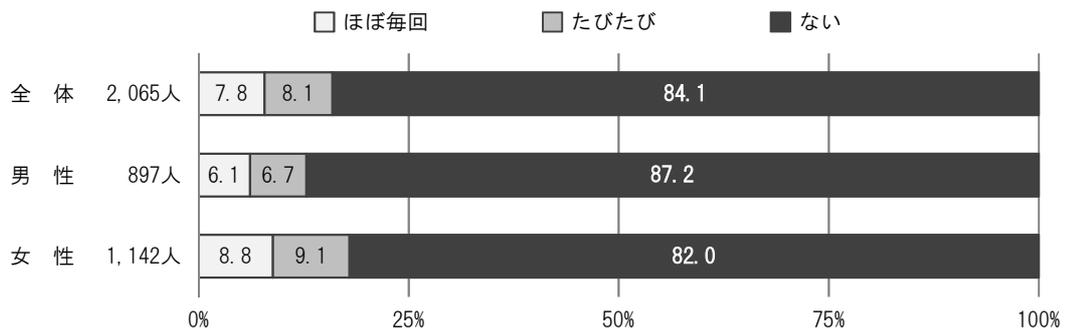
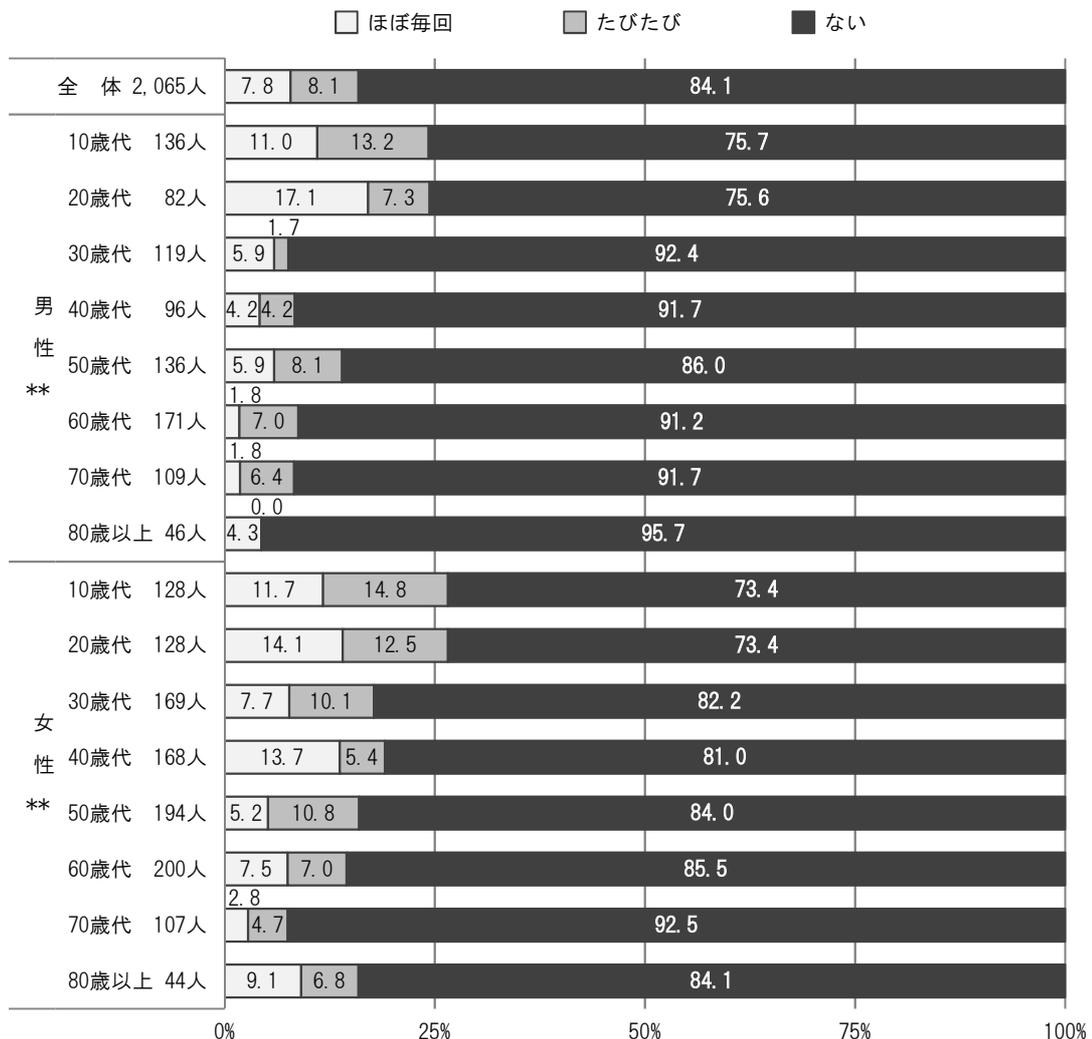


図 23-ア.2 家庭での受動喫煙〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

イ. 職場（「行っていない」「無回答」を除く）

「職場」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると20.8%となっています。

性別にみると、男性では「たびたび」が20.3%と、女性より11.2ポイント有意に高くなっています。女性では「ない」が87.8%と、男性より18.2ポイント有意に高くなっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「30歳代」で38.2%となっており、「ほぼ毎回」が「20歳代」で19.4%と他の年代より有意に高くなっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「20歳代」で14.8%、「30歳代」で15.5%となっており、「ほぼ毎回」が「20歳代」で7.9%と有意に高くなっています。

図 23-イ.1 職場での受動喫煙〔全体・性別〕**

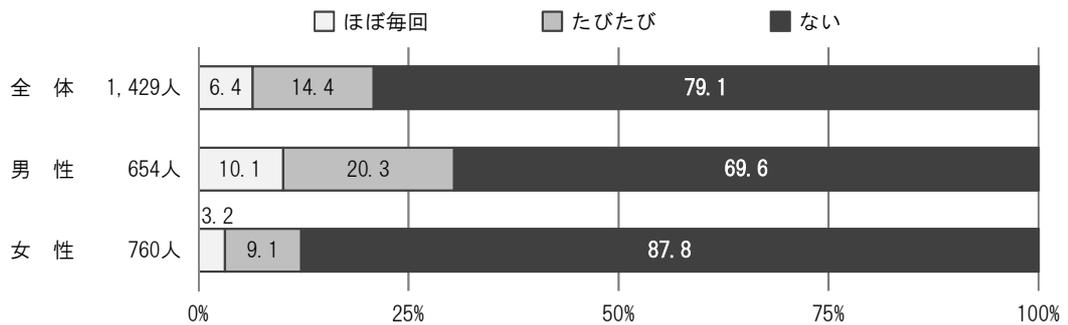
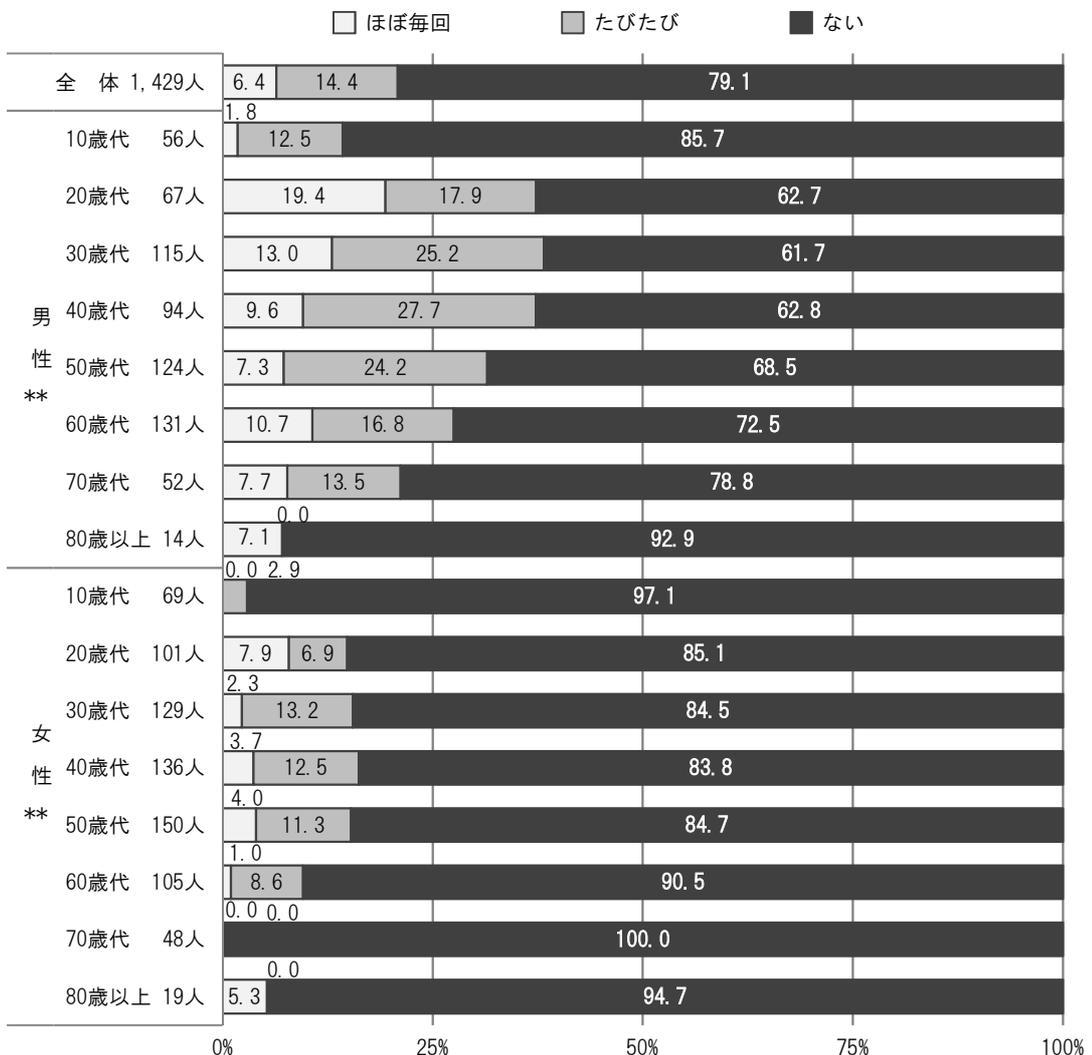


図 23-イ.2 職場での受動喫煙〔性・年代別〕



ウ. 学校（「行っていない」「無回答」を除く）

「学校」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると 2.4%となっています。

性別にみると、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて、男性では 3.0%、女性では 2.0%となっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10歳代」で 4.7%となっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10歳代」で 5.8%、「20歳代」で 5.2%となっており、「たびたび」が「10歳代」で 5.8%と他の年代より有意に高くなっています。

図 23-ウ.1 学校での受動喫煙〔全体・性別〕

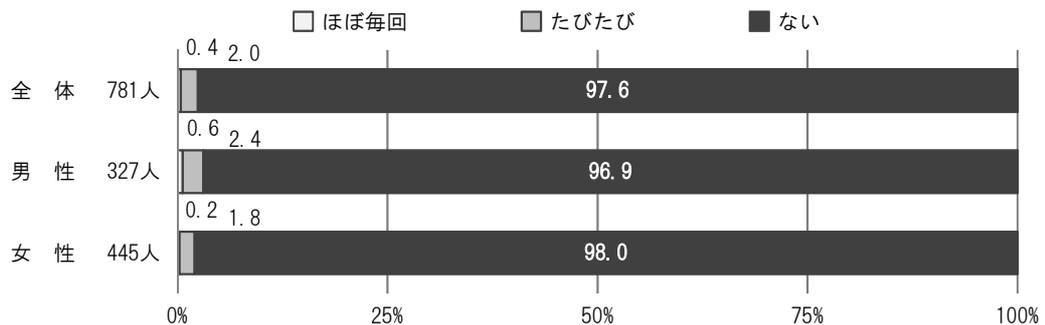
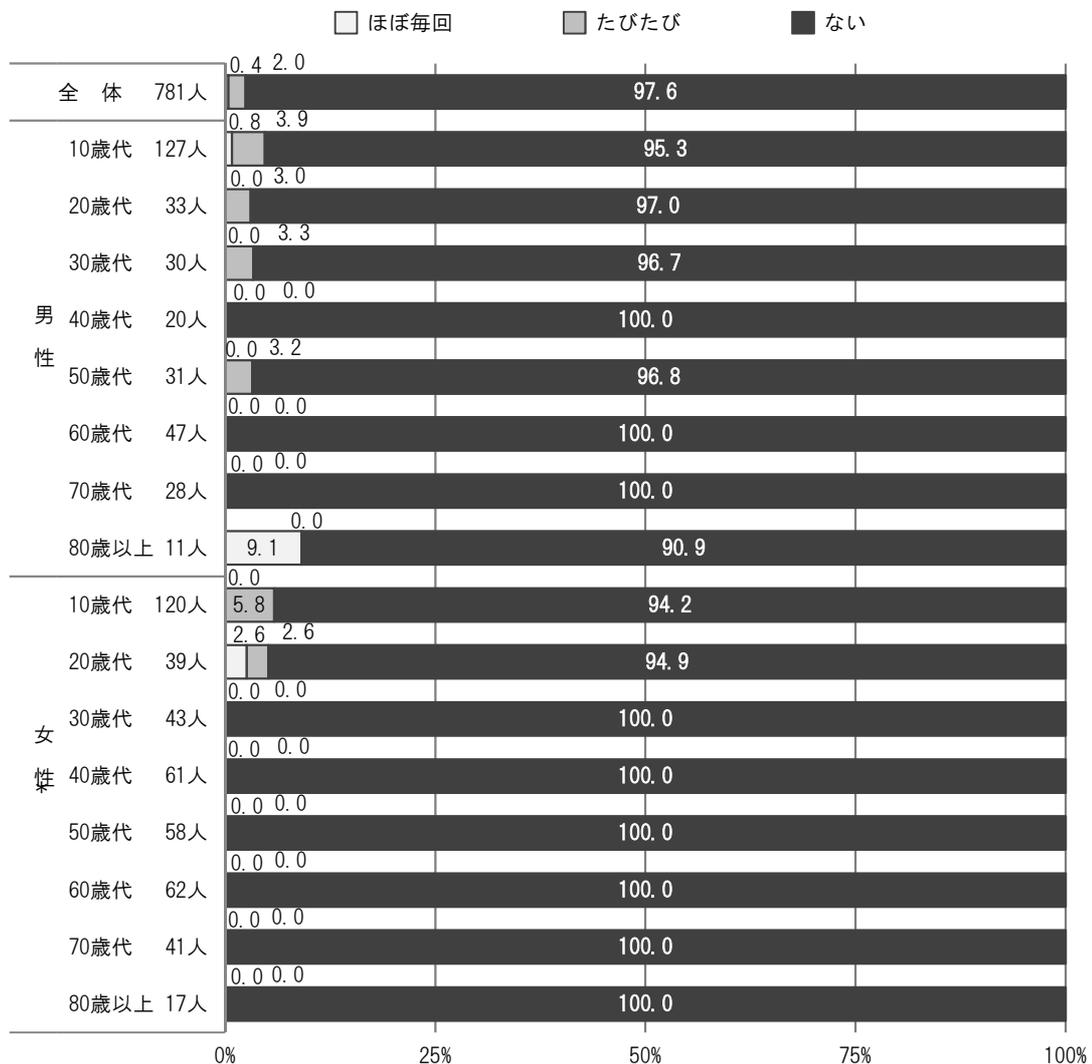


図 23-ウ.2 学校での受動喫煙〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

エ. 飲食店（「行っていない」「無回答」を除く）

「飲食店」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると 13.9% となっています。

性別にみると、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて、男性では 16.7%、女性では 11.3% となっています。男性では、「たびたび」が 15.6% と、女性より 5.0 ポイント有意に高くなっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「30 歳代」で 22.9%、「40 歳代」で 22.0% となっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「20 歳代」で 16.0%、「40 歳代」で 15.6% となっており、「ほぼ毎回」が「50 歳代」で 2.3% と他の年代より有意に高くなっています。

図 23-エ.1 飲食店での受動喫煙〔全体・性別〕*

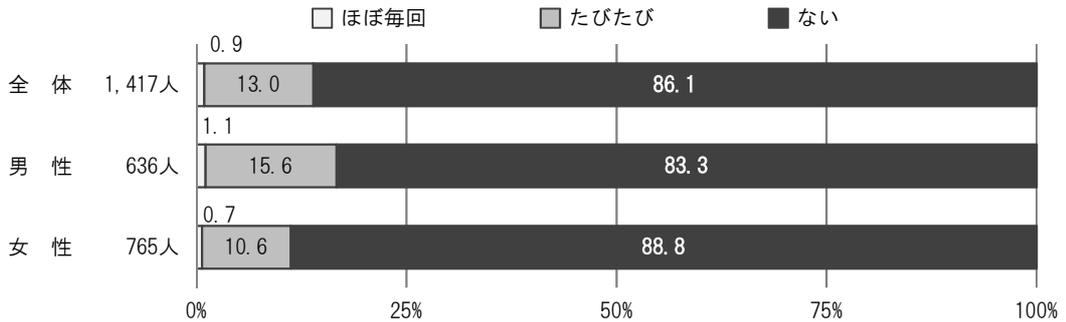
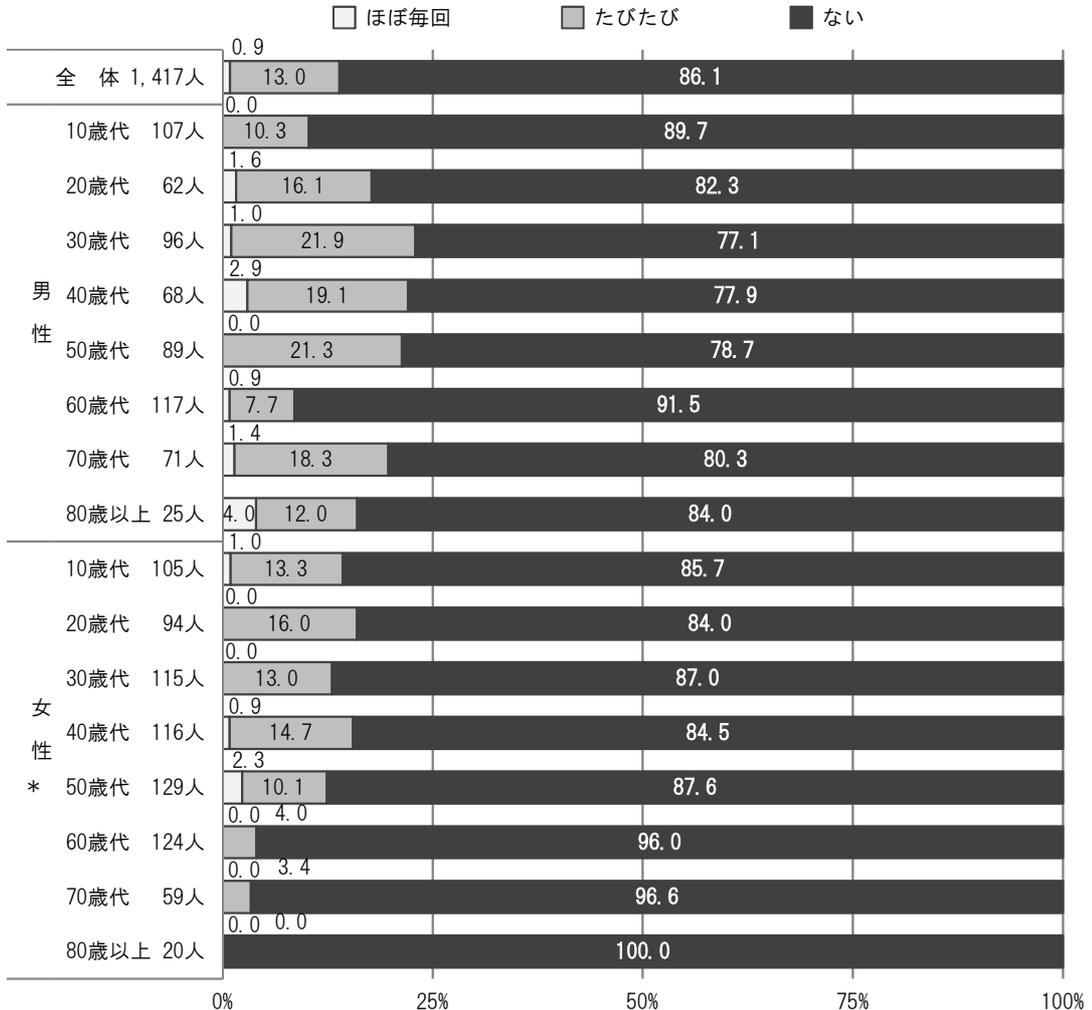


図 23-エ.2 飲食店での受動喫煙〔性・年代別〕



オ. 遊技場（ゲームセンター、パチンコなど）（「行っていない」「無回答」を除く）

「遊技場」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると 13.2% となっています。

性別にみると、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて、男性では 17.9%、女性では 8.9% となっています。男性では、「たびたび」が 15.7% と、女性より 7.9 ポイント有意に高くなっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「20 歳代」で 28.2%、「30 歳代」で 29.3% となっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10 歳代」で 20.0%、「50 歳代」で 18.4% となっており、「たびたび」が「10 歳代」で 16.7%、「50 歳代」で 18.4% と他の年代より有意に高くなっています。

図 23-オ.1 遊技場での受動喫煙〔全体・性別〕**

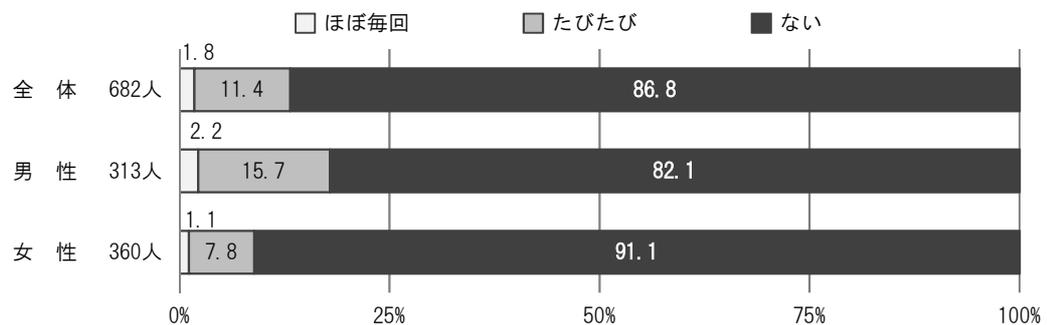
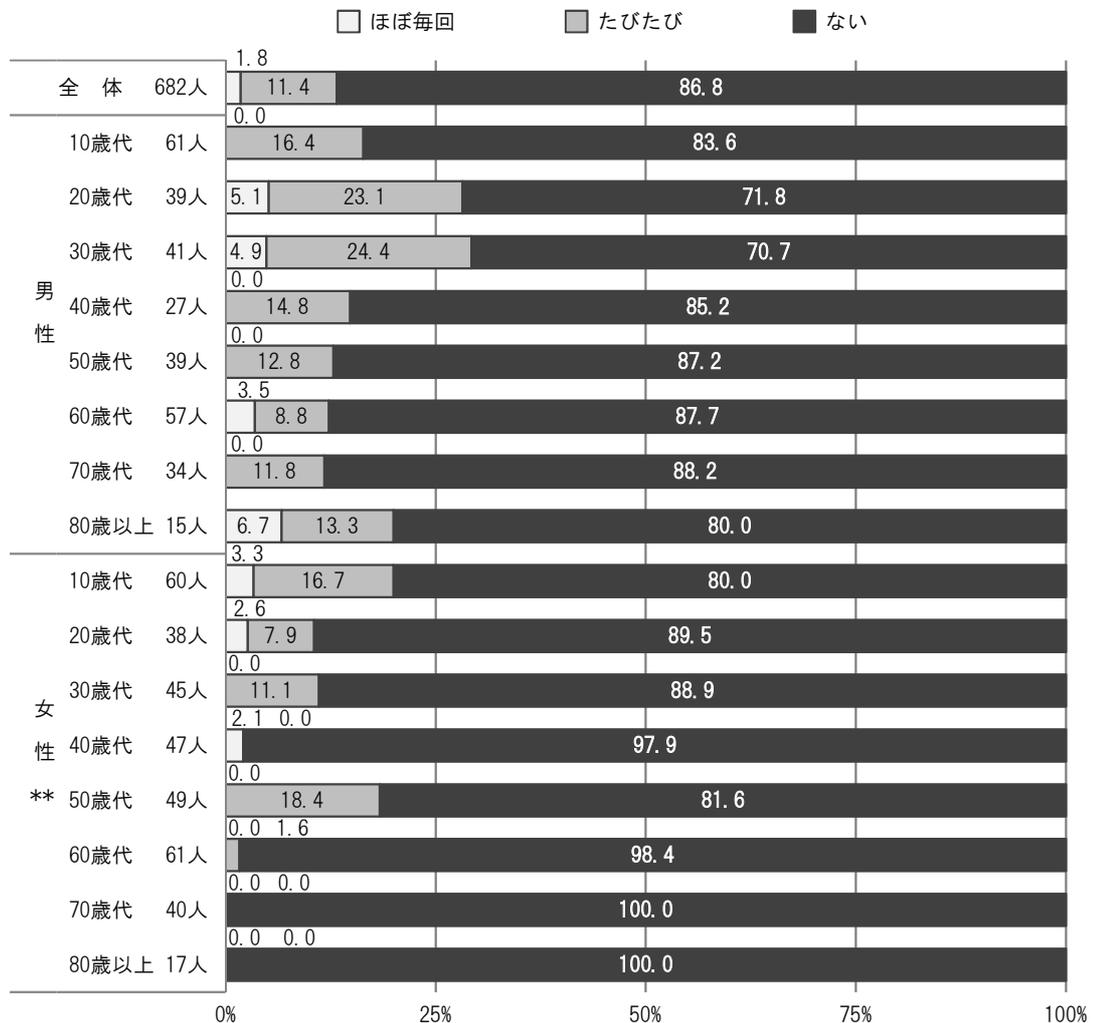


図 23-オ.2 遊技場での受動喫煙〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

カ. 行政機関（市役所、公民館など）（「行っていない」「無回答」を除く）

「行政機関」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると 1.9% となっています。

性別にみると、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて、男性では 2.2%、女性では 1.2% となっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「20 歳代」で 5.8%、「40 歳代」で 4.4% となっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10 歳代」で 1.7%、「60 歳代」で 1.4% となっています。

図 23-カ.1 行政機関での受動喫煙【全体・性別】

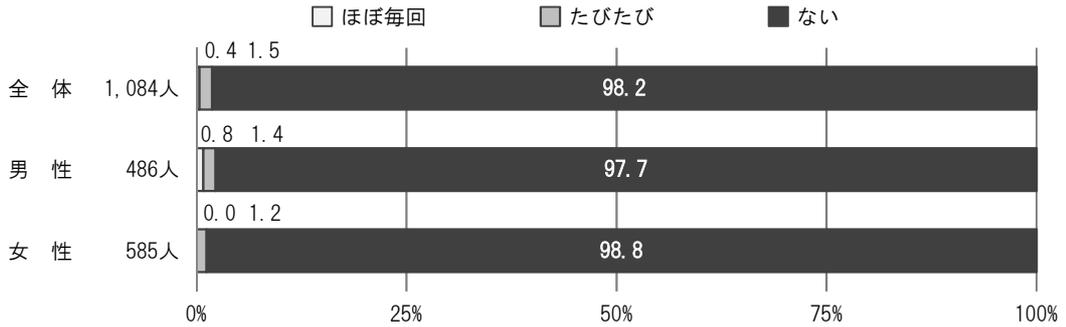
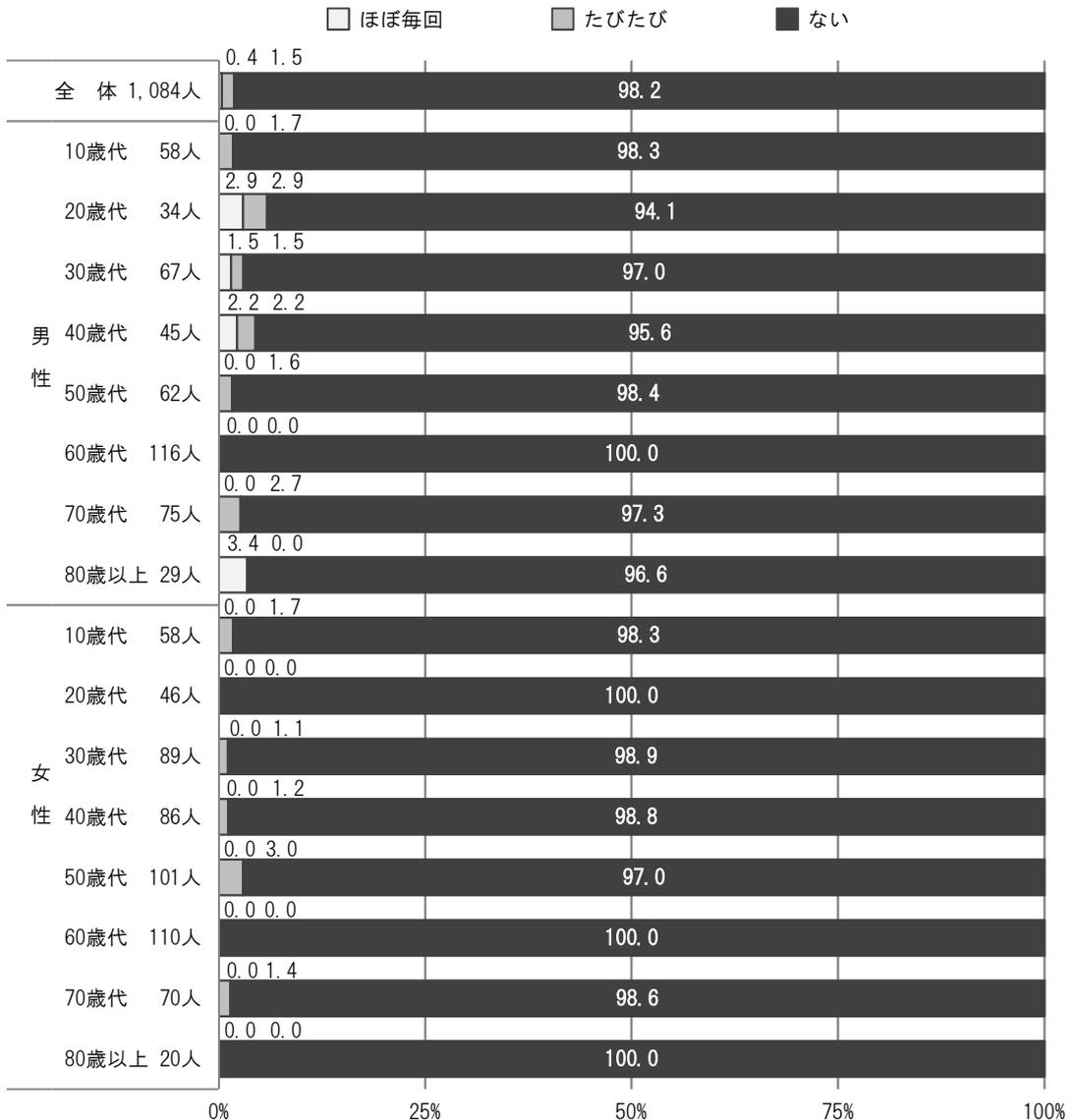


図 23-カ.2 行政機関での受動喫煙【性・年代別】



キ. 医療機関（「行っていない」「無回答」を除く）

「医療機関」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると 1.0% となっています。

性別にみると、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて、男性では 1.1%、女性では 1.0% となっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「20 歳代」で 4.8%、「80 歳以上」で 2.5% となっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10 歳代」で 1.5%、「70 歳代」で 2.1% となっています。

図 23-キ.1 医療機関での受動喫煙【全体・性別】

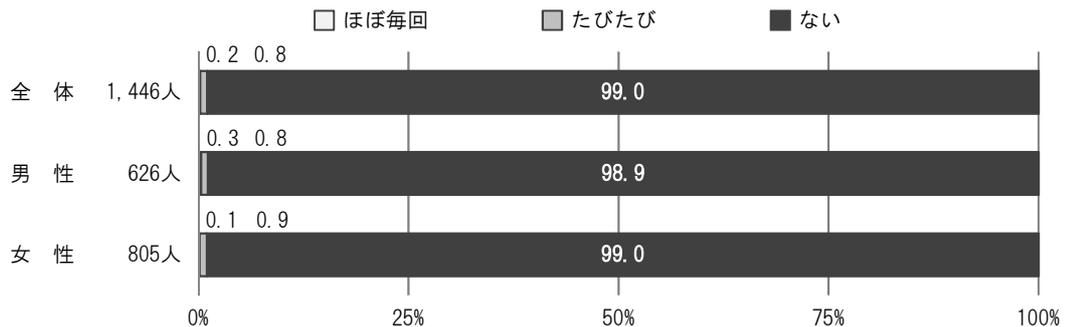
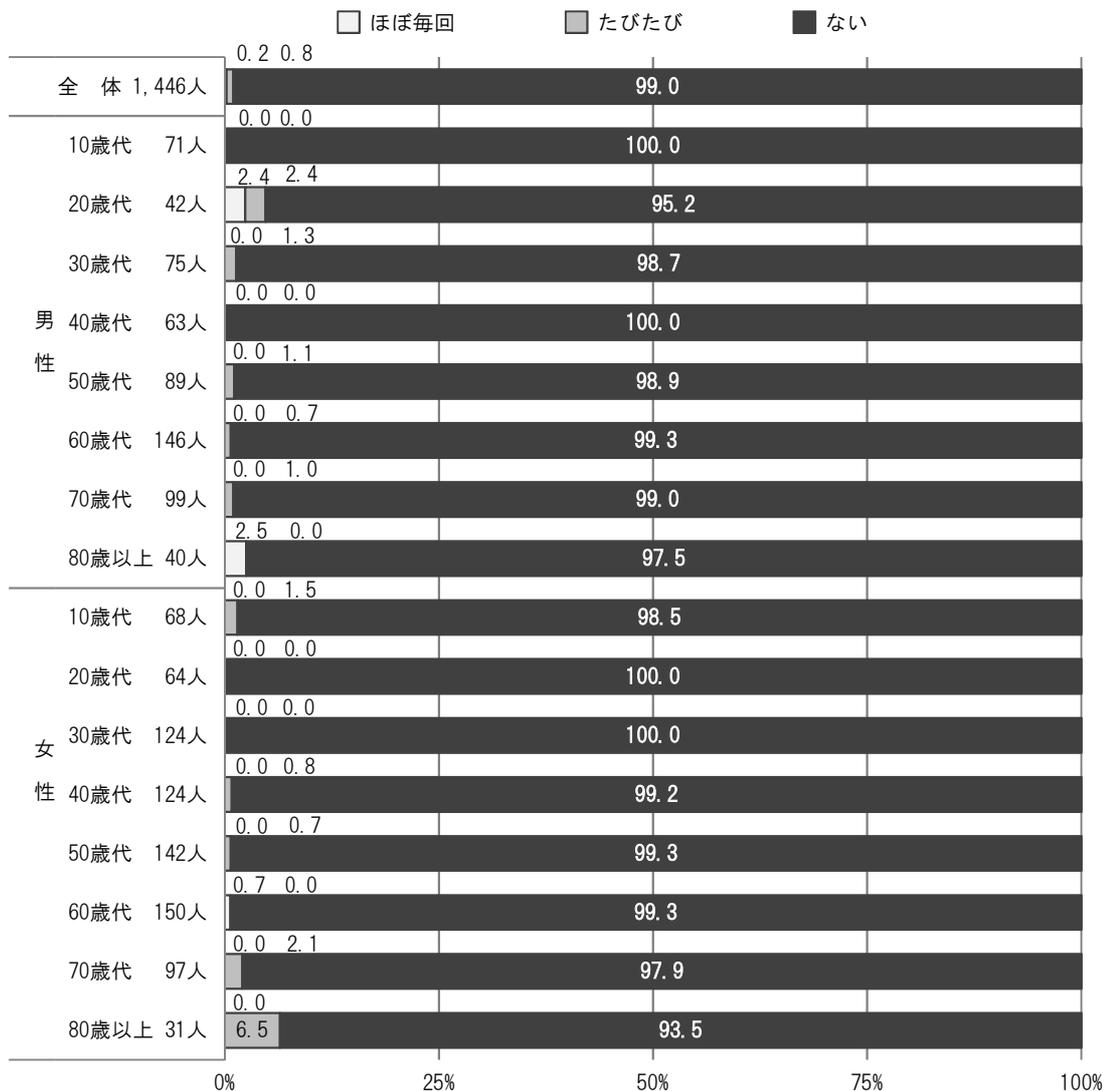


図 23-キ.2 医療機関での受動喫煙【性・年代別】



Ⅲ 調査結果

ク. その他（公共交通機関など）（「行っていない」「無回答」を除く）

「その他（公共交通機関など）」に行った人の受動喫煙の機会は、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせると19.5%となっています。

性別にみると、「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて、男性では16.3%、女性では21.9%となっています。女性では、「たびたび」が20.0%と、男性より5.7ポイント有意に高くなっています。

性・年代別にみると、男性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10歳代」で26.8%、「20歳代」で22.0%となっており、「たびたび」が「10歳代」で25.0%と他の年代より有意に高くなっています。女性では「ほぼ毎回」「たびたび」を合わせて「10歳代」で32.7%、「30歳代」で34.5%となっており、「たびたび」が「10歳代」で28.4%、「30歳代」で31.6%と有意に高くなっています。

図 23-ク.1 その他での受動喫煙〔全体・性別〕*

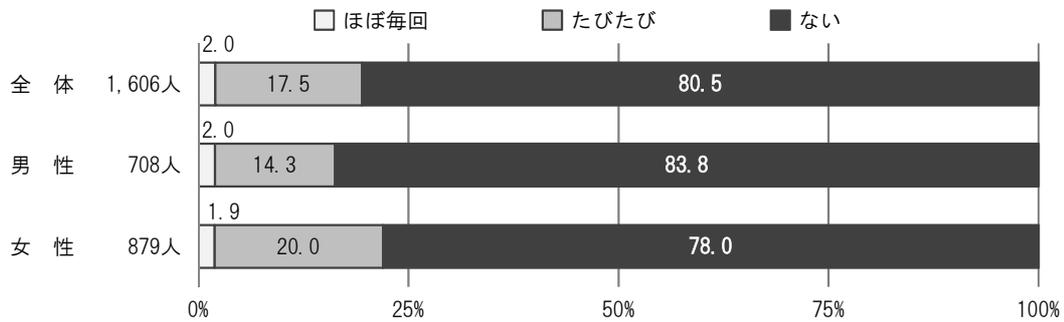
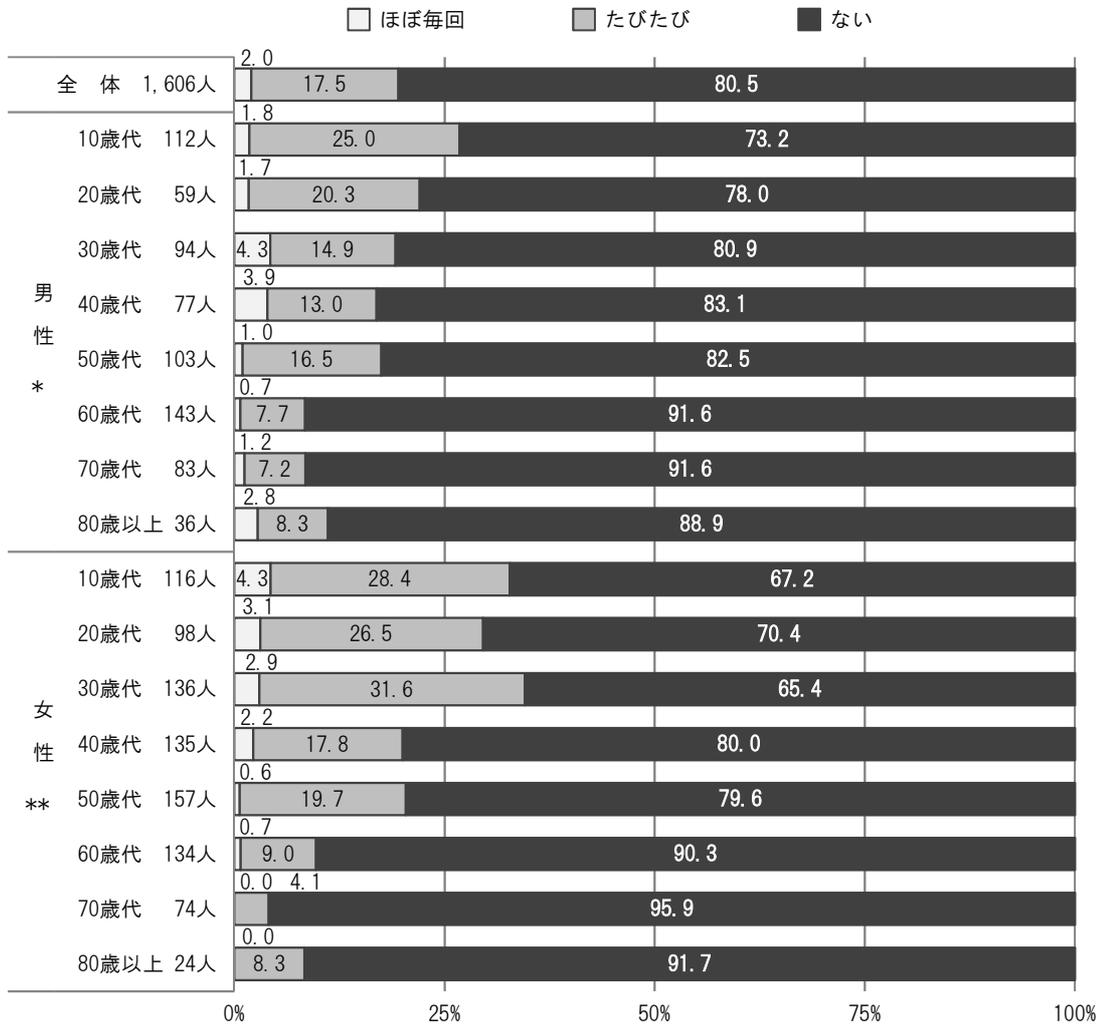


図 23-ク.2 その他での受動喫煙〔性・年代別〕



(24) あなたは、人が多く集まる場所を利用する際に、禁煙の施設を意識して選びますか。

(○は1つだけ) <B : 問 24>

禁煙施設の選択については、「可能な場合は選ぶ」が69.5%となっています。

性別にみると、男性では「選んでいない」が33.7%と、女性より12.2ポイント有意に高くなっています。

女性では「可能な場合は選ぶ」が75.3%と、男性より12.8ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「可能な場合は選ぶ」が4.7ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「可能な場合は選ぶ」が4.9ポイント有意に減少しています。

図 24.1 禁煙施設の選択〔全体・性別〕**

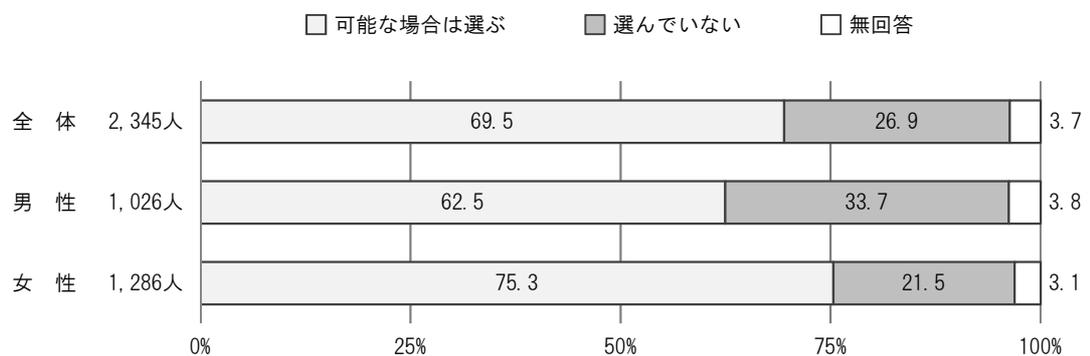
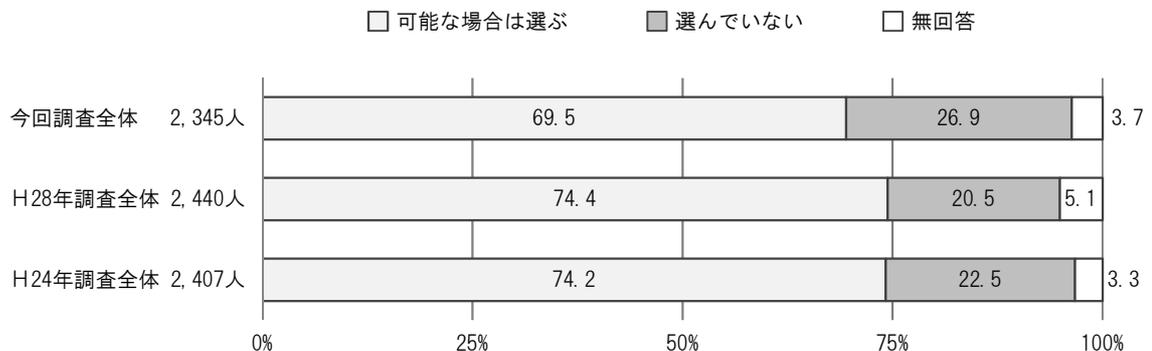


図 24.2 禁煙施設の選択〔経年比較〕**

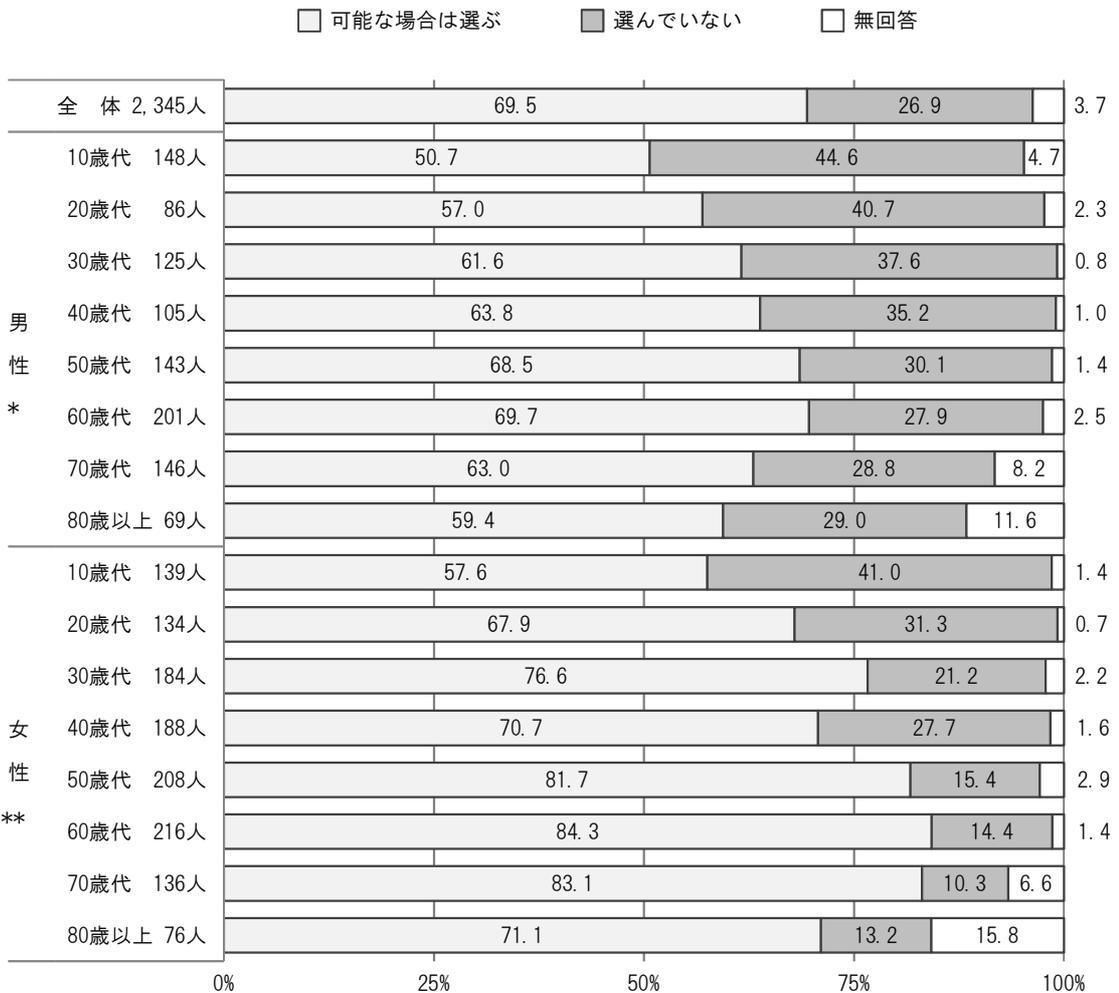


Ⅲ 調査結果

禁煙施設の選択について性・年代別にみると、男性では「選んでいない」が「10 歳代」で44.6%と有意に高く、「可能な場合は選ぶ」が「60 歳代」で69.7%と他の年代より有意に高くなっています。

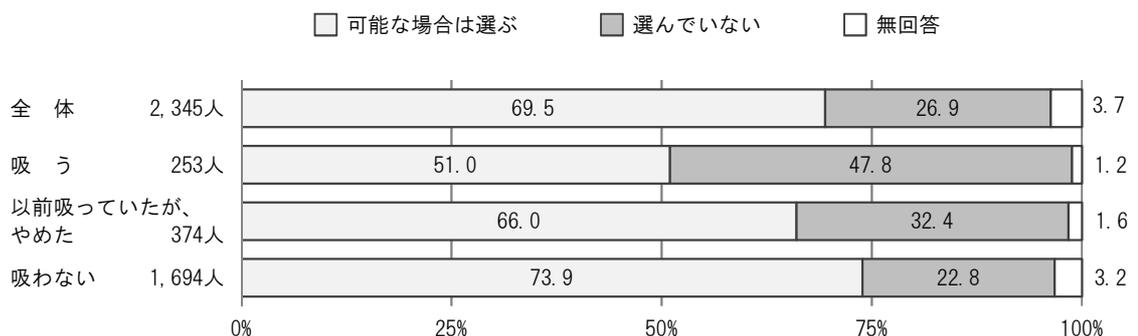
女性では「選んでいない」が「10 歳代」で41.0%、「20 歳代」で31.3%と有意に高く、「可能な場合は選ぶ」が「50 歳代」で81.7%、「60 歳代」で84.3%、「70 歳代」で83.1%と有意に高くなっています。

図 24.3 禁煙施設の選択〔性・年代別〕



禁煙施設の選択について、喫煙状況別にみると、「選んでいない」が「吸う」で47.8%、「以前吸っていたが、やめた」で32.4%と他の喫煙状況より有意に高く、「可能な場合は選ぶ」が「吸わない」で73.9%と有意に高くなっています。

図 24.4 禁煙施設の選択〔喫煙状況別〕**



6 お酒（アルコール）について

(25) あなたは、お酒（洋酒、日本酒、ビールなど）をどの程度飲みますか。

(○は1つだけ) < B : 問 25 >

飲酒頻度は、「毎日飲む」～「それ以下」を合わせた『飲む』割合が52.8%、「まったく飲まない」が42.1%となっています。

性別にみると、男性では「毎日飲む」が20.7%と、女性より12.9ポイント有意に高くなっています。女性では「それ以下」が20.4%、「まったく飲まない」が48.2%と有意に高くなっています。

お酒を「毎日飲む」割合をH24年調査と比較すると、男性の「40歳代」では「毎日飲む」が17.4ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、男性の「50歳代」では「毎日飲む」が5.6ポイント増加しています。

図 25.1 飲酒頻度〔全体・性別〕**

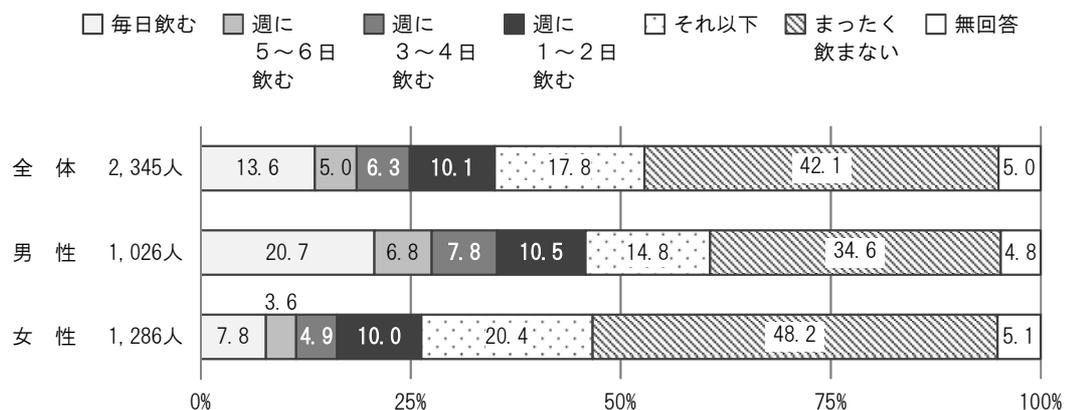


表 25 お酒を「毎日飲む」割合〔経年比較〕

単位：％、ポイント

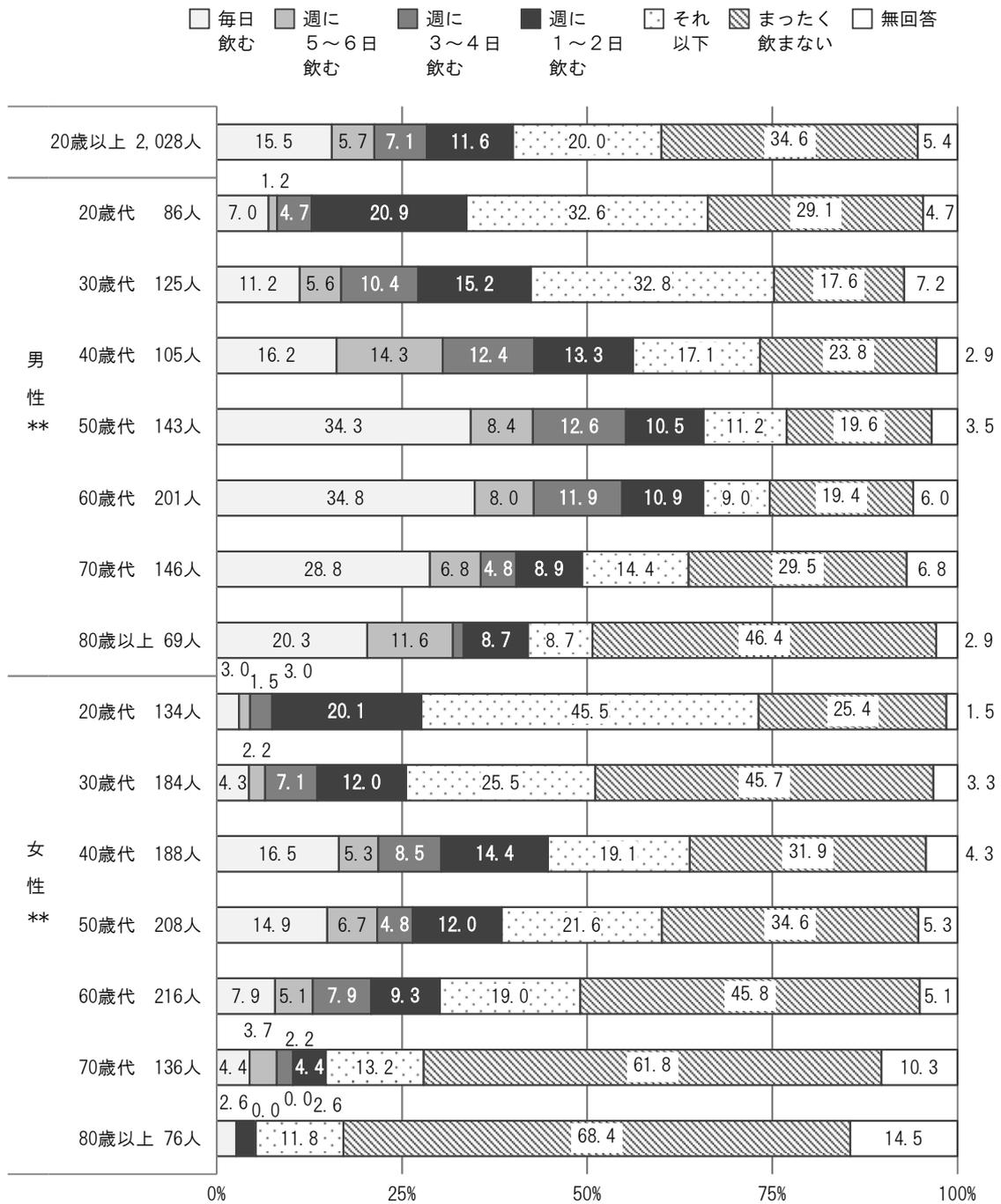
**

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
20歳以上全体	18.6	16.3	15.5	-3.1	-0.8
20歳以上男性	30.2	26.9	24.2	-6.0	-2.7
40歳代	33.6	19.0	16.2	-17.4	-2.8
50歳代	40.3	28.7	34.3	-6.0	5.6
60歳代	37.7	38.6	34.8	-2.9	-3.8

Ⅲ 調査結果

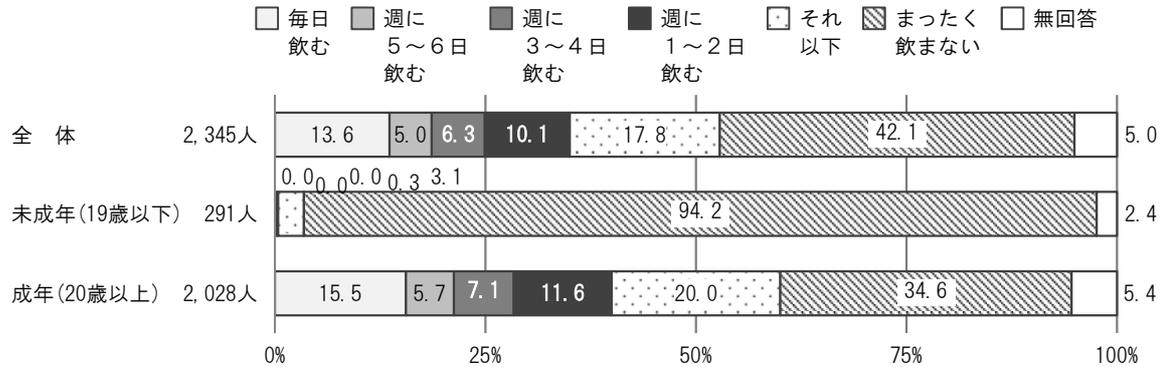
20歳以上の飲酒頻度を性・年代別にみると、男性では「毎日飲む」が「50歳代」で34.3%、「60歳代」で34.8%と他の年代より有意に高くなっています。
女性では「毎日飲む」が「40歳代」で16.5%、「50歳代」で14.9%と有意に高くなっています。

図 25.2 飲酒頻度〔性・年代別（20歳以上）〕



飲酒頻度を未成年・成年別にみると、「毎日飲む」～「それ以下」を合わせた、未成年者の『飲む』割合は、3.4%と成年より有意に低くなっています。成年では、「まったく飲まない」が34.6%と最も高く、次いで「それ以下」が20.0%となっています。

図 25.3 飲酒頻度〔未成年・成年別〕**



計画における数値目標のデータ

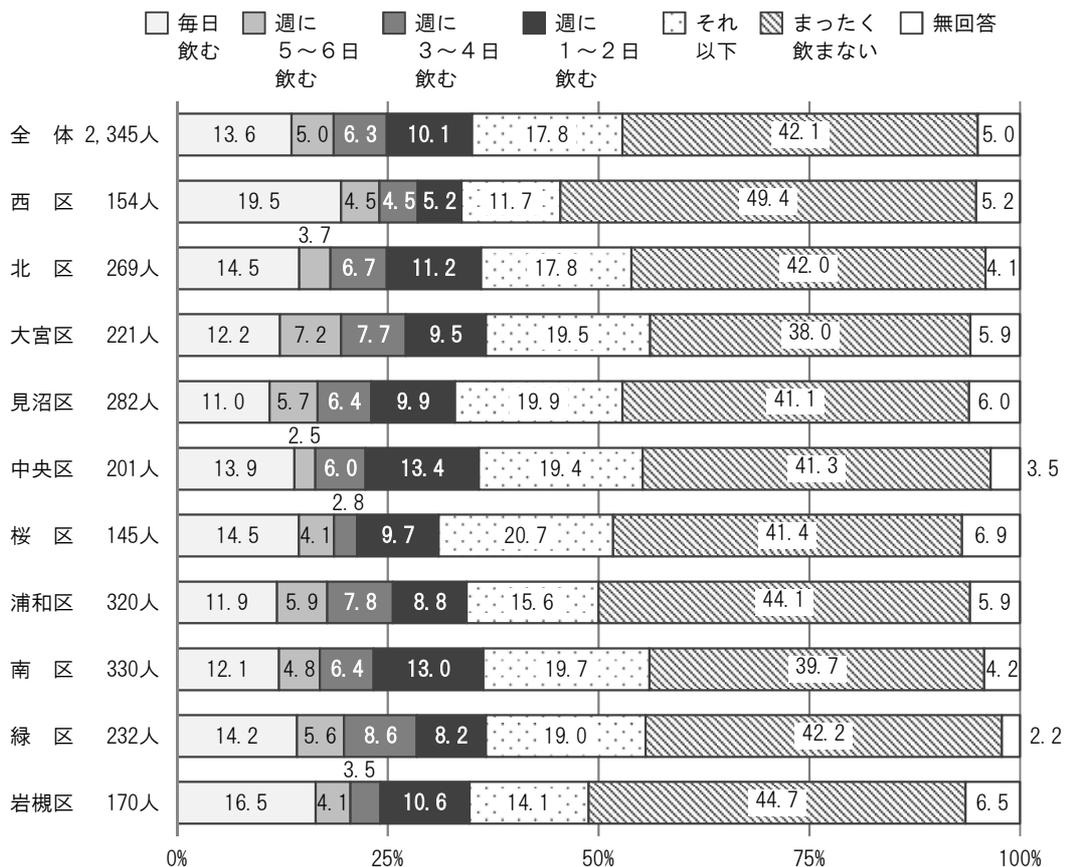


未成年者の飲酒の割合

- ・全体 3.4% (目標値 なくす)
- <問 25 で「毎日飲む」～「それ以下」と答えた人の割合>

飲酒頻度を居住区別にみると、「毎日飲む」が「西区」で19.5%、「岩槻区」で16.5%となっており、「まったく飲まない」が「西区」で49.4%、「岩槻区」で44.7%となっています。

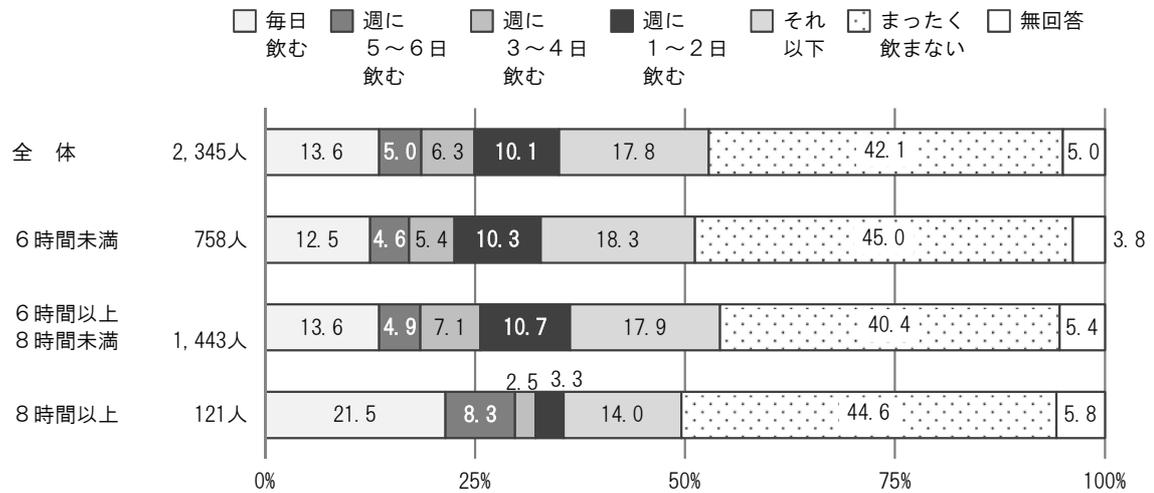
図 25.4 飲酒頻度〔居住区別〕



Ⅲ 調査結果

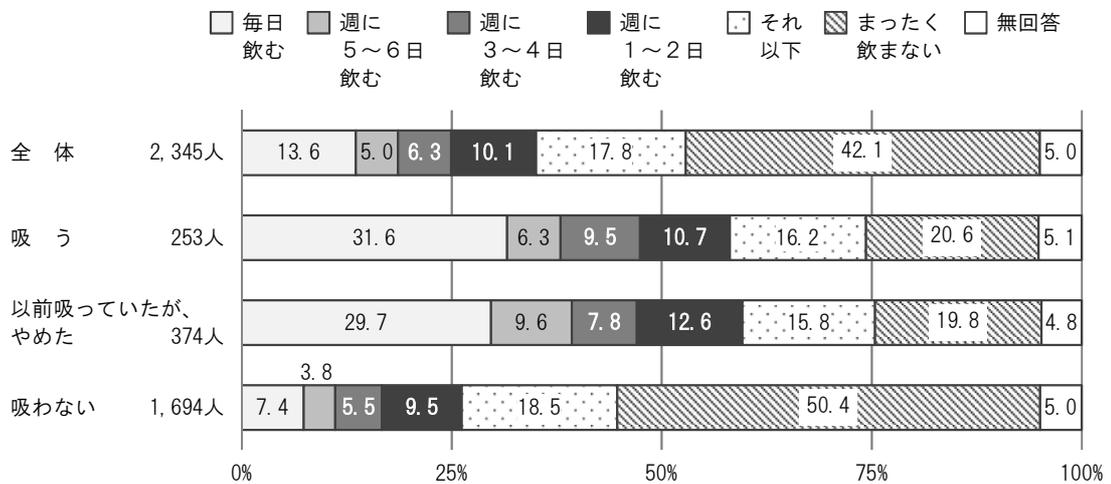
飲酒頻度を睡眠時間別にみると、「毎日飲む」が「8時間以上」で21.5%と有意に高く、「週に3～4日飲む」が「6時間以上8時間未満」で7.1%と他の睡眠時間より有意に高くなっています。

図 25.5 飲酒頻度〔睡眠時間別〕**



飲酒頻度を喫煙状況別にみると、「毎日飲む」が「吸う」で31.6%、「以前吸っていたが、やめた」で29.7%と有意に高く、「まったく飲まない」が「吸わない」で50.4%と他の喫煙状況より有意に高くなっています。

図 25.6 飲酒頻度〔喫煙状況別〕**



【B：問 25 で「毎日飲む」～「それ以下」とお答えの方のみ】

(25) - 2 日本酒に換算して、1日平均してどれくらい飲んでいきますか。(〇は1つだけ)

< B：問 25-2 >

※日本酒 1 合=ビール中ビン 1 本 (500ml) =ワイン 2 杯 (120ml × 2 杯)

=ウイスキーダブル 1 杯 (60ml)

缶ビール 350ml は 0.7 合、焼酎 (25 度) 1 杯 (120ml) は 1 合とします。

1日平均の飲酒量は、「1合未満」が60.6%、「1～3合未満」が31.9%となっています。性別にみると、男女とも「1合未満」が最も高く、男性では「1～3合未満」が41.6%、「3合以上」が7.1%と、いずれも有意に高くなっています。女性では、「1合未満」が72.5%と有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、20歳以上飲酒者全体で「3合以上」が1.5ポイント増加しています。

H28年調査と比較すると、20歳以上飲酒者全体で「3合以上」が1.1ポイント増加しています。

図 25-2.1 1日平均の飲酒量〔全体・性別〕**

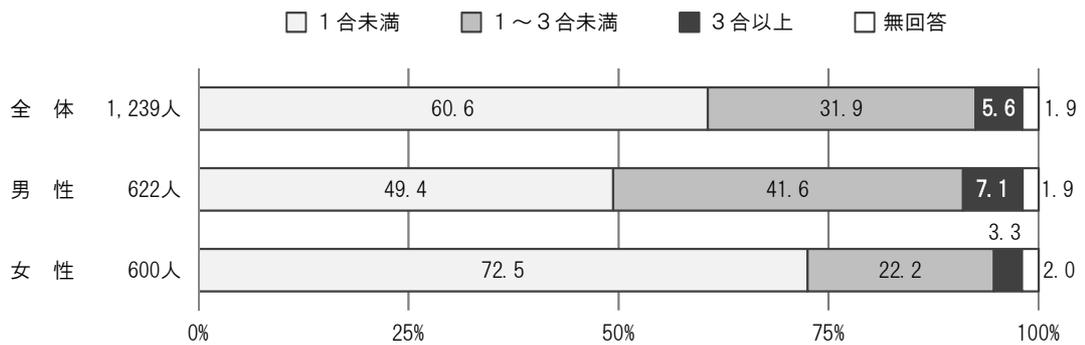


表 25-2 1日の飲酒量が「3合以上」の割合〔経年比較〕

単位：%、ポイント

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
20歳以上飲酒者全体	3.9	4.3	5.4	1.5	1.1
20歳以上男性計	4.7	6.3	7.1	2.4	0.8
40歳代	8.8	7.9	10.4	1.6	2.5
50歳代	10.0	7.8	9.1	-0.9	1.3
20歳以上女性計	2.8	2.0	3.2	0.4	1.2
20歳代	3.7	3.1	0.0	-3.7	-3.1
30歳代	5.5	1.5	5.3	-0.2	3.8

計画における数値目標のデータ



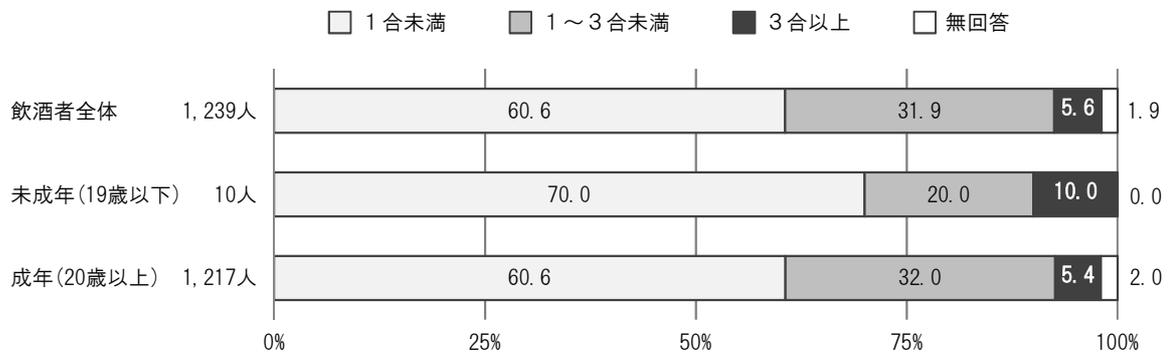
生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合

※健康日本21（第二次）によると、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒量（純アルコール摂取量）は男性40g以上、女性20g以上ですが、本市では多量飲酒者が増加していることから、男女ともに純アルコール摂取量60gを指標としています。なお、日本酒1合が純アルコール摂取量20gに相当します。

- 成人男性（60g以上） 7.1%（目標値 2.8%以下）
 - 40歳代男性（60g以上） 10.4%（目標値 4.6%以下）
 - 50歳代男性（60g以上） 9.1%（目標値 5.8%以下）
 - 20～30歳代女性（60g以上） 2.6%（目標値 0.2%以下）
- <問25で「毎日飲む」～「それ以下」と答え、問25-2で「3合以上」と答えた人の割合>
- 成人女性（20g以上） 25.3%（目標値 6.4%以下）
- <問25で「毎日飲む」～「それ以下」と答え、問25-2で「1合以上」と答えた人の割合>

1日平均の飲酒量を未成年・成年別にみると、成年では「1合未満」が60.6%、「1～3合未満」が32.0%、「3合以上」が5.4%となっています。

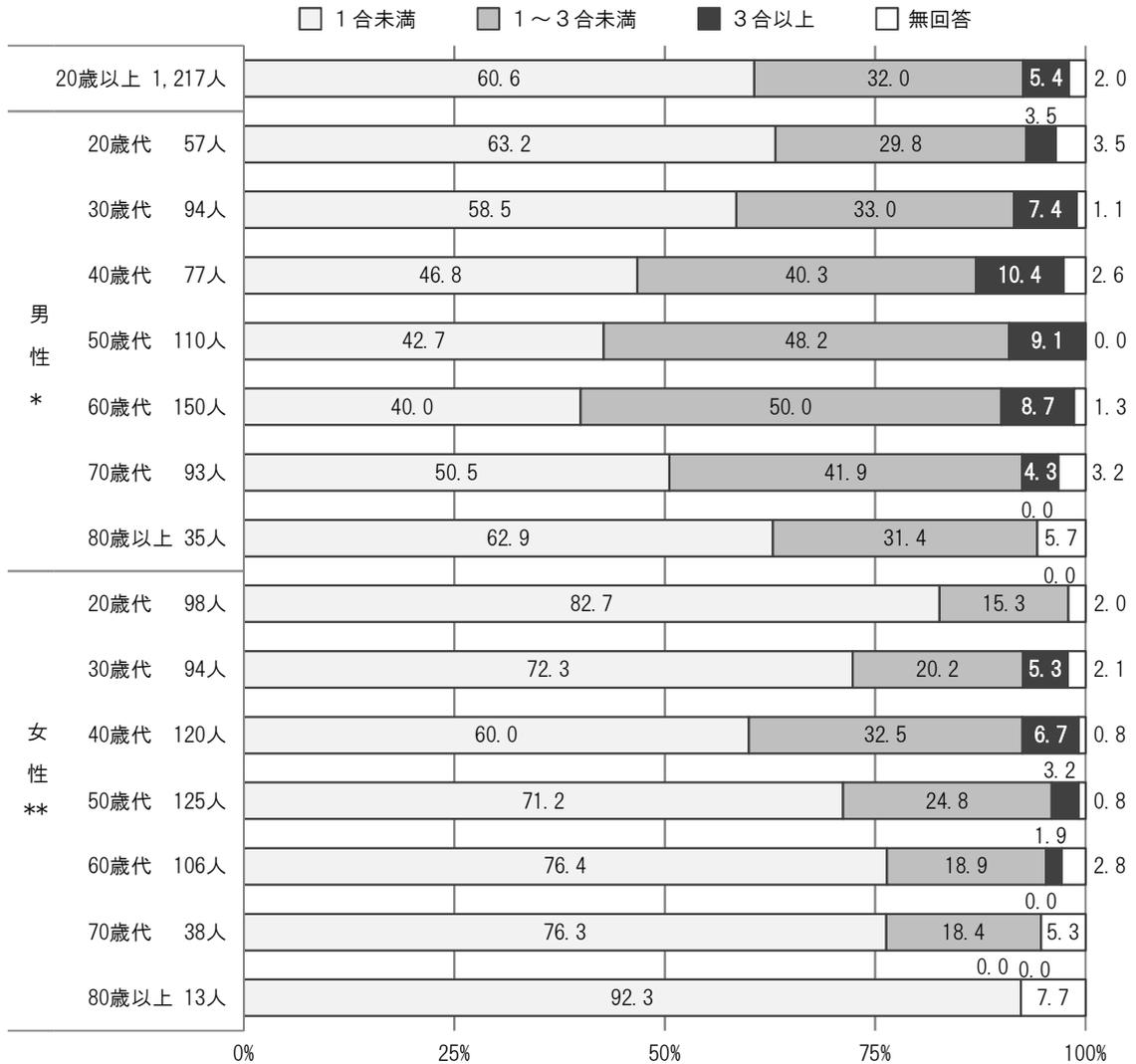
図 25-2.2 1日平均の飲酒量〔未成年・成年別〕



20歳以上の1日平均の飲酒量を性・年代別にみると、男性では「1合未満」が「20歳代」で63.2%と有意に高く、「1～3合未満」が「60歳代」で50.0%と他の年代より有意に高くなっています。

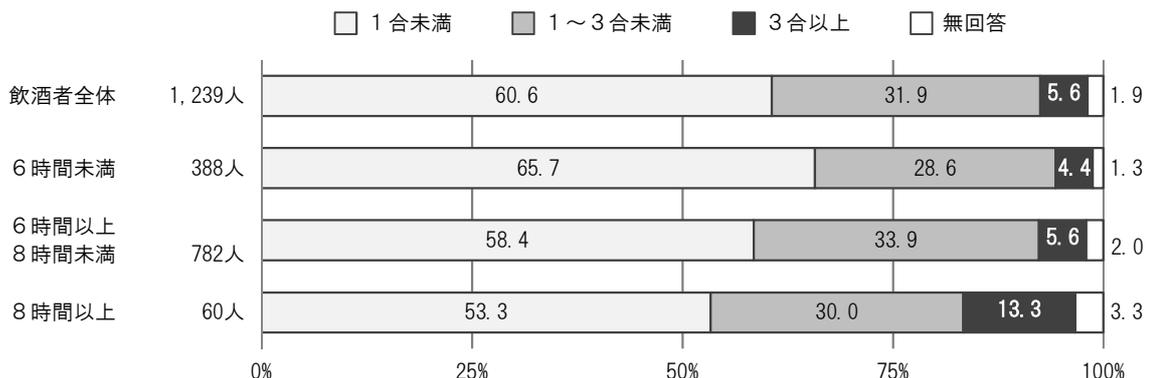
女性では「1合未満」が「20歳代」で82.7%、「80歳以上」で92.3%と有意に高く、「1～3合未満」が「40歳代」で32.5%と有意に高くなっています。

図 25-2.3 1日平均の飲酒量〔性・年代別（20歳以上）〕



1日平均の飲酒量を睡眠時間別にみると、「1合未満」が「6時間未満」で65.7%と他の睡眠時間より有意に高く、「3合以上」が「8時間以上」で13.3%と有意に高くなっています。

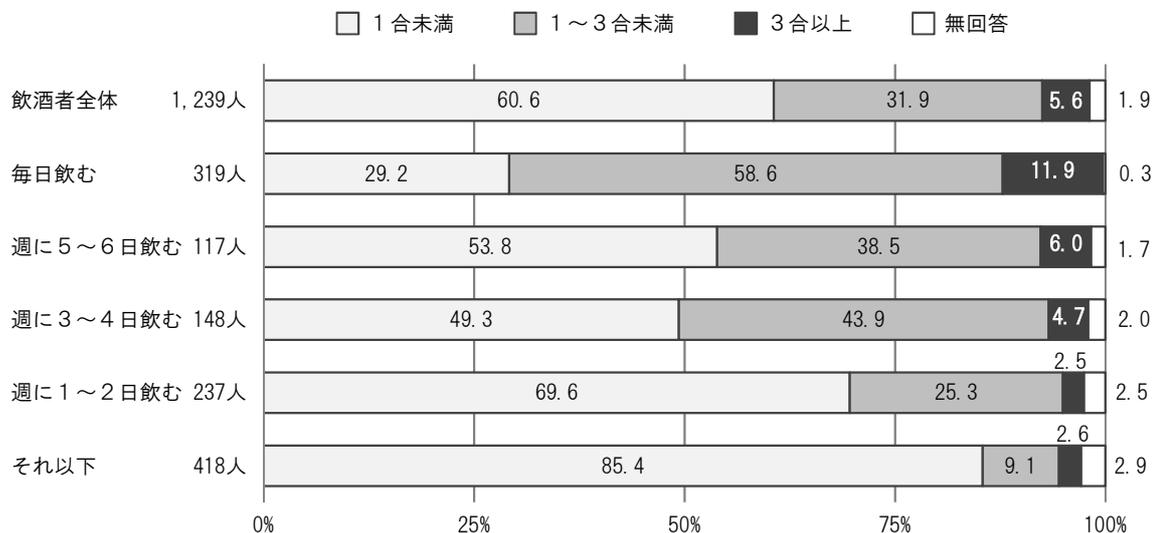
図 25-2.4 1日平均の飲酒量〔睡眠時間別〕*



Ⅲ 調査結果

1日平均の飲酒量を飲酒頻度別にみると、「1合未満」が「週に1～2日飲む」で69.6%、「それ以下」で85.4%と他の飲酒頻度より有意に高くなっています。また、「1～3合未満」が「毎日飲む」で58.6%、「週に3～4日飲む」で43.9%と有意に高く、「3合以上」が「毎日飲む」で11.9%と有意に高くなっています。

図 25-2.5 1日平均の飲酒量〔飲酒頻度別〕**



7 歯の健康について

(26) あなたの自分の歯は何本ありますか。(数字を記入) < B : 問 26 >

※親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。さし歯は含みます。

親知らずを除くと全部で 28 本が正常ですが、28 本より多かたり少なかたりすることもあります。

歯の本数は、「26～29 本」が 60.6%と最も高く、次いで「20～25 本」が 16.5%となっています。

性別にみると、男性では「10 本未満」が 5.9%と、女性より 2.9 ポイント有意に高くなっています。女性では「26～29 本」が 63.5%と、男性より 6.3 ポイント有意に高くなっています。

H24 年調査と比較すると、「26～29 本」が 5.5 ポイント有意に増加しています。

H28 年調査と比較すると、「10 本未満」が 1.9 ポイント有意に減少しています。

図 26.1 歯の本数〔全体・性別〕**

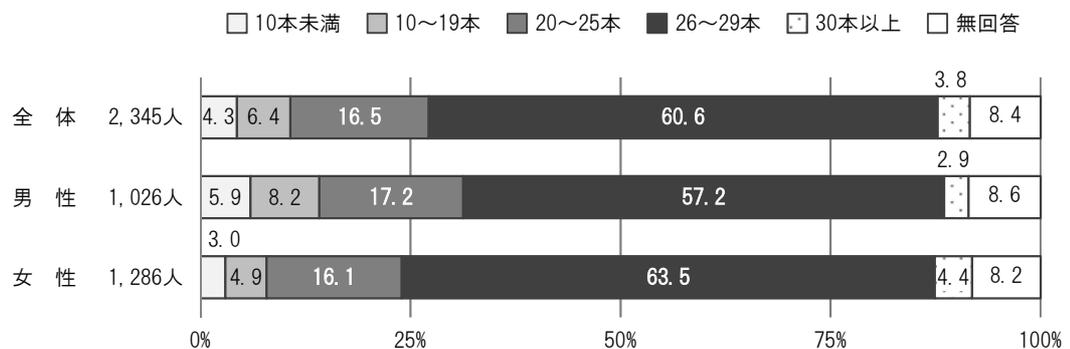
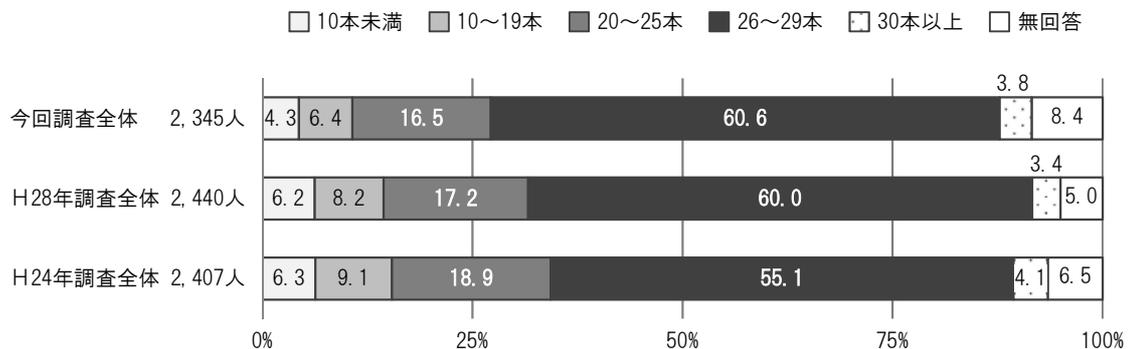


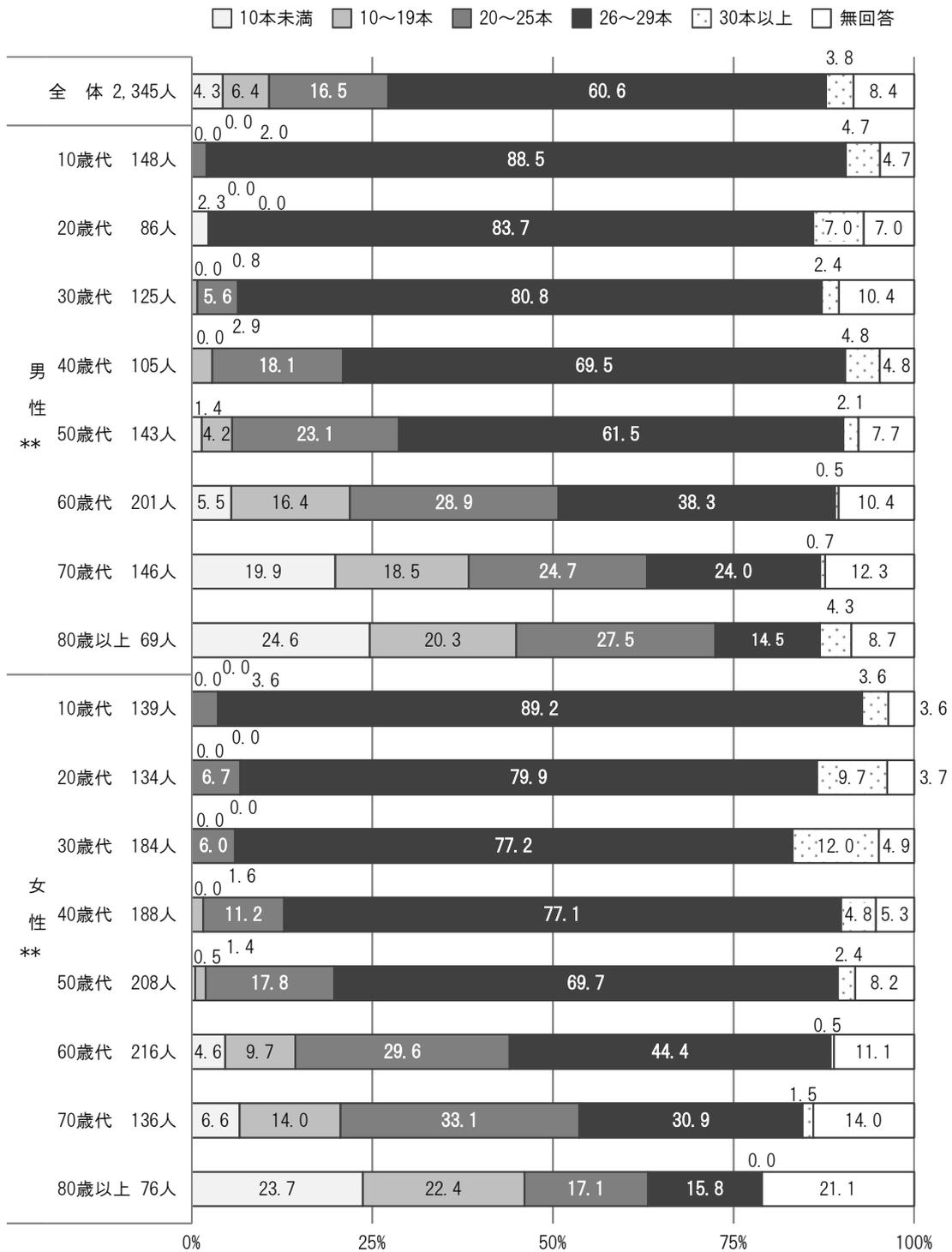
図 26.2 歯の本数〔経年比較〕**



Ⅲ 調査結果

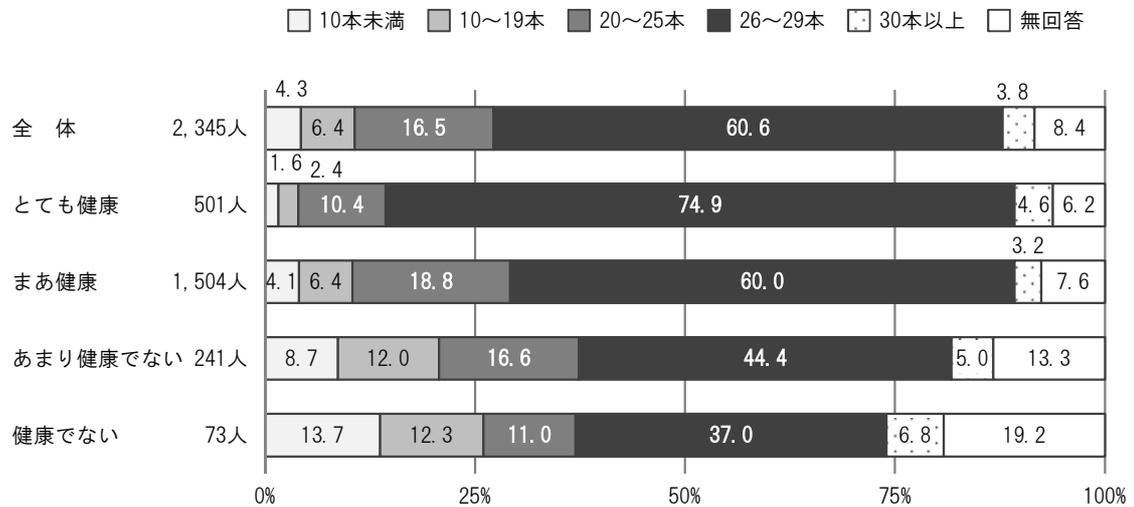
歯の本数を性・年代別にみると、男性では「26～29本」が「10歳代」で88.5%、「20歳代」で83.7%、「30歳代」で80.8%、「40歳代」で69.5%と他の年代より有意に高く、「10本未満」が「70歳代」で19.9%、「80歳以上」で24.6%と有意に高くなっています。
 女性では「26～29本」が「10歳代」で89.2%、「20歳代」で79.9%、「30歳代」で77.2%、「40歳代」で77.1%と有意に高く、「10本未満」が「70歳代」で6.6%、「80歳以上」で23.7%と有意に高くなっています。

図 26.3 歯の本数〔性・年代別〕



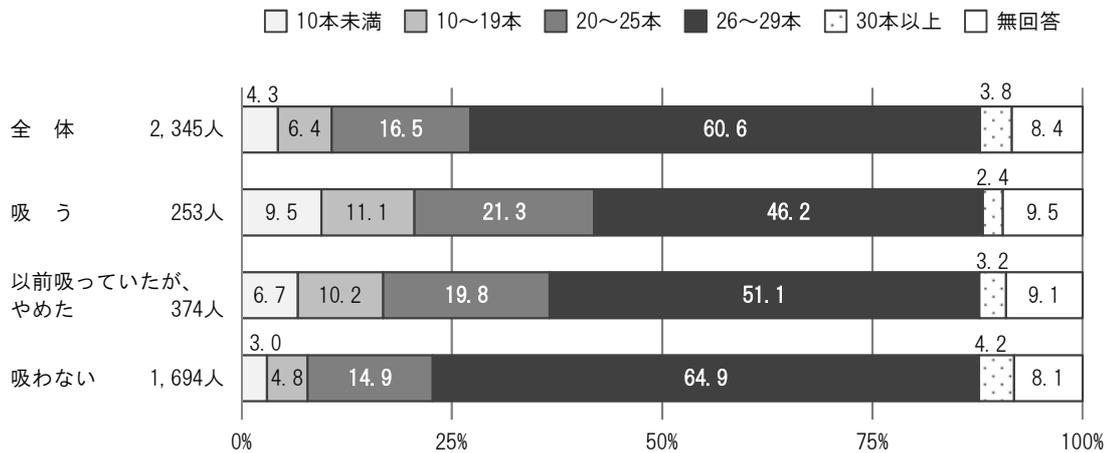
歯の本数を健康状態別にみると、「26～29本」が「とても健康」で74.9%と他の健康状態より有意に高く、「10本未満」が「あまり健康でない」で8.7%、「健康でない」で13.7%と有意に高くなっています。

図 26.4 歯の本数〔健康状態別〕**



歯の本数を喫煙習慣別にみると、「26～29本」が「吸わない」で64.9%と他の喫煙習慣より有意に高く、「10本未満」が「吸う」で9.5%、「以前吸っていたが、やめた」で6.7%と有意に高くなっています。

図 26.5 歯の本数〔喫煙習慣別〕**



Ⅲ 調査結果

(27) あなたの歯や口の状態についてあてはまるものをお答えください。

(○はあてはまるものすべて) <B: 問 27>

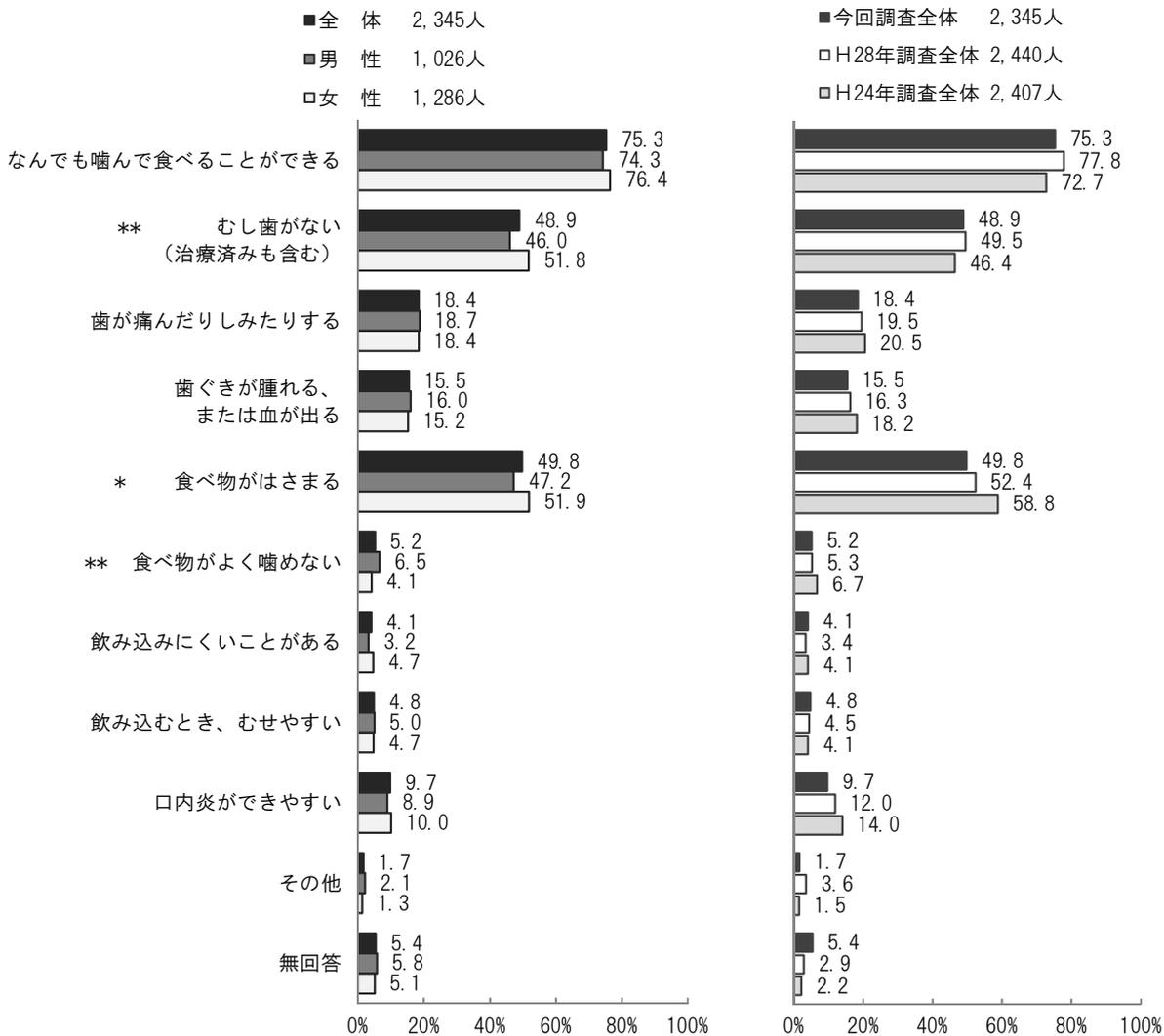
歯や口の状態については、「なんでも噛んで食べることができる」が75.3%と最も高く、次いで「食べ物がはさまる」が49.8%となっています。

性別にみると、男性では「食べ物がよく噛めない」が6.5%と、女性より2.4ポイント有意に高くなっています。女性では「むし歯がない（治療済みも含む）」が51.8%と、男性より5.8ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「なんでも噛んで食べることができる」が2.6ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「口内炎がしやすい」が2.3ポイント減少しています。

図 27 歯や口の状態（複数回答）〔全体・性別・経年比較〕



「その他」の内容	
項目	件数
入れ歯・歯が無い・歯が少ない	9
歯石	4
歯のぐらつき	3
治療中	3
持病	2
虫歯がある	2
その他	12

歯や口の状態を性・年代別にみると、全体では「歯が痛んだりしみたりする」が「30歳代」で28.0%と他の年代より有意に高く、「飲み込むとき、むせやすい」が「70歳代」で9.5%、「80歳以上」で12.4%と有意に高くなっています。

男性では「歯が痛んだりしみたりする」が「30歳代」で31.2%と他の年代より有意に高く、「飲み込むとき、むせやすい」が「70歳代」で8.9%、「80歳以上」で11.6%と有意に高くなっています。

女性では「歯が痛んだりしみたりする」が「30歳代」で25.5%と有意に高く、「飲み込むとき、むせやすい」が「70歳代」で10.3%、「80歳以上」で13.2%と有意に高くなっています。

表 27.1 歯や口の状態（複数回答）〔性・年代別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	**/**	**/**	**/**	*/-	**/**	**/**	-/**	**/**	*/-	-/-	無回答
		なんでも噛んで食べる ことができる	むし歯がない（治療済 みも含む）	歯が痛んだりしみたり する	歯ぐきが腫れる、また は血が出る	食べ物がはさまる	食べ物がよく噛めない	飲み込むにくいことが ある	飲み込むとき、むせや すい	口内炎がでやすい	その他	
全体	2,345	75.3	48.9	18.4	15.5	49.8	5.2	4.1	4.8	9.7	1.7	5.4
10歳代	291	88.7	71.1	10.0	8.9	28.9	1.4	2.7	1.4	12.7	1.7	2.4
20歳代	222	84.7	55.0	19.8	13.5	43.7	1.4	4.5	5.4	13.1	1.8	2.7
30歳代	311	81.0	47.6	28.0	15.1	46.0	0.6	1.0	2.3	10.9	1.0	4.2
40歳代	295	79.7	47.1	22.7	18.3	52.9	2.7	2.4	3.1	8.8	0.3	3.4
50歳代	353	77.3	47.3	19.3	19.0	58.1	5.4	4.5	3.1	8.5	1.1	5.1
60歳代	418	65.3	43.8	18.9	17.9	59.1	9.3	4.5	6.0	9.1	1.9	6.2
70歳代	284	63.7	44.0	14.1	14.1	55.3	8.5	6.7	9.5	8.5	2.5	9.9
80歳以上	145	63.4	34.5	11.7	13.8	44.1	13.1	8.3	12.4	3.4	4.8	11.7
男性計	1,026	74.3	46.0	18.7	16.0	47.2	6.5	3.2	5.0	8.9	2.1	5.8
10歳代	148	88.5	71.6	10.1	6.8	23.0	0.7	1.4	1.4	11.5	2.7	3.4
20歳代	86	81.4	51.2	11.6	16.3	40.7	0.0	1.2	4.7	16.3	3.5	4.7
30歳代	125	78.4	44.0	31.2	14.4	45.6	0.8	0.8	0.0	12.8	0.8	6.4
40歳代	105	82.9	46.7	21.0	21.9	58.1	2.9	3.8	6.7	7.6	1.0	1.9
50歳代	143	77.6	39.9	22.4	18.2	53.8	8.4	4.2	3.5	6.3	0.7	4.2
60歳代	201	65.7	38.8	18.4	16.4	52.7	12.4	4.5	6.0	5.5	1.5	7.0
70歳代	146	58.2	37.0	17.1	17.8	54.1	11.0	4.8	8.9	9.6	3.4	8.9
80歳以上	69	69.6	42.0	15.9	20.3	47.8	10.1	4.3	11.6	2.9	5.8	10.1
女性計	1,286	76.4	51.8	18.4	15.2	51.9	4.1	4.7	4.7	10.0	1.3	5.1
10歳代	139	88.5	71.2	10.1	11.5	35.3	2.2	4.3	1.4	13.7	0.7	1.4
20歳代	134	86.6	58.2	25.4	11.9	45.5	2.2	6.7	6.0	11.2	0.7	1.5
30歳代	184	83.2	50.0	25.5	15.2	46.7	0.5	1.1	3.3	9.2	1.1	2.7
40歳代	188	77.7	47.3	23.4	16.5	49.5	2.7	1.6	1.1	9.6	0.0	4.3
50歳代	208	77.9	52.9	17.3	19.2	61.1	3.4	4.3	2.9	9.6	1.4	5.3
60歳代	216	64.8	48.1	19.0	19.4	65.3	6.5	4.6	6.0	12.5	2.3	5.6
70歳代	136	69.9	52.2	11.0	10.3	56.6	5.9	8.8	10.3	7.4	1.5	11.0
80歳以上	76	57.9	27.6	7.9	7.9	40.8	15.8	11.8	13.2	3.9	3.9	13.2

Ⅲ 調査結果

歯や口の状態を歯の本数別にみると、「食べ物がはさまる」が「10～19本」で64.4%、「20～25本」で64.5%と他の本数より有意に高く、「食べ物がよく噛めない」が「10本未満」で27.5%、「10～19本」で17.4%と有意に高くなっています。

表 27.2 歯や口の状態（複数回答）〔歯の本数別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	
		なんでも噛んで食べることができる	むし歯がない（治療済みも含む）	歯が痛んだりしんだりする	歯ぐきが腫れる、または血が出る	食べ物がはさまる	食べ物がよく噛めない	飲み込みにくいことがある	飲み込むとき、むせやすい	口内炎がでやすい	その他	無回答	
全体	2,345	75.3	48.9	18.4	15.5	49.8	5.2	4.1	4.8	9.7	1.7	5.4	
歯の本数	10本未満	102	39.2	17.6	10.8	14.7	30.4	27.5	9.8	14.7	8.8	12.7	8.8
	10～19本	149	53.7	30.9	20.8	24.2	64.4	17.4	12.1	6.0	7.4	3.4	2.0
	20～25本	386	69.9	43.3	22.0	21.2	64.5	8.0	3.6	7.0	7.3	0.3	0.3
	26～29本	1421	87.6	58.8	18.6	14.6	49.9	1.6	3.0	3.4	11.3	1.3	0.1
	30本以上	89	88.8	62.9	21.3	14.6	49.4	3.4	0.0	2.2	5.6	0.0	0.0

計画における数値目標のデータ



咀嚼良好者の割合

- ・60歳代 65.3%（目標値 80%）
 <問 27 で「なんでも噛んで食べることができる」と答えた人の割合>

★モニタリング



- ・40歳で喪失歯のない人の割合 65.2%
 <問 26 で自分の歯が「28本以上」と答えた人の割合>
- ・60歳で24歯以上自分の歯を有する人の割合 73.0%
 <問 26 で自分の歯が「24本以上」と答えた人の割合>
- ・80歳で20歯以上自分の歯を有する人の割合 78.6%
 <問 26 で自分の歯が「20本以上」と答えた人の割合>

- ・40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合 18.3%
- ・60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合 17.9%
 <問 27 で「歯ぐきが腫れる、または血が出る」と答えた人の割合>

(28) あなたが、歯や口の健康のために気をつけていることは何ですか。

(○はあてはまるものすべて) <B: 問 28>

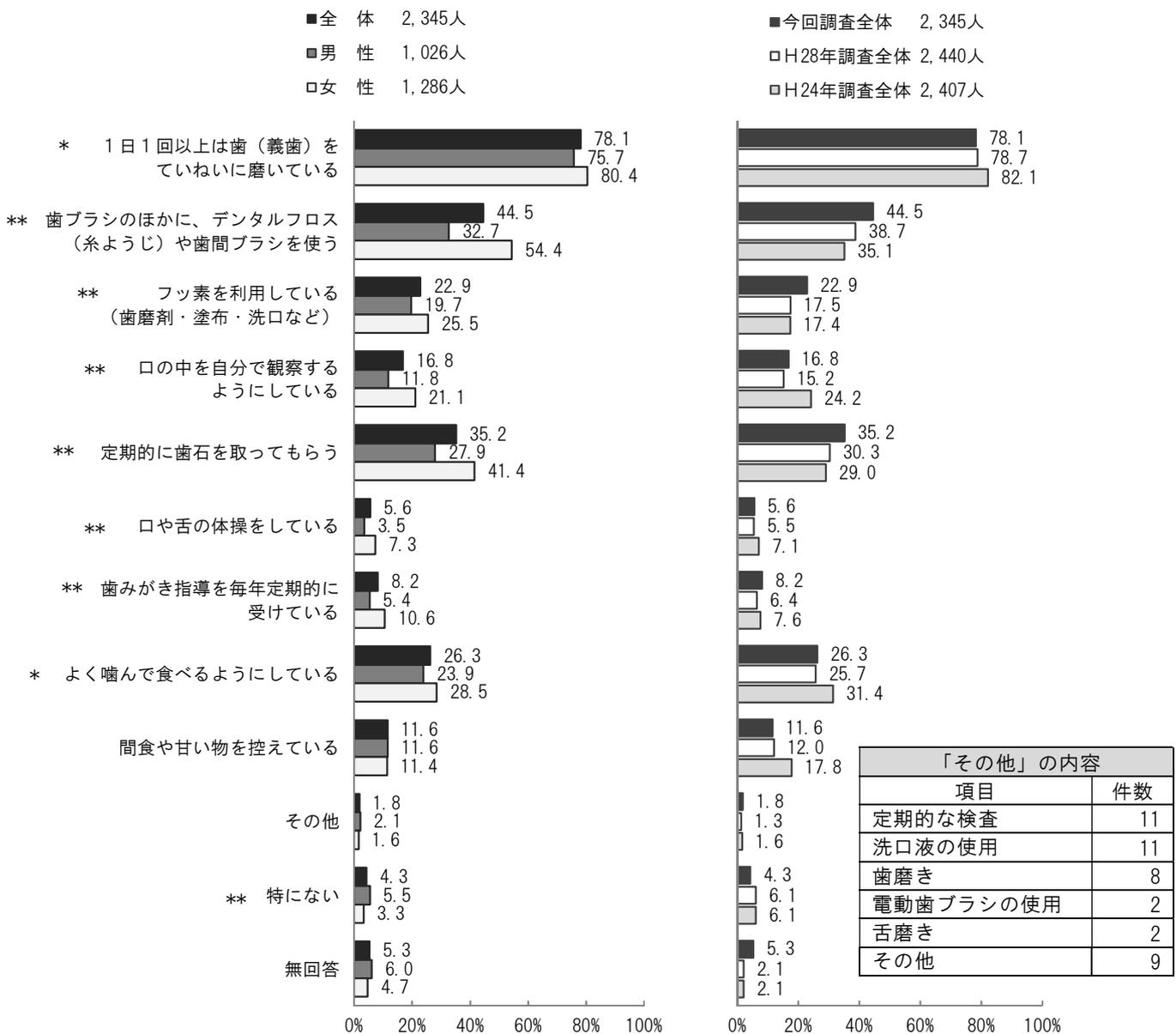
歯や口の健康のために気をつけていることは、「1日1回以上は歯(義歯)をていねいに磨いている」が78.1%と最も高く、次いで「歯ブラシのほかに、デンタルフロス(糸ようじ)や歯間ブラシを使う」が44.5%、「定期的に歯石を取ってもらう」が35.2%となっています。

性別にみると、女性は「歯ブラシのほかに、デンタルフロス(糸ようじ)や歯間ブラシを使う」が54.4%と、男性より21.7ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「歯ブラシのほかに、デンタルフロス(糸ようじ)や歯間ブラシを使う」が9.4ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「フッ素を利用している(歯磨剤・塗布・洗口など)」が5.4ポイント有意に増加しています。

図 28 歯や口の健康のために気をつけていること(複数回答) [全体・性別・経年比較]



Ⅲ 調査結果

歯や口の健康のために気をつけていることを性・年代別にみると、男性では「フッ素を利用している（歯磨剤・塗布・洗口など）」が「10歳代」で31.8%、「50歳代」で27.3%と他の年代より有意に高く、「よく噛んで食べるようにしている」が「10歳代」で31.1%、「70歳代」で30.1%、「80歳以上」で44.9%と有意に高くなっています。

女性では「フッ素を利用している（歯磨剤・塗布・洗口など）」が「30歳代」で37.0%、「40歳代」で31.4%と有意に高く、「定期的に歯石を取ってもらう」が「50歳代」で51.0%、「60歳代」で49.1%、「70歳代」で54.4%と有意に高くなっています。

表 28.1 歯や口の健康のために気をつけていること（複数回答）〔性・年代別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	**/-	**/**	**/**	-/-	**/**	-/**	-/*	**/**	**/**	**/-	-/*	無回答
		いねいに磨いている	1日1回以上は歯（義歯）を磨いている	歯ブラシのほかに、デンタルフロスや歯間ブラシを使う	フッ素を利用している（歯磨剤・塗布・洗口など）	口の中を自分で観察するようにしている	定期的に歯石を取ってもらう	口や舌の体操をしている	歯みがき指導を毎年定期的に受けている	よく噛んで食べるようにしている	間食や甘い物を控えている	その他	
全体	2,345	78.1	44.5	22.9	16.8	35.2	5.6	8.2	26.3	11.6	1.8	4.3	5.3
男性計	1,026	75.7	32.7	19.7	11.8	27.9	3.5	5.4	23.9	11.6	2.1	5.5	6.0
10歳代	148	84.5	22.3	31.8	14.2	16.2	4.7	6.8	31.1	5.4	0.7	4.1	3.4
20歳代	86	76.7	20.9	16.3	16.3	11.6	4.7	2.3	20.9	20.9	3.5	4.7	5.8
30歳代	125	73.6	32.8	20.0	8.8	25.6	3.2	4.8	18.4	7.2	2.4	6.4	7.2
40歳代	105	83.8	36.2	20.0	8.6	31.4	1.9	5.7	18.1	9.5	0.0	6.7	2.9
50歳代	143	81.1	34.3	27.3	12.6	30.8	0.7	2.8	14.7	10.5	0.7	4.2	3.5
60歳代	201	65.7	39.3	14.4	9.0	32.8	2.5	4.5	21.4	14.9	4.0	5.0	8.0
70歳代	146	70.5	35.6	14.4	12.3	32.2	4.8	7.5	30.1	14.4	0.7	8.2	8.2
80歳以上	69	76.8	33.3	8.7	17.4	43.5	8.7	10.1	44.9	11.6	7.2	4.3	8.7
女性計	1,286	80.4	54.4	25.5	21.1	41.4	7.3	10.6	28.5	11.4	1.6	3.3	4.7
10歳代	139	78.4	26.6	20.1	18.7	18.7	5.0	6.5	33.1	5.0	0.7	8.6	1.4
20歳代	134	87.3	40.3	23.9	24.6	26.1	3.7	6.0	35.1	9.7	1.5	3.0	1.5
30歳代	184	82.1	52.7	37.0	20.7	44.6	3.3	8.7	19.6	10.3	2.2	2.2	2.7
40歳代	188	79.8	54.8	31.4	21.3	40.4	4.8	8.5	18.1	6.9	2.1	3.7	4.8
50歳代	208	80.8	68.8	30.3	22.1	51.0	10.1	15.9	23.1	11.1	1.4	2.9	5.3
60歳代	216	80.6	64.8	20.4	21.3	49.1	10.2	13.4	31.5	14.4	2.3	1.9	6.0
70歳代	136	76.5	64.7	15.4	19.9	54.4	11.0	11.8	39.0	19.1	0.7	0.7	9.6
80歳以上	76	75.0	44.7	14.5	18.4	32.9	10.5	10.5	40.8	17.1	0.0	5.3	6.6

歯や口の健康のために気をつけていることを歯の本数別にみると、「歯ブラシのほかに、デンタルフロスや歯間ブラシを使う」が「20～25本」で54.9%と他の本数より有意に高く、「よく噛んで食べるようにしている」が「10～19本」で36.9%と有意に高くなっています。

表 28.2 歯や口の健康のために気をつけていること（複数回答）〔歯の本数別〕

単位：%

項目	回答者数（人）	**	**	**	*	**		*	**	**	**			
		1日1回以上は歯（義歯）をていねいに磨いている	歯ブラシのほかに、デンタルフロスや歯間ブラシを使う	フッ素を利用している（歯磨剤・塗布・洗口など）	口の中を自分で観察するようにしている	定期的には歯石を取ってもらう	口や舌の体操をしている	歯みがき指導を毎年定期的を受けている	よく噛んで食べるようにしている	間食や甘い物を控えている	その他	特にない	無回答	
全体	2,345	78.1	44.5	22.9	16.8	35.2	5.6	8.2	26.3	11.6	1.8	4.3	5.3	
歯の本数	10本未満	102	67.6	18.6	5.9	6.9	18.6	6.9	5.9	24.5	15.7	3.9	11.8	4.9
	10～19本	149	73.2	38.9	16.1	14.8	40.3	5.4	8.7	36.9	15.4	1.3	5.4	2.7
	20～25本	386	81.3	54.9	22.3	18.9	42.0	5.4	10.6	28.5	15.5	2.1	5.2	0.3
	26～29本	1421	84.2	48.4	27.3	18.7	37.0	5.8	8.5	26.1	10.3	1.8	3.8	0.1
	30本以上	89	85.4	42.7	20.2	24.7	32.6	4.5	5.6	31.5	15.7	3.4	2.2	1.1

Ⅲ 調査結果

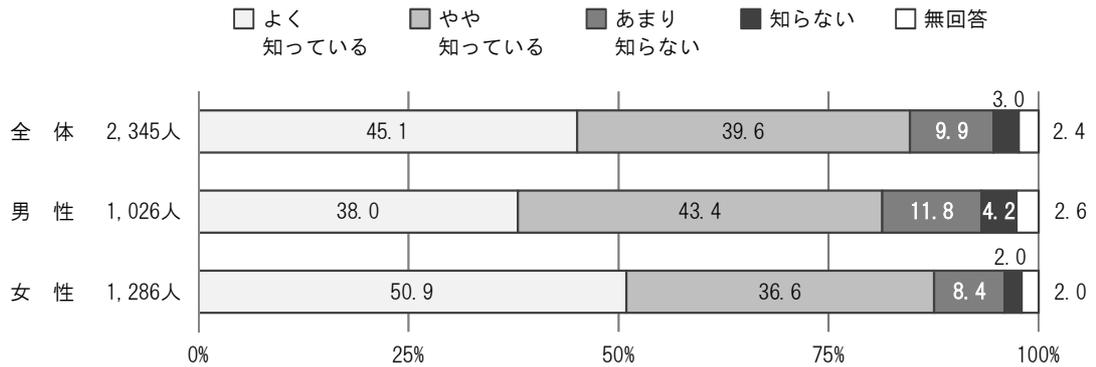
(29) あなたは、歯や口の健康が全身の健康に影響があることを知っていますか。

(○は1つだけ) < B : 問 29 >

歯や口の健康による全身への影響については、「よく知っている」が45.1%、「やや知っている」が39.6%となっています。

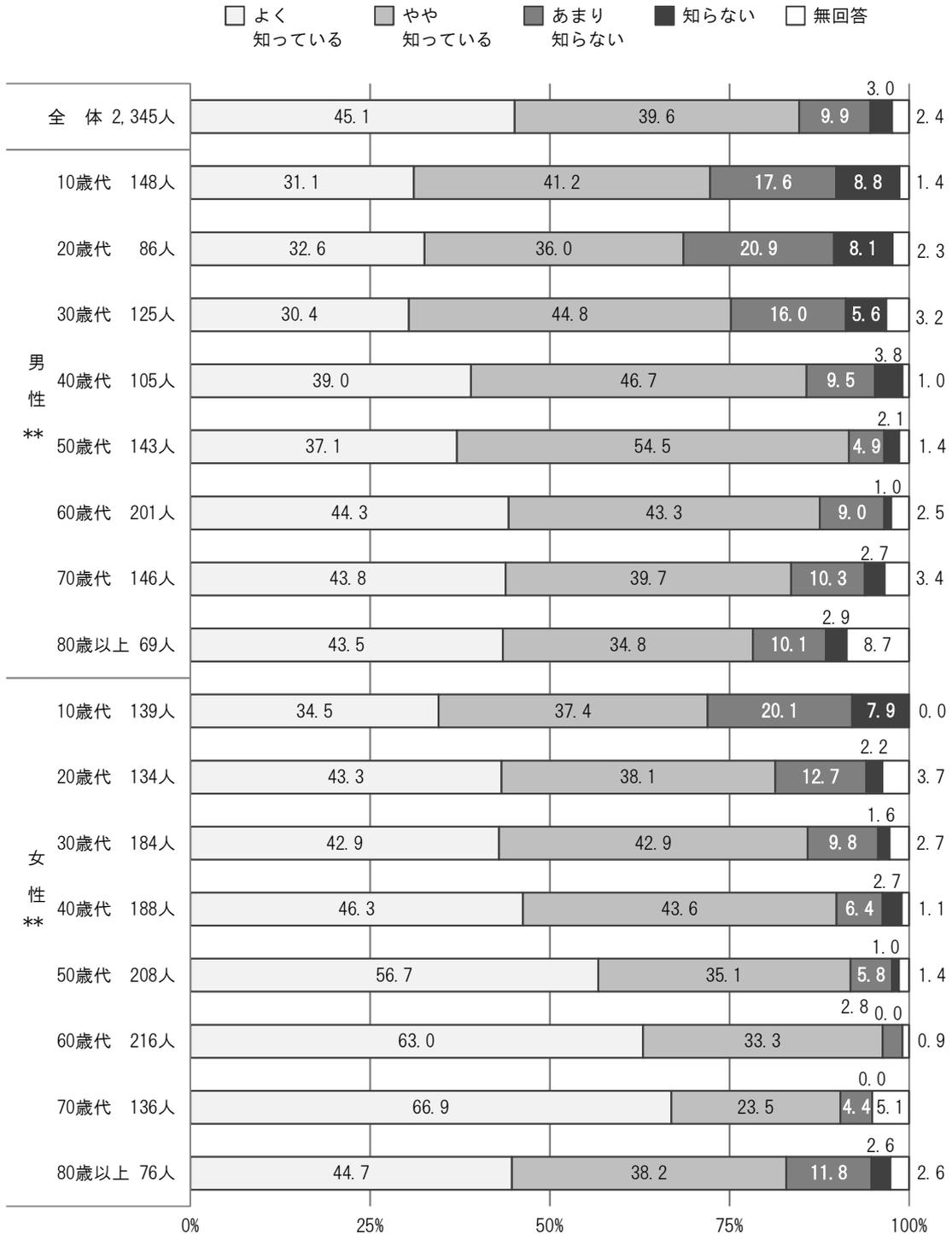
性別にみると、男性では「やや知っている」が43.4%と、女性より6.8ポイント有意に高くなっています。女性では「よく知っている」が50.9%と、男性より12.9ポイント有意に高くなっています。

図 29.1 歯や口の健康による全身への影響 [全体・性別]**



歯や口の健康による全身への影響について性・年代別にみると、男性では「よく知っている」が「60歳代」で44.3%と他の年代より有意に高く、「知らない」が「10歳代」で8.8%、「20歳代」で8.1%と有意に高くなっています。
 女性では「よく知っている」が「60歳代」で63.0%、「70歳代」で66.9%と有意に高く、「知らない」が「10歳代」で7.9%と有意に高くなっています。

図 29.2 歯や口の健康による全身への影響〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

(30) あなたは、歯科健診を受けていますか。(〇は1つだけ) < B : 問 30 >

歯科健診の受診状況は、「定期的に(年1回)受けている」が36.9%、「ときどき受けている」が30.7%、「受けていない」が29.7%となっています。

性別にみると、男性は「受けていない」が35.2%と、女性より10.0ポイント有意に高くなっています。女性は「定期的に(年1回)受けている」が41.6%と、男性より10.0ポイント有意に高くなっています。

H24年調査と比較すると、「定期的に(年1回)受けている」が11.1ポイント有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、「定期的に(年1回)受けている」が6.4ポイント有意に増加しています。

図 30.1 歯科健診の受診状況〔全体・性別〕**

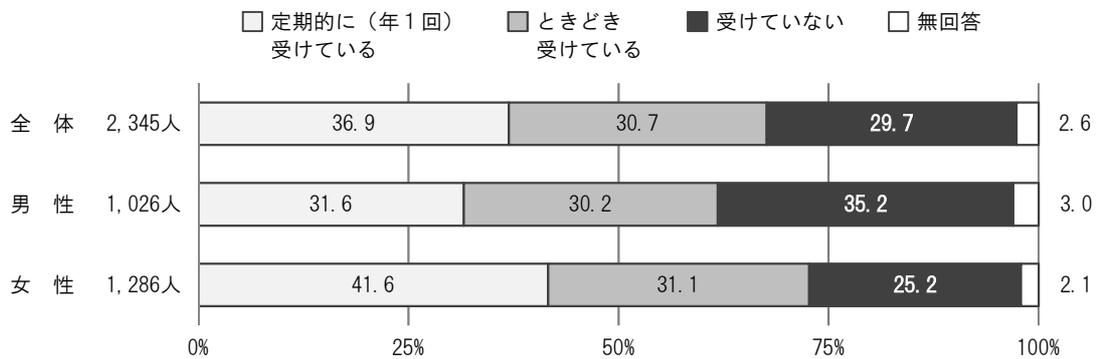
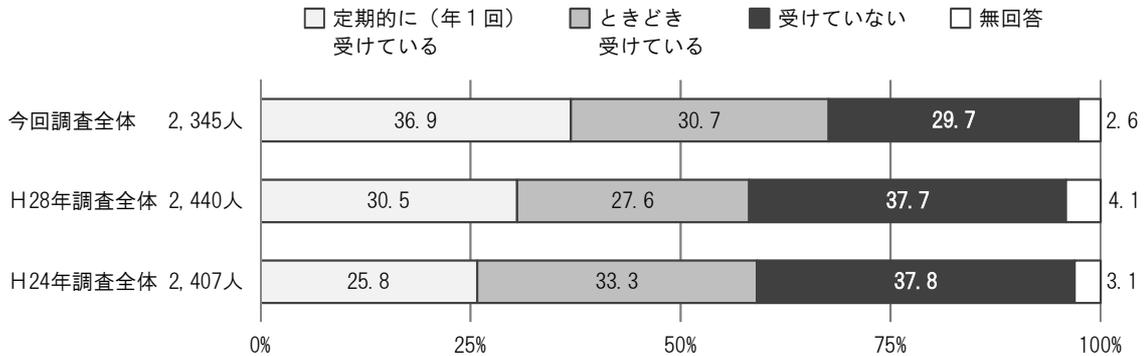


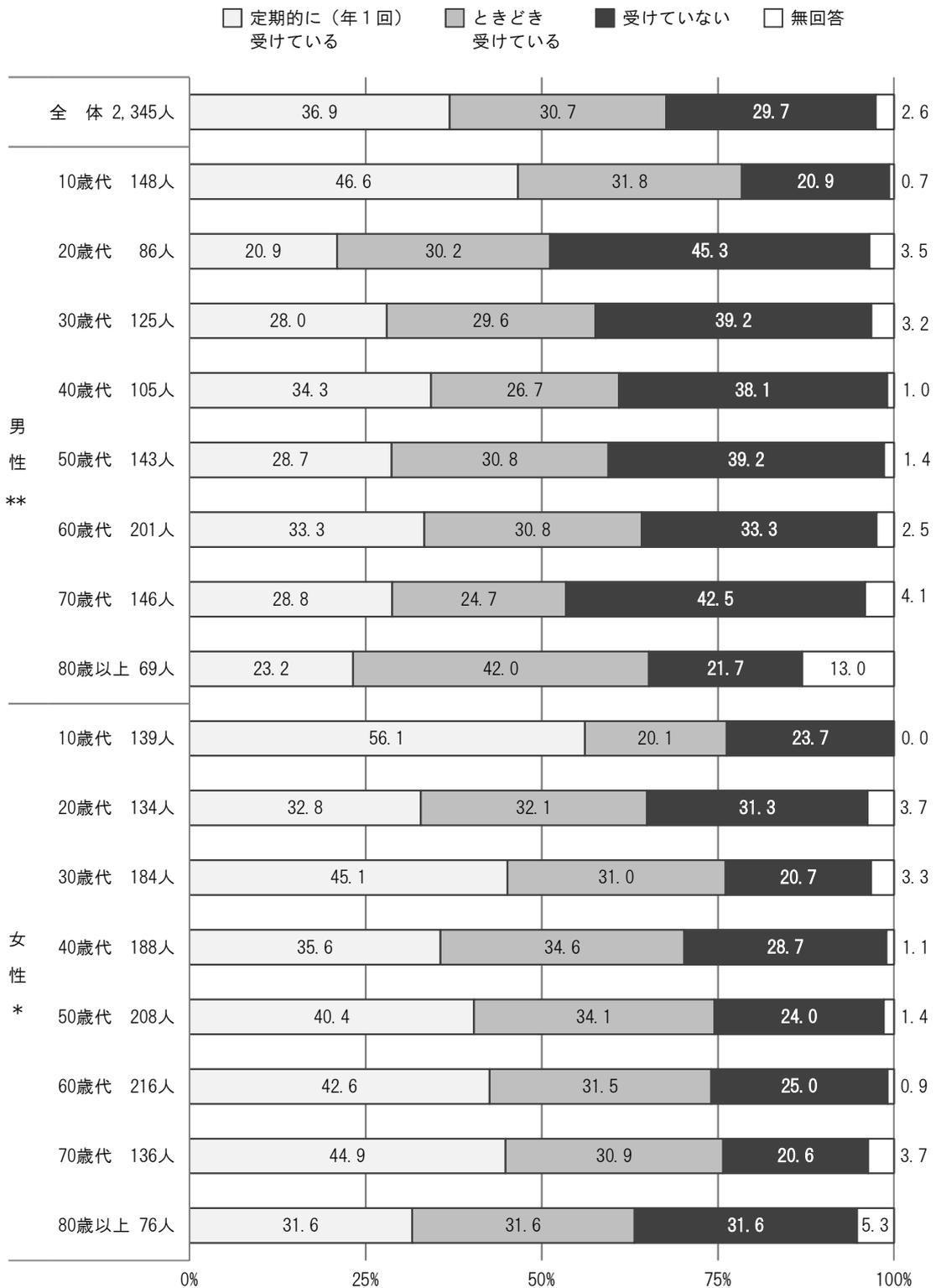
図 30.2 歯科健診の受診状況〔経年比較〕**



歯科健診の受診状況を性・年代別にみると、男性では「定期的に（年1回）受けている」が「10歳代」で46.6%と他の年代より有意に高く、「受けていない」が「70歳代」で42.5%と有意に高くなっています。

女性では「定期的に（年1回）受けている」が「10歳代」で56.1%と有意に高く、「受けていない」が「20歳代」で31.3%、「80歳以上」で31.6%となっています。

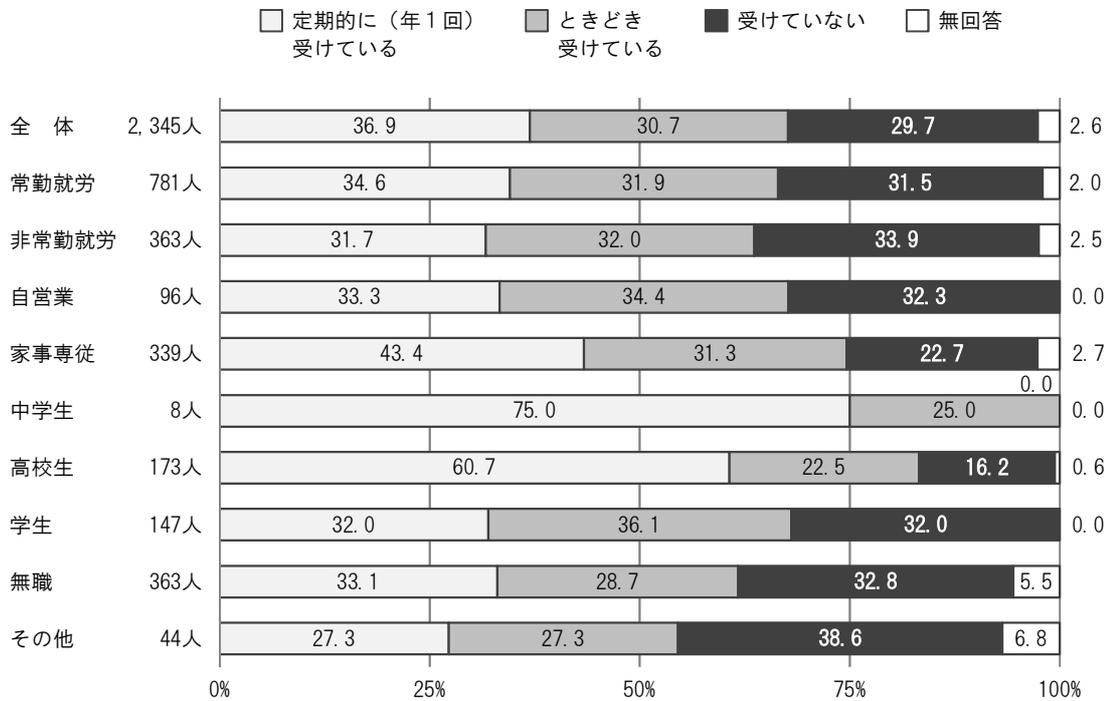
図 30.3 歯科健診の受診状況〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

歯科健診の受診状況を就労状況別にみると、「定期的に（年1回）受けている」が「家事専従」で43.4%、「高校生」で60.7%と他の就労状況より有意に高く、「受けていない」が「その他」で38.6%となっています。

図 30.4 歯科健診の受診状況〔就労状況別〕**



歯科健診の受診状況を口腔の状態別にみると、「定期的に（年1回）受けている」が「なんでも噛んで食べることができる」で39.5%、「むし歯がない（治療済みも含む）」で46.3%と他の口腔状態より有意に高く、「受けていない」が「歯が痛んだりしみたりする」で40.3%、「食べ物がよく噛めない」で47.1%、「飲み込みにくいことがある」で38.9%と有意に高くなっています。

表 30.1 歯科健診の受診状況〔口腔の状態別〕**

項目	回答者数（人）	定期的に（年1回）受けている (%)	ときどき受けている (%)	受けていない (%)	無回答 (%)	
全体	2,345	36.9	30.7	29.7	2.6	
口腔の状態 (複数回答)	なんでも噛んで食べることができる	1,766	39.5	31.0	27.2	2.4
	むし歯がない（治療済みも含む）	1,146	46.3	30.6	20.9	2.1
	歯が痛んだりしみたりする	432	26.6	30.6	40.3	2.5
	歯ぐきが腫れる、または血が出る	363	32.0	32.0	33.1	3.0
	食べ物がはさまる	1,167	34.4	32.4	30.7	2.5
	食べ物がよく噛めない	121	23.1	25.6	47.1	4.1
	飲み込みにくいことがある	95	24.2	31.6	38.9	5.3
	飲み込むとき、むせやすい	113	32.7	32.7	29.2	5.3
	口内炎がでやすい	228	39.0	31.1	28.1	1.8
	その他	39	30.8	33.3	28.2	7.7

歯科健診を「定期的に（年1回）受けている」割合をH24年調査と比較すると、男性では「30歳代」が14.0ポイント、「40歳代」が15.0ポイント、「60歳代」が13.2ポイント、他の年代より有意に増加しています。女性では「20歳代」が21.3ポイント、「30歳代」が23.7ポイント、有意に増加しています。

H28年調査と比較すると、男性では「40歳代」が10.5ポイント増加しています。女性では「20歳代」が12.7ポイント、「30歳代」が16.0ポイント、有意に増加しています。

表 30.2 歯科健診を「定期的に（年1回）受けている」割合〔経年比較〕単位：％、ポイント

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	**	
				今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
全体	25.8	30.5	36.9	11.1	6.4
20歳以上全体	23.6	28.0	35.1	11.5	7.1
男性計	23.0	29.6	31.6	8.6	2.0
10歳代	37.0	48.9	46.6	9.6	-2.3
20歳代	14.8	14.5	20.9	6.1	6.4
30歳代	14.0	25.2	28.0	14.0	2.8
40歳代	19.3	23.8	34.3	15.0	10.5
50歳代	22.6	26.6	28.7	6.1	2.1
60歳代	20.1	25.9	33.3	13.2	7.4
70歳代	29.2	34.9	28.8	-0.4	-6.1
80歳以上	24.7	32.9	23.2	-1.5	-9.7
女性計	28.1	31.1	41.6	13.5	10.5
10歳代	49.3	51.0	56.1	6.8	5.1
20歳代	11.5	20.1	32.8	21.3	12.7
30歳代	21.4	29.1	45.1	23.7	16.0
40歳代	26.4	29.2	35.6	9.2	6.4
50歳代	32.2	28.6	40.4	8.2	11.8
60歳代	31.8	31.5	42.6	10.8	11.1
70歳代	29.5	35.6	44.9	15.4	9.3
80歳以上	12.7	20.5	31.6	18.9	11.1

計画における数値目標のデータ



過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合

・20歳以上 35.1%（目標値 55%）

<問30で「定期的に（年1回）受けている」と答えた人の割合>

Ⅲ 調査結果

(31) あなたは、かかりつけ歯科医を持っていますか。(〇は1つだけ) < B : 問 31 >

かかりつけ歯科医の有無は、「持っている」が73.5%となっています。
 性別にみると、男性では「持っていない」が30.1%と、女性より10.4ポイント有意に高くなっています。女性では「持っている」が78.7%と、男性より11.3ポイント高くなっています。
 H28年調査と比較すると、「持っている」が4.1ポイント有意に増加しています。

図 31.1 かかりつけ歯科医の有無〔全体・性別〕**

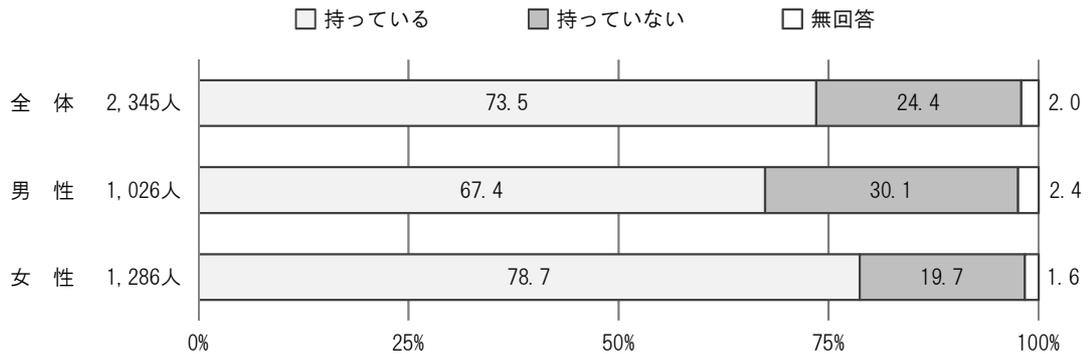
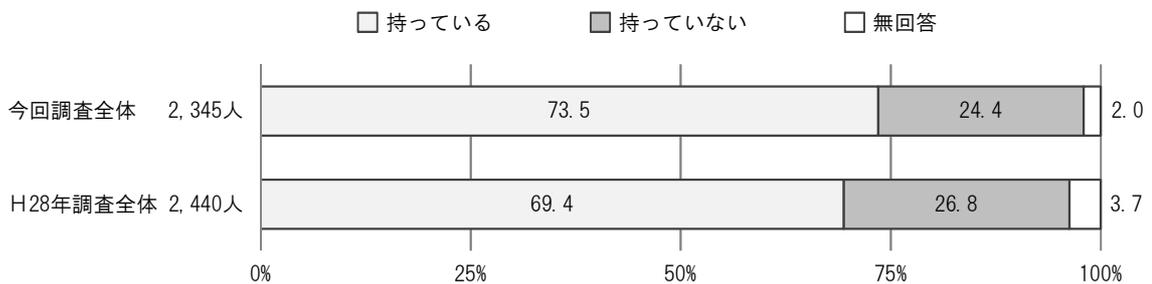


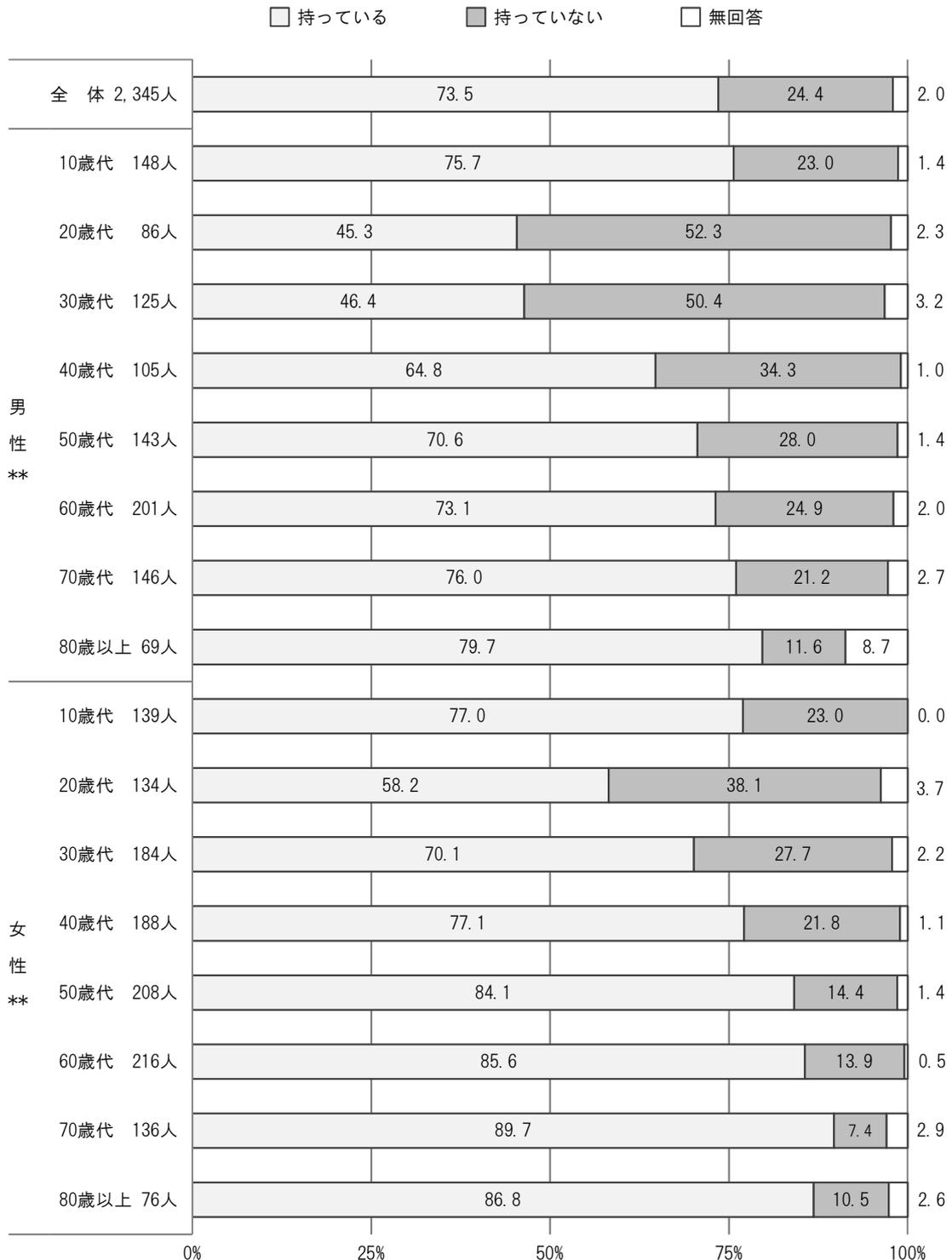
図 31.2 かかりつけ歯科医の有無〔経年比較〕*



かかりつけ歯科医の有無を性・年代別にみると、男性では「持っている」が「10歳代」で75.7%、「70歳代」で76.0%、「80歳以上」で79.7%と他の年代より有意に高く、「持っていない」が「20歳代」で52.3%、「30歳代」で50.4%と有意に高くなっています。

女性では「持っている」が「50歳代」で84.1%、「60歳代」で85.6%、「70歳代」で89.7%、「80歳以上」で86.8%と有意に高く、「持っていない」が「20歳代」で38.1%、「30歳代」で27.7%と有意に高くなっています。

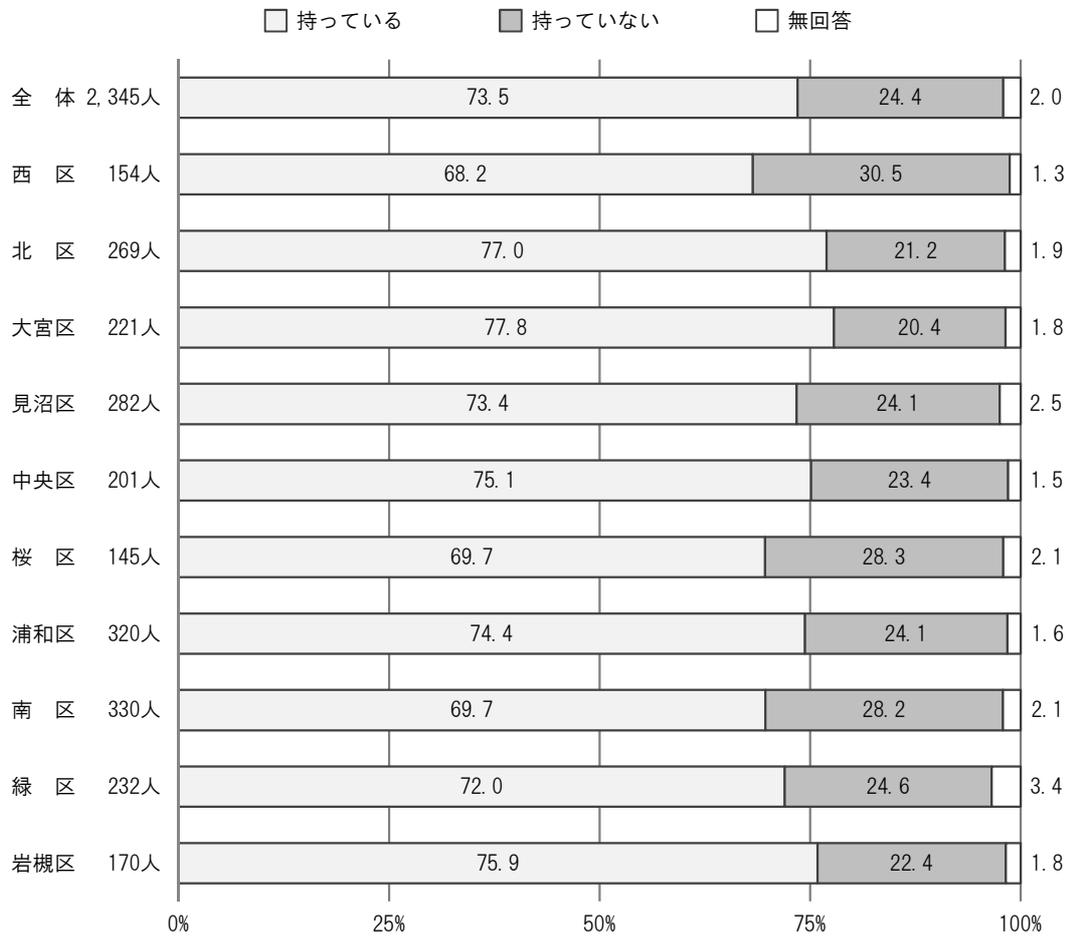
図 31.3 かかりつけ歯科医の有無〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

かかりつけ歯科医の有無を居住区別にみると、「持っている」が「大宮区」で77.8%、「北区」で77.0%、「岩槻区」で75.9%となっています。「持っていない」が「西区」で30.5%、「桜区」で28.3%、「南区」で28.2%となっています。

図 31.4 かかりつけ歯科医の有無〔居住区別〕



かかりつけ歯科医の有無を歯科健診受診状況別にみると、「持っている」が「定期的に（年1回）受けている」で93.1%、「ときどき受けている」で81.4%と他の受診状況より有意に高く、「持っていない」が「受けていない」で54.2%と有意に高くなっています。

図 31.5 かかりつけ歯科医の有無〔歯科健診受診状況別〕**

